

三井文庫史料叢書

三井物産 『内地支店長会議々事録』

第一回～第八回（明治三三年）

三井文庫 発行

## 三井物産「内地支店長会議々事録」(明治三三年)第一回分

吉川 容

ここに掲載するのは、三井物産「内地支店長会議々事録」

(明治三三年)の翻刻である。本史料は一九〇〇(明治三三年)一月一八日から二五日にかけて内地支店長を招集して開催された三井物産合名会社の「商務諮問会」の議事録であり、原本は公益財団法人東洋文庫に所蔵されている。

本議事録は現在までに所在が確認されている同種史料(三井物産の支店長諮問会議事録類)としては最も古いものであり利用価値の高いものである一方、菟蒔版(手書き文字)で読みやすくはなく劣化の懸念もある史料なので、東洋文庫の許可を得て翻刻をおこない本誌上に掲載することにした。

本議事録は会議開催日別に第一回から第八回に区分されている。今回翻刻したのはそのうち第一回(第一日目)分である。次号以降で第二回以降の議事録を掲載する予定である。

本史料の翻刻を許可くださり諸々ご高配を賜った公益財団法人東洋文庫に感謝申し上げます。また、本史料の所在を翻刻者にご教示くださり翻刻にあたってご助言をいただいた鈴木邦夫氏にも記して御礼申し上げます。

## 凡例

一、原則として漢字は通用の字体を用いたが、固有名詞や慣用句などで原本通りとした場合もある。

一、合字はカタカナに改めた。

一、判読不能の文字は□で示した。

一、「」内は翻刻者による注記である。

一、原本では発言者名を一字ないし二字分上げて記載しているが、翻刻では冒頭に「◎」を付加したうえで発言者名をゴチで表記した。

一、表については誌面の都合により原本での当該箇所に近い位置に配置し本文中に原本での位置を注記した場合がある。

表の番号は翻刻に際して付したものである。表4と表5は原本では本文中の縦書き罫線無しの表であるが、収録の都合上独立した横書きの表として作成した。

一、原本の丁の区切りを【】内に示した。原本での丁数は用紙右下（原本は袋綴製本されているのでその状態では左頁のど側下）に漢数字もしくは算用数字で記されており、その数字は会議各回毎（回によってはさらに午前・午後と思われる区分毎）に更新されている。参照の便を考え【】内には回数（午前・午後の区分がある場合は「一」「二」で区分）と丁数（算用数字）を記しさらに用紙前半（袋綴じでは左頁となる）の場合は「a」後半（袋綴じでは次の右頁）の場合には「b」を付した。なお、第一回午前の分には一九頁が二枚あるので「c」「d」も用いている。

〔翻刻原本 公益財団法人東洋文庫所蔵「三井物産」内地支店長会議議事録〕請求記号六四二〕

秘

内地支店長会議々事録

明治三十三年一月内地各支店長ヲ東京ニ召集シ商務諮問會ヲ開會セラル出席者ハ内地各支店長并參事、調査課長、漁業部長心得、桑港出張員等ニシテ若松出張所長ハ店務多繁ノ為出京セサリキ今其議事ノ要領ヲ撮録シテ各位ニ報告ス

第一回 一月十八日

◎益田専務理事 嚴冬ノ候諸君ノ御出京ヲ煩ハシ寔に御苦勞千万ナリ、実ハ丁度商売ノ方モ間合ヒデアリ且本支店間ノ連絡モ付キ又支店相互間ノ打合モ出来大ニ便益ヲ得ルナラント考ヘ本會ヲ催フスコト、ナシタル訳ニテ畢竟一ノ打合會ナリ何レ追々諮問モシ又諸君ノ御意見ヲモ伺フコ

【一回ノ一 1b】

ト、為スヘキカ何事モ例ノ通り手易ニ胸襟ヲ披テ十分評議ヲ遂ケ向後營業上此會ノアリシコトカ大ニ助ケトナル様致シタシ諮問案ヲ茲ニ三四件出テ居ルモ畜ニ之ノミニ止ラズ追々御協議スルコトモ之アルベク又各地ニ於テ實際商売ノ

衝ニ當ラル、諸君ノ意見モ亦最モ承知致シ度所ナリ尚乍序一言スルカ旧臘末日ニ社長殿ニ代リテ挨拶旁述ベタルコトハ其要領ヲ筆写セシメテ差回シタル故諸君モ既ニ一覽セラレタルナカランカ段々諸君ノ御骨折ニ依リ当會社ノ業務ハ駸々乎トシテ進ミ大分価値アル營業トナリタリ尚今后營業ノ擴張進歩ハ素ヨリ期シテ待ツヘキモ右演說ノ節口ニテハ詳シク述ヘタルモ筆記ニハ唯其概要ヲ記シタルノミニテ未タ十分意志ノ貫徹セサル所モアリタルカ要スルニ營業ノ擴張二伴

【一回ノ一 2a】

ヒ諸般ノ設備行届カス忽慢其間ニ萌シ為メニ營業ノ進歩ヲ妨ケ或ハ得意ノ氣受ヲ損シ或ハ得意ヲ失ヒ或ハ又不測ノ損失ヲ蒙ル等ノコトナシトセス恰モ小供力玩弄物ノ木片ヲ積み上ケルニ際シ最後ノ一ツヲ積マサレハ過チナカリシ其二一ツヲ積ミ重子タル為メ全部頽ル、ト同シク設備未タ十分整ハサルニ余リ手ヲ広ケ過キルトキハ根蒂ヨリシテ崩壊スルコトナキヲ保セス從テ進取ハ勿論必要ナルモ之ヲ為スニハ大ニ慎重ノ注意ヲ加フル処ナカルヘカラズ故ニ此度ハ別シテ此設備ノ事ニ付テモ御評議ヲ致シ度夫ニ付テハ會社ノ資本金ノ事等ニ関シ諸君ノ御承知ナキ事モ大体丈話シ置クコトニ致スベシ又輸出貿易ヲ盛ニスルノ案カ出テ居ルカ輪

表1 〔当社商売高〕

	三十二年	三十一年	三十年
会社、外国品ヲ内国ニテ売渡高	40,015,608	38,787,868	33,539,913
〃 内国品ヲ外国ニテ売渡高	25,439,050	13,404,034	10,431,690
〃 内国品ヲ内国ニテ同上	10,043,380	9,609,848	9,303,515
〃 外国品ヲ外国ニテ同上	731,924	761,178	178,672
計	76,229,962	62,562,928	53,453,790
外国貿易高（出入全計）	436,735,224	433,226,220	382,435,849

〔原注〕三十二、三十一ノ兩年ハ会社ノ決算年度ニ改メ三十年ハ貿易年表ノ合計ニ依ル

輸出比較	三十二年	三十一年	三十年
会社	25,439,050	13,404,034	10,431,690
貿易高	216,061,843	162,588,328	163,135,077

輸入比較	三十二年	三十一年	三十年
会社	40,015,608	38,787,868	33,539,913
貿易高	220,673,381	270,637,892	219,300,772

出貿易ヲ盛ニスルト云ヘハ輸入貿易ハ等閑ニ付スルモ可ナルカ

〔二回ノ一 2b〕

如キ聞ヘアルモ決シテ然ラズ輸入貿易ハ勿論盛ニスヘキカ  
 兎角是迄輸出貿易ノ方ハ等閑ニ流レ易カリシ故之モ輸入貿易  
 同様大ニ盛ニ致シ度トノ考ヨリ茲ニ提案シタル訳ナリ而  
 シテ議事ハ例ノ通り書キ取リテ之ヲ各店ヘ配布スルニ付海  
 外店杯ニ於テモ大ニ便利ヲ得ルコトナルヘク就テハ諸君ニ  
 在リテモ一人ツ、意見ヲ吐露セラル、様致度暫時小生會長  
 ノ役ヲ務ムヘシ先ツ会社ノ營業ノ模様ヲ一通リ述フルコ  
 ト、センニ只今參事ニ於テ各店ノ考課狀ヲ一纏メトシテ会  
 社全体ノ考課狀ヲ作りツ、アル故之カ出来上レハ昨年度ノ  
 景況ハ一目瞭然トナルモ未タ其運ニ至ラズ併シ大体ノコト  
 ハ諸君ニ報告シ得ベシト考フ

◎長谷川參事 当社ノ商売高ハ左表ノ如シ

〔(一)に表一〕

【二回ノ一 3】

尚ホ当社取扱ニ係ル輸出并輸入品ト我邦ノ輸出并輸入品ト  
 ノ比較ヲ挙クレハ左ノ如シ

表2 輸出比較表

	三十二年		三十一年	
	会社	貿易高	会社	貿易高
	円	円	円	円
生糸	4,719,995	66,103,481	2,541,712	42,161,666
熨斗及屑糸		3,832,690		2,556,800
羽二重		15,508,226		11,897,879
甲斐絹		1,383,060		551,804
絹製手巾		3,441,144		3,595,626
綿織糸	8,498,203	26,565,865	4,419,627	19,697,442
綿布	293,032	3,916,094	139,980	2,453,810
地氈		726,234		878,671
燐寸	354,576	5,708,802	218,771	6,268,146
地席		3,591,904		4,001,277
磁陶器		2,107,092		1,775,791
漆器		918,380		780,412
麦稈真田		2,729,276		2,482,797
洋傘		944,767		681,079
製茶		8,441,439		8,200,349
米	4,426,189	11,744,539	441,840	4,095,098
錫		1,437,657		1,255,355
昆布		923,806		727,810
魚油		524,300		442,701
椎茸		691,574		640,038
樟腦	146,790	1,738,652	27,580	1,161,581
銅	207,765	11,131,369	296,486	6,840,597
石炭	5,465,316	11,909,474	4,529,856	11,862,620
木蠟		664,587		561,925
銀塊	929,991		605,670	18,043,380
紙	163,750		58,375	
木炭	23,579	85,405	31,024	98,718
硫酸	28,771	66,900	…	64,071
硫黄	16,298	599,196	11,323	477,065

(備考) 会社輸出高ハ實際外国ニテ販売シタル高也

貿易高ハ会社決算ト同一ニセンガ為メ改算シタレハ貿易年表ノ  
合計ト相違スヘシ

[…の欄は数字があるが判読不能。]

表3 輸入貿易比較

	三十二年		三十一年	
	貿易高	会社扱高	貿易高	会社扱高
	円	円	円	円
棉花	55,913,872	23,983,683	46,174,469	13,237,362
綿糸	5,709,356	203,947	8,256,798	250,013
金巾及更紗	5,813,230	279,763	7,159,392	1,0047,710 (ママ)
綿繻子及綿天鵞絨	1,306,872		2,405,817	
羊毛	4,260,695	983,440	1,518,694	422,636
縮緬呉呂	4,313,049		4,282,255	
イタリヤン、クローツ	1,095,305		1,194,865	
フランネル	474,973		1,285,418	
羅紗	2,037,626	47,601	2,752,460	168,682
時計	467,271		2,878,190	
機械類	5,211,714	2,438,814	8,960,723	3,420,902
鉄道用品	3,097,688	2,385,301	5,254,649	5,312,607
条鉄及竿鉄	2,434,598		4,296,655	
軌条	472,670		2,748,857	
鉄釘	2,384,151		1,007,217	
鉄及鋼	5,511,126	372,461	4,929,344	141,542
砂糖	19,882,580	2,702,268	24,802,222	829,671
米	4,028,911	23,041	52,012,332	8,126,504
豆類	8,447,973	533,269	6,915,822	145,292
石油	7,876,829	587,975	7,333,481	834,688
油漕 (槽カ)	6,452,679		4,639,613	
酒精	2,786,697		2,699,982	
葉煙草	5,086,354		5,086,354	
紙巻煙草	1,443,783		1,720,827	
麦粉	1,482,416		2,022,412	
藍 (藍カ)	3,078,525		2,270,814	
アニリン染料	913,249		1,218,842	
阿片		…		…
大豆粕		…		…
紙		…	…	…
鉛		…	…	…
錫		…	…	…
セメント		…	…	…
カストル油		…	…	…
牛骨		…	…	…

【二回ノ一】  
【5】

(備考) 貿易高総テ会社ノ決算ト同シク改算シタリ  
[…の欄は数字があるが判読不能。]

## 【一回ノ一 6a】

◎福井営業部長 右ハ昨年受渡ノ結了シタルモノニテ取りモ直サス一昨年来最モ景氣ノ悪キ時ニ約定シタルモノニ係ル從テ其高多カラズ尚ホ別ニ昨年中ノ約定高ヲ取調べ貰ヒタシ

◎長谷川 目下調査中ナリ

◎益田 借諮問ノ順序ハ何レヨリ始ムヘキヤ

◎飯田 各店全般ニ涉ルコトヨリ願ヒタシ蓋シ我社ノ商売ハ各店区々ナル故飯ニ輸出米ノコトニスレハ我々ニ於テ余リ關係ナク又諮問セラル、モ別段意見ヲ吐露スヘキ様ナク他ノ意見ヲ聞クモ差程効能ナシ故ニ部分ノコトハ後ト回シトシ先ツ全体ノ事ヨリ議スルコト、致シタシ

◎福井 各店業務ノ大体ヲ先ツ以テ述フルコト、シテハ如何大ニ参考トナルベシト考フ

## 【一回ノ一 6b】

◎益田 従前モ前年度ニ於ケル業務ノ大体ヲ報告スル例ナリシ是ハ中々有益ナリ

◎福井 専務理事ノ御説ノ如ク第一ニ報告ヨリ承リタシ勿論部分ノ打合ハ飯田君ノ説ノ如ク關係店ノ間ニ於テスルコト、為シテ可ナリ

◎飯田 余ハ商売々々ニ付テ店々ノ景況ヲ聞ク方大ニ感シカ

深シト考フ勿論大体論ヲ承ルコトモ利益ニハ相違ナキ短キ時間ノ間ニ評議ヲ為スニ付テハ大体論ヲ先ニシ更ニ商売々々ニ付部分論ヲ為ストスレハ事重複ニ亘リ無益ノ時間ヲ空費スルコトナキニ非ス故ニ直ニ諮問案ニ移ルコトニ致シタシ

◎福井 大体論ヲ為ス内ニ向後云々ノ商売ヲ大ニ進ムル必要アリト申ス如キ御考カ議長ノ脳裏ニ浮フコトアルヘク自然一同ノ談ヲ

## 【一回ノ一 7a】

承ル内ニハ向後商売ニ関スル大方針モ生出スルコトモアラム故ニ大体論ヲ聞ク方可ナリ

◎益田 諸君ハ此会ノ為メニ出席サレタル事故諸君カ担当セラレ居ル仕事ニ付一通リ其景況ヲ述ヘラル、ハ諸君ノ義務ニシテ又我々之ヲ聞クハ大ニ利益ニ感スル所ナリ故ニ先ツ大体丈ヲ述ヘ石炭トカ棉花トカ輸出米トカニ関スルコトハ又其商売ニ付相談スル際詳論スルコト、為スベシ先ツ東京営業部ヨリ述ヘラレタシ

◎福井 極メテ単簡ニ述ヘン昨年ハ商売ノ成績最モ面白カラサルベシト考ヘタル故大ニ用心ヲ為シ又勉ムヘキ所ハ十分勉メ少シモ手ヲ遊ハセサル様ニ働キタルモ奈何セム一昨年ノ不景氣ノ時ニ約定セル僅少ノ商売品ガ昨年上下両半季ニ

入り来りタル勘定ナル故実

【一回ノ一 7 b】

際ノ受渡高ハ余リ好結果ニアラズ

先以テ此二三年間ノ平均高位ナリ然レトモ戦后仆ノ経営モ漸次順調ニ進ミ仆レルモノハ仆レ新ニ起ルモノハ起ルト云フカ如キ傾キトナリタルカ為メ確實ノ注文者ハ段々増加シ又土台ノ薄弱ナル者ハ漸ク減少スルコト、トナリタルハ窃ニ悦フ所ニシテ從テ金融界ガ聊カ平穩ニ歸シタルト共ニ意外ニ大商売ヲ為シ得ルニ至レリ即チ昨年下半年間ニ於ケル營業部ノ商売高ハ一千四百五十万円ニシテ実ニ未曾有ノ出来栄ト謂フ可シ而シテ其内ノ重モノナル品ハ何カト云フニ政府ノ御用品就中鉄道用品カ主タルモノナルモ而モ這般政府ノ御用品ハ商売高ノ半ハヲ占ムルニアラズ約三分ノ一強而已其他ハ所謂商人相手ノ取引ニシテ綿花、羊毛、砂糖、金物等其宰タルモノナリ而シテ商人相

【一回ノ一 8 a】

手ノ商売中最モ大ナルモノハ砂糖ナリ此商売ハ一昨年末始メテ營業部ニ於テ経営シ初メタルモノナルモ幸ニ得意先良好ナルト買付方好都合ニ運ヒタルト又運搬金融保険等便アリタルトニ依リ大ニ發達シ營業部取扱品中金高第一位ニ上

レリ尤モ鉄道用品ハ種々ノ品物ヲ併合スレハ金高最多額ニ上ルモノ一種ノ品物ニテ金高最モ鉅鉅額ニ上リ居ルハ砂糖ニ指ヲ屈セサルヘカラズ次ニ又昨年下半年ノ初メヨリ毛類掛新設セラレ毛類ノ取扱ニ専從スルコト、トナリ是亦幸ニモ好都合ニ運ヒ取扱高モ多ク利益モ亦大ナリシ亦綿布特ニ日本品ヲ外国ニ輸出販売スルコトハ大ニ力ヲ用ヒサルベカラストノ社長殿ノ御命令モアリ旁棉布掛ヲ新設スルコト、ナリ且綿布ヲ共通計算ニ屬セシムル為メ綿布首部ヲ設置セラレ營業部其事務ヲ

【一回ノ一 8 b】

司ルコトトナリタリ之ハ未タ始メタル計リ故十分ノ結果ヲ述フル迄ニハ進歩セサルモ今日迄ノ傾キヨリスレハ誠ニ行末見込アル様考ヘラルル現ニ台湾向キノ品物ハ予想ノ通り好結果ヲ得此他支那并朝鮮ニ対シテ大ニ力ヲ伸ハシ得ヘキ望アリ太甚有望ナリ斯ノ如ク種々ノ掛モ出来商売モ成立チ其取扱高モ未曾有ノ鉅額ニ上リタルモ退テ之ヲ輸出ト輸入ト二分ツトキハ殆ント全体カ輸入ノミト云フモ可ナル位ニテ輸出ハ甚ダ微々タルモノナリ即チ輸出ハ僅ニ百万円内外ニシテ此外ニ内地品ノ内国売百万円内外アリ其他ハ凡テ輸入商売ニ屬ス元來物ヲ売ルコトハ難ク買フコトハ易シ故ニ營業部力何カ為メ売ルコトニ上手ニシテ買フコトニ下手ナル

カト云フコトヲ百万調査シタルニ別ニ我々ガ怠リテ買方ニ廻ラサル訳ニハ非ス

## 【二回ノ一 9 a】

畢竟買フヘキ物ナキナリ乍去只今ノ遣リ方ニテハ買フヘキ物ナキモ其方法手段ヲ改ムルトキハ必スシモ買フヘキ物ナキ謂レアラサルヲ以テ向後ハ大ニ營業部ノ輸出入商売ノ不平均ヲ匡正スルノ考案中ナリ幸此度諮問案中輸出商売ノ増進ヲ斗ルノ議テフ題目アルヲ以テ大ニ力強ク感セリ畢竟余輩ノ企望スル買物ヲ増加スルコトハ決シテ營業部一己ノ力能ク之ヲ為シ遂ケ得ヘキ所ニ非ス即チ大ニ其手段方法ヲ研究スルノ要アリテ此点ニ付テハ特ニ社長殿ヨリ御指図ヲ仰カサルヘカラス加之我々担当者ニ於テ専ラ買方ニ勉ムルハ勿論之カ売捌ノ衝ニ当ル海外支店ニ於テモ一層力ヲ其売方ニ濶キ恰モ我々ガ内地ニ於テ外国品ノ売捌ニ勗ムルカ如ク海外ニ於テモ亦日本品ノ売捌ニ努メ以テ日本ニ於ケル輸出入商売ヲ平

## 【二回ノ一 9 b】

均セシムルト共ニ海外ニ於ケル輸出入商売ヲ平均セシムルヲ得バ其愉快実ニ言語ニ尽スヘカラサルモノアリト考フ尚細カキコトハ御問合アレハ答弁スルコト、為スベシ

◎益田 次ニ大阪ノ景況ヲ述ヘラレタシ

◎飯田 大阪ハ前年經濟界ノ恐慌ノ為メ大ニ打撃ヲ蒙リタルカ一昨年ノ豊作ヨリ大ニ景氣ヲ回復スルナラント思惟シタルニ恐慌ノユリ方太甚シク更ニ豊作ノ影響ヲ蒙ラス從テ新規ニ起スヘキ商売ハ更ニ見当ラズ僅ニ器械ノ修繕補足鐵道線路ノ延長位ニ止レリ從テ又商売高モ十分増加ヲ計ルコト能ハサリシ今少シク各商売ニ付キ略叙スル所アランニ大阪支店取扱商品中最モ主要ナルモノハ綿花綿糸ナルモ之ハ別ニ部長アリテ其取扱ニ任スル故之ヲ省キ他ノ一般ノ商売即チ器械

## 【二回ノ一 10 a】

石炭雜貨等ノ事ヲ述フベシ  
器械ノ方ハ前ニモ述ヘタル如ク一体ニ世界ノ景氣回復セス商売至テ小ニシテ単ニ修繕品、取替品採ノ供給ニ止マリ更ニ大口ノ注文ナシ乍併時々紡績会社ニ於テ或モ式台ノ器械ヲ増シ若クハ鐵道会社ニ於テ三五哩ノ延長又ハ車両ノ不足ヲ補充スルモノ採之ナキニアラサリキ

石炭ハ不相變工場相手ノ商売ナル処從來最モ競争ノ劇甚ナル大和船カ買積ヲ為シテ持來ル為メ当社ノ商売ヲ妨ケケル、コト尠ナカラズ從テ弗々其取扱ヲ為スノミニテ未タ十分ノ發達ヲ見ルニ至ラズ向後漸次此商売ヲ擴張シ大和船ト

競争ヲ試ミント欲ス

雜貨ノ商売ハ大阪ニ於テハ何品ニテモ十分ノ取扱ヲ為スコト

【二回ノ一 10 b】

ヲ得ヘシ重ナル商品ハ東京營業部ト同一ナル故之ヲ述フルハ營業部ノコトヲ復習スルニ同シキヲ以テ之ヲ略シ唯異ナルモノ、ミヲ述ヘンニ東京營業部ニ於テ取扱ハスシテ大阪支店ノミ取扱ヒ居ルモノハ支那生糸ノ輸入并牛莊芝罘ノ榨蚕糸ノ輸入ナリ蓋シ昨年ハ生糸非常ニ高値ナリシ為此商売成立シタルモ到底永遠ノ商売タラシムル見込ナキカ如キモ而モ日本ノ製糸ハ漸次精巧ニ赴キ内地向キノ製糸減少スルノ傾向ナルヲ以テ地遣系トシテ支那生糸ハ益々需要セララル、コト、ナルヘク從テ其輸入ハ一廉ノ商売トナルベシ又榨蚕ハ応用化学ノ進歩ニ伴ヒ護謄質ヲ抜キテ之ヲ漂白シ普通ノ生糸ノ如ク染色スルノ方法京都等ニテ發明セラレタルヲ以テ向後引續キ其輸入ヲ見ルニ至ルベシ次ニ又輸出ニ於テ熾寸アリ本品ハ取扱太甚困

難ナリ其故ハ他ナラン売先ハ重ニ支那ナルニ今日迄支那人カ主トシテ之ヲ取扱ヒ且ツ其取扱振ハ工場ニ前金ヲ貸渡シ

【二回ノ一 11 a】

テ品物ヲ安く買取り自分ノ商標ヲ貼付シ加之其商標ハ多年

十分ニ売拡メタルモノナレハ新ニ此商売ヲ始メタル物産會社ハ競争太甚困難ニシテ啻ニ損失ナクシテ此商売ノ擴張ヲ

計リ得レハ重疊ナルモ如何ニスルモ多少損失ヲ為サ、レハ新規ノ商標ヲ売り広ムルコト能ハズ要スルニ一兩年ハ損失

ヲ厭ハスシテ商標ノ売広メニ勉メサルベカラズ最モ近頃上海ノ如キ殆ント度外ニ措キタル所ニテ大ニ売レ行キ始メタ

リハ大阪ノ働キト云フヨリモ全く上海ニ於テ売先ヲ見出シタルニ依ルモノニテ凡テ輸出商売ニ付テハ海外店ノ働キ

完カラサレハ内地ニ於テ如何トモ為シ能ハサルコト多シ熾寸商売ニ於テ殊ニ然リト為ス次ニインデゴモ

【二回ノ一 11 b】

營業部ニナキ商売ナリ之ハ他日大商売トナルヘキ見込ナリ蓋シ藍ヲ造ルニハ肥料ヲ要スルコト多ク且ツ米ヲ作ルヨリモ危険多キ作物ナルカ故ニ日本藍ノ耕作ハ綿ノ耕作ト同シク漸次減滅シ其結果印度藍ノ需用ヲ増加スルニ至ルベシ故ニ本商売ニハ各店共力ヲ尽スコトニ致シタシ先ツ大抵以上ノ如キ品物ナリ

◎益田 綿花綿糸ノコトモ大体ヲ述ヘラレタシ

◎飯田 然ラハ一通リ述フベシ綿花ハ御承知ノ通り昨年ハ印皮綿非常ノ不作ニシテ印度内地ノ需用ニモ足ラサル有様ニ

テ又米綿毛作柄宜シカラス今日ノ処ニテ八九百万俵ノ収獲ハ得ラレ間敷景況ナリ且ツ支那綿毛不作ニシテ世界ノ棉作ハ概シテ凶作ナリシカ為メ價格次第ニ高騰シ近來ニナキ高値ヲ現出セリ即チ

## 【一回ノ一 12 a】

印度綿安値十五円三十銭乃至五十銭ヨリ二十五円台ニ昂騰シ米綿モ亦十九円台ヨリ二十六円台ニ上リタリ如此年柄ナリシカ為メ綿花綿糸ノ取扱ハ素人ニテモ為シ得ヘク從テ昨年来大阪ニ於テ綿商否ナ寧ロ綿ノブローカートモ云フヘキ者増加シ各商店ノ手代カ何レモ独立シテブローカートナリ其数十四五名ニ上レリ此外ブローカーヨリ稍資力アル綿商人モ四五軒新規開業セリ此等ノ者ノ商売ノ仕方ハ早朝外国商館又ハ物産会社等へ来リ見本ヲ貰ヒ値段ヲ聞キ紡績ヲ回リテ注文ヲ取り昼又ハ夕刻再ヒ戻り来リテ注文ヲ為スカ如キ有様ナリ然ルニ昨年ノ如キ相場騰貴ノ一方ナル年柄ニ在リテ此等ノ者カ幾分カ自己ノ勘定ニテ綿ヲ買入レ置キ相当ノ利益ヲ占メ又我々問屋ニ在リテモ亦此等ノ者ヲ利用スルカ為メ大高ノ

## 【一回ノ一 12 b】

取引ヲ為ス割合ニハ売子ヲ要スルコト少ク小人数ニテ商務

ヲ經營シ得タリシナリ

綿糸モ亦之ト同様取扱者非常ニ増加セリ

皆全体ノ商売ノ仕方如何ト云フニ大阪綿花部ノ希望ハ日本ニ輸入スル綿花ノ三分ノ二ハ我社ノ取扱ニ属セシメ度考ヲ以テ之ニ当リ出来得ル丈口銭ヲ薄クシテ取扱高ノ増加ニ勉メ其結果商売高ハ非常ニ巨額ニ上リタルモ利益ハ其割合ニ多カラサリシ一言以蔽之商売高ヲ増加シ競争者ヲ窘蹙スルノ態度ヲ採リタリ次ニ綿糸ノ方ハ自カラ利益ヲ占ムルト云ハンヨリ寧ロ紡績会社ヲ助成スルノ主義ヲ採リタリ乍去昨年ノ如キ年柄ニ在リテハ助ケル考ニテ買ヒタルモノモ利益トナルトイウ云フカ如キ景況ニテ却テ未曾有ノ利益ヲ得タリ

## 【一回ノ一 13 a】

併シ向後ハ如何ニ成行クヘキカト云フニ昨年綿花綿糸ノ取扱ヲ為シタル商人カ何レモ利益ヲ得タルヲ見同業者益増加シ同業者ノ増加ハ競争ノ激甚トナリ商売益困難ノ傾キヲ呈スヘキモ而モ我社ニ於テハ依然今日迄ノ主義ヲ襲踏シテ競争者ヲ困メ益商売高ノ増加ヲ計ル方針ナリ希クハ各関係店ニ於テモ其ノ趣旨ヲ以テ尽力セラレンコトヲ而シテ昨年ハ本支部ノ間別段争モ起ラズ能ク円滑ニ進行セリ是レ蓋シ前年末御協議ノ結果共通計算規程ニ準拠スルコト、ナリ如此

円満ナル進行ヲ見ルニ至リタルコトナルカ尙今年モ同様ノ取扱振ニテ十分本部ノ趣意ヲ助長セシメラレンコトヲ望ム

◎益田 是レヨリ兵庫支店ノ談ヲ承リタシ營口輸入品ニ関スル

商売并輸出米ニ関スル商売ノ事モ同時ニ述ヘラレタシ

【一回ノ一 13 b】

◎遠藤 先ツ輸出米ノコトヨリ述フベシ昨年ハ一昨年ノ豊作尻ヲ受ケ持越米多ク其高約七百万石ナリシ故ニ先ツ平作ナレハ無論米価ハ八九円擲ナルヘシト考ヘタリ外國商館モ此氣込ミニテサミユルノ如キ約定ヲ始メタリ当社モ外國米ノ持越シアリ先ツ一屯四円三十九錢位ナレハ確カナリト考ヘ總体ニテ一万二百屯売約セリ而シテ稲作ノ模様ヲ見又第一回ニ各地取引先ヘ問合せタル結果米ノ收穫高ヲ三千九百万石ト計上セリ然ルニ其後土用ニ入りテ天候適順ナラズ八月末并二九月上旬ニハ暴風雨アリ四国地方并山陽地方大ニ被害ヲ蒙リタリ此時ニ際シ当社ハ一方倫敦ニ於テ既ニ売約セラルモノアルヲ以テ之ト見合ヒヲ付クル為メ大阪支店ニ交渉シ大阪松谷ノ持米六万三千石ヲ十円替ニテ

【一回ノ一 14 a】

買取リタリ其後作柄益々悪シク各地ニ照会シテ取調ベタル

所ニ依レハ三千三百八十二万石トナリタリ依テ倫敦ヘ交渉シテ売約定済ノモノヲ解約シ又運賃ノ約定アリタル分モ解約ヲ計リ本邦ニテ郵船会社ト約定セルモノ并倫敦ニ於テ約定セルモノ共総テ無条件ニテ解約スルコトヲ得タリ而シテ右輸出米売約定済ノモノヲ解約セル高ハ五千屯余ニシテ此解約ノ為メ六万円余ノ損害金ヲ弁償シタルモ幸ニシテ古米ヲ買持シタルカ為メ此損失ヲ補填シ尚ホ若干ノ利益ヲ占メ得ヘキ計算トナリタリ又新米ノ買付ニ付テハ昨年ハ概シテ不作ナリシモ九州并防長地方ハ可也ノ作柄ニシテ輸出適當米ヲ得ルニハ此地方ヲ外ニシテ他ニ之ヲ求ムヘカラサルヲ以テ水谷氏ニ相談ノ上九州并防長地方ニ於テ買米ヲ

【一回ノ一 14 b】

為シ之ヲ兵庫ニ回漕シ居リテハ運賃ノ損失尠ナカラサルニ依リ凡テ輸出ノ事ハ馬関ニテ引受け貰ヒ五千百屯丈輸出ヲ為シタリ

右ノ如ク我社ニ於テハ米価ノ騰貴ヲ見テ取り速ニ善後策ヲ運シメルモ外商間ニ在リテハ大ニ其機ヲ誤リタルモノアリ蓋シ外商ハ日本米尙ホ下落スヘシト考ヘ居リタルニ相場ハ益々騰貴シタルヨリ大ニ其目的ノ齟齬ヲ来シタル次第ニテシモンエバノ如キ輸出会社ヨリ千五百屯ヲ買約シタル分ハ三万円ノ弁金ヲ取りテ破談トシタルモ一方海外ノ買先ニ於

テハ解約ヲ肯ンセサル為メ大ニ閉口シ已ムヲ得ス高キ米ヲ買取りテ積出シヲ為シ又サミユールノ如キモ外国テ売リテ神戸ノ田中ヨリ二千屯ヲ買約シタルニ米価騰貴ノ結果一石四円余ノ開キヲ生シ田中ハ其約束ヲ履行セス且ツ

【一回ノ一 15 a】

同人ノ資産ハ七八千円ニ止ルヲ以テ全部之ヲ引上クルモ到底サミユール社ノ損失ヲ償フニ足ラスサミユール社ハ為ニ大ナル損失ヲ蒙リタリ即チ三円八十錢位ニ売リタルモノヲ五円五六十錢位ニテ買取り積出ヲ為シタル有様ナリ尤モ大部分ノ解約ヲ為シタリト云フ我社ハ之ニ反シテ古米ヲ買取りタル為メ新米ニテハ弍円位ノ損失アルモ古米ニテ三円位ノ利益アリ従テ差引利益ノ勘定トナリタリ要スルニ当初見込ヲ誤リタルモ中頃其目論見ヲ改メタル為メ損失ヲ免レタルナリ、輸出米ノ商売ニ付テハ産地買付ハ太甚困難ノ事ナルモ而モ田中ノ如キモノヲ相手トシテ約定スレハ一石二付キ二円ノ差カ出来レハ必ス破約シテ品物ヲ渡ス氣遣ヒ無之故如此危険ヲ踏ムヨリモ寧ロ自ラ産地ニ於テ買付ヲ為スノ勞ヲ取ル方可ナリ

昨年度輸出米高ハ計五千百屯ニシテ之ヲ一昨年度ノ二万四

【一回ノ一 15 b】

千屯余ニ比スレハ実ニ壹万九千屯余ノ減少ナリ是レ畢竟米価騰貴シ適當米手ニ入ラサリシ為メナリ

次ニ牛莊大豆、大豆粕等ノ商売ハ一ヶ年計算ニシテ昨年ノ取扱高ハ二十六万六千担ニシテ一昨年ハ十二万二千担余即チ倍数以上ニ上レリ何故ニ斯ク取扱高増加ヲ来シタルカト云フニ從來ハ支那人ノ競争アリ彼等ハ常ニ我社ヨリ一担ニ付二錢乃至二錢五厘安値ニ取扱ヒタル為メ我社ノ商売ハ彼等ニ庄倒セラレタルナリ然ラハ何故ニ彼等ハ安値ニ売捌キ得ルカト云フニ支那人ハ地元ニ店ヲ開キ船モ自ラ所有シ經費ノ節減ヲ計リテ此商売ニ従フモ我社ハ儼然タル支店ヲ開キ之ニ要スル經費多ク一担ニ付七八錢ヲ要スル為メ商売ノ成立ヲ見ルコト

【一回ノ一 16 a】

容易ナラサリシナリ於是乎經費ヲ節減スル為メ支店ヲ出張員トシ其結果一担ニ付二錢五厘方安値トナリ且ツ昨年七月頃迄ハ米価下落ノ一方ナリシモ九月頃ニ至リ米価騰貴ニ連レテ大豆、大豆粕ヲ肥料ニ使用スル者多キヲ致シ九月乃至十二月迄ノ間ニ於テ大高ノ取引出来シ名古屋ノミニテモ十一艘武豊ニ三艘直航スルカ如キ景況ヲ呈セリ若シ今少シ早く經費ノ節減ヲ実行セシナランニハ今少シク多額ノ取引出来シタルヤモ知ル可カラス此他船舶ノ如キモ亦安運賃ニ

テ約定シ普通三十錢位ノ相場ナルモ我社ニテハ郵船会社ノ  
終航スラ二十六錢ニテ約定シ又為替相場モ最初上海七十七  
兩四分ノ一ニテ二十万兩ヲ約定シ終航ノ當時ニハ七十四兩  
以下トナリタルモ尚各販売店ニ対シテ七十五兩四分ノ一位  
ニ切りタル為大ニ商売

【二回ノ一 16 b】

ノ成立ヲ助ケタリ本年モ亦船ノ雇入方為替ノ取組方産地買  
入方等ニ付特ニ意ヲ致シ五十万担位ノ取扱ヲ為サント欲ス  
蓋シ大豆粕ハ鯨粕ニ比スレハ價格低廉ニシテ鯨粕ヲ仮  
リニ一円トスレハ大豆粕ハ単ニ三十五錢ニ止リ而モ其利キ  
目ハ鯨粕一円ナレハ大豆粕七十錢ノ比例ナルカ故ニ向後  
其販路ハ益擴張スルナラム

芝罘ノ大豆粕ハ是迄大玉ト称シ五十二斤（營口ハ四十六  
斤）ナリシヲ以テ營口ニテ買付ケ得サリシモノヲ芝罘ニテ  
買入ル、カ如キ便利ナカリシモ同地ニ上海支店ノ出張員ヲ  
派出セラレタル以來油房ニ交渉シ五十二斤物ハ販路狭キヲ  
以テ營口同様四十六斤物ヲ造ルノ得策ナルコトヲ勸説シ其  
結果四十六斤物ヲ造ルコト、ナリタルヲ以テ向後營口ニテ  
買付ケ得サレハ芝罘ニ

【二回ノ一 17 a】

テ買付ケ得ルノ利便アリ但本年ハ芝罘兩ハ營口兩ヨリモ割  
合悪シク夫等ノ為値段割高二当リ長崎等ニテ注文アリタル  
ニモ拘ハラズ芝罘ヨリ輸入ヲ見ルコト能ハサリシモ兎毛角  
大豆粕ノ仕入場所一個所ヲ増加シタル次第ナレハ今後取扱  
上大ニ便益ヲ感且船賃モ營口二十錢ノモノナレハ芝罘八十  
五錢ノ見当ナレハ尚更ラ取引上好都合ナルベシ

次ニ牛莊ノカストルオイルハ最初籠ノ俣ニ取りタルモ船ノ  
積卸シニ傷ミヲ生シタルヲ以テ石油ノ明函ヲ送り地元ニテ  
精製ノ上之ヲ積取ルコト、セルモ石油ノ明函ヲ露天ニ置ク  
等ノ為メ銹ヲ生シ罅隙ヲ生シ依テ更ニ籠ニテ取り魚油ヲコ  
ス如ク之ヲコシタルモ其結果大ニ宜シク紡績会社并船舶用  
ニ続々売行キ昨年度中ニ於テ三千二百二十担余売行ヲ見之  
ヲ一昨年ノ売行高千

【二回ノ一 17 b】

二百五十六担ニ比スレハ千九百担余ノ増加ナリ勿論小口ノ  
商売ナルモ我社一手販売ノ姿ナレハ向後一ケ年ニ五千担内  
外ハ売行ヲ見ルニ至ルベシ値段ハ昨年六月頃十三円八十錢  
ナリシモノ十一月ニ入りテハ十五円位ニ売却セリ大阪支店  
雜貨掛ニ於テモ頻リニ紡績会社等へ売捌方尽力ヲ請ヒツ、  
アリ

米国石油ハ六月頃ノ相場ニ円四十三錢位ナリシカ十一月ニ

入りテ三円七十五銭ノ珍値ヲ現出シタリ此点ニ付テハスタンダードノ遣リ口甚タ其意ヲ得サル所ニテ一円三十銭ノ開キトハ良シ運賃騰貴シタリト云ヘ殆ント其理由ヲ解スルニ苦マサルベカラス先ツ普通ノ相場ヨリスレハ二円五十銭位ニテ相当ナルベシ斯ル有様ナリシ故下半年ノ取扱高ハ六万四千五百六十三函ニシテ之ヲ前々季ノ九万三百七十六函ニ対比スレハ実ニ二万五千函余ヲ減セリ

【二回ノ一 18 a】

然レトモ値段騰貴ノ為メ取扱高少キ割合ニハ利益多カリシ越後油ハ米油ノ高値ニ連レテ上騰シ最高三円二十銭迄ニ上リタリ但之ヲ米油ニ比スレハ四五十銭ノ開キアル為メ其需用多カリシ而シテ値段騰貴ノ為メ聊カ改良ヲ加ヘ鉄葉函ノ如キモ新シキモノヲ用ユルコト、ナリ精撰ノ上ニモ少シク改良ヲ施シタリ而シテ越後全体ノ石油産額ハ四万五千石ナルモ信州伏木敦賀等ノ大部分ヲ輸送スルヲ以テ昨年下半年我社ノ取扱ヒタル高ハ二万五千二百八十四函ノミ  
 麦粉ノ取扱高ハ昨年九月後七千六百五十四袋ナリ元来日本ニ輸入セラル、麦粉ハ七分通り横浜ノ取扱ニ属シ神戸ニテ売却セラル、モノハ少シ而シテ神戸ニテハ湯浅及鈴木二店ニ於テドッドウエル商会ヨリ買約ノ上之ヲ販売シ横浜ニ於テハ増田屋

【二回ノ一 18 b】

最モ此ノ商売ニ努力セリ我社ニテハ若シ日本商人ノ手ヲ經テ販売スルコト、セハ随分大高ノ取扱ヲ為シ得ヘキモ斯クテハ面白味少キヲ以テ直接需用者ニ販売スルノ方針ヲ採リ一車ツ、ニテモ売却スルコト、セルヨリ大ニ得意ノ満足ヲ買ヒ其後統々注文アリ向後一廉ノ商売トナルベシ

従来麦粉ヲ取扱フ商人ハ外国商館ナルト日本人ナルトヨ問ハス普通ノ倉庫ニ倉入スル為メ袋ニシミヲ生シ又ハ鼠喰ヲ生スルコトアリ然ルニ我社ニ於テハ特ニ麦粉倉入ニ適當ナル倉庫ヲ造リ鼠ノ侵入ヲ防クノ備ヲ立テタル為メ大ニ買人ノ賞賛ヲ増セリ殊ニ麦粉ノ取扱ヲ為ス者ハ石油ノ売先ト同一ナル故売込方ニ便利アリ今後大抵ハ我社ノ手ニ得意ヲ集ムルコトヲ得ルナルヘク一ケ年二十四万袋即チ月二万袋位宛ノ取扱ハ為シ

【二回ノ一 19 a】

得ルニ至ルベシ  
 練~~ル~~粕ノ商売ハ季節定リ居リ資金ヲ一時ニ要スルノミナラス倉庫モ亦一年ニ一度入用ナリト云フカ如キ有様ナルヲ以テ最上ノ得意ノ委託荷ニアラサレハ之ヲ引受ケサル方針ヲ執リタル為メ取扱高大ニ減少セリ即チ昨年下半年ノ扱高ハ

九千二百俵余ニシテ之ヲ一昨年下半年ノ二万四千七百俵余ニ比スレハ約一万五千俵ノ減少ナリ蓋シ昨年下半年ニ於テハ樺太粕ノ取扱ヲ為シタル為メ其高上リタルモ前季ハ其取扱ナキ為メ右ノ如キ結果ヲ呈シタルナリ

又前季ニ在リテハ六月頃北海道ヲ積出スニ際シ米価下落シツ、アリタル為メ荷為替ノ取組ヲ謝絶シ又送荷ヲモ勸誘セサリシ為メ其取扱高ノ減少ヲ見タルモ本商売ハ十數年來

【二回ノ一 19b】

ノ経営ニ係リ既ニ經驗アルノミナラズ得意先ヲ撰フトキハ別ニ危険ノ恐ナク又輸出米終リタル際ニハ人手ニモ余裕アリ倉庫モ亦之ヲ利用シテ倉敷ヲ収メ得ルニ依リ依然其取扱ヲ継続スル方利益ナリト考フ前季ノ相場ハ八月頃ノ三円四十錢ニ比シテ十二月ノ高値ハ四円十五錢トナリ其間七十五錢ノ差アリシ

次ニ輸出米ニ付テハ前季ヨリノ持越ナカリシモ相場下落シタル為メ買付方ヲ差控ヘタリ而シテ十月頃ヨリ弗々輸入始リ同月中神戸ニ入りタル高ハ一万七千四百〇七屯十一月ニハ七千三百八十屯十二月ニハ一万六千四百五十八屯ノ輸入ヲ見タリ然レトモ此輸入ハ相場引合ヒタルカ為メニ非ス支那人等ガ為替ノ出会イヲ付タル等ノ為メ三四千屯宛弗々輸入シタルモノニシテ畢竟我國ノ米作カ七八分作ナルヘキコ

トヲ予想シタルニ依ルモノナレトモ前年外国米ヲ取

【二回ノ一 19c】

扱ヒタル商人ハ何レモ終リニ至リテ多少ノ損失ヲ醸シタル為メ容易ニ外国米ニ手出シヲ為サス且ツ神戸ニ於テペスト病流行シタルヨリ外国米ノ袋ヲ嫌ヒ外国米一向ニ買望ム者之ナク已ムヲ得ス又ハ俵ニ入レ替ヘテ他地方ヘ積送ルカ如キ有様ナリ從テ當時神戸ニ於テハ二十二万袋余ノ外国米現荷アリ但黒死病モ薄ラキ日本米ノ値段一層高騰スレハ追々其売行ヲ見ルニ至ルベシ

輸出米神戸積出高ハ十月千九百九十四屯十一月三千八百五十八屯十二月七千八百四十九屯ニシテサミュール、シモンエバ、并当社等何レモ前ニ売約定シタルモノヲ積出シタルモノニ係リ新規ノ約定ハ僅少ノ米國行白米ヲ除クノ外殆ント絶無ナシリ

◎福井 白米ノ輸出ハ何程アリシヤ

【二回ノ一 19d】

◎遠藤 白米ノ輸出ハ十月中二千二百三十九屯十一月中二千三百二十七屯十二月中二千七百三十六屯ナリ又輸出米ヲ仕向地ニ依リ區別スレハ如左

表5 〔輸出米積出人別〕

積出人	10月中	11月中	12月中
	屯	屯	屯
三井物産	—	200.00	1,500.00
サミユール	418.48	496.42	4,289.63
ハンター	1,142.67	1,234.42	792.40
ジャーデン	179.01	714.92	178.57
シモンエバ	13.10	500.00	500.00
ゴームスブラザー	—	—	123.56
ブラウン	100.00	—	—
ルカス	—	30.00	—
ポツプ	—	62.09	—
日本人雑口	141.51	120.60	465.25
合計	1,994.77	3,858.45	7,849.41

〔翻刻注：11月中の合計欄数値が積出人別数値の合計を500上回るがママとした。〕

表4 〔輸出米仕向地別〕

仕向地	10月中	11月中	12月中
	屯	屯	屯
欧州	113.10	762.65	3,711.68
米国	1,115.72	1,623.59	3,519.59
豪州	728.00	1,304.16	592.11
布哇	37.95	168.05	26.03
合計	1,994.77	3,858.45	7,849.41

〔いへんに表4〕

又右ヲ積出人ニ依テ區別スレハ如左

〔いへんに表5〕

◎益田 先刻遠藤氏ハ麦粉ニ適當ナル倉庫ヲ設ケタル旨述ヘ  
ラレタルカ麦粉ニ適當ナル倉庫トハ如何ナル倉庫ノ事ナル  
ヤ

【二回ノ一 20 a】

◎遠藤 別段新規ノ倉庫ニハ非ス唯在来ノ倉庫中ニ七尺斗

【二回ノ一 20 b】

煉瓦ヲ積ミ上ケ其上方ハ凡テ鉄葉板ヲ張り又床下ハ周圍一  
尺五寸程コンクリート、為シ中ニ砂ヲ入レ且ツ上ニ板ヲ張  
リタル倉庫ニテ鼠ヲ防グ目的ニテ設備シタルモノナリ

◎益田 大阪ニテ麦粉ノ商売ハ如何ナル景況ナルヤ

◎飯田 製粉所ヘ小麦ヲ売ル傍ラ麦粉ヲモ販売ス其他ハ糊ニ  
販売スルモノニシテ紡織用品販売ノ傍ラ仕事ナリ

◎益田 麦粉總体ノ輸入高ハ何程ナルヤ

◎福井 一ヶ年約百五十万圓位ナルベシ二十七年ニハ六十四  
万圓二十八年ニハ四十一万圓、二十九年ニハ九十九万圓三

十年二八百七十七万円三十一年二八二百万円ノ輸入アリ（三十一年度ハ新関税ノ改正ヲ見込十二月中心巨額ノ輸入アリタリ故ニ高多シ）斯ク輸入額ハ八年ト共ニ増加シ昨今ハ饑頭等ニ至ル迄米利堅粉ヲ使用スルニ至レリ

【一回ノ一 21a】

◎益田 水谷君ヨリ馬関井門司ノ模様ヲ述ヘラレタシ

◎水谷 石炭ハ一昨年来ノ非況引続キ売捌キ捗々敷カラス一時門司二百二十万屯以上ノ貯炭ヲ見ルニ至レリ我社取扱ノ分モ約十五万屯余ノ堆積ヲ見ルニ至リタリ於是乎各坑主ハ一方ニ於テ採掘高ヲ減スルト共ニ一方ニ於テ投売ヲ初メ我社ニ在リテモ亦少々安値ニテモ売飛シタル結果大ニ貯蔵ノ減少ヲ見ルニ至リ七八月ニ迫ンテハ内地ノ景況モ大ニ恢復シ又九月ニ入りテハ米国政府ノ大買収アリ夫此一層人氣ヲ強メタルモ去リトテ其割合ニハ売行活発ナラズ唯久シク不況ニ苦ミタル結果聊カ小康ヲ得タルヨリ坑主ニ在リテモ頻リニ炭況ノ回復ヲ唱ヘ新聞紙ノ如キモ亦其盛況ヲ鼓舞シタルヨリ採掘再ヒ増加シ工夫ノ賃金ヲ増加シテ其取合ヲ始ル杯大ニ変動ヲ呈シタリ斯ノ如キ次

【一回ノ一 21b】

第ナリシヲ以テ門司支店ニ於ケル石炭ノ取扱高モ前年二比

シテ差程減額ヲ示サ、リシ即チ昨年ノ取扱高ハ約六十三万屯余也然ルニ本年度ニ於テハ其取扱高大ニ増加シ約九十五万屯余ニ上ルヘキ見込ナリ蓋シ前年来取扱ヒ来リタル関係先ノ石炭採掘高増加シタルト新ニ峰地并岩下石炭ノ一手販売ヲ引受ケタルト將タ又山野石炭ノ産出額頓ニ増加シタルトニ依リ此結果ヲ呈スルモノニシテ其數量ハ三池石炭ヲ除キ豊筑ノミニテ九十五万屯ノ見込ナレハ若シ之ニ三池石炭ヲ加フルトキハ合計九十七万屯乃至一百万屯ニ達スヘク之ヲ豊筑ノ石炭産出高三百五十万屯ニ對比スレハ実ニ其四分ノ一強ハ我社ノ取扱ニ係ルモノト謂フヘシ從テ之カ売捌ノ事ハ中々容易ナラサル事ニテ追々内外各店ノ力ヲ仮ラサルベカラズ今日概略取調ヘタル所ニテハ右ノ

【一回ノ一 22a】

内既ニ売約定ヲ為シタルモノ并ニ慥ニ売行見込アルモノノ約四十四万屯アリ故ニ残り五十一二万屯ヲ本年中ニ売捌クトキハ首尾克總体ヲ売抜クコト、ナル併シ兎モ角モ此大高ヲ売払フ事故十分内外各支店ノ助力ヲ仰クニ非サレハ到底其目的ヲ達スル能ハサルナリ尚ホ石炭ニ関スルコトハ後ニ至リ石炭ノ相談ニ移リタルトキ詳述スル所アルベシ

過般門司モ開港場トナリタル為メ綿花并綿糸ノ取扱ヲ為スヘキ旨ノ通知ヲ大阪綿花部ヨリ得タリ然レトモ門司ハ石炭

ヲ外ニシテハ全然機関ノ設備ナク從テ之カ取扱ヲ為サンニハ須ク機関ノ設備ヲ為スノ要アリ尚此事モ関係ノ処ニテ詳述スベシ

次ニ馬関ノ輸出米ニ付テハ曩ニ遠藤氏ノ述ヘラレタル如ク昨年ハ中国并四国筋ハ米ノ作柄悪シカリシニモ拘ハラス九州并防長

## 【二回ノ一 22b】

地方ハ減作ノ割合極メテ輕カリシ為メ兵庫支店ニ於テ売却シタル分モ馬関ニテ引受呉度旨相談アリ依テ打合ノ上大部分ヲ馬関ニテ引受ケタリ幸ヒ踏込テ買入ヲ為シタル為メ比較的安値ニ買付ヲ為スコトヲ得髓ニ輸出米商売ノ損失ヲ輕メ得タルコト、信ス其後我国ノ米価ハ漸次昂騰シタルカ為メ手合更ニ出来セサリキ

馬関ニ於テハ輸出米ヲ外ニシテ一廉ノ商売ノ形ヲ為セルモノナキモ昨年来石油ノ取扱ヲ初メタリ幸ヒ昨年ハ騰貴ノ一方ナリシ為メ買ヘハ必ス利益ヲ得テ販売シテ予想外ノ結果ヲ得タリ且ツ夫レ本品ハ日用必要ノ品物ナレハ向後必ス一廉ノ商売ニ為ルニ至ルベシ

## 【二回ノ一 23a】

次ニ又麦粉ノ商売モ大ニ望ミアリ昨年商務課ノ手ヲ経テ

桑港二十五屯注文シタル分此前着荷シタルカ丁度安値ノ際買付ケタルモノ故相当ノ利益アリ勿論其割ニハ行カサルヘキモ向後モ毎月四千袋即チ百屯位宛ハ必ス売行ヲ見ルナル

ベシ尤モ兵庫ヨリ之ヲ取寄セ居リテハ到底引合ハサルヘキヲ以テ門司開港ヲ利用シ直接桑港ヨリ取寄スル考ナリ

牛莊ノ大豆并大豆粕商売ハ太甚微々タルモノナルモ門司モ開港場トナリタル事ナレハ向後ハ多少其商売成立スヘシト考フ折角取調ヲ尽シ此商売ノ發達ヲ計図セント欲ス

◎益田 本年取扱フヘキ九十五万屯ノ石炭ノ内貝嶋氏委託ノ分何程アリヤ

◎水谷 凡ソ四十五万屯ナリ其他ハ豊国金田峰地岩下山野等也現今鐵道局ニ於テ使用スヘキ豊前ノ上等炭ハ四十五万屯位

## 【二回ノ一 23b】

ナルカ其内二十二万屯余ハ我社ノ取扱ニ係ルモノナリ

◎福井 当社総体ノ石炭取扱高ハ約二百万屯位ニ達スルナラム而シテ茨城并磐城炭ハ凡ソ何程ナルヘキヤ

◎平田 七八万屯位ナルヘシ

◎長谷川 昨年度ニ於ケル我社ノ石炭販売高ハ合計百四十六万六千八百〇三屯ニシテ其内三池炭五十四万八千三百七十七屯、雜種炭九十一万八千四百二十五屯ナリ

◎益田 次ハ名古屋支店ノ狀況ヲ報告アリタシ

◎寺島 綿花肥料并石炭ノ事ハ諸君ノ述ヘラレタル所ト同一ナルカ先ツ愛知県全体ヨリ見ルトキハ昨年初メノ内ハ景氣悪シカリシモ年末ニ近クニ從ヒ大ニ回復ノ色ヲ現ハセリ從テ一昨年来控ヘ目ニシタル事モ幾分カ手ヲ付ケ初メ工場ノ如キモ少シク擴張

【一回ノ一 24 a】

スルモノアリ而シテ我社ニ於テハ愛知県ニ於テ種々經營スヘキ仕事アレトモ余ノ考ニテハ土地ノ狀況カ未タ十分明カナラサルニ先チ餘リ踏ミテ種々ノ仕事ヲ為スハ失敗ノ基ナリト思惟シ所謂漸進ノ方法ヲ講シ居レリ即チ最初ハ器械ノ取扱ヲ為シ次ニ綿花、石炭、肥料、并雜貨等ニ及ホセリ而シテ綿花ハ幾分カ注文高モ増加シ愛知県下ニ輸入セラル、綿花ノ内三割一分ハ我社ニ於テ取扱フコト、ナリタリ尤モ綿花ニ就テハ追々競争者増加シ且ツ現物ヲ持チ来リテ売買スルコト、ナリタル為メ商売上大ニ困難ヲ感スルコト、ナリタリ蓋シ愛知県下ニ於テハ凡ソ現物ヲ取扱フノ風アリ最初紡績会社ハ綿ノ現物ヲ売買スル者勿リシヨリ已ムナク先物ヲ買約シタルモ近来現物ヲ売買スル者増加シタルヨリ紡績会社モ亦現物ヲ引

【一回ノ一 24 b】

寄セ検査ノ上之ヲ買取ルコト、ナリ取引上一層ノ困難ヲ増加スルニ至リシナリ  
次ニ石炭ハ總高七万屯ノ内名古屋支店ニ於テハ約四万屯即チ半数以上ノ売捌ヲ為シ得ルニ至レリ名古屋支店ノ商売中ニテハ綿花石炭ノ二者ハ大ニ商売ノ順序付キタルモノナリ又昨年来牛莊ノ大豆并大豆粕ノ商売ヲ始メタリ前ニ述ベタル如ク名古屋ハ凡テ現物取引ノ行ハル、所ナルカ故ニ先物約定ハ困難ナリシモ百方奔走ノ末最初ハ幾月ニモ割リ一船ヲ五人位ニ分割シテ売約シ手付金ヲ收受シ本船到着ノ節ハ現金引替ニ荷渡スルコト、シ茲ニ直輸入ヲ企テタルカ品質良好ニシテ値段又割安ニ当リタルヨリ追々注文者頭ハレ一艘分ノ約定モ成立シ結局十四艘ノ手合出来セリ又茲ニ

【一回ノ一 25 a】

非常ノ困難ヲ感スルハ名古屋ニテ売約定スルモノハ四日市又ハ武豊ニ輸入スル順序ナルカ双方共二十分ノ設備ナク大ニ不便ヲ覚ユルノ点ナリ殊ニ武豊ニ至リテハ昨年末ニ我名古屋支店ニ於テ大豆大豆粕ノ輸入ヲ試ミタルモノ実ニ其權與ナレハ人足ノ如キモ取扱ニ慣レス且倉庫ノ設備モ之ナキカ為メ大ニ不都合ヲ感セリ乍去三河地方ニ配送スルモノハ勢ヒ武豊ニ輸入セサルベカラサルヲ以テ向後武豊ニハ之ニ

対スル設備ヲ為スノ要アリト考フ

雜貨ニ至リテハ其種類許多ナルモ仮ニ之ヲ輸出ト輸入トニ  
區別スレハ輸出ニハ土管、箱類、セメント樽、ビール箱、  
茶箱等見込アリ又紙毛岐阜地方ニ産シ向來有望ノ商品タリ  
又豊橋付近ヨリ産スル生姜モ年二十万円内外ノ輸出アリ

【二回ノ一 25 b】

過般引合ヲ初メ聊カナカラ注文ヲ引受ケタリ又輸出品中最  
モ望ミアルモノハ木綿反物ナリ元來愛知県ニ於テハ木綿反  
物ノ景氣如何ニ依リ其盛衰分ル、位ニテ実ニ重要ノ商品ニ  
屬シ一カ年ノ産出額約三千万反内外之ニ従事スル者大凡八  
万人之ニ使用スル機台八万四千台ナリト云フ然ルニ從來余  
リ海外ニ輸出セサリシ為メ品種一定セス寸尺ノ如キモ亦  
区々タリ依テ其纏メ方ヲ談シタルモ何分多クノ種類ヲ織出  
ス為メ一万反若クハ二万反ト纏リタル品物ヲ得ルコト能ハ  
ス現二十万反以上ヲ取扱フ商人ノ説ヲ聞クモ百種若クハ二  
百種ヲ取集メ初テ十万反ヲ取揃ヘルカ如キ有様ナリト云フ  
故ニ之カ輸出ヲ計ルニハ須ラク織機ヲ改良シ且ツ原料タル  
糸并染料等モ一定ノモノヲ使用シ以テ同種類ノ棉布ヲ製織  
スルコト、為サ、ルベカラズ

【二回ノ一 26 a】

幸ヒ此度中央織物協会ト称スル団体組織セラレ輸出ニ適当  
スル棉布ノ製織ヲ盛ニスルノ策ヲ講スルコト、ナリタルヲ  
以テ向後漸次改良ヲ見ルナラム

次ニ雜貨中向後見込アルモノハ毛類ナリ何故毛類ハ見込ア  
リヤト云フニ生糸ハ値段高価ニシテ一般ノ需用ヲ充タスニ  
足ラス去リトテ又一般ノ風潮ハ漸ク奢靡ニ赴キ木綿反物ヨ  
リ瓦斯系織ニ移リ更ニ一段ノ進ミヲ見ントスルモ絹織物ニ  
進ムハ余リニ突飛ナリ而シテ其間ニ介在スルハ毛類ニ外ナ  
ラサレハナリ其故ニ昨年来毛織ノ業ハ漸ク盛ヲ致シ絹ト毛  
ノ交セ織并毛ト綿トノ交セ織等カ大ニ一般ノ需用ヲ喚起ス  
ルニ至レリ又愛知県ニハ綿毛布ノ産出アリタルカ是毛綿ノ  
ミノ分ハ漸次衰へ毛ヲ交ヘテ織立ツル傾向ヲ生シ相当ノ

【二回ノ一 26 b】

輸出アリ膝掛并肩掛等毛織成スルコト、ナリタリ且此程綿  
毛布組合ナルモノ設立セラレ向後大ニ輸出品ヲ製織スルノ  
目論見ナリ從テ毛類ノ需用ハ益増加スヘシ此等ハ東京営業  
部并大阪支店ト打合セ其売込ニ尽力スルノ考案ナリ

又飯田氏述ヘラレタル支那柞蚕糸并支那生糸モ輸入ヲ見ル  
ニ至ヘシ殊ニ柞蚕糸ヲ盛ニ使用スルニ至レハ面白キ商売ト  
ナルベシ

印度藍ハ愛知県下ニ於テ約六十万円余ヲ消費ス蓋シ従前ハ

日本藍ノミヲ使用シタルモ近來ハ漸次研究ノ末十中ノ六七迄ハ印度藍ヲ使用スルコト、ナリタリ之モ大阪ト打合せ現ニ取扱ヲ為シツ、アリ

【二回ノ一 27 a】

銑鉄モ大分売行ノ望アリ名古屋付近ヘハ毎月三百屯宛ノ輸入アルヲ以テ此内相当ノ数量ヲ我手ニ収ムルコトヲ得ベシ又前二述ヘタル如ク愛知県ニ於テハ氣運回復ノ兆アリ一乃宮紡績ニ於テ二千鍾津島紡績ニ於テモ二千鍾増鍾ノ計画アリ又三重紡績分工場ニ於テモ六百台ノ機台ヲ増加スルノ企アリ殊ニ一段ノ進歩ハ名古屋地方ノ各紡績カ一致團結セントスルノ傾向アリテ尾張三重ノ両紡績ハ合併ノ内相談中ナリト云フ是レ蓋シ棉花高ノ綿糸安カリシ等ノ事ヨリ經濟ヲ共ニスルノ必要ヲ悟リタルニ依ルモノニシテ名古屋地方ニ於ケル紡績事業ノ一進歩ト謂フベシ

肥料ノ内ニテ綿実ハ大分名古屋地方ニ売行クヘキ見込アリ上海支店ト引合中ナリ昨年モ取寄セタルカ之ハ油ヲ搾リ其滓

【二回ノ一 27 b】

ヲ肥料ト為スモノナリ

石油八名古屋ニ一ヶ月一万函ノ輸入アリ之モ越後油杯ヲ安

値ニ輸入スルヲ得ハ大部分ヲ我社ノ掌裡ニ収ムルコトヲ得

人造肥料ハ大ニ尽力シタルモ望薄シ何トナレハ三河付近ノ地質上人造肥料ノ必要ナル場所ニハ直接人造肥料会社トノ特約店アリ只今残り居ルハ人造肥料ノ必要ナキ場所ノミナレハ仮令見本ヲ送リテ勧誘スルモ更ニ其効能ナシ這ハ大ニ研究ヲ要スル点ナリ

土管ハ台湾ノ汽船ニテ二艘半分程送リタリ台湾ノ外ニハ見込ナシト考フ

◎益田 次ニ神戸ノ景況ヲ述ヘラレタシ

◎吳 神戸ノ取扱ハ特種ノモノナリシッピング并為替ノ事ヲ取扱ヒ

【二回ノ一 28 a】

傍地方的ノ商売ヲ經營シ又船舶雇入ノ事ヲ取扱フ第一ニシッピングノ事ヨリ述ヘンニ神戸店カ取扱フ所ハ兵庫并大阪店ノ輸出入品ニ在リ之カ為ニ多クノ人員ヲ使用シ日夜役々トシテ出精スルモ神戸店ニ於テハ殆ント利益ヲ取ムルコトナシ若シ神戸店ニ於テ利益ヲ取メン乎大阪并兵庫店ハ迷惑ヲ蒙ルヘシ要スルニ神戸ノシッピングヲ繁昌セシムルハ大阪并兵庫店等ニ在リ神戸ハ一心不乱ニ働キテ親切ニ輸出入品ノ取扱ヲ為シ可成其チャージスラ安クシ以テ他店ノ商売

ヲ助長セシメンコトヲ計ルヘキナリ而シテシッピングノ取扱ニ関シテ研究シ得タル所ハ從來重ニ回漕問屋ニ依頼スルノ傾アリタルモ目今可成支店直接ニ之カ取扱ニ従事スルニ在リ又舩船モ從來他ニ依頼シタルモ神戸ニ於ケル舩ハ払底ニシテ不完全ナリ日本ノ

【二回ノ一 28 b】

貿易殊ニ三井ノ貿易業ハ長足ノ進歩ヲ為シタルニ依然此不完全ナル設備ニ依頼スルハ危険千万ト云ハサルヘカラス故ニ早晚自ラ舩船ヲ造リ他人ニ依頼スルコトヲ廃セサルヘカラス其他荷揚場所并倉入等ノ事発達セス此点ハ税関長ニモ迫リ又地方有志家ニモ協議シテ頻リニ其設備ニ苦心中ナリ元來シッピングノ事ハ困難極メテ多シ殊ニ輸入荷物ノ如キ無事ニ到着スルモノハ殆ント罕ニシテ十中七八ハ苦情付ノモノナリ之ニ対シ会社ノ利益トナル様夫々措断スル所ナカルベカラズ荷物入りタルトキ輸入届ヲ出シ荷物ヲ出ストキ輸出申告書ヲ出セハ能事終レリト云フヲ得ス綿ノ苦情器械ノ苦情等続出シ且ツ七月以來税関規則ノ改正アリテ手續厳重トナリ又時々税関ノ不当処分ニ対シ税関長ニ訴願ヲ提起スヘキコトアリ此等ノ

【二回ノ一 29 a】

コトハ自店ノ商品ヲ取扱フトハ異ナリ他店ノ商品ヲ取扱フ事ニシアレハ取扱者タル我々ニ於テ層一層ノ心配アリ又為替ノ事ハ正金又ハ他ノ銀行ニ就キレートヲ聞キ合セ大阪又ハ兵庫支店ニ打合せカ取扱ヲ為ス就中支那ニ輸出スル綿糸ニ就テノ為替取組ヲ為ス場合最モ多シ而シテ我社ニ於テハ大体為替ノリスクヲ取ラサル制規ニ付商売成立チタルトキ為替ノ取極メヲ為スヲ例トス

又輸入品ニ就テハ金融ノ世話ヲ為サルベカラズ即チ輸入品ニ対スル為替ハ神戸ニ於テ引受承諾ヲ為シ期日之ヲ支払フ近來会社ノ為替引受高漸ク増加シ來リ正金并チャータード銀行払ヲ合シ為替ノ支払承諾高多キハ四百方少キモ二百五十万内外アリ正金ニ対スル信用百五十万円チャータード銀行ニ

【二回ノ一 29 b】

対スル信用四十万円ヲ超過スルコト決シテ珍シカラズ從テ其超過高ハ現金ヲ以テ払入レサルベカラズ斯ノ如キハ太甚不便ナルヲ以テ其クレヂツトノ制限ヲ擴張シ各銀行ト便利ノ取扱ヲ為サ、ルヘカラズ此事ハ常ニ念頭ヲ離レサル所ナリ蓋シ会社ノ資本金額ヲ百万円ト定メ之ヲ世間ニ公表スルトキハ物産会社ハ資本百万円ナルニモ拘ラズ非常ニ大ナル商売ヲ為ストテ却テ信用ノ程度ニ制限ヲ置カル、カ如キコ

トナキヤノ虞アリ併シ一意信用ヲ増スコトニ付テハ努メツ、アルナリ

雇船ノ事ハ内地若クハ海外ニ石炭ヲ運送スル為メ日本船ヲ雇入ル、コト最モ重モナルモノニシテ時ニ又外国船ヲ雇入ル、コトアリ蓋シ日本船ト外国船トヲ問ハス日本内地ニ於テハ神戸ハ実ニ中心市場ナルカ故ナリ元來日本ニ於テハ商売上ノ機関具備セス取

【一回ノ一 30 a】

扱上不便ヲ感スルコト多々ナルカ雇船ノ場合ニ於テモ亦外國ニ於ケルカ如ク二十四時間若クハ四十八時間ノレヒユ一ザルヲ与ヘ呉ル、カ如キコトナシ故ニ船ノ入用店ニ運賃割合ヲ電信シ其返事ヲ得テ船主ニ雇入ヲ申込ムモ最早約束ハ成立セサルコトアリ斯ノ如キハ実ニ已ムヲ得サルナリ

神戸ノ商売ニハ地方的ノモノアリ又大阪并東京營業部ノ取次商売アリ石炭ハ地方的の商売ノ重モノナルモノナレトモ此事ハ後ニ石炭ノ御相談アル節述フルコト、スベシ鐵道用品即チ山陽鐵道へ軌條機關車杯ヲ売込ムカ如キハ東京營業部ノ取次商売ナリ又川崎造船所ノ材料品ハ大阪支店へ引合ヒ約定ス此等ハ必スシモ神戸ニ於テ直接取引ヲ為スコト能ハサルニ非ルモ見積方困難ナル故寧ろ常ニ其

【一回ノ一 30 b】

見積ニ従事スル東京營業部又ハ大阪支店ニ打合せ其指図ヲ得テ引合ヲ為ス方危険ノ憂ナシ但神戸支店ニ於テ直接ニ引合ヲ為シ得ヘキモノ例へハ川崎造船所へセメント三千屯売却シタルカ如キハ直接倫敦へ引合ヒテ約定ヲ取結ヒタリ  
 次ニ樟腦ノ商売モ神戸支店ニ於テ取扱フ尤モ今日迄ハ僅少ノ社持品并大東商行委託荷ヲ販売シ相当ノ利益ヲ収メ得タルニ止マレトモ台湾總督府ニ於テ本年二三月頃樟腦専売ヲ実行シ其一手販売ヲ有力ナル会社ニ托スル趣キナレハ幸ニシテ其販売ヲ引受ケ得ルトスレハ台北、神戸、香港等ノ好商売トナルベシ聞ク所ニ依レハ右樟腦ニシテ差向キ販売ヲ托セラルヘキモノハ約五百万円内外ノ由ニテ

【一回ノ一 31 a】

之カ販売引受ニ運動セルモノ二三ニシテ止ラサル趣キナレハ我社ニ於テモ大ニ尽力セラレシコトヲ望ム  
 神戸支店ニ尚一ツ特種ナルモノハ日本ノ珊瑚ヲ海外ニ輸出スルニアリ之ハ伊太利ノ珊瑚商カ日本ニ來リタル際買付方ヲ引受ケタルモノニシテ愈買付ノ場合ニハ本国ヨリ代金ヲ送致スルニ依リ極メテ安全ナル取引ニシテ昨年來尅十五六万円余ノ商売ヲ為シタリ思フニ一ヶ年三十万円位ニハ達スルナラム

此他船用品ノ委託買付并馬尼刺麻ノ商売アリ後者ハ大分引合出来シタルモ非律賓戦乱ノ結果荷物手ニ入り難ク今日ハ商売成立セサルモ平和克復ノ後ハ追々手合成立スヘシ又砂糖ノ商売アリ之ハ香港支店トノ連絡商売ニテ内外砂糖会社ノ委託ニ依リ香港ニ於テ白糖

【二回ノ一 31b】

并赤糖ヲ買付クルモ金高多カラズ

◎福井 珊瑚ノ出高ハ何程ナルヤ

◎呉 凡ソ二十八万円位ニシテ是迄ハ独逸人カ之ヲ取扱ヒタルモ昨午物産会社カ取扱ヲ開始シテ以来荷主ハ何レモ我社へ現品ヲ持参シ来リ之ヲ倉入ス当方ハ其品質ヲ見生キタルモノ枯レタルモノ杯ヲ区別シ且大小ニ依リ仕訳ヲ為シ値段ヲ定メテ買取ルナリ伊太利向ハ色合ノ赤キ方宜シ昨午下半季ニ於テ雜貨掛ノ利益ハ樟腦ト珊瑚ト二品ニ依テ得タルモノト謂テ可ナリ

◎飯田 シツピングノ事ニ付呉氏ノ趣旨ヲ承リ大ニ安心セリ大阪支店ノ各掛ニ於テハ昨午下半季ニ於テ神戸支店ノ利益少ナカラサリシヲ見大ニ氣ヲ揉ミタルモ神戸支店ハ利益ヲ取メス畢竟大阪ノ如キ輸出入品取扱ヲ托スル店ノ便益ヲ斗ルトノ御主意ニテ進行セラル、ヲ聞キ大ニ心ヲ安ンシタリ何卒其主意ヲ貫串セラレタシ

【二回ノ二 1a】

◎益田 松尾氏ヨリ長崎支店ノ商売ノ概況ヲ述ヘラレタシ

◎松尾 私ハ昨年九月初ヨリ遼東半島へ出張ヲ命セラレ長崎ニ在ラス且帰来早々上京シタル故十分ノ取調モ出来サリシモ大略私ノ記憶ヲ述ヘンニ長崎於ケル雜貨ノ商売ハ一時三池支店ニ移リ居リタルモ重役ヨリノ御指図モアリ且ツ自カラ考ヘタル所モアリテ客年以來奮テ本商売ノ擴張ニ努メタリ昨午下半季ノ取扱高ハ豆、豆粕六万円余、牛骨一万三千元余石油九万五千円余(之ハ三池ト連合シテ取扱ヲ為シタリ)ナリ砂糖ハ専ラ三池ノ取扱ニ任シアリタル故長崎ニハナシ如此長崎ニ於ケル雜貨ノ商売ハ未タ盛況ヲ呈スルニ至ラサルモ向後ハ大ニ奮テ之レカ経営ヲ為スヘキ筈ナレハ其取扱高モ増加スルナルヘシ今日ノ処豆粕ト牛骨ノ商売ハ大ニ望ミアリ次ニ種粕

【二回ノ二 1b】

ノ商売モ見込アリ種粕ト豆粕トハ殆ント同シ金高ノ輸入アリ且種粕ハ豆粕トハ異ナリ冬季牛莊地方閉河中ト雖モ上海ヨリ統々輸入セラル、カ故ニ間断ナク之カ取扱ヲ為スコトヲ得ヘシ昨午上海ヨリ輸入セラレタル高ハ約六十万円ナリシト覺ユ又支那棉モ少シツ、ハ取寄セ売却ス石油ハ昨年度

ニ於テ値段追々騰貴シタルカ為メ長崎ニ於テモ二万兩位ハ買持シタシト考ヘタルモ大ニ用心ヲ加ヘル函乃至三千兩宛買入レ其翌日直チニ相当ノ利益ヲ得テ売却スルト申ス如ク可成危険ヲ避ケテ之カ取扱ヲ為シ相当ノ利益ヲ取得セリ此商売ハ前ニモ一言セシ如ク三池支店ト共同商売ナリ  
次ニ砂糖ニ付テハ白糖ハジャーデン并バタフヒルトニテ九州并下関地方ニ売込ミ居リ又独逸白糖ノ輸入アルモ此方ハ向キ口悪シ

【一回ノ二 2 a】

長崎支店ニ於テハ一時大阪精糖会社ノ白糖ノ売捌キヲ計画シタルモ運搬不便ノ為メカ値段割高ニ当リ商売ト為ラサリシ又黒砂糖ハ長崎ニ於テ一手ニ引受ケンコトヲ努メタルモ神戸ヨリ香港ヘ共同組ノ者出テ、黒糖ヲ買取り一歩位ノ口錢ヲ得テ長崎ヘ持ち来リ居ル故競争大ニ困難ナリ元來長崎ニハ砂糖商人六人アリ互ニ連合セリ故ニ我社ニ於テ砂糖ノ商売ヲ経営セントセハ此等六人ノ商人ノ委託ヲ受ケテ之ヲ買付六人ノ商人ニ売渡スカ又ハ直接需要先ニ販売スヘキカヲ研究セサルヘカラス而シテ長崎ノ砂糖商人ハ需要先ト年来ノ取引アリテ需要先ノ身代ヲ計リ二千円若クハ三千円位宛ノ取引ヲ為ス五島鹿兒島其他九州一円皆然リ斯クシテ砂糖ト共ニ石油ヲモ売込ミ其代リトシテ海産物ヲ持ち来リ又

之ヲ販売スル

【一回ノ二 2 b】

カ如キ仕組ナルヲ以テ直接ニ需要者ト取引スルコトハ甚タ困難ナリ又長崎商人ハ倒レ等ヲ見込ミ組合ヲ設ケテ五分位ノ口錢ヲ貪リ買手モ亦其値段割高ナルコトヲ知ルモ砂糖并石油等ヲ買取り海産物ヲ売渡スカ如キ密接ノ関係アル為メ別ニ苦情等モ申立テス依然取引ヲ為シツ、アル有様ナリ斯ル次第ナルヲ以テ需要者ト直接取引ノ事ハ甚タ困難ナリ依テ長崎商人ニ対シ物産会社ニテ爪哇ノ砂糖ヲ取寄セ売却セント欲スルカ之ヲ引受ケテ販売スルノ意ナキカ若シ引受ケ欲セサレハ直接需要者ニ売却スベシト申入レタルニ彼等曰ク九州地方ノ売レ高ニハ限りアルヲ以テ無暗ニ取寄セラル、モ売り方ニ困難スヘキヲ以テ我々ヨリ注文スル高丈ヲ取寄セラル、様致シタシ云々然ルニ彼等ハ共同組ヲ香港ヘ出張セシメ

【一回ノ二 3 a】

居ル故之ト交渉シ運輸ノ便為替相場ノ差等ヲ利用シ当社ヘノ注文ヲ掛引セラル、トキハ我社ハ却テ彼等ノ為メニ踏台トセラル、ノ恐レアリ故ニ此要求ハ断然勿付ケ直接需要者ニ販売スヘキ旨答ヘ置キタリ尚此点ハ大ニ注意ヲ要スルモ

ノト考フ

向後三池支店ノ商売ノ大部分ヲ長崎ニテ取扱フモノトスレハ何品力重ナル商品トナルヘキヤト云フニ大豆、大豆粕、種粕、砂糖、牛骨及石油ナルヘシ豆粕ハ兵庫ヘ引合ヒ之ヲ取寄セ牛骨ハ天津ノ引合ニシテ同店ニ於テハ近來大ニ力ヲ牛骨ノ商売ニ尽シツ、アルニ依リ結果大ニ見ルヘキモノアリ長崎ニ輸入スル品物ノ内三分ノ一以上ハ当社ノ取扱ニ係ル而シテ長崎ニ輸入スルモノハ獸骨ナル總括名義トナリ居リ其内ニ牛骨ヲモ含ムモノニテ獸骨ノ輸入高ハ合計十七万九千七百十五円ナリ素ヨリ大高ノ商売

【一回ノ二 3b】

ニハアラサルモ三四分位ノ口錢アリ必スシモ棄テタルモノニアラス向後益々其擴張ヲ計ル考ナリ尚買付方ニ付テハ上海支店ニモ交渉中ナレハ同店ニ於テ大ニ尽力シ呉ル、コトナラン天津ノ方モ是迄ハジャーデンバタフヒルド等精糖ニ従事スル会社カ買入レタルモノヲ分与シ貰ヒ長崎ヘ送荷スルモノニシテ長崎ニ買入アル場合ニハ天津ニ於テ品物揃ハス又天津ニ品物アルトキハ長崎ニ於テ買入ナシト云フカ如キ有様ニテ往々商売ヲ取逃スコトアリ故ニ之ハ天津ニ於テ充分手ヲ付ケ貰ヒ注文ナキモ品物ヲ買集メ精糖会社ヘハ当社ヨリ売込ム位ニ致度モノナリ

牛莊ノ豆粕モ長崎ヘ五十五万円余ノ輸入アリ之モ物産会社ニ於テ大部分ヲ握ルコトニ致シタシ

長崎ヘノ石油輸入高ハ五十四万一千円余鉄類輸入高ハ六

【一回ノ二 4a】

十八万五千円余米ノ輸入高ハ九万九千円余豆類ノ輸入高ハ十四万七千円余ナリ是等ニ付テモ十分其販路ヲ当社ニ占ムルノ策ヲ立テ九州大陸ハ勿論其他ヘモ及ホシテ商売ヲ擴張スル考案ナリ唯茲ニ商売上最モ困難ヲ感スルハ運輸ノ不便ニアリ此点ハ充分研究ヲ要ス

余カ此度長崎ヨリ出発シテ東上スル際長崎税関長ニ面晤シタルニ同税関長ヨリ輸入ト輸出トハ其價格ニ於テ七百万円余ノ相違アリ即チ輸出カ輸入ニ比シテ少額ナルコトハ如何ニモ残念千万ナレハ向後輸入ノミナラス輸出ニモ充分力ヲ致サレ度勿論輸出品ニ付テハ出来得ル限りノ便利ヲ与フヘキ旨懇ニ談話アリタリ現今輸出品ノ重ナルモノハ石炭、茶、米、海産物、木炭、織物、材木等ナリ

【一回ノ二 4b】

昨年下半年ニ於ケル長崎支店石炭取扱高ハ八万三四千屯ニシテ前季ニ比シ一万吨余ノ増加ナリ之レハ何レモカゴ一又ハバンカーニ売リタルモノナリ向後益々其取扱高ノ増加ヲ

見ルヘキ予定ナリ木炭ハ長崎ニ於テ輸出シタルモノ四万二千円余口ノ津ニテ輸出シタルモノ二万円余ナリ

長崎ヨリ海外ニ対スル商売ハ上海香港并天津ニハ既ニ支店ノ設ケアル故姑ク別論トシ浦塩斯徳、西比利亞地方旅順口大連湾地方等ニ対シ大ニ拡張セサルヘカラス此他尚種々述ヘ度事アレトモ子細ニ亘ル故之ヲ略ス唯終リニ一言スベキハ運輸ノ不便ハ大ニ商売ノ進運ヲ阻害スルヲ以テ充分ニ此便利ヲ計リ貫ヒ度点ナリ

◎上田 運輸ノ便トハ旅順口大連湾ニ対スル事ナリヤ又ハ長崎八代

【二回ノ二 5 a】

間若クハ長崎唐津間其他ニ対スル運輸ノ事ナルヤ

◎松尾 各地方ニ対スル運輸ノ事ナリ唐津ヨリ長崎、住ノ江ヨリ長崎、口ノ津ヨリ長崎ニ至モノ何レモ不充分ナリ且艀船ノ如キモ其数少ナク彼等ハ何レモ組合ヲ組織シ運賃ヲ引上ケサレハ積込ミニ応セサル等被雇人ノ方却テ雇主ヨリ權力強キ有様ナリ此他旅順口大連湾ニ対スル運輸モ一層不便ヲ感ス一例ヲ挙クレハフアーガッソン商会カセメントヲ威海衛ヘ送ルニ当リ一度上海ヘ送付シ同所ニテ積替ヘテ芝罘ニ送り更ニ之ヲ威海衛ニ転送シタル為メ一樽六円ニ当リタリト云フ過般余ノ同地ニ赴キタル際セメント百樽ノ注文ア

リ金利ヲ見込ミ一樽三元三十五銭ニテ注文ヲ引受ケ芝罘ヨリ広濟号ヲ以テ威海衛ヘ送リタルニ一樽四円ニテ上リタリトテ大ニ悦ハレタリ

【二回ノ二 5 b】

◎益田 南氏ハ口ノ津赴任後日尚ホ浅キモ一応同支店ノ用務ノ概要ヲ述ヘラレタシ

◎南 口ノ津ノ事ハ諸君モ大抵皆御存シナル故意見并希望等ヲ述フルコトヲ止メ聊カ数字ニ依テ陸揚船積ノ事ヲ述フヘシ

先ツ陸上ケノ事ヨリ述ヘンニ山ヨリライターヲ繰回シ来ルコトニ付研究ノ末杵島郡ノライターニ付テハ上半季間ハ一屯ニ付四十四銭ヲ支払ヒタルモ下半季ハ勉強ノ結果二十八銭ニテ挙リ差引十六銭丈ハ節約スルコトヲ得タリ三池炭ニ付テハ生憎上半季ノ調ヘナキモ下半季ノ滞船料ハ口ノ津三角ヲ合ハセ一屯ニ付三銭ニ止マリタリ蓋シ是レ三池石炭ニ付テハ特ニ勉ムル所アリタルニモ依ルヘケレトモ又一ハ貯炭場ノ都合宜シカリシニ職因スルモノニシテ杵島ノ炭ニ滞船料多キハ一時三池炭カ十万モ二十

【二回ノ二 6 a】

万モ堆積シ貯炭場ニ不足ヲ告ケタルニ由ル尚貯炭場ハ一般

二狹隘ヲ告ケ居ルニ依リ目下埋立ヲ為シツ、アリ  
 次ニ船積ノ事ニ付テハ昨年一月本店ヨリノ達アリタルモ口  
 ノ津ニ於テハ人足不足ナルト天候其他ノ障害ノ為メ規定ノ  
 時間内ニ荷役ヲ結了セシムルコト能ハス即チ下半年ノ船積  
 時間ハ剣山平均七十五時間彦山七十三時間勝立七十一時間  
 有明六十時間富士山四十一時間愛宕山四十四時間阿蘇山三  
 十五時間月極雇船ラグナ四十二時間アリエル四十九時間ナ  
 リシ而シテ爾來船積時間ノ短縮ニ付テハ銳意力ヲ尽シ十二  
 月中ハ幸ニ規定通りニ行ハレタルモ一月ノ初メ珍シクモ本  
 船六艘一時ニ入港セルアリ為メニ規則ヲ破ルノ已ムヲ得サ  
 ルヲ致セリ口ノ津ニ於ケル船積人足ハ總テ千五十人アリ其  
 内先年人足受負人南彦

## 【二回ノ一 6b】

七郎カ沖ノエラブ島与論島及コシキ島ヨリ移住セシメタル  
 人足四百五十名(内十名ハ朝鮮人)アリ尤其内百名計リハ  
 歸島セリ  
 港内ノ浚渫ハ一般ノ浚渫船ヲ以テ少シツ、実行スルニ過キ  
 サレハ素ヨリ満足ノ結果ヲ得ル能ハス  
 三角ニ於ケル船積ハ昨年入港シタル船舶ノ計算ヨリスレハ  
 新港ノ割合ニハ結果良好ナリ即チ有明八十三時間阿蘇山三  
 十八時間愛宕山六十五時間アリエル三十九時間富士山七十

時間ナリ但富士山カ此長時間ヲ荷役ニ要シタルハ全ク天候  
 險悪ナリシカ為メナナリ蓋シ三角ハ新開港場ナレハ人夫ノ  
 働キ数倍ナルノミナラス役員モ夫々熱心ニ働キタルニ依リ  
 口ノ津ニ比シテ遜色ナキヲ得タルナリ  
 此他口ノ津ニハ木炭ノ商売アルモ極メテ微々タルモノナレ  
 ハ茲ニ述フル

## 【二回ノ一 7a】

ノ必要ナシ

◎益田 口ノ津港ニ於ケル輸出入品ノ高ハ何程ナルヤ同港ハ  
 三井ノ開港場ト称スルモ可ナル場所柄ナレハ其辺一応承リ  
 タシ

◎南 口ノ津全体ノ輸出入品ハ只今取調ヘタルモノヲ持參セ  
 サルモ物産会社取扱ノ輸出入品中重モノルモノヲ挙クレハ  
 左ノ如シ但此高ハ口ノ津全体ノ輸出入品ト大差ナシ  
 輸入品ノ重ナルモノ

品目	三十二年下半季	三十二年上半季
棉花	五、五〇九担	三、一七四担
砂糖	五、八八五担	四、八〇六担
肥料	八、九六九担	—
コールタ	三、一二五グラム	—

輸出品ノ重モノナルモノ

【一回ノ二 7 b】

品目	三十二年下半季	三十二年上半季
棉糸	二五、四三五担	二〇、八八七担
木炭	一三、〇九〇担	一九、九二五担
セメント	二、七一八樽	六二〇樽
硫酸	一五〇箱	二二〇箱
コークス	一、二三八屯	四九八屯

◎長谷川 石炭ヲ一度陸上スルト舁ヲ滞船セシメ置キ本船ニ直キ移シスルト利害如何

◎南 仮令滞船料ヲ支払フモ直移シトスル方一度陸上ケシ炭質ヲ悪シクシ更ニ舁賃ヲ支払ヒテ積込ムヨリモ利益ナリ

◎益田 次ニハ北村氏ヨリ生糸商売ノ事ヲ承リタシ

【一回ノ二 8 a】

◎北村 横浜支店ノ商売ハ二ツ二分ツコトヲ得シッピング并生糸ノ事はナリシッピングノ方ハ別ニ申上ルコトナシ畢竟昨年同様ノ取扱ヲ為スニ止マリ新タニ計畫スヘキモノナシ世ノ中力進マサルニ独り当社ノミ飛上リタルコトヲ為スモ詮ナキ事ナリ唯荷物滞ラシメサル様又諸掛リガ多ク掛ラヌ様ニ為スヘキノミ

次ニ生糸ハ嘗テ見モシ聞キモシタルコトナク此度横浜ニ赴

キ初メテ研究スルコト、ナリタル次第ナルカ昨年ハ実ニ非常ノ年柄ニテ仮令空前絶後トハ云ヒ得サルモ確カニ空前ノ年柄ナリシ其際突然飛込ミテ經驗ナキ者カ取扱ニ任シタル次第故充分ノ仕事ヲ為シ能ハサルハ怪シムニ足ラス先ツ養蚕ノ事ヨリ申セハ昨年ハ平均平年作ナリキ即チ関西地方ハ出来宜シカラス値段從テ高カリシモ養蚕ノ本場トモ云フヘキ関東信州地ハ出来宜シク

【一回ノ二 8 b】

値段從テ安カリシ而シテ新繭出市ノ頃ハ製糸家ハ何レモ八百五十円位ニ売行ケハ手一杯ノ計算ニテ若シ相場カ其上ニ出ツルトキハ夫レ丈ノ利益トナルヘシト算盤ヲ取りタリ然ルニ新糸ノ出ツルニ当テヤ値段意外ニ手堅ク亜米利加向ノ太糸飛切上(普通ノ器械一番ヨリ四十円高)ヲ初商内ニ千四十円ニテ買入レタリ當時世人ハ物産会社カ此高値ヲ支払ヒタルヲ見テアレハ紐育ノ岩原カ才土産ニ買ヒタルナラント申合ヒ居リタルカ其後相場ハ漸次昂進シ千四十円ハ最低値段ニシテ其當時生糸商売ニ經驗アル人モ米國ニ於テ上値ニ売行クニハ驚キ居リタリ而シテ日本ノ相場ハ其後一時安値ノコトモアリタレトモ概シテ騰貴ノ一方ニシテ十一月末ノ最高値段ハ実ニ千五百円ニ上リタルコトアリキ又産出ノ方ハ製糸家ニ於テ利益アルカ為メ昼夜兼業

## 【一回ノ二 9 a】

ニテ製出ヲ計リ從テ横浜ヘノ出荷モ意外ニ多ク一ヶ年間ニ十三万俵ニ上リ此内十二月迄二十万六千俵丈輸出セラレタリ斯ノ如ク出荷迅速ナリシヲメ自然粗製濫造ノ傾アリ而カモ値段ハ高カリシニ依リ他日尻力来ラサルヤト心配セラレ、程ナリ今期会社ノ取扱ヒタル高ハ三千七百俵ナリ蓋シ生糸ハ六月ニテ切り六月迄ハ旧糸六月ヨリ新糸ヲ取扱フコト、ナル順序ニテ今期ハ未タ其半ナルモ既二十一月末迄ニ三千七百俵ノ取扱ヲ為シタルナリ此外二十月中ニ四百俵一月ニ入り既ニ二百俵ノ取扱ヲ為シタルニ依リ合計四千三百俵トナリ今期ノ終リ迄ニ八五千俵ニ上ルナラン要スルニ本商売ニ付テハ買方可ナリシヤ將タ売方可ナリシヤハ別論トシ紐育并横浜支店間ノ氣脈疎通シ機熟シタルカ為メ此大高ノ商売ヲ為シ得タルモノニシテ紐育支店ニ於ケル生糸商売

## 【一回ノ二 9 b】

カ非常ノ進歩ヲ為シタルコトハ今更喋々ノ弁ヲ俟タサル所ナリ又本商売ニ付最モ心配ノ点ハ紐育ニ於ケル機屋ノ基礎鞏固ナラサル点ニ在リ即チ毎年機屋ノ破産スルモノ五六人ヲ下ラス殊ニ本年ハ相場昂進一方ナリシヲ以テ機屋ノ破産

モ少ナカラサルヘシト思惟シタルモ左程沢山モ出テスニ軒丈ノ破産者ヲ出シタリ之カ為メ其機屋ト關係アル外国商館等ニテハ大恐慌ヲ来シタルモ日本商人間ニ幸ヒニ損失ヲ蒙リタルモノナカリシ生糸ノ買付方ニ兩様アリ現物并先約定是ナリ例年ハ大約皆現物ナレトモ今期ハ珍シクモ千二百俵ノ先約定成立セリ他ハ皆買付系ナリ而シテ先約定ノ分ハ値段騰貴シタルモノ受渡如何アルヘキカト懸念シタルモ製糸家ニ於テ名譽ヲ重ンシ素質ヲ良クシ期限ヲモ違ヘス何レモ約定通り履行セリ此方

## 【一回ノ二 10 a】

法ハ可成向後モ發達セシメント欲ス併シ今期ハ安値ニテ先約定シ後日値段騰貴シテ大ニ迷惑ヲ感シタルニ依リ向後ハ先約定ヲ為サ、ルヘキヤモ知ルヘカラス  
又生糸ハ金高巨額ニ上ルヲ以テ為替ノ取組方ニハ大ニ苦心シ聊カ研究ヲ尽シ金融ノ仕方ヲ変シタリ即チ從來ハ重モノ積出シタル荷物ヲ米貨ニ切替ヘ又ハ英貨ヲ以テ倫敦ニ荷為替ヲ取組ミタルモ今期ハ紐育ヘ宛テ英貨ニテ荷為替ヲ組ミ之ヲ倫敦払トセリ当初1%位利方ノ勘定ナリシモ南阿并非律賓事件等ノ為メ金融界ニ變調ヲ呈シ實際ハ½%位ノ利益ニ止マリタリ此節又々一工夫ヲ凝ラシ普通手形ニドッキュメントヲ添ヘルモ之ヲ添付セスシテ荷物ヲフリーニスルコ

トノ交渉中ナリ或ハ出来得ルナラント考フ

【一回ノ二 10 b】

◎飯田 紐育トノ引合ハ如何ナル方法ニ依ルヤ

◎北村 紐育ヘハ買ヘル相場ト唱相場ト、他人カ買ヒタル相場トヲ不絶報知スル而シテ紐育ニ於テハ之ニテ横浜ノ相場ヲ知悉シ機屋ヘ売りニ回ルナリ又別ニ五百俵ノ買持許可ヲ受ケ居リ之モ売りニ回ル即チ現物ハ何程積出中ノモノハ何程先約定物ハ何程ト値段ヲ極メテ売りニ回リ其売レ模様ニ依リテ買付ヲ為スモノニテ又買付ヲ先ニスルコトアリ即チ紐育ニ於テ売レ方活発ナルトキハ横浜ノ相場モ直チニ昂騰スヘキヲ斯ル場合ニハ売行宜シキ品物ヲ買付ケ置クコトアルナリ

◎飯田 買付ヲ為スニハ f.o.b.ニテ約定スルカ

◎北村 横浜支店ヘ引込ミタル値段ナリ

◎飯田 紐育ノ着値ハ夫レニテ分リ得ルカ

【一回ノ二 11 a】

◎北村 パッキング シッピング マリンインシュランス等ハ何レモ定マリ居ル故生糸ヲ千円ニテ買ヒ為替相場五十一弗トスレハ紐育着値一封度何程ニ当ルヤ直チニ表ニ依テ之ヲ知り得ヘシ

◎益田 斤量ニ関スル苦情ハ如何ナル点ニ存スルヤ

◎北村 大体ヲ述ヘンニ是迄秤量器ハ五百斤掛ノモノヲ使用セルモノアリ又二百五十斤掛ノモノヲ使用セルモノアリ五百斤掛ノ方ハ目盛半封度ツ、ト相成リ居リ又二百五十斤掛ノモノハ四分ノ一ツ、ニ切りアリ従テ前者ニテ秤量スレハ一ト目ニテ半封度ツ、異ナリ又後者ナレハ四分ノ一封度ツ、ノ違ヒヲ生ス此他旧来ノ天秤棒アリ此分ハ目方ノ殺シ利ク然ルニ本年一月ヨリ度量衡法改正セラレ英斤ハ使用スヘカラス必ス和斤ヲ使用スヘキコト、ナリタルヲ以テ日本商人ハ二百五十斤掛ニ一定スヘキコトヲ商館ニ通知セリ而シテ商館ハ

【一回ノ二 11 b】

右ハ度量衡法ノ改正ニ伴フ自然ノ結果ナレハ二百五十斤掛ノ和斤ヲ用ユルコトハ承諾シタルモ目盛ノ点ニ付争ヲ生シタリ即チ商館ハ四分ノ一封度トナスヘシト云ヒ之ニ反シテ日本商人ハ生糸ハ高価ノモノナレハ目ヲ荒ク切ルコトハ都合ナリ宜シク之ヲ八分ノ一封度トナスヘシト然ルニ商館ハ又曰ク八分ノ一封度トスルトキハ秤力容易ニ落付カス多数ヲ秤量スルニ非常ノ手数ヲ要ス故ニ四分ノ一封度ト為スヘシト日本商人ハ又之ニ対シテ抗議シテ曰ク生糸ノ一ト掛ハ五十斤ナリ然ルニ二十五斤ニ付四分ノ一封度ノ差アルト

キハ十万梱ニ付一万二千斤ノ相違ヲ来スコト、ナルヲ以テ  
 斯ル無法ノ要求ニハ応スル能ハスト互ニ論議ヲ費シタルモ  
 結局譲歩シテ四分ノ一封度ノ目盛ヲ採用スルコト、ナリタ  
 リ

茲ニ又一ノ注意スヘキ点ハ從來英斤ヲ和斤ニ換算スルニハ  
 七五

【一回ノ二 12 a】

ヲ乗シタルモ這ハ便宜ニ出テタル概算法ナリ然ルニ此度度  
 量衡法ニ於テ英ノ百三十二封度七分五厘ヲ以テ和ノ百斤ト  
 定メラレタルモ所謂一担ト称スルハ英ノ百三十三封度三分  
 ノ一ナレハ和百斤ニテ買付ケ一担ニテ売却スルトキハ目方  
 ニ於テ損失ヲ蒙ルヘク之ニ反シテ一担ニテ買付ケ和百斤ニ  
 テ売却スルトキハ目方ニ於テ利益ヲ得ヘシ

◎益田 此点ハ銅等ノ商売ニ付テモ注意スヘキ所ナリ

次ニハ余リ他ノ店ニハ関係ナキモ平田氏ヨリ漁業部ノ現状  
 ヲ述ヘラレタシ

◎平田 昨今漁業部ニ軫シタル事故未タ充分ノ取調ナキモ簡

単ニ大要ノミヲ述ヘン先ツ鯨ヨリ始メンニ鯨ハ増毛并留萌  
 ニ於テ収獲スルモノニテ毎年損失ヲ醸スコトナシ昨年度ニ  
 在テモ

【一回ノ二 12 b】

増毛ニテ三千六百石留萌ニテ四千石ヲ収獲シ相当ノ利益ヲ  
 得タリ元來昨年度ニ於ケル北海道ノ鯨漁ハ非常ノ不漁ナリ  
 シト噂サレ合ヘルモ其総額ヲ計上スルニ約七十万石ニ達シ  
 決シテ甚タシキ不漁ト云フヲ得ス唯夫レ近來網數増加シ明  
 治二十年頃ニハ北海道全道ノ鯨建網數三千八百七十統ナリ  
 シニ二十九年ニ至リテハ六千八百三十一統ニ増加シ從テ一  
 統當ノ収獲高ハ減少シタルモ全体ノ収獲ニハ著シキ減少ヲ  
 見サルナリ殊ニ昨年ハ非常ニ値段高貴ナリシヲ以テ仮ニ平  
 年ヲ九十一万石トスルモ値段ノ上ヨリスレハ昨年度ノ七十  
 万石ハ能ク八十万石ニ匹敵シ從テ益々平年ニ比シ大差ナシ  
 ト考フ

鯨ハニヶ所ニテ収獲ス樽前并三石是ナリ樽前目下他人ニ貸  
 渡シ三石ハ当社ニテ營業ス昨年同地ノ収獲ハ未曾有ノ薄

【一回ノ二 13 a】

漁ニシテ僅ニ三百石ニ過キス今年ハ希クハ好結果ヲ収メ得  
 ヘキカ

鮭ト鱒トハ扱捉ニ於テ収獲ス昨年ハ是亦非常ノ薄漁ニシテ  
 全道ノ収獲鮭一万二千石鱒五千五百石ニ過キス此内当社ノ  
 収獲高ハ扱捉ニ於テ鮭千五百五十石鱒六百七十八石又留萌  
 ニ於テ鮭四百六十八石増毛ニ於テ同四百九十五石共計鮭二

千五百十三鱒六百七十八石ナリ蓋シ此不漁ハ三ヶ年間モ継続シタルモノナレハ漁業部タルモノ大ニ善後策ヲ講セサルヘカラス是ヲ以テ本年度ニ於テハ成ルヘク貸場所トスルノ方針ヲ採リ単ニ上等ノ場所ニテ鱒網四ヶ所鮭網三ヶ所ノミヲ投網スル事トセリ尚ホ參考迄ニ昨年度ニ於ケル北海道并ニ其以外ノ鮭并鱒取獲高ヲ示スヘシ

鮭取獲高

樺太

六千三百石

ニコライスク

六万五千石

北海道

一万二千石

合計 八万三千三百石

【一回ノ一 13 b】

鱒取獲高

樺太

三万九千石

北海道

五千五百石

四万四千五百石

漁業今後ノ計画ニ付テハ鱒ハ是迄ノ経歴ニ徴シ損失ヲ醸スノ恐ナキヲ以テ依然之ヲ継続シ又鮭鱒ノ二品ハ漁事ノ常トシテ必スシモ予算通りニ実行スル能ハス為メニ失敗ヲ重ネタルモ本年度ニ於テハ仮令不漁ニ遭遇スルモ損失ヲ醸サ、ル迄ノ設備ヲ以テ之カ経営ニアタルトキハ甚タシキ不結果ヲ来タスカ如キコトナカルヘシト考フ

◎飯田 年々漁事減スルヤ

◎平田 鱒ハ甚タシキ減少ヲ見サルモ鮭鱒ノ取獲ハ漸次減少ノ傾アリ

◎益田 樺太ニ於テ盛ニ漁獲スル為メ北海道沿岸ノ漁事衰ヘタルニ非スヤト思惟シ居リタルモ其実樺太ニ於テ漁獲セラル、魚族ト北海道沿岸ニ於テ漁獲セラル、魚族トハ其種類ヲ異ニセリト云フ果シテ然ラハ樺太ニ於ケル漁事ノ発達ハ必スシモ直接ニ北海道ノ漁業ニ影響ヲ及ホサ、ルモノト看做シテ可ナリ

◎平田 潮流ノ工合ニ依テ漁獲ニ豊凶ノ差アリ昨年ハ夏季潮流温暖ニシテ冬季寒冷ナリシカ為メ薄漁ナリシモ之ニ反シテ夏季潮流寒冷ニシテ冬季温暖ナレハ豊漁疑ナク而シテ

【一回ノ一 14 b】

冬季中降雪十分ナレハ即チ後者ノ結果ヲ来タスト云フ本年ハ氣候□寒降雪又頻々ナルヲ以テ漁事ノ見込アルヘキコトヲ予想シ貸場所ノ如キハ競ツテ之ヲ借入ル、有様ナリ

◎飯田 人口増殖シ山ノ樹ヲ伐倒ス為メ漁獲減スト称スル者アリ果シテ事実ナルヤ

◎平田 左様ノ理由ニハ職由セサルモノ、如シ

◎北村 魚族カ一般ニ狡猾トナリ陸ノ付近ニ集マラサルニハ

【一回ノ一 14 a】

非ラサルカ

◎平田 サル理由モ之ナキモノ、如シ

◎益田 漁獲ノ少ナキハ多ク時化ニ原因ス

◎北村 果シテ然ラハ漁法ヲ改良スルコト必要ニ非サルカ即チ時化ニ遭遇スルモ一度捕獲シタル魚ハ取逃サス若クハ又時化ノ際ニテモ漁獲ノ実行シ得ルカ如キ工夫付カサルカ

【一回ノ二 15 a】

◎平田 此辺ノ時化トハ大ニ趣ヲ異ニシ一度時化トナルトキハ漁獲ノ如キ固ヨリ望ミナキノミナラス一度捕獲シタル魚族モ之ヲ投棄セサルヘカラサルコトアリ

◎北村 当社ニ於テ樺太迄モ進ンテ漁業ヲ経営スルノ企ナキカ

◎飯田 スル拡張ハ物産会社トシテ固ヨリ実行スヘキモノニアラス

◎益田 是ヨリ松尾氏ヨリ遼東半島ノ話ヲ承ルコト、スヘシ

◎松尾 遼東半島ノ取調ニハ大ニ苦心シタルカ今其要梗ノミヲ摘述センニ旅順口ニハ露人其他ノ西洋人并支那人ヲ合シ人口約二万人アリノ軍港ニシテ税関ノ設ナク又輸出品ナシ輸入品ハ鉄道軌條枕木セメント、鉄道用品、貨車材料、造船用材料海軍用石炭(カーヂフ唐津田川等)等ナリ而シテ鉄道ニ使用スル石炭ハ未タ微々タルモノナルモ兵營等ニ

使用スルモノアリ昨年夏

【一回ノ二 15 b】

ヨリ冬ニ至ル迄ニ北方炭三千五百屯ヲ輸入シ又余ノ同地在留中我社ヨリ輸入シタル唐津石炭千九百屯余ノ受渡ヲナシタリ此他諸雜貨ノ輸入アレトモ別ニ統計ノ微スヘキモノナキカ為メ茲ニ其計數ヲ示ス能ハス枕木ノ如キモ亦其輸入額ヲ知ルノ道ナク汽船会社ニ就キ之ヲ取調フルモ更ニ要領ヲ得ル能ハサリシ

偕向後旅順口方面ニ対シ有望ナル商売ハ何ソヤト云フニ同港ハ元來軍港ト称スルモ遠浅ニシテ船ヲ入ル、ニ足ル区域甚タ狭ク從來ハ軍艦二三艘并水雷艇四五艘ヲ入ル、二過キサリシモ露国力之ヲ借受ケテ以來費額九百万円ヲ投シテ大ニ其拡張ヲ計リ海底ヲ浚渫シテ幅三百尺深三十尺ニ掘リ七個ノヴィーチ付スル計画ノ由ナレハ鉄類、セメント、石炭等ノ需用ハ十分之アルヘク且ツ海上ニ於テ右等ノ施設ヲ為スト共ニ之ニ伴フ陸上ノ建築ヲモ為ス

【一回ノ二 16 a】

ナルヘク人口モ漸次増加シ雜貨ノ売行モ盛ナルヘシト考フ而シテ又余ノ同地ヲ出発スル頃迄ハ法律ト称スヘキモノナク警察官力自己ノ考ヲ以テ裁断スルニ止マレリ又總督ナル

モノナク知事アリテ諸般ノ事務ヲ取扱ヒ而シテ知事ハハバ  
 ロフカノ総督ノ指揮ヲ受ケタルモノナリ然ルニ過般元ノ東  
 洋艦隊司令長官タリシ「アレキセーフ」氏カ総督ニ任セラ  
 レ旧支那正月ヨリ大ニ改革ニ從事スルナラン其上ハ軍人兵  
 士等モ集マルヘク從テ之ニ要スル糧食ノ需要モ尠少ナラサ  
 ルヘシ而シテ糧食品中最モ需要多キハ麦ナルヘク是ハ重ニ  
 支那麦ヲ使用シ日本品ノ輸入ハ少ナカルヘシ嘗テ日本ノ大  
 麦ヲ馬ニ与ヘタルニ下痢ヲ起シタリト云フ向後馬ノ糧食ニ  
 燕麦ヲ使用スル方針ノ由ニテ本品ハ北海道并西比利亞二産  
 出ス余ノ旅順ニ在ル際三十万ブードヲ買ヒ度旨申出アリタ  
 ルヲ以テ此度渡邊秀

【一回ノ二 16 b】

次郎氏カ北海道ニ赴カル、好便ニ托シ本品ノ取調ヲ托シタ  
 リ余カ旅順口地方ニ対シ向後大ニ經營シ度商売ハ築港工事  
 用材料、鉄道用材料、兵營建築用材料等はナリ余ハ最初石  
 炭ヲ引合ヒタル「カンダゴーフ」ニ就キ宿屋ノ周旋モ請ヒ  
 新聞記者建築部長其他ノ人々ニ紹介ヲ依頼シタルモ同人ハ  
 自家ノ商売ヲ取ラレンコトヲ恐レ紹介ヲ嫌惡セリ幸ニシテ  
 「チーフンタイ」ト称スル支那人アリ當時ハ露西亞ニ歸化  
 セルモ之芝罘人ニシテ久シク西比利亞地方ニ流浪シ旅順口  
 借入ノコトニ付テハ露國ノ為メ大ニ力ヲ致シ露國皇帝ヨリ

勲章迄得タルモノニシテ當時多數ノ支那人ヲ使用シ鐵道工  
 事并建築工事ヲモ受負ヒ又麦粉製造所ヲ有シ雜貨ノ商売ヲ  
 モ為シ居リ一ヶ月百五十円余ノ月給ヲ支払フ露國人七名支  
 那人五十余名ヲ工事

【一回ノ二 17 a】

ニ使用シ雜貨商売ノ方ニモ支那人三十余名ヲ使用シ其他建  
 築工事ニ使用スル労働者ノ數ハ四千人以上ニ上レリ余ハ此  
 人ト懇親ヲ帶ヒ西貢米朝鮮米日本米ヲ引合ヒタルモ運賃ノ  
 点ヨリ商売成立セス其他有ラユル商品ニ付テ引合ヲ為シタ  
 ルモ何分人口未タ少ナク需用亦多カラス加フルニ運輸ノ不  
 便ヲ以テシテ商売ノ成立ヲ見ルコト能ハサリシ然レトモ前  
 二述フルカ如ク露國ハ九百万円ヲ投シテ諸般ノ施設ヲ為ス  
 カ故ニ其進歩ヲ見ルノ期モ速カナルヘク大連灣并牛莊奉天  
 ニ達スルノ鐵道延長ノ上ハ吉林省ノ豆粕ハ大連灣ニ出ツル  
 コト、ナルヘク自然商人ノ大連灣ニ集マル者モ多數トナリ  
 同地ノ商売ハ非常ナル發達ヲ見ルヘキコト疑ナシ  
 大連灣ノ対岸ニビクトリヤベイアリ其間日本里程四里位ナ  
 リ目下

【一回ノ二 17 b】

盛ニ築港ヲ為シツ、アリ又造船所ヲ造リ大小ノ船渠四個ヲ

造り防波堤ヲ設クル等経営オサノ、怠リナシ即チ自由港トシテ開港セラル、モノニシテ當時右等ノ設備最中ナリ市街地トナルヘキ場所ハ最初坪十二錢位ナシリモノ既ニ二円位ノ相場トナリタリ尤モ未タ売リ初メス「アレキセーフ」氏着任ノ上ニ売初ムルナラン右ノ設計ハ三ヶ年間に継続事業ニシテ費額予算一千五百万円ナリ乍去爾來物価大ニ騰貴シタルヲ以テ余ノ考ヲ以テスレハ約二千万円余ヲ要スヘク又日子モ四ヶ年以上ヲ要スルナラン此築港ヲ為スニ付最モ必要ナル材料ハセメント、石、鉄、并材木等ナリセメントハ重ニ欧州製品ヲ用ヒ居レリ蓋シ日本ノセメントハ工場毎ニ其品質異ナリ殊ニ横浜築港ニ於ケルセメントノ不評判ハ大ニ影響ヲ及ホシタルモノナルヘシ現ニヴイクトリヤベイニ於テモ九州セメント

## 【一回ノ二 18 a】

佐賀セメント日本セメント并小野田セメント等ヲ取寄セ色々試験シタルモ其結果宜シカラス使用後直チニ乾キ且龜裂ヲ生シタリト云フ其理由ヲ製造家ニ糺シタルニ答テ曰ク這ハ決シテ無理ナラヌ事ナリ何トナレハ我セメントハ値段段安ク高ケレハ買人ナシ故ニ已ムヲ得ヌ其品質ヲ落スカ故ナリト成程欧州ノセメントハ旅順ニ於テ九円若クハ十円ナルニ我セメントハ長崎船乗三円二十五錢運賃一円計四円二十

五錢ナリ然ルニ露国力カヲ使用セサルハ品質悪シキカ為メナリ露国假令日本ニ悪感情ヲ抱クト仮定スルモ見スノ、値段非常ニ低廉ナルニ不拘日本セメントヲ棄テ、欧州セメントヲ使用スルノ謂ハレナシ其之アルハ職トシテ品質不良ナルニ由ラスンハアラス今日本製造家ノ云フ所ヲ聞クニ若シ我セメントノ品質ヲシテ欧州製ノ如ク良好

## 【一回ノ二 18 b】

ナラシメンニハ從來ノ値段ヨリ三割方ヲ高メサルヘカラス元來セメントハ粘土ト石トヲ以テ製造スルモノニシテ我セメントノ原料タル石ハ極メテ良好ナレトモ粘土ハ不良ナリ從テ良好ナルセメントヲ製造セントセハ粘土ヲ洗ハサルベカラス之ヲ洗フノ器械ハ備付ケアレトモ從來使用ヲ為シタルコトナク粘土ノ儘ヲ直チニ原料ニ用ヒタル為メ品質不良ノセメントヲ生出スルノ結果トナルナリト此事ハ我海軍省ヨリモ注意セラル、所アリ假令値段高キモ良品ヲ製造スヘシトノコトヲ日本セメント会社ニ命セラレタルニ依リ同社ニ於テハ製造ニ改良ヲ加ヘ特別ニ海軍省用ノモノヲ製造シタル旨聞キ及ヒタルヲ以テ其内ヨリ五十樽ヲ得テ旅順口大連灣ヘ送付シ買方ヲ勧誘セリ

斯ノ如キ日本ノセメントハ品質不良ニシテ使用ニ適セス歐

州ノ

【一回ノ二 19 a】

セメントハ値段非常ニ高価ナル為メ十萬樽乃至十五萬樽ヲ製造シ得ヘキ工場ヲ大連灣ニ造リタルカ其原料タル石ニ乏シキカ為メ余ノ出張中石ノ供給方ニ付テ相談アリタリ依テ八代ノ石ノ一屯大連灣ニ送り試験中ナリ又同地ニハセメントヲ入ルヘキ樽ナシ其供給方モ相談アリタルヲ以テ名古屋支店ニ依頼シ見本ヲ調製シテ送リタリ又材木ハ鴨綠江又ハ大同江ヨリ運送シ來ルモ船少ナキ為メ運賃割高ニテ且手数料ヲ要スルコトモ多シト云フサミユールハ米國木材一尺角ノモノヲ六十錢ニテオッフアーセリト云フ鴨綠江ヨリ輸入スルモノハ四十五錢位ニ挙ルモ品物揃ハストノ事ニテ建築部長ヨリ我社ニ木材ノ買付方ヲ相談セラレタルモ余ハ當時全權ヲ有セス且本邦ヘ電信シタルモ船便ナシトノコトニテ要領ヲ得サリシ余ハ北海道ノ木材ヲ伐り出

【一回ノ二 19 b】

シテ供給シテハ如何ト考フ島内良雄ト称スル日本商人ハ旅順并大連灣地方ニ於テ大ニ仕事ヲ為シツ、アリ曩ニ枕木三十萬挺ヲ請負ヒ四ヶ月程延着シタルモ無事ニ納入ヲ為シタリ余モ枕木ノ注文ヲ得テ土産ニセント考ヘ頻リニ奔走シタ

ルモ一挺一円ニテ少シク割高ニ當リ遂ニ島内ノ為メ二十九萬八錢ニテ十五萬挺約束セラレタリ露清銀行ノ支那人モチーフンタイノ周旋ニテ十萬本ノ注文ヲ得タリト云フ

石炭ハ造船所煉瓦セメントノ製造所及鐵道等ニ売込ムモノニシテ向後鐵道全通ノ暁ニハ大ニ其需要ヲ増加スヘク余ノ考ニ依レハ大連灣ノミニテモ十五六萬屯ハ使用スヘシト思惟ス旅順口ノ需要ハ之ヨリ少額ナルヘシ是迄キンスバルクカ海軍ノ御用達ヲ為シ居リ石炭ヲ長崎ニテ仕入レ之ヲ供給セリ余ノ大連灣ニ滞

【一回ノ二 20 a】

在中露國ノ技師長ト懇親ヲ結ヒ度々往復シタルカ富士山丸荷役ノ際技師長ヨリアレハ誰ノ船ナルカノ問アリタル故三井ノ船ナリト答ヘタルニ然ラハ三井ハ何艘程船ヲ有スルカトノ尋ネアリ依テ三井ハ二千屯ヨリ七千屯迄ノ船ヲ二十艘所有セリ從テ輸入品ハ何品ニ拘ハラス三井ト取引セハ割安ナルノミナラス運搬方モ極メテ便利ナリ且年々牛莊ノ豆并豆粕積取りノ為メ船舶ヲ回ハシ自家所有船ノミニテハ不足ナル為メ雇船ヲモ為スコトアリ而シテ芝罘ヘハ棉糸六百萬円余又牛莊ヘモ棉糸四百萬円ヲ送り而シテ牛莊ヨリハ豆粕ヲ約二百萬円計リモ買取り來ル故ニ豆粕ノ季節ニ石炭ノ御注文アルトキハ往航ニ鳥渡持チ來ルコトヲ得ヘシト答ヘタ

り然ラハ三井ハ如何ナル家ナルヤトノ尋アリ之ニ対シ其節幸ヒ三池鉱山ノ写真六枚程持參シ居リタルヲ以テ之ヲ示シ詳細説明ヲ与ヘタリ其結果遂ニ

## 【一回ノ二 20 b】

石材ハ如何材木ハ如何セメント原料ハ如何樽ハ如何等種々ノ質問アリシモ即答スルコトハ出来サリシ故取調ノ上返事スル旨答ヘタリ此外鍛冶屋炭ノ需要アル趣ナリシヲ以テ鍛冶屋炭ニハ三池粉炭ニ勝ルモノナキコトヲ説明シ三池粉炭五十屯トコークス五十屯トヲ売渡シタリ多分試験ノ上商売成立スルナラン開平炭ハ大連灣ニ於テ一屯八円ナリ而シテ半屯ヲ以テ煉瓦千枚ヲ焼クコトヲ得ヘク千枚ノ値段ハ十三円ナリ此内炭代四円造り賃四円税金其他二円ヲ引去ルトキハ三円ノ利益ヲ得ヘキ勘定トナル但賄賂其他種々ノ入費ヲ要スルヲ以テ實際ノ手取りハ一円位ナルヘシ余ハ又梓島等ノ粉炭売込方ヲ努メタルモ運賃高値ナル為メ開平炭ト競争シ得ス從テ商売成立セサリシ

次ニ余ノ承知致度ハ向後遼東半島ニ對スル商売ハ大口ノミヲ取扱フカ又小口ニテモ取扱フカノ点是ナリ今チーフンタイ其他露人等ノ商売振リヲ見ルニ何品ニテモ所有シ居リ何

## 【一回ノ二 21 a】

時ニテモ需要ニ応スルノ準備ヲ為セリ単ニ見本ノミヲ並列シ之ニ依テ卸売ヲ為スモノナシスル有様ナル故最初ハ何品ニテモ取扱フコト必要ナリト考フ

鐵道全通ノ曉ニハ豆并豆粕ハ大連灣ヨリ輸出セラル、コトトナルヘク從テ棉糸并棉布モ大連灣ニ輸入セラルヘシ元來支那人ハ機ヲ織ルコト下手ナルヲ以テ棉布ノ需要ハ極メテ多ク而シテ是等ニ関スル牛莊商売ハ多クハ大連灣ニ奪ハル、コト、ナルヘシ即チ露西亜カ鐵道運賃ヲ非常ニ高クセハ格別然ラサレハ牛莊商売ハ不凍港ナル大連灣ニ占領セラ、所トナルヘシ大連灣ヨリ牛莊并奉天府ニ至ル鐵道ハ既ニ開通シタルカ向後吉林并ハバロフカ等ヘノ鐵道開通スル曉ニハ大連灣ハ商業上ノ一要地トナルヘキコト毫

## 【一回ノ二 21 b】

モ疑ヲ容レズ

余ハ先年長谷川氏ト同道ニテ浦塩斯德ヘ赴キタルコトアリシカ當時同港ハ極メテ微々タル港ニ過キサリシカ今日ハ既ニ非常ノ發達ヲ為シタリ然ルニ日本人ノ同港ニ入込ミテ商売セル者ハ甚タ少ナク杉浦永田等ノ如キ小商人ニ過キス向後我社ニ於テハ大ニ力ヲ遼東半島并露西亜トノ貿易ニ致サレンコトヲ希望ス

◎益田 次ニ小田柿氏ヨリ桑港ノ景況ヲ述ヘラレタシ

## ◎小田柿

太平洋沿岸ニ於テ桑港ヨリ商売ヲ為シ得ヘキ区域ハ出張中一通リ巡回セリ即チカリホルニヤ、オレゴン、ワシントンノ三州并英領加奈太ニシテ其内ノ重ナル場所ハ桑港ヲ初メタコマ、ポートランド、ト、シヤトル、バンクーバー并ウイクトリヤノ五ヶ所ニシテ此等ノ場所ハ桑港ニ居乍ラ商売ヲ為スコトヲ得ヘシ何トナレハ此等各地ノ商人ハ何レモ

## 【二回ノ二 22 a】

本店支店若クハ代理店ヲ桑港ニ有スレハナリ即チ其状態ハ恰モ大西洋沿岸ノ紐育ニ於ケルカ如シ而シテ右五ヶ所ハ各商売ノ種類ヲ異ニセルモ最モ盛ナルハ桑港ニシテポートランド之二次ク然レトモ昨今新聞紙ノ報スル所ニ依レハ太平洋沿岸ニ於ケル米國政府ノ積出品ハ何レモシヤトルニ依ルノ企アル趣ナレハ他日シヤトル最モ盛ナル港トナルヘシ我国ヨリ支那朝鮮并海峽植民地ニ対スル貿易ハ輸入ヨリモ輸出ヲ多シトスルモ太平洋沿岸ニ対スル貿易ハ今日ノ処輸入多クシテ輸出少ナシ而シテ余ノ桑港ニ出張スルヤ一ツノ商品ニ付如何ニシテ其商売ニ着手シ得ヘキヤ取引方法ハ如何買入方并ニ其製造法ハ如何等ノ点ヲ取調ヘタルヲ以テ調査ノ行届キタル品数ハ甚タ少ナシ而シテ既ニ着手シタル商品ノ内ニテ向後モ引続キ商

## 【二回ノ二 22 b】

売ノ成立チ得ヘキ見込アルモノハ麦粉ノ商売ナリ此商売ハ至テ容易ニシテ素人ニ適スルノミナラス他ノ贅沢品又ハ一時ノ入用品ト異ナリ日用ノ品物ナレハ今後益々其使用増加スヘク此処三四年ヲ経過セハ一ヶ月千屯ヤ千五百屯ノ商売ハ容易ニ成立スルニ至ルヘシト考フ

次ニ有望ナルハ材木ノ商売ナリ蓋シオレゴン州ノ如キニ在リテハ材木ハ殆ント無尽蔵ニシテ捨テ物同様ナリ故ニ此点ニ注目シ居ルトキハ一廉ノ商売トナルヘシト考フ

次ニ望ミアルハ皮ノ商売ナリ蓋シ今日ニ在リテハ未タ其需要盛ナラサルモ向後大ニ其需要ヲ増加スヘキ見込アリ殊ニ過般梭組ノ町田氏桑港ヘ見エタル節共ニ皮ノ工場ヲ巡回シ日本向ノ品物ハ如何ナルモノナリヤトノコトモ大抵分リタレハ今後商売ヲ為スコトヲ得ル考ナリ

## 【二回ノ二 23 a】

其次ハ小麦ノ商売ナリ之モ先達来引合ノ末東京大阪ノ双方ニテ三千屯ノ取引出来シ太平洋沿岸ヨリ積出ノ事ニナリ居レリ尤モ此商売ハ日本ノ小麦ノ作柄ニ依リ或ハ成立スルコトアリ或ハ成立セサルコトアリ固ヨリ毎年一定ノ商売トハナラサルヘキモ航程僅ニ十数日ヲ隔ツルニ過キサル対岸ニ

無尺減トモ云フヘキ低廉ナル小麦ノ産地アルコトナレハ遣  
り方如何ニ依リテハ繼續商売ト為ルヘシ

次ニ印刷用紙ハ不幸ニシテ余ノ在桑中ハ日本ノ商況悪シク  
且輸入税モ増加セラレ前年来ノ持越荷モアリタル為メ取引  
出来セサリシモ昨今又追々米独ノ印刷紙ヲ取寄スル傾キア  
リ既ニ手合セノ出来セルモノモアリトノコトニテ且輸入税  
減額問題モ大ニ気焔ヲ高メツ、アル際ナレハ万一其減額ヲ  
見ルニ至レハ一廉ノ商売トナルヘキ見込アリ向後ハ大ニ力  
ヲ本品ニ尽ス考案ナレハ各店ニテモ充分御尽

力ヲ願ヒタシ

【一回ノ二 23 b】

其外墨哥古并英領加奈太ノ羊毛アリ之ハ是迄未タ手ヲ付ケ  
サリシヲ以テ詳細ノ事ハ分ラサルモ統計表ニ依テ之ヲ見ル  
ニ大分日本ニ輸入セラレ居ルコトヲ知ルヘシ故ニ帰桑後ハ  
取調ノ上商売ニ致度考ナリ

右ノ外尚種々ノ品物アレトモ概シテ太平洋沿岸ヨリ輸出ス  
ルモノハ製造品ヨリモ寧ロ農産物并半製造品ヲ宰トスルカ  
故ニ其品数少ナシ然レトモ今日太平洋沿岸ノ有様ヲ見ルニ  
諸般ノ製造事業モ駸々乎トシテ進ミツ、アレハ爰許両三年  
間ヲ經過スレハ夫等ノ設備完全シ器機類其他商売モ大ニ見  
込アルコト、ナルヘシ

以上ハ太平洋沿岸ヨリ日本へ輸出スル商品ニ付テ述ヘタル  
モノナルカ此外ニ桑港ニ於テ力ヲ尽スヘキ仕事ハ棉花船積  
ノ件ナリ而シテ

【一回ノ二 24 a】

余ノ桑港へ出張シタルトキハ丁度棉花ノ非常ニ堆積セル時  
ナリシヲ以テ鉄道会社并船会社等ニ懸合ヒ大ニ探究尽力ス  
ル所アリタリ其詳細ハ隨時書帖ヲ以テ申述ヘ置キタレハ既  
ニ御熟知ノ事ナラン今後ハ昨年ノ經驗ニ依リ棉花ハ如何ニ  
停滞スルカ又積送リ工合ハ如何等ノコトヲ知了シタル故大  
ニ船積方好都合ニ運ハシムヘキ考ナリ

次ニ数量ハ僅少ナレトモ日本其他東洋ヨリ桑港ニ輸入スル  
モノニ付一言センニ今迄商売ノ成立シタルハ硫黄ナリ本品  
ニ付テハ前年来ノ經驗ニ依リ又之ヲ使用スルニ三家ト協議  
シタル結果ニ依レハ桑港ノミニテモ三千屯乃至一万屯ヲ売  
捌キ得ヘク此他タコマ、ビクトリア、サンチアゴ其他ノ地  
方ニ対シ三千屯内外ハ売込ミ得ヘキ見込アルヲ以テ若シ仕  
入ノ方出来得ルナレハ相当ノ値段ニテ

【一回ノ二 24 b】

一万屯乃至一万五千屯位迄ハ売却シ得ヘシト考フ折角只今  
掛リノ人ト相談中ニテ三月頃ヨリ需要ノ季節始マルニ付帰

桑次第昨年ヨリハ進歩シタル方法ニテ本品ノ取引ヲ為スヘキ考ナリ

次ニ輸入米ハ重ニ大西洋沿岸ニ赴キ太平洋沿岸ヘ来ルモノハ少ナキモホテルヘ泊リ食物ノ表ヲ見レハ必スポイルドライスノ一項アルヲ見ル位ナレハ向後其需要ハ追々増加シ一ヶ月百屯ヤ百五十屯ノ商売ハ桑港ニ於テモ出来ルナラン其他シヤトル、ポートルランド、タコマ、バンクーバー等ニ対スル商売モ成立スヘケレハ一ヶ月二百屯乃至二百五十屯ノ取引ハ出来得ヘシト考フ

又大阪辺ニテ製造スル西洋品模造ノアンダーシヤート并齒磨楊枝ノ如キモノハ相当ノ売行アルヘシ蓋シ太平洋沿岸ニ於テハ余リ高キモノモ売レサレハ又余リ安キモノモ売レス丁度大

【一回ノ二 25a】

阪并東京辺ノ製造品カシヤトル、タコマ地方等ニ売行クヘキ見込アリ尤モ桑港ハ大分贅沢ニナリ居ル故日本品ハ不向ナルヘシ

石炭ノ商売ハ之ヲ試ミタルモ未タ好結果ヲ占ムルコト能ハサリシ蓋シ太平洋沿岸ニ於テ石炭割合ニ低廉ナルト日本炭ヲ輸入スルニハ運賃割高ニシテ且一屯ニ付一円五六十銭ノ輸入税ヲ要スルトニ依リ手合出来セサリシモノニテ今後日

本ノ炭況不振ノ時ニ遭遇セハ或ハ取引ノ成立ヲ見ルナラン此他又桑港ニ於テハ布哇ヘノ引合ヲモ為シ得ヘキヲ以テ機ノ乘スヘキアレハ大ニ力ヲ尽スヘキ考ナリ

輸入品ハ大要前陳ノ通りナルカ桑港ニ於テ任事ヲ為ス上ニ最モ困難ヲ感スルハ船腹ノ欠乏并鉄道会社カ「モノポリ」ヲ有スル点ニ在リ我社ニハ幸ニ社船ヲ所有セラル、故仮令十分ノ算當ニハ

【一回ノ二 25b】

ナラストモ少シハ我慢シテ太平洋沿岸ヘモ船ヲ回スコトニ願ヒタシ棉積ノ季節ナレハ一方ニ於テ日本ヨリハ石炭ヲ積ミテ布哇并桑港ニ来リ戻リ荷ニ棉ヲ積ムコト、セハ可ナルヘク又良シ棉花ノ積出季節ナラサルモ麦粉ノ商売ハ二千屯乃至三千屯ノ高ナレハ何時ニテモ商内成立スヘキヲ以テ之ト鉛等ヲ積合ハセニスレハ船腹ハ充実スヘシ故ニ二三回社船ヲ太平洋沿岸ニ浮ヘテ結果如何ヲ試ミルコトニ致シタシ例ヘハ麦粉ノ如キモ昨年来運賃非常ニ騰貴シ一屯六弗十五仙位ニ上リタリ仮リニ日本金十二円トスルモ可ナリノ運賃ニ当ルヘク若シ又之ヲ五弗乃至四弗五十仙ニ引下クルトキハ麦粉商売上一屯ニ付二円乃至三元ノ開ヲ生シ取引ヲシテ大ニ容易ナラシムヘシ若シ夫レ從來ハ売り方ノ点最モ心配ナリシモ今日ノ形勢ヨリ推セハ二千屯乃至三千屯ノ麦粉ハ

容易ニ販路ヲ

【一回ノ二 26 a】

見出シ得ヘキヲ以テ荷物ノ不足ヲ訴フルカ如キコトハ決シテ之ナシ尚他ニモ精々荷物ノ集メ方ニハ奔走スヘキ考ナレハ社船差回シノ事ハ実行ヲ願ヒタシ

材木麦粉鉛皮等ニ付テハ種々込入りタル事柄ヲ関係各店ト相談セサルヘカラス故ニ此事ハ別ニ御相談スルコト、スヘシ

金融ノ事ニ付テ尚一言センニ余ノ桑港ニ在ル間為替ハ大抵皆六十日目払ノ円為替ニテ取組ミタリ然ルニ右ハ至極都合宜シトノコトナル故向後モ六十日目若クハ九十日目払ノ円為替ヲ取組ムコト、スヘシ蓋シ円為替トスルトキハ相場ノ變動ナキヲ以テ其荷物カ為替取組後三十日後ニ着スト仮定スルモ買付ノ際ニ於ケル見積値段ト差違ヲ来スコトナシ尤モ此方法ハ不便ナリトアレハ何時ニテモ改正スルコトトスヘシ又今日迄ハ取引モ少ナク金高モ小額ナリシ故為替ハ

【一回ノ二 26 b】

総テ正金銀行ニ引合ヒ同行ニテ取組ミタリ大抵フェボレブルノレートヲ与ヘ呉レタリ即チ六十日目払ノ為替ニ対シ三十日目払又ハサイトドラフト同一ノレートヲ与ヘ呉レタ

ル故ニ常ニ四分ノ一又ハ二分ノ一方ハ割合宜シキ勘定ナリ蓋シホノル、ニ在ル正金銀行ハ送金方ニ苦ミ一度之ヲ紐育ヘ送り而シテ紐育ヨリ更ニ倫敦ヘ為替ヲ取組ムノ有様ナル故当社ハ即チ此資金ヲ利用スルコト、ナリ双方共ニ便利ヲ得ル次第ナリ唯茲ニ憂フル所ハホノル、ノ送金トテモ大高ノモノニアラス一ヶ月僅々五万弗カ七万弗多キモ十一万弗内外ナルヘケレハ桑港ノ商売カ一ヶ月二十万円内外ニ止マレハ兎毛角桑港ノ商売ニシテ大ニ拡張スル以上ハ今日同様ノレートヲ得ルコト能ハサルヘク其場合ニハ香上銀行又ハカリフォルニア銀行等ト引合ヲ為スノ要ヲ見ルコトアルヘシ

【一回ノ二 27 a】

ホノル、ノ商売ハ石炭ナルト其他ノ品物ナルトヲ問ハス總テ桑港ニ於テ経営スルコトヲ得ヘシ何トナレハホノル、ノ商売人ハ大抵皆桑港ニ店ヲ有スルカ又ハエヂエントヲ持チ居レハナリ

◎益田 コロラドノ製鉄所ノ代表者カ昨年日本ニ来リ浦塩斯

徳ヘモ赴キテ帰レリ若シカーネギーノスチールビジネスカ好都合ニ運ハストスレハ必スヤコロラド製鉄所ハ頭角ヲ現ハシ同製鉄カ太平洋ヲ渡リテ日本ニ輸入セラル、コトナラシコロラドノ社長ハ鉾山会社團氏ノ友人ナリ

◎飯田 今ノ内ニ引合ヲ付ケ置クコト、シテハ如何

◎小田柿 嘗テ其談アリタリ多分福井氏ニ於テ留守中取調ヘ引合ヲ付ケタルナラント考フ

◎益田 充分取調ヲ要ス尤モ運搬ハサウザルンパシフィックニ依頼スル

【二回ノ二 27 b】

ニハ非サルヘシ

◎小田柿 サウザルンパシフィックニ依ラサルモサンチアゴヨリ出スコトモ得ヘク又シヤトルヨリ積出スコトヲモ得ヘシ殊ニサンターフィーノ鐵路通スル暁ニハ尚更便利ナリ

(第一回了)

## 三井物産「内地支店長会議々事録」（明治三三年）第二回分

吉川 容・大島久幸

前号に引続き、三井物産「内地支店長会議々事録」（明治三三年）の第二回（第二日目）分を翻刻掲載する。前半（二回ノ一）を吉川が、後半（二回ノ二）を大島が翻刻したうえで、両名が前後半を通した原本照合を行った。

## 凡例

- 一、原則として漢字は通用の字体を用いたが、固有名詞や慣用句などで原本通りとした場合もある。
- 一、合字はカタカナに改めた。
- 一、判読不能の文字は□で示した。
- 一、「」内は翻刻者による注記である。
- 一、原本では発言者名を一字ないし二字分上げて記載してい

るが、翻刻では冒頭に「◎」を付加したうえで発言者名をゴチで表記した。

- 一、表6から表8は原本では本文中の縦書きの表であるが、収録の都合上独立した横書きの表として作成した。表の番号は翻刻に際して付したものである。誌面の都合により原本での当該箇所に近い位置に配置し本文中に原本での位置を注記した。

- 一、原本の丁の区切りを【】内に示した。原本での丁数は用紙右下（原本は袋綴製本されているのでその状態では左頁のど側下）に漢数字もしくは算用数字で記されており、その数字は会議各回毎（回によってはさらに午前・午後と思われる区分毎）に更新されている。参照の便を考え【】内には回数（午前・午後の区分がある場合は「二」「二」で区分）

と丁数（算用数字）を記しさらに用紙前半（袋綴じでは左頁となる）の場合は「a」後半（袋綴じでは次の右頁）の場合には「b」を付した。

本史料の翻刻を許可くださり諸々ご高配を賜った公益財団法人東洋文庫に感謝申し上げます。また、本史料の所在を翻刻者にご教示くださり翻刻にあたってご助言をいただいた鈴木邦夫氏に記して御礼申し上げます。

〔翻刻原本 公益財団法人東洋文庫所蔵 三井物産「内地支店長会議事録」請求記号六四二〕

第二回 一月十九日

【二回ノ一 1 a】

◎益田 本日ハ輸出商売ノ事ヲ協議スヘシ茲ニハ輸出商売ノ増進ヲ謀ル之議テウ議案ト我社ニ於テ從事スベキ輸出商品ノ種類テウ議案ト両様ニ相成リ居ルモ輸入商売ト共ニ大ニ輸出商売ノ擴張増進ヲ計ルヘキ事ハ固ヨリ当然ニシテ何人モ異論ヲ挟マサル所ナルヘケレハ輸出商売ニ付特ニ議スヘキ点ハ如何ナル方法手段ニ依リテ如何ナル商品ノ取扱ヲ為スヘキヤニ在リ故ニ右ニ二個ノ議案ハ同時ニ之ヲ議スルト、スヘシ

一、輸出商売ノ増進ヲ計ルノ議

年来海外貿易ニ從事シ業務益々隆盛ヲ加フルノ今日顧ミテ近年ノ商売高ヲ調査スルニ輸入商売ト輸出商売ノ比較常ニ輸入ハ大ニ輸出ヲ超ヘ既ニ昨三十二年ノ如キモ輸入ハ四

【二回ノ一 1 b】

千万円ニシテ輸出ハ二千五百万円餘ニ過キス輸入ノ輸出ニ勝ルモノハ其原因多クナリト雖トモ從來社内ノ風習トシテ外国品ノ仕入ヲ重シテ内地品ヲ外国ニ売捌クノ道ヲ講シタル事比較的輕カリシノ感アルモ亦大ニ其原因ナリシカト

思惟セラル然ルニ輸出ノ実ニ最モ力ムヘキハ国家ノ一大義務ニシテ又実ニ当社ノ最モ力ヲ尽スヘキ所ナリト信ス故ニ新タニ輸出部ナルモノヲ設立スルカ又ハ特ニ雜貨輸出掛ヲ設ケテ販売各市場并内地各生産地ノ状況ヲ精査シ一層斯業ノ發達ヲ計ルカ各自ノ意見ヲ諮問ス

一、我社ニ於テ從事スヘキ輸出商品ノ種類

輸出貿易ニ対シ大ニ尽力スヘキハ我社目下急務ナリト信スルヲ以テ各生産地ニ於テ夫々適當ノ施設ヲ為サ、ルベカラス

【二回ノ一 2 a】

而シテ其商品ハ可成丈仕入方ニ危険少ナク大ニ將來發達ノ見込アルモノニシテ売捌ノ見込確カナルモノヲ第一トスベキハ勿論ナリト雖モ我國輸出重要品ノ中当社ノ最モ注意スベキモノト然ラサルモノトノ別アリ故ニ其商品ノ種類ニ付大体ノ区劃ヲ設クルヲ以テ適當ト認ムルモノナリ

輸出商売ニ付テハ今日迄既ニ取扱ヒ来リタル商売ヲ増進スルハ勿論未タ從事シ居ラサルモノニテモ何カ力ヲ入レテ其取扱ニ骨ヲ折ルベキモノナキヤヲ研究スルコトヲ要ス此点ニ付テハ本店ニ於テモ既ニ考ヲ起シ取扱店タルベを表述スルコトニ勉メラレタリ而シテ同局抄造手漉紙ニ付キ店ニ対シ意見ヲモ申送リタルモノアリ即チ羽ニ重并絹手巾是ナリ此

二品ノ輸出鷹ハ近来非常ニ増加シ昨年度ニ在リテハ羽二重ニ於テ千五百万円余絹手巾ニ於テ三百万円余ノ輸出ヲ見タリ幸ヒ三井呉服店

【二回ノ一 2b】

ニ於テハ仕入上便利ヲ有シ福井并ニ横浜ニ店舗アリ大ニ羽二重ノ仕入方ニ力ヲ致シ更ニ進ンテ海外ニモ其販路ヲ拡張セントノ意見アリタルモ同シ三井ノ店舗カーケ所ニ二ツ出テ同一様ノ仕事ヲ為スコトハ面白カラス故ニ販売方ハ物産会社カ引受ケ仕入方ハ呉服店之ニ当ルコト、シ共通計算ニテ其取扱ヲ為セハ差支ナシトノ意見ヲ申出シタリ即チ此方法ニ依ルトキハ仕入方ニハ物産会社ハ関係セス呉服店ニ於テ可成安ク之ヲ仕入レマタ売方ニハ呉服店ハ関係セス物産会社ニ於テ可成高ク之ヲ売り其損益ヲ等分スルコト、ナル近來倫敦ノ器械其他ノ買入商売ハ漸次米國ニ移リ為メニ倫敦ノ商売ハ寂寥ヲ感スルニ至レリ此際倫敦ノ為メニ羽二重杯ノ商売ヲ始ムルハ時機ノ熟セルモノト謂フヘシ近頃堀越善重郎氏ハ大ニ此商売ニ勉強シ大陸并英米ニ対シ販路ヲ擴張

【二回ノ一 3a】

セリ昨年ノ販売高八百五十万円余此内米國ニ対スルモノハ

十万円英國三十一万円仏國四十一万円ナリ独逸ヘハ未タ手ヲ付ケサル趣ナリ我社ニ於テハ英米ニ支店ヲ有スルノミナラス獨國漢堡ニモ出張員アリ從テ此商売ヲ經營スルトキハ向來有望ナルヘシト考フ堀越氏ハ資力十分ナラサルガ為メ百五十万ノ商売ヲ為シ得タルニ止マルモ我社ニ於テ之カ取扱ヲ為スコトキハ巨額ノ商売ヲ取り得ヘシト信セラル、ニ依リ目下倫敦并紐育ノ兩支店ヘ照会中ナリ

尚羽二重商売ノコトニ付テハ福井氏ヨリ呉服店ヘ交渉シタリヤ

◎福井 交渉セリ共通計算ニ関スル約定書ハ追テ草案ヲ調製スル都合ナリ呉服店ニ於テハ仕入并販売双方共物産会社ニ於テ取扱ヒ呉レサルヤトノ談ナリシモ呉服店ニ於テハ生糸ノ製造ニ従事シツ、アリ且反物ノ取扱ヲモ為スコト故羽二重モ仕入

【二回ノ一 3b】

丈ハ呉服店ニ於テ取扱ハル、方然ルヘシト述ヘ置キタリ

◎益田 昨年堀越氏ハ羽二重ノ商売ニ依テ十万円程ヲ利シタルモ又一方ニ於テ三四万円ハ損失セリ蓋シ生糸ノ騰貴シタルカ為メ羽二重モ之ニ連レテ昂騰シタルニ際シ資力裕カナラサル為メ一方ニ於テ生糸ヲ買付ケ羽二重ノ値違ニ対スルリスクヲ防クノ策ヲ講シ能ハサリシ故ナラン併兔モ角モ六

七万円ノ利益トナリ「数文字判読不能」ニテ是レ一ハ米国ノ景氣宜シカリシニモ原因スト雖トモ亦一ハ羽二重ノ商売ハ生糸ノ商売ヨリハ概シテ安全ナルニ依ラスンハアラス故ニ我社ニ於テモ是非此商売ニ手ヲ下シ度考ナリ  
手漉白紙ハ印刷局ノ製造ニ係リ我社ニ於テハ古クヨリ其売捌ヲ引受ケ居リタリ然ルニ昨年一方ニ於テ需要ノ増加シタルニモ拘ハラス一方ニ於テ印刷局多忙ノ為メ製造意ノ如クナラス到底

## 【二回ノ一 4 a】

需要ヲ充タス能ハサルヲ以テ静岡県下ニ在ル三個ノ製造場ト關係ヲ付テ其製造ノ拡張ヲ計ラセ一手販売ヲ引受クル考ニテ福井氏モ静岡へ出張シ親シク交渉ヲ試ミタリ是ヨリ其概要ヲ述ヘラルヘシ

◎福井 三十二年度ニ於テ物産会社ノ輸出シタル紙ハ十六万円余ニシテ之ハ何レモ手漉白紙ナリ此外ニ日本ヨリ輸出セラル、紙ノ内ニテ最モ需要アルハ雁皮紙ニシテ其額凡六十万円余アリ又支那ニ輸出セラル、広形紙二三十万円余アリ此他手巾、竹紙、機械漉紙唐紙模造紙等ノ輸出ヲ合スレハ総計百五十万円位ノ輸出アルヘシ当社ニ於テハ以前広形紙ヲ輸出シタルコトアルモ当今ハ単ニ印刷局ノ手漉白紙ヲ輸出スルノミ然ルニ印刷局ニ於テハ更ニ其製造高ヲ拡張セ

サルノミナラス却テ年々減少ノ一方ナレハ

## 【二回ノ一 4 b】

我社ノ取扱高モ從テ減少シ本年度ノ如キハ一月ヨリ三月ニ至ル迄ハ一連ノ抄造モ為スコト能ハストノ予告アリタル位ニテ更ニ引当トハナリ難シ乍去印刷局ノ手漉紙ハ世界中何レノ処ニテモ製造出来サル紙ナルニヨリ引続キ此商売ヲ取扱ヒ我國ノ製造品ヲ世界ニ紹介致度考案ニテ寺島君時代ヨリ大ニ意ヲ此点ニ致シ静岡県ノ製紙家ト關係ヲ付クルコトヲ勉メタリ目下静岡県ニハ三ヶ製造場アリ抄紙社并元村松製紙場ヲ抄紙社ニ於テ買取り高瀬製紙場ノ名目ノ下ニ營業セルモノ及ヒ太田源右衛門ノ抄紙場是ナリ此他福井ニモ製紙家アリト雖トモ交セ物ヲ為スニ依リ紙質良好ナラス僅ニ内地向ニ適當スルノミスノ如ク我國ニ於テ手漉紙ヲ抄造スルハ印刷局ト静岡ノ三製紙場ノミニシテ印刷局ハ既ニ其製品ノ一手販売ヲ物産会社ニ托シ静岡ノ三製紙場モ亦内外共

## 【二回ノ一 5 a】

総テ其売捌ヲ委託シ度旨申出アリスル有様ナルヲ以テ紙ノ商売ハ向後浮沈ヲ来タサ、ル様永久相当ノ高ヲ売捌度考ナリ  
手漉紙ノ商売ヲ一手ニ掌握スルコトハ昨年ノ夏以來計畫セ

ル所ニシテ其趣詳細倫敦支店へモ申送り又當時紐育支をを表  
 するコトニ勉めラレタリ而して同局抄造手漉紙ニ付店長岩  
 原謙三氏在京中ナリシヲ以テ此事ヲ相談セリ而シテ紐育ニ  
 於テハ支店長ノ帰任ト共ニ大ニ売方ニ尽力セラレタルモノ  
 ト見ヘ静岡ノ手漉紙毎月二百連宛ヲ創出スヘキ旨ノ書状ヲ  
 得タリ然ルニ反之倫敦ニ於テハ久シク印刷局紙ヲ売込ミタ  
 ル故ニヤ静岡製紙ハ代理店ニ於テ其取扱ヲ好マサル旨ニテ  
 更ニ引合ヲ為ス能ハス然レトモ一方ニ於テ印刷局紙ノ抄造  
 ハ益々減少シ且他方ニ於テ静岡ノ抄紙者ハ当社ニ言ッテ販  
 売ヲ托セントスルノ折柄ナレハ倫敦支店ニ於テハ大ニ力ヲ  
 奮ヒ下受人ノ意思ヲ翻カラシムルト共ニ大ニ静岡製紙ノ売  
 捌ニ

【二回ノ一 5b】

努力セラレンコトヲ切望セサルヲ得ス  
 名古屋へ赴キタルトキ寺島氏ノ紹介ニテ岐阜ノ製紙家竹井  
 助右衛門氏ニ面会セリ同氏ハ製紙業ニ熱心ナル人ニテ岐阜  
 ニ於テ輸出用ノ雁皮紙カ四十万円程モ製出セラレ且土佐ニ  
 モ同様コツピー紙ノ抄出セラル、アリ何レモ輸出ヲ待チ  
 ツ、アルモ未タ満足ノ結果ヲ得ス故ニ三井等ニ於テ之カ助  
 長ヲ計図セラレタシトノ談話アリ之ニ付テハ寺島氏ヨリ篤  
 ト竹井氏ニ相談ノ上本店へ申立ツルコトトセリ要之輸出紙

ノ商売ニ付テハ若シ我社ニ於テ力ヲ奮ヘハ全商売ヲ掌理ニ  
 歸スルコト敢テ難事ニアラス故ニ此商売ハ金高必スシモ大  
 ナリト云フヲ得サルモ当社ニ於テ力ヲ尽スヘキモノ、一ニ  
 敷ヘ置キ尚各店ニ於テ是迄ハ輸出セサリシモ其改良ヲ計ラ  
 セ若クハ助長ヲ図ルトキハ輸出ノ見込アリト考ヘラル、モ  
 ノアレハ互ニ申出テ行ク々々一大貿易品ト致シタシ

【二回ノ一 6a】

◎寺島 竹井助右衛門氏ハ熱心ナ家ナリ一兩度面会シタルニ  
 輸出紙ノ現状ヲ述ヘ今日ノ儘ニ打過ストキハ余ノ其販路ヲ  
 途絶スルニ至ルヘキヲ通論セリ蓋シ今日輸出紙ノ商売ハ外  
 国人ト直接ニ取引スルニアラスニ三中間ニ立ツ者ノ手ヲ経  
 テ外国商館等ニ売込ムモノニシテ米國貿易商會ノ如キハ大  
 ニコノ商売ニ力ヲ致セリ然ルニ中間ニ立ツ取次人ハ兎角姦  
 策ヲ弄シ少シク紙ノ需要起ルトキハ直チニ値段ヲ引上グル  
 ノミナラス往々ニシテ紙質ヲ落シ為ニ其声誉ヲ損スルコト  
 アリ而シテ一度声誉ヲ損スルトキハ更ニ新規ノ紙ヲ造リ其  
 紙カ声誉ヲ得テ売行増加シ需要盛ニ起ラントスルトキハ  
 又々紙質ヲ落スト云フカ如キ有様ニテ到底本商売ノ擴張ハ  
 企図シ得ヘカラス就テハ向後物産会社ニ売捌方ヲ依頼シ充  
 分販路ノ擴張ヲ計リ貫ヒ度左スレハ仮令値段高キモ品質良  
 好ナル点ニ於テ大ニ需要ヲ喚起スヘク然ラ

## 【二回ノ一 6b】

スンハ依然二三者ノ手ヲ経テ外国人ニ売渡シ居リテハ遂ニ日本紙ノ輸出ヲ途絶スルニ至ルヤ未タ知ルヘカラス云々ノ談話アリタリ余モ1月中閑ヲ得ハ岐阜并静岡ニ赴キ紙ノ事ニ付当業者ト熟議ヲ擬ラスヘキ考ナリ

又雁皮紙ハ蓄電機ニ入用アリ即チ「カナガヒ」ト称ユルモノト雁皮紙トヲ合セ厚キ物ヲ造リテ電池ニ入ル、モノ、由ニテ通信本省ノミニテモ一ヶ月十枚位ヲ使用スト云フ値段ハ九十五円乃至百二十五円見当ナリ蓋シ如此モノニ雁皮ノ入用アリトセハ外国ニ於テモ必スヤ大ニ其需要ノ惹起スヘク從テ輸出額ヲ増加スルニ至ルヘシト考フ

◎益田 紙ハ土佐ノ名物ニテ又支那広形紙ハ石川県中国辺ニテ産出ス之ハ大阪支店ニテ引合フコトトスヘキヤ將タ又参事等ニ於テ紙ノ内輸出ニ適當ナルモノヲ取調ヘ土佐其他各地ノ製造場ヲ

巡回シテ調査スルコトニ為スヘキヤ

## 【二回ノ一 7a】

◎寺島 調査スル方可ナラン紙ノ行キ先キ取扱方ヲモ調査スルトキハ大ニ本商売ニ関スル道筋ヲ知悉スルコトヲ得テ便宜ナルヘシ

◎飯田 紙ハ多ク取扱ヒタルコトナキ故詳細ノ事ハ分ラサル

モ現今一番見込アルモノハ雁皮紙ノ輸出ナリト考フ而シテ其産出地ハ岐阜県并土佐等重モナルモノナレハ参事等ノ内ヨリ人ヲ派出シ充分取調ヘ貰ヒタシ以前大阪ニテ広形并雁皮等ヲ上海香港并新嘉坡等へ輸出シタルコトアリシモ之ハ純然ノ委托販売ナリシ故充分ノ働キヲ為スコト能ハサリシ先頃紐育ヨリ見本ノ送付方ヲ申越シタル故少々見本トシテ買取り送付シ置キタリ倫敦ニ於テモ雁皮紙ノ売行ハ必ス之レアルヘケレハ此商売ニハ是非共力ヲ尽シタシ

◎小田柿 岐阜ノ紙ヲ見タルカ大ニ売込ノ見込アリ桑港へ帰任後ハ此商売

## 【二回ノ一 7b】

ニモ努ムル積ナリ引合ハ名古屋へスルヘキカ將タ大阪へスヘキカ

◎寺島 紙ノ商売ハ東京へ集ムル方可ナラン

◎益田 桑港ヨリノ引合ハ東京ニテモ大阪ニテモ可ナリ

◎寺島 引合ハ名古屋へスルモ東京ニテ此商売ヲ統一スル方可ナラン

◎小田柿 桑港へ送り出スニハ神戸ヨリスル方都合宜シ

◎益田 岐阜ノ紙ヲ桑港ヨリ東京へ引合ヒ横浜ヨリ輸出スルト將タ又大阪へ引合ヒ神戸ヨリ輸出スルト運賃何レカ割安

ナルヤ

◎福井 運賃ハ同一ナリ

◎遠藤 故ニ神戸積ミノ方便利ナリ

◎小田柿 麦粉ノ袋ヲ紙ニテ造ルコトヲ寺島氏ニ相談セリ若シ之カ出来ルトセハ大ニ売行ノ見込アリ兎モ角モ桑港へ帰任スル迄ハ見本十枚程ヲ造リ貰フコトセリ

【二回ノ一 8 a】

◎寺島 此外セメントライル、袋モ考案中ナリ

◎益田 一時米ヲ入レル袋ヲ紙ニテ造ル計画モアリタリト覚ユ

◎上田 紙ノ話ニ付テ御参考迄ニ述フルカ余ノ旧知己ニ福井人アリ二十年以前米国フィラデルフィヤニ赴キ学校ニ入りテ理学士トナリ帰朝後学校教師トナリ居リタルカ頃日突然訪問シ来リ曰ク從來三樞、楮ヲ以テ製造スル日本紙ハ藁又ハ襪褌ヲ以テ製造スル紙ト異ナリ何レモ之ヲ手漉トセリ從テ其値段モ割高ナリシカ此度己レノ友人ナル製紙家ト計リ日本紙ヲ抄造スル機械ヲ發明セリ其製造力ハ一分時間百八十尺ヲ過ク尤モ原動力ニ汽機ヲ用ユルコトヲ得ヘク又乾燥機械ハ外国製ヲ利用シ得ヘシ畢竟己レハ流動体ヨリ紙ニ抄キ出ス迄ノ機械ヲ發明シタルナリ云々依テ機械ヲ製造シテ販売スル積リナルヤ將タ自ら製紙場ヲ起シテ其器機ヲ応用

スル考ナリヤ問ヒタルニ目下右

【二回ノ一 8 b】

器機ヲ發明シタルノミニテ僅ニ一台ノミヲ造リ試験中ナルモ追テ器機ヲ増加シテ製紙場ヲ起ス考案ナリト答ヘタリ依テ半紙ヲ造ルトセハ如何又手漉紙同等品ヲ造ルトセハ如何ナル勘定トナルヤ杯予算書ヲ作り經濟ノ立テ方等詳シ承リタシト申入置キタリ果シテ有益ノ器機ナルヤ將タ又玩弄物的ノモノニ止ルヤ判明ナラサルモ鳥渡聞キ取りタル儘ヲ述ヘテ参考ニ供ス

尚茲ニ御参考迄ニ印刷局ト当社トノ關係ヲ略叙センニ印刷局紙ノ売捌ニ付テハ明治十三年ノ頃ヨリ大ニ尽力シタル所ニテ爾來単ニ売捌ノ点ノミナラス原料タル三樞ノ培養ニ付テモ夫々力ヲ致ス所アリ之カ為メ少ナカラサル資金ヲモ注入シテ其培養ヲ奨励シ其結果印刷局ニ於テハ今日自由ニ原料ノ買入ヲ為シ得ルコト、ナリタリ印刷局ニ於テハ此事情ヲ認メ居ラル、為メ從來当社ニ對シテハ充分ノ好意

【二回ノ一 9 a】

ヲ表スルコトニ勉メラレタリ而シテ同局抄造手漉紙ニ付テハ現局長得能氏ノ家蔽カ局長ヲ奉職セラレシ頃ヨリ熱心ニ其助長ヲ計ラレタル所ニテ必竟我國産ノ一トシテ輸出ヲヲ

計ラル、ノ目的ナリシ故ニ民間ニ於テ一時ノ利益ヲ目的トスル会社等ト異ナリ製造方ニハ出来得ル限り注意ヲ加ヘ又其検査ヲ厳密ニシ一連ノ内ニテモ聊タリトモスタンダードヨリ品質落チルモノアレハ惜気ナク之ヲ刎ネ再ヒ原料ニ廻ハシタリ其結果トシテ英仏等ニ於テハ非常ニ声価ヲ博シ既ニ福井氏ヨリ一言シタル如ク倫敦等ニ於テハ印刷局紙ノ外ハ取扱ヲ好マスト申来リタル位ナリ現ニ我々ノ目ヨリ見テハ印刷局紙ト殆ント相違ナシト考ヘラル、静岡製紙ノ如キモ仏国等ニテハ往々排斥ヲ蒙ルモノアリ又以テ如何ニ印刷局紙ノ良好ナルヤ又如何ニ仏国等ノ当業力紙ノ事ニ巧者ナルヤヲ知ルニ足ル

## 【二回ノ一 9 b】

斯ノ如ク我社カ印刷局紙ノ販路拡張ニ尽力シタルハ中々容易ノ事ニアラサルモ此取扱ニ依リテ利益ヲ得タル時期ハ極メテ短カク漸ク二十五年頃ニ至リ半季三千円乃至五千円ノ利益ヲ得二十六年下半年頃一度一万余ノ利益ヲ挙げ得タルコトアリ当時印刷局ニ於テモ物産会社ハ久シク局紙取扱ノ為メ損耗ヲ蒙ラシメタルモ此節幾分ノ利益ヲ得ルニ至リタルハ喜ハシキコトナリトテ満足セラレタル位ナリ然ルニ夫レモ僅ノ間ノ事ニテ翌二十七年日清戦役ノ起ルヤ印刷局ニ於テハ紙幣公債証書并軍人ニ与フル賞状等ノ製造

ニ忙殺セラレ手漉紙抄造ノ暇ナク其頃恰モ外国ニ於ケル販路ハ大ニ拡張シ注文続々到来スルニモ拘ハラズ之カ注文ニ応スルコト能ハサル有様ナリシ斯ル次第ナル故印刷局ニ於テモ氣ノ毒ニ感セラレ戦争平定ノ後ハ抄造ニ努ムルヘキ旨内話アリタルモ其後政府ノ用向ハ益々増加シ印刷局ニ於テハ到底充分手漉紙ヲ

## 【二回ノ一 10 a】

抄造スル能ハス去リトテ元來國産ノ一トシテ海外ニ其声誉ヲ博セントノ趣旨ニテ抄造ヲ初メラレタルモノハレハ其抄造ヲ断然中絶スルハ畜ニ物産会社ニ対シ忍ヒサルノミナラス折角海外ニ得タル我國産ノ信用ヲ地ニ委セシムルモノニテ如何ニモ遺憾千万ナリトノ念慮ヨリ今日迄細々ナカラ抄造ヲ継続セラレタル次第ニテ近頃ハ三十連乃至五十連ノ小口モ容易ニ抄造ナリ難ク且政府ニハ會計法其他予算等ノ關係アリ向後印刷局ニ於テ手漉紙ノ抄造ヲ盛ニスルノ見込ハ立タサル所ヨリ若シ民間ニ相当ノ資産ヲ有シ一時ノ利益ニ眩惑セス國家ノ為メ輸出品ノ製造ニ尽力スルノ心事ヲ以テ手漉紙ノ抄造ニ従フ者アレハ印刷局ニ於テハ其事業ヲ奨励シ熟練ナル職工モ讓渡スヘシ又技師モ遣スヘシ且ツ愈印刷局同様品質良好ナル手漉紙ヲ抄造シ得ルニ至レハ印刷局ノ製造ハ全然之ヲ廃止スルノ主意ナルカ如シ加之静岡

## 【二回ノ一 10 b】

地方ノ製造家モ昨今民間ノ事業ニ対シ政府ニ於テ競争ヲ試ムルハ其當ヲ得ス杯ノ生意氣ナル議論ヲ楯トシ印刷局ニ於ケル手漉紙ノ抄造廃止ヲ請願セントノ目論見ヲ為シ多少運動セル所アリタルモノ、如ク夫此ノ事情ヨリ昨年十月頃得能局長ハ静岡、岐阜、福井ノ三県下ニ出張セラレ民間製紙業ノ状態ヲ視察セラレタリ之ヨリ先キ同氏ノ出発ニ先チ余ニ其趣談話アリタルヲ以テ我社ヨリモ局紙ノ取扱ヲ為シ来リタル雜貨掛主任磯村ヲ夫レトナク同地方ニ派遣シ取調ヲ為サシメタリ然ルニ右出張取調アリタル結果民間ニハ安心シテ手漉紙ノ抄造ヲ任スヘキモノナシ寧ロ此際三井ニテ抄造ヲ初ムルコト、シテハ如何杯ノ談話モアリタリ印刷局ト我社トノ關係ハ既往右ノ如クニシテ現在又上ノ如シ然ルニ倫敦等ニ於テハ当方ノ事情明カナラサル故ニヤ印刷局ノ紙ハ何程注文スルモ思ハシク送荷セスシテ

## 【二回ノ一 11 a】

却テ品質ノ劣リタル静岡辺ノ製紙ヲ勸メ来ルハ如何ニモ其意ヲ得ストノ感シモアラシカナレトモ印刷局ハ右ノ如ク到底多分ノ抄造ヲ為スノ見込ナク殊ニ向後其抄造ヲ全廢スルニ至ルヘキヤ未タ知ルヘカラサレハ今ヨリシテ静岡等ニ於

ケル製紙家ト關係ヲ付ケ一方ニ於テ其奨励ヲ計ルト共他方ニ於テ製造并検査ヲ嚴密ナラシムルコトハ最モ必要ナルコトニシテ之カ為メ度々掛員ヲ産地ニ派出シ又營業部長自身ニモ静岡等へ出張シテ取調ヲ尽シ百方心配中ナレハ海外支店ニ於テモ本邦ノ事情ヲ察シ充分売リ方ニ尽力セラレタキモノナリ

◎益田 紙ノ話ハ大抵尽キタルカ如シ兎モ角モ輸出紙ノ事ニ付テハ參事ヲシテ充分取調ヲ為サシムルコト、スヘシ  
次ニ材木并鐵道枕木ノ商売ハ如何

◎福井 材木并枕木ノ商売ハ大ニ擴張セシメタシト考フ從來日本ヨリノ材木ノ

## 【二回ノ一 11 b】

輸出ハ極メテ少ナカリシ点ハ大ニ失望スル所ナルモ枕木ノ輸出ハ支那各地ニ於ケル鐵道事業ノ開發ト共ニ漸ク増加シ来リ昨年ハ七十八万乃至八十万円ノ輸出ヲ為シタリ本年ハ恐ラク百万円ヲ超過スルナラン此他板類等モ輸出アルヘキ筈ナルニ其之レナキハ我國ノ木材ハ値段段低廉ナラサルニ依ルモノナラン

北海道ヨリ輸出スル枕木ハ仮ニ当分支那ニ於テ一ケ年二三百万哩ノ鐵道ヲ延長スルモノト為スモ三百万挺ヲ下ラサルヘシ其他停車場橋梁兵營等ノ建設ニ要スル木材ノ需要ハ少ナ

カラサルヘク中ニ北海道産ノ木材ニテハ用途ニ適セサルモノモアルヘキモ概シテ北海道材木ノ輸出ハ大ニ望ミアルモノニ非サルカ且ツ夫レ枕木并木材ノ如キハ荷嵩リ船舶ノ事保険并金融ノ事等何レモ其道ノ経験ヲ要シ素人ノ容易ニ手ヲ下シ能ハサル所ナレハ最モ物産会社等ノ商売ニ適スルモノト云ハサル

## 【二回ノ一 12 a】

ヘカラス又米國ノ木材ヲ日本并支那ニ輸出スルコトモ向後一廉ノ商売トナルヘキ見込アレハ木材ニ付テハ輸出入共ニ永遠ノ商売トシテ経営致度考ナリ

## ◎益田 此商売ヲ経営スル方法手段ハ如何

◎福井 方法ハ先ツ北海道ニ出来ル丈ノ力ヲ尽スニ在リ夫レニハ資金ヲ投下シテ山林ヲ所有スル最得策ナリトノ

説アルモ之ハ少シ考ヘモノナリ故ニ商売人風ニ遣ル方可ナリ其ノ手段ハ北海道ニ於テハ信用アルモノ少ナキモ相手ヲ見テ其信用ニ応シ五百乃至千円ノ金ヲ貸シ付ケ買集メニ従事セシムルニ在リ

◎益田 枕木ハ入札ナルヲ以テ其時ニ入札シテ注文ヲ引受ケ後ニテ買付ケニ着手シテ可ナリ又材木ノ日本ヨリ支那ニ輸出セラル、板其他ノ小物ニ止リ大物ハ矢張米國ヨリ取寄スルコト、ナルヘシト考フ

## 【二回ノ一 12 b】

◎寺島 竹田氏天津赴任依頼材木ノ事ニ付往復ノ末鉄道用材中見込アリテ且ツ纏マリタル高ノ取引シ易キモノヲ選ミ寸法ヲ定メ見本ヲ造リ置キ之ニテ引合ヲ為スコトニ定メ名古屋ノ材木商鈴木惣兵衛氏ニ打合せタル処同人ニ於テ値段ヲ定メテ引受タルトキハ後日山ヨリ伐出シタル上ニテ割高二当ルコトアルモ値上ケ等ヲ請求セス畢竟同人ノ見込ヲ以テ引受ケタルコト、スヘシト協定シ見本十種計リヲ造リテ天津ヘ送り置キタリ

又台北ニ於テ台湾神社建築用材ヲ引受ケタル以來木材ノ事ニ付追々相談アリ而シテ台湾ノ建築用材ハ東京ノ材料ト同一ニテ大阪ノ材料ハ不向キナリ然ルニ丁度豊橋付近ノ木材ハ東京ヘ送ルモノナルヲ以テ台湾向ケニ適當ナルコトヲ知り台北支店ヘ文通ノ末向後注文アルトキハ豊橋付近ノ木材ヲ以テ引合フコトニ打合せアリ又檜ハ名古屋地方

## 【二回ノ一 13 a】

ヨリ多ク産出スル故是等ノ木材ヲ台湾ヘ送ルニハ三池地方ノ土管并瓦等ト積合セト為セリ荷物モ相当ニ調ヒ便利ナリ又名古屋ノ御料局ニ於テハ時々材木ノ入札払下アリ近日払下ノ分ハ台湾ノ注文ニ引当テ大阪ヘ打合ノ上入札セシカト

毛考へ居ケリ

◎長谷川 先年神戸ニ在リシトキ天津ヨリ枕木ノ注文ヲ受ケ北海道依リ送リタリ先刻福井氏ノ述ヘラレタル如ク北海道ニ於ケル買付出来ルナレハ売捌ニハ更ニ困難ナシト考フ何トナレハ支那ノ鉄道ニ対スル供給ハ日本并露領産枕木ヲ除キテハ他ニ競争者ナケレハナリ聞ク処ニ依レハ支那北部ニ於テハ氣候上ノ關係アリ日本内地ニ使用スル栗ハワレ易キ為メ用途ニ適セス故ニ北海道ニ産スル木カ又ハ露領ニ産スル木ヲ用ヒサルヘカラスト云フ

材木ノ商売ハ枕木ノミニ止ラス杉板并樅板等南洋ニ向テ輸出

【二回ノ一 13 b】

ノ望アリ蓋南洋ニハチーク、紫檀、黒檀等ノ堅木ノミニテ「ソフトウード」ナシ去レハ香港ヲ初メ南洋諸島ニ於テハソフトウードノ欠乏ヲ感シ大ニ其輸入ヲ仰ギツ、アレハ日本ヨリソフトウードヲ南洋ニ送リテ堅木ヲ輸入シ又日本ノ山林ハ近年濫伐ノ結果大ニ木材ノ出高ヲ減シ其価毛割高ナレハ比較的低廉ナル亜米利加木材ヲ輸入スルコト、セハ面白キ商売トナルヘキカ兎ニ角我々ノ經驗ハ極メテ淺ク僅カニ二三艘ノ枕木商売ヲ為シ若クハ五十万余ノ茶箱ヲカルカツタニ売リタル位ニ止レハ是非ノ断定ハ下シ難シ故ニ調査

員ヲ台湾若クハ北海道ノ如キ森林ニ富ム場所ニ派出シテ充分取調ヲ為サシメ又一方ハ桑港ヲ経テオレゴン等ニ於ケル木材ノ取調ヲ為サシメハ輸出入共案外立派ノ商売トナルヘシ

◎飯田 枕木并電信柱等ノ如キ商売ハ着手シテ差支ナシト考フ而

【二回ノ一 14 a】

シテ枕木ハ或ハ北海道青森又ハ山陰地方ヲ取調ニヘ予算ヲ立テ夫レニテ引合フトノ目途立テハ入札ヲ待タス買入レ置キ入札ノ際売却スルコトトナスヘシ若シ入札ヲ俟テ買付クルコトトセハ時ニ積出期限迄ニ揃ハサルコトアルヘシ電信柱ノ如キモ亦然リ乍去板物ノ取扱ヲ為スコトハ面倒ニシテ困難ナリヨシ面倒ハ忍フトスルモ困難ノ点ハ非常ノモノト覚悟セサルヘカラス即チ板物ハ其屑ノ処分方如何ニ依リ値段ニ關係スルコト少ナカラス故ニ専門家ニ在テハ小サキモノハ床板トシ長キモノハ如何背板ハ如何ニスルト云フカ如何辛苦シテ残り棄タリナキ様売捌ヲ工夫シ從テ板其物ノ値段ヲ割安ナラシムルモ我社ノ如キ素人ニ在テハ到底屑物ノ「コナシ」ヲ付クルコト能ハサルヘシ現ニ先般台湾神社ノ木材ノ注文ヲ引受ケタルトキモ更ニ材木屋ニ下受ケヲ為サシメ当社ハ只其監督ヲ為スニ止メタリ故ニ米國ヨリオレゴ

ンパイノ輸入シ角材ノ仮売

【二回ノ一 14 b】

却シ又ハ支那ヨリ枕木電信柱ノ注文ヲ受ケケ若クハ纏リタル材木ノ注文ヲ受ケケ材木屋ヲシテ之ヲ下受ケセシムル等所謂大問屋ノ仕事ハ之ヲナスヘキモ材木ヲ挽キ立テ、板トナシ之ヲ売却スルカ如キ材木屋ノ小仕事ハ断然手ヲ着ケサルコトニ為サ、ルヘカラス

◎松尾

材木ノ商売ニ付テハ我々ハ大ニ熱心ナリ遼東半島ニ於テ取調ヘタル所ニ依レハ支那ニハ木材少ナシ故ニ建築用材ハ之ヲ他ニ仰カサルヘカラス従来ハ多ク大同江地方ニ仰キ又米國オレゴンパイノ輸入セリ日本ヨリ輸入セラル、モノハ重ニ松板并杉板ナリ枕木ハ入札ニテ買入ル、故先刻來御話アリタル如ク当社ニテモ入札ニ加入スルコトニ致シタシ尤モ入札ト称スルモ真正ノ入札法ナルヤ將タ指名類似ノモノナルヤ曖昧ナリ今日ノ処本年中ノ枕木入用高ハ百万本位ナルヘシ其内既ニ約束ノ出来タルモノ二十五万本ナレハ此後約定セラルヘキ残高ハ

【二回ノ一 15 a】

七十五万本ナリ之ハ果シテ日本ト約定スヘキヤ否ヤ研究ヲ要ス蓋今日迄此約定ヲ見合セ居ルハ運賃割高ナルニ原因ス

ルヤ未タ知ルヘカラスト雖トモ而カモ亦滿州并ハバロッカ地方ニハ有望ナル山林ニ富ムヲ以テ今日ハ其伐採ヲ蒙リアルニモ拘ハラス他日鉄道全通ノ際ニ至リ日本并米國ノ木材高価ナルトキハ其伐り出シヲ許スヤモ計ラレス然ルトキハ大ニ我枕木并材木ノ商売ニ影響スヘシ又朝鮮ノ松島ハ露人ノ所有ナルカ周圍八哩四方アリ又材木ニ富ムヲ以テ是亦材木ノ商売上影響スル所アルヘシ又肥後ト日向ノ國境ニ内大臣ト称スル大森林アリ薩摩ニモ大森林アリ今日ハ木炭ノ原料ヲ得ル場所ニナリ居レリ之ハ政府ニテ扱下ノ希望アルモ農商務省ニテハ其取扱ヲ大林區署ニ一任シアリテ扱下ノ方法宜キヲ得サル為メ手ヲダスモノナシ又米ノ津ノ奥ニ大河内ト云フ堅木山林アリ

【二回ノ一 15 b】

周圍四里近クノ間ハ木ヲ以テ充サレ昼尚暗キ有様ニテ一尺ヨリ七八尺回りニ至ル大材アリ今日迄ハ之ヲ木炭ニ為シ居レトモ其方法如何ト云フト大林區署ニ於テハ五町歩三町歩四町歩ト云フカ如ク小部分ニ區画シ入札ヲ以テ扱下ケ而シテ其扱下期間短キヲ以テ之ヲ買取りタルモノハ僅ニ木ノ梢ヲ切りテ木炭ト為スニ止マリ木幹ハ勿論枝葉ノ如キモ其儘ニ打棄テ置クノ有様ナリ為メニ森木ノ發育ヲ妨クル尠少ニアラス然ラハ如何ニセハ可ナルヤト云フニ大資本家カ一里

若クハ二里四方ノ大区域ノ私下ヲ得運搬ノ便ヲ啓キ材木ヲ切出スコト、スルヲ最モ良策ト信ス要スルニ材木ノ商売ハ大ニ研究ヲナスノ価値アルヘシ

◎益田 北海道ニ於テ枕木并材木ヲ切出ス有様ハ如何内地ノ人ノミナラス清国各店ニ在ル人ノ参考トモナルコト故平田氏ヨリ概略述ヘラレタシ

【二回ノ一 16 a】

◎平田 枕木ノ事ハ単ニ机上ノ取調ノミニテ實際ヲ審カニセス故ニ詳細ヲ述フル能ハサルモ余ノ考ニ依レハ北海道ノ枕木商売ハ充分見込アルモ木材ニ付テハ余リ見込ナシト信ス蓋シ便利ノ場所ハ皆既ニ着手シテ切出シ居リ今後着手スヘキハ運搬不便ノ場所ナルノミナラス雜木ノミ多ク木質軟シト云ハンカ將タ「サリン」ト云ハンカ板ニ挽クトキハ破裂シ易シ故ニ木材ニ付テハ北海道ニ重キヲ置クコトヲ得ス寧ロ岐阜日向等ニ手ヲ着クル方得策ナルヘシ

枕木ハ内地ノ注文少ナク重ニ北清并露領向ケナリ冬季之ヲ切出シ夏ニ至リテ川下ヲ為ス本品ノ約定ニ付テハ信用ヲ措キ得ヘキモノ少ナク當時最モ盛ナルハ龍紋位ナリ昨年ハ枕木ノ約定ニ依リ多少利益ヲ得タル趣キナレハ引継キ此商売ヲ為スナラン斯ノ如ク小資本ノミナレハ大口ノ約定ヲ為ス能ハス小口ニ二三万本宛ヲ約定シ前貸ニテモ

【二回ノ一 16 b】

為ストキハ可ナランカ此他信用ヲ措キ得ヘキ手筋ハ皆自カラ商売ヲ為サントシ從テ下受ケヲ為サシメントスレハ値段高張り引合ニ相成リ難シ枕木切出シ方ニ付テハ別ニ新工夫ナク從來ノ如ク依然濫伐シツ、アルモノ、如シ

◎水谷 支那向枕木ノ種類ハ何々ナリヤ

◎長谷川 栗ハ從前支那ノ鐵道ニ用ヒタル結果凍ルトキハ割レル憂アリ故ニ北海道産ノ「セン」「タモ」ヲ望ムモノ、如シ馬尼刺ニ於テ米政府ノ計畫セル鐵道ニ於テハ枕木ハ粟ニ限ルト為シタリト聞ク

余ハ前ニ板ノ事ヲ述ヘタル所恰モ板ノ小売ニテモ為スカノ如ク聞取ラレタル觀アルモ余ノ意思ハ然ラスチーク用材又ハオレゴンパイン等ヲ大口ニ取扱フハ勿論板ノ如キモ九州地方ヨリ支那ニ輸送セラル、モノハ寸法モ一定シ一種ノ商品トシテ大口ニ取扱ハレ居ルカ故ニ此商売モ

【二回ノ一 17 a】

經營スヘシトノ主意ナリ決シテ自カラ材木屋トナリ山ヨリ板ヲ切出シテ小口ニ販売スルニハアラス

◎益田 北海道ニ於ケル鐵道枕木ノ商売ハ前年トハ大ニ其趣ヲ異ニセリ即チ從前ハ之レカ買集メ方非常ニ困難ナリシモ

今日ハ上川ノ鉄道開ケタルカ為メ沿道各地ヨリ枕木ヲ切出シ初メ十萬二十萬ノ枕木ハ常ニ停車場ニ山ヲ為ス有様ナリ故ニ売方ヨリモ寧ロ買方容易ナリ若シ鐵道更ニ延長シテ十勝根室ニ進マハ枕木ノ供給ハ益々潤沢トナルヘク旁以テ向後ハ売り方ヲ先ニセサルヘカラス清国各支店ニ在ル人ハ此考ヲ持ツコト分ケテ必要ナリ

◎平田 是迄ハ余リ例ナキモ我社ニテ大数ノ枕木注文ヲ引受ケタリトナレハ北海道ニ於ケル枕木ノ持主ハ同盟シテ高値ナラサレハ売却セスト申張ルコトナシトセス故ニ売り方ヲ先ニシ買方ヲ後ニスル以上ハ反對

【二回ノ一 17b】

ニ彼等ヲ圧服スルノ策ヲ取ラサルヘカラス

◎松尾 島内カ枕木十五萬挺ヲ引受又露清銀行ノ支那人カ同十萬ヲ引受ケタル所ヨリ見レハ此商売ハ案外容易ナルニハ非サルカ且枕木ノ種類モ日本ト同様ニテ唯栗ヨリモ寧ロ松ノ方可ナリト云フノミ

◎上田 前年ハ支那鐵道ノ枕木ノ入札ニハ栗ヲ除キ居リタレトモ近頃ハ栗ニテモ差支ナキコト、ナリタリ又寸法モ最初ハ堅木五インチ軟木六インチノ定メナリシモ近頃ハ双方共ニ六インチニ改メタリ

◎水谷 値ハ何程ナルヤ

◎松尾 一挺九十二錢位ナリ

◎水谷 九十二錢ニテハ石州辺ノ栗木山ヨリ切出スモ到底引合ハス

◎小田柿 材木ノ商売ハ極メテ面倒ナルモノナレハ東京カ大阪ヘ其道ノ専門家ヲ置キテハ如何

【二回ノ一 18a】

是迄専門家ナキ為メ出来ソナル商売モ出来サリシコトアリ即チ長崎大阪等ヘハ度々引合ヒタルモ事情疎通セサル為メ遂ニ出来セス是迄商売ノ成立チタルハ東京ノミナリ

◎益田 専門家ヲ何地ニ置ク意カ

◎小田柿 東京大阪長崎何レニモ可ナリ専門家ヲ一兩人置クトキハ米國ヨリモ其人ト引合フヘク又内地ノ注文モ其人ニ於テ取集メテ桑港ヘ電信スル様為ストキハ大二電信料モ助カルコトトナル

◎飯田 大阪ニ於テ是迄材木ノ商売成立セサリシハ専門家ナキカ為メニ非ス船便ナキト遇々之アルモ積量大ニシテ一手之ヲ買取ルモノナカリシ為ナリ若シ桑港ノ相場ヲ大阪ヘ取寄セ充分利益アル相場ナレハ売不足ノ数量丈ハ社持トシテ一船買約センカトモ考ヘタレトモ夫程迄ノ利アル勘定トモナラス旁大口注文アル迄見送リタル次第ナリ故ニ専門

## 【二回ノ一 18 b】

家カ居ラサレハ此商売ハ經營シ能ハストハ云フコト能ハス  
 ◎益田 材木ハ大口ノ注文ニアラサレハ引受ケ得ヘキモノニアラス夫ノ小サキ材木屋杯ト競争シテ小口ノ商売ヲ為スカ

如キハ勿論不可ナリ從テ枕木電信柱ノ如キハ我社ノ商売トシテ適當ナルモノタルヘキモ材木ノ商売ハ畜ニ之ノミニ止マラス板モアルヘク茶箱モアルヘシ又日向薩摩等ノ森木モ取調ノ要アルニ依リ適當ナル人ヲ得テ詳細ノ調査ヲ為サシムルコトハ必要ナランカ

◎小田柿 次ニ尚ホ一ツ参考ノ為メ申上置度ハ是迄此商売カ成立セサリシハ専門家ノ居ラサルコトノ外運搬船ノナカリシコトモノノ原因ナレハ桑港本邦間ニ常ニ一般ノ風帆船ヲ雇入レ置クコトニ致シタシ蓋シ往航ニハ石炭硫黄米等ヲ合ハセ少ナクトモ半荷位ハ集マルヘク又復航ニハ材木ノ外麦粉小麦鉛等ヲ取集メ船腹ヲ充タスコトヲ得

## 【二回ノ一 19 a】

ヘシ且又荷物極メテ少ナキトキハ天津若クハ浦塩斯德等ヘ回船スレハ其使用方ニ窮スルカ如キコトナカラン故ニ此事ハ是非共御実行願ヒタシ

◎飯田 余ノ考ニ依レハ今日ハ商売ハ総テ帆船前時代ニ非ス麦粉ニアレ小麦ニアレ帆船前船ニテ緩ト取寄セ居ル様ニテハ

商売トナラサルヘシ故ニ夫レヨリモ汽船ノ便アルトキ此船ニハ若干ノ船腹ノ余裕アリ材木又ハ麦粉ヲ買付ケテハ如何ト云フカ如ク船腹ノアル都度オツファーヲ出スコトニ致シタシ

◎松尾 帆船ノ商売ハ甚タ危険ナリ昨年佐世保ニ納メタル材木ハ期限後レ大ニ心痛セリ役所ノ注文品ハ期限延滞一日ニ付何程ト云フカ如キ罰金ヲ科セラルヘキヲ以テ尚更飯田君ノ説ノ如ク汽船ノ安運賃アルトキ引合ヲ為ス方安全ナリト考フ

◎福井 材木ノ商売ハ一船約定セントナレハ八十万呎位ハ買入レサルヘカラス然ルニ我国ニテハ未タ此大高ヲ一手ニ約定スルモノナシ此事ニ付パシフィック

## 【二回ノ一 19 b】

エキスポート、ランバーコンパニーノ支配人來朝ノ節交渉シ結局一船分ヲ約定スルコトハ困難ニ付入用分丈積出スコトニ致シ度船ノ心配ハランバーコンパニーノ方ニテスルコトニ致シ度ト述ヘ同意ヲ得其後汽船積ニテ五十万フィートノ割積商売出来セリ今後二十万又ハ十五万フィートノ取引モ成立スルコトアランカ我国今日ノ需要ハ大抵一口十五万乃至二十万位ナリ思フニ米國側ニ於テモ支那并露西亞ノ鐵道用木材等ノ注文ヲ引受ケタルコト故夫等ノ船便ヲ利用シ

小口ノ注文先方ニテ「エキセキユート」シ得ルコトアラン  
乍去今後追々材木ノ商売発達スルトキハ汽船一艘位ヲ太平  
洋ニ浮フルコトニ致シ度モノナリ

◎小田柿 是迄日本ノ注文割高二当ルハ小寸法ノ分数物多キ  
故ナリ即チ米國ニ於ケル材木ノ注文ハ大抵二分ノ一吋ニ止  
ルモ日本ヨリノ注文ニハ11<sup>1</sup>/<sub>3</sub>吋又ハ5<sup>1</sup>/<sub>2</sub>吋云フカ如キモ  
ノアリ之ヲ挽立テシムルトキハ非常ニ先方ニ於テ

【二回ノ一 20 a】

手数ヲ要スルカ為メ値段割高二当ル故ニ今後注文ノ場合ニ  
ハ予シメ關係店ヘ差回シアル寸法ノスタンダードニ依ルコ  
トト致シタシ左スレハ記載ノ価ヨリハ一割又ハ二割引ニテ  
取引出来スヘキモ寸法外ノ注文ナルトキハ値段倍額ニモ上  
ルコトアリ此事ハ深川ノ材木商ニ詳シク説明シ日本ニテソ  
ノ、ミルノ如キモノヲ造リ米國ヨリ寸法通りノモノヲ取寄  
セ日本ニ持来リタル上日本ノ需要ニ適合スル様挽立ツルコ  
トトシテハ如何ト相談シ置ケリ何レ此ソーミルノ事ニ付テ  
ハ取調ヲ為シタシト考フ

◎益田 亞米利加ノコンパニーニテハ日本ヘノ売捌方擴張ノ  
為メ送荷ヲ為サ、ルカ

◎吳 同社支配人來朝ノ節積出中ノ荷物売方ニ付相談アリ  
色々奔走シタルモ取引出来セス遂ニフレザールカ該荷物ヲ引

受ケ売却

シタル旨聞キ込ミタリ

◎小田柿 一二回取引シタル後ナレハ送荷ヲ為サシムルコト  
ヲ得ン

【二回ノ一 20 b】

◎益田 既ニ一二回取引シタルニ非サヤ

◎小田柿 是迄ノバシフイツクエキスポートランバーコンパ  
ニーハ送荷セシムル見込ナシ故ニ他ノ会社ト取引シタシ

◎北村 コンミツシヨンマーチヤントト取引スルトキハ余リ  
面白味ナカルヘシ

◎小田柿 オレゴンパイント云フモ其実オレゴンニ産スルニ  
非ス尚淺草海苔ノ淺草ニ産セサルカ如シバンクーバー、ピ  
クトリヤ、シヤトル等ノ付近ニ産出スルモノナリ故ニ向後  
ハ本場ト取引スルコトニ致シタシ

◎福井 「ソーミル」ト直接取引スルヨリモ商人ト取引スル  
方船便其他心配ヲ為サシムルニ都合宜シ故ニ矢張バシフイ  
ツクエキスポートランバーノ如キモノヲ相手トセサルヘカ  
ラス

◎小田柿 我社ニテ帆前船ヲ一艘通ハセ積取りノ便ニ供シタ  
【二回ノ一 21 a】

シ

◎益田 帆前船ハ千八百六十年頃ノ商売ニテ今日敏活ヲ貴フ商界ニ適セス又硫黄ト麦粉トノ売買ヲ組合ハセルト云フカ如キモ理屈ハ甚タ立派ナレトモ実行シ難シ若シ往返ノ荷物揃フヘキ見込アリ且船ノ經濟カ立ツナレハ何時ニテモ社船ヲ廻ハスコトヲ得ヘキモ夫レ迄商売ノ進歩スル迄ハ船ヲ用意スルモ其詮ナシ

◎福井 硫黄ト材木トノ組合ハセハ出来ルコトアリ

◎益田 硫黄ヲ送り戻荷ニ材木ヲ積来リ深川ニ囲イ買人ヲ待テ売渡スト云フカ如キ古風ノ商売ニテハ到底不可ナレハ都合好ク組合ハセノ出来ルコトハ稀ナルヘシ

◎小田柿 深川ニテ材木商トモ色々種類ヲ交エ成行相場ニテ送ルコトニ相談略纏リタリ大阪并長崎ニテモ入用ナレハ其時少シノ高二テモ

積合せスルコトニスヘシ

【二回ノ一 21b】

◎寺島 木材関係ニ於テハ茶箱アリ麦酒箱アリ又セメント樽ノ如キモノアリセメント樽ハ一口ニテ二十万樽位ノ注文アルモ名古屋ニテ作ルハ一ヶ月二万位ニ過キス尤モ小口ヲ集ムレハ相当ノ高二上ルヤモ知ルヘカラサレトモ纏メタル高ヲ製造スル会社様ノモノナシ之ニ資金ノ補助ヲ与ヘ会社ヲ

組織セシメ大規模ノ製造ヲ計ラシムル様ニナシテハ如何

◎益田 夫モ一説ナリ兎モ角材木ノ事ニ付テハ巧者(ククロウト)ヲ得テ取調ヲ為サシムルコトトスル方可ナラン

◎小田柿 其道ノ専門家ヲ得ルコトニナレハ桑港ニ於ケル材木ノ商売ニモ大ニ役立つヘシ

【二回ノ二 1a】

◎益田 是ヨリ燐寸ノコトニ付現在ノ有様并将来ニ対スル擴張方針ノコトヲ飯田氏ヨリ承ルコト、シタシ

◎福井 海外支店ニ在ル人ハ大ニ利益ヲ得ルナラム

◎飯田 燐寸八年々輸出額増加シ欧州ヨリ東洋ニ来ル品物ハ日本品ノ為メニ庄倒セラル、勢ナリ而シテ我社ハ仕入地タル内地并販売地タル東洋各港ニ支店ヲ有スルニモ拘ラズ本品ノ取扱ヲ為サ、ルハ如何ニモ残念ナリトノ処ヨリ大阪支店ト支那各港支店ト協議ノ上種々ニ其取扱ヲ初メタル該品ハ取扱ヘハ取扱フ程益々六ヶ敷コトヲ発見ス蓋シ燐寸ヲ販売スルニハ商標カ土台トナルモノニテ需用者ハ其商標ヲ信用シテ之ヲ買取ルモノナリ然ルニ支那人ハ従来久シク此商売ニ従事シ或ハ工場ニ貸金シ或ハ又先約上ヲ結ヒ若クハ又仮約定ヲ為ス等ノ方法ニ依リ製造者

【二回ノ二 1b】

ト関係ヲ付ケ又一方ニ於テ商標ヲ登録シテ其売込ニ努メツ、アルヲ以テ其中ニ入りテ競争スルコトハ中々骨ノ折レル仕事ナリ而シテ我社ニ於テハ既ニ四五年以前ヨリ専用ノ商標ヲ登録シテ之カ売扱メニ尽力シタルモ何分製造方引当ニナラサルヨリ大阪製燧株式会社ニ対シ金三万円を貸渡シ其製品ノ一手販売ヲ引受ケタリ然ルニ海外ノ売行意ノ如クナラス一手販売ノ約定アルモ却テ当社ニ於テ一手ニ販売シ得サル為メ内地売ヲ許容セサルベカラサルカ如キ始末ニシテ現在一ヶ月三千乃至五千函ノ製造中幾分ハ内地売ヲ許シ居レリ乍去又一方ニ於テハ燧寸ノ製造ヲ托スルハ自ラ燧寸製造ノコトヲ詳悉セサルベカラストノ考ヨリ小燧寸会社ノ株券ヲ買入レテ約一万余ヲ出資シ余モ其事業ニ関係シ原料ノ相場ヨリ製造費ノ實際等ヲ取調ヘ見本注文ノ如キハ該会社ヲシテ之

【二回ノ一 2a】

ヲ製造セシメ以テ他ヨリ買入ル、場合ノ参考ニ供シ居レリ斯ノ如キ順序ニテ一通リ陣立テハ出来居ルモ他ニ比シテ我社売出ノ燧寸格安ニ当ラサル為メ往々ニシテ他ノ為メニ販路ヲ制セラシ、ヲ免レス此上ハ仮令少々損失ヲ蒙ルモ売込ニ勉メサルヘカラス然ラスンバ到底此商売ヲ擴張スルヲ得ス依テ前年来海外各支店共協議ノ上良シヤ多少ノ損失アル

モ商標ノ売込ニ努ムルコト、決シ台北、上海、香港、新嘉坡等ノ各店ト力ヲ合セテ本商務ノ進捗ニ従事シツ、アリ幸ニ上海及天津ニテ昨年来少シク販路ヲ見出し時二千三千ノ注文アリ之ニハ専ラ我社ノ商標ヲ売込ム考ナルモ斯クテハ商内ノ範圍狭ク販路ヲ広ムルコト能ハサルヲ以テ余儀ナク他ノ商標品ヲモ取扱ヒ注文ニ応シ其副仕事トシテ我社ノ商標ヲモ売込ムコト、為シ居レリ此他十分売込ミアル商標

【二回ノ一 2b】

モ可成金ヲ出シテ買取ル方針ナルモ意ノ如クニハ相運ハス然レトモ機會ヲ得レハ商標ヲ買取り以テ該商売ノ伸張ヲ計ル考ナリ又燧寸商売ノ傍塩酸加里等ノ原料ヲ取扱ヒ軸木モ亦製燧社ト相談シテ各安物アレハ買取りテ供給シ以テ製品ヲ安く挙ケル工夫ヲ為シ居レリ尚一步ヲ進ムルトキハ軸木ヲ北海道ヨリ買取ルコト、セハ一層製品ヲ低廉ナラシムルコトヲ得ヘク從テ販売上便宜ヲ得ヘシト思考シ折角重役ニ申出サント欲スル所ナリ要スルニ燧寸ハ日本ヨリ東洋各港ニ供給スヘキ運命ヲ有スルモノナレハ多少ノ損失ハ顧ミス十分ニ其伸張ヲ計ル考ナリ海外各支店ニアリテモ其考ヲ以テ十分力ヲ副ヘラレタシ

◎益田 北海道ノ「ドロ」柳ハ容易ニ買付ケ得ヘキヤ

◎平田 買付方ニハ困難ナシ栖原角兵衛氏モ捉捉ニ於テ軸木

ヲ製

シツ、アルモ木色黒ク余り面白味ナキカ如シ

【二回ノ二 3 a】

◎益田 燐寸ノ値段ヲ安クスルニハ手間賃ノ高クナルニ從ヒ  
 手工ヲ廢シ器械力ヲ應用スルコト、セサルベカラズ又軸木  
 ノ原料タルドロ柳モ濫伐ノ結果追々運搬便利ナル場所ニハ  
 品切レトナルヘキヲ以テ今ヨリ十年後ノ計ヲ為サントセハ  
 便利ナル土地ヲ得テドロ柳ヲ種付クルカ若クハ又ドロ柳ア  
 ル場所ヲ買取り置ク等ノ施設モ為サザルヘカラサルヘシ尙  
 ホ一ツ研究ヲ要スルハ支那居留地ニ於テ燐寸製造業ヲ起ス  
 ノ利害如何ニアリ

◎飯田 支那ニ於ケル燐寸製造業ニ付テハ嘗テ取調べタルコ  
 トナシ故ニ詳細ノコトハ述ヘ能ハサルモ今日漢口并上海ニ  
 於ケル燐寸製造所ハ何レモ日本ヨリ箱并軸木ヲ輸入シ又塩  
 酸加里等ノ薬品ハ之ヲ海外ニ仰キツ、アルヲ以テ工賃非常  
 ニ低廉ナルニ非サレハ到底良キ計算

トハナラサルヘシト考フ仮リニ之ヲ薬品ニ見ルモ日本ニテ  
 ハ無税ナルモ支那ニテハ輸入税アリ斯ル次第ナル故支那ニ  
 於テ燐寸製造業ヲ起スモ利益ノ勘定トハナラサルベシ

【二回ノ二 3 b】

◎吳

余ノ曩ニ梧州ニ赴キタル際取調べタル所ニ依レハ廣東  
 ノ内地ニ燐寸製造所三ヶ所アリテ日本人ヲ職工監督者ニ雇  
 入レ其製造法モ日本風ニシ又商標モ日本品模造ナリ而シテ  
 軸木ハ最初之ヲ日本ニ仰キタルモ引合ハサルカ為メ其後広  
 西ノ内地ヨリ黒色ヲ為セル楓ヲ取り寄セテ軸木ヲ造リ居レ  
 リ其他ノ材料ハ凡テ之ヲ日本ニ仰ギレベルノ如キモ横浜ニ  
 テ印刷セシメ先方ニテハ単ニ之ヲ貼付スルノミスクテ梧州  
 ニ在ルモノハ引合ハサルカ為メ事業ヲ中止シ又廣東ノ佛山  
 ニアルモノハ引合ヒタルモ日本人ノ商標ヲ使用シタカ為メ  
 商標主ヨリ領事ヲ經テ總督ニ申込ミ其使用ヲ禁止セシメタ  
 ル為メ是亦事業ヲ中止スルノ已ムヘカ

【二回ノ二 4 a】

ラサルコト、ナリ今日ハ唯一軒ヲ余ス而已又香港ニテ一ヶ  
 所製造所アリタレトモ中絶セリ斯ル有様ナル故若シ支那ニ  
 於テ燐寸製造所ヲ起ストスレハ其原料ヲ支那ニ得ルノ計画  
 ヲ為サ、ルヘカラス

◎益田

燐寸ヲ日本ヨリ支那ヘ輸入スルニ付要スル運賃并輸  
 入税ト軸木ヲ日本ヨリ支那ニ輸入スル【二】欠カ付要  
 スル運賃并輸入税トヲ比較スレハ勿論前者ノ方多額ナルヘ  
 ク又労銀モ一石十円以上ノ米ヲ食スル日本人ト五円内外ノ  
 米ヲ食スル支那人ト同日ノ論ニ非サルヲ以テ苟モ同一ノ

熟練ヲ得ルトセハ支那ニ於テ製造スル方割合ニ当ラサルベ  
 カラス尤モ日本ニ於テ燐寸ノ輸出ハ無税ナルヲ以テ之ヲ南  
 洋ニ輸出スル場合ニハ支那ヨリ輸出税ヲ支払ヒテ積出スヨ  
 リモ割安ナルヘキモ内地売ノ分ハ支那ニ於テ製造スル方割  
 安ニ当ルヤモ知ルベカラズ故ニ支那ニ於テ日本人カ燐寸業  
 ヲ起ス可否ハ研究シ置クコトニ致シタシ

## 【二回ノ二 4 b】

◎**曰井** 昨年支那ニ改革アリタルトキ張之洞カ工業奨励ノ為  
 メ或ル支那人ニ自己ノ管轄地内ニ於テ五ヶ年間燐寸ヲ製造  
 スルノ特許ヲ与ヘ且政府ヨリ保護金ヲモ与ヘル筈ナリシカ  
 政府ハ間モナク顛覆シタルカ為メ保護金ハ沙汰止ミトナリ  
 タルモ特許丈ハ存続セリ当時英國人ニ於テ其権利ヲ得ント  
 奔走中ナリト聞ケリ

◎**福井** 燐寸業ハ瑞典、那威ニ於テ最モ盛ナリ

◎**益田** 原料タル木ニ富ムカ故ナリ然レトモ近年独逸ニ於テ  
 銳意山林法ニ改良ヲ加ヘタル結果燐寸業ノ発達ヲモ致シ日  
 本等ヘモ輸入ヲ見ントスルノ趨勢アリ我國ニ於テモ須ラク  
 山林法ヲ改良シ之ニ備フルノ策ヲ画セスンハ独逸品ノ為メ  
 ニ不遠其販路ヲ侵奪セラ、ルニ至ルベシ

◎**吳** 支那ニ於ケル燐寸製造業ノ発達セサルハ職工ガ燐寸ヲ  
 盗ム為メ計算立タサルニ依ル故ニ若シ支那ニ於テ燐寸業ヲ

起サントスレハ必ス

## 【二回ノ二 5 a】

ヤ其監督ヲ蔽ニセサルベカラズ

◎**福井** 向後勞銀騰貴スルトキハ今日ノ燐寸業ニ改良ヲ加ヘ  
 器械ヲ応用セサルヘカラサルベシ

◎**飯田** 米國ダイヤモンド会社ノ器械図面并予算書等ヲ取調  
 ヘタルコトアリ器械ハ可ナリシモ円軸ナリシヲ以テ東洋ニ  
 ハ売行悪シカルベシ軸木ハオレゴンパインノ切レ端等ヲ使  
 用シ得

◎**益田** 日本ヨリ其道ニ經驗アル者ヲ派遣シテ調査セシメタ  
 シ

◎**飯田** 製燧社ト相談シ燐寸組合ヨリ派出セシムルコトヲ試  
 ムベシ

支那ニテハ紙ニ火ヲ付ケ燐寸ニ代用スル風習ヲ改ムニ非サ  
 レハ燐寸ノ販路ヲ大ニ拡張スルコトハ困難ナリ  
 又大阪ニテ燐寸ヲ造ルニ安クモ十七円二十三錢ヲ要ス然レ  
 トモダイヤモンドノ機械ヲ用ユレハ十五円位ニテ造リ得ヘ  
 ク或ハ十二三円ニテ拳ルヤ知レズ

## 【二回ノ二 5 b】

◎**益田** 其器械ヲ造リテハ如何

表6 [明治32年度 商品売渡高]

年次	上半期	下半期	合計
外国品ヲ日本ニテ売渡高	17,298,952	22,716,656	40,015,608
日本品ヲ外国ニテ同上	12,239,375	13,199,675	25,439,050
日本品ヲ日本ニテ同上	3,775,426	6,267,954	10,043,380
外国品ヲ外国ニテ同上	247,718	484,206	731,924
合計	33,561,471	42,668,491	76,229,962

表7 [商品売渡高3年度対照表]

	32年度	31年度	30年度
外国品ヲ日本ニテ売渡高	40,015,608	38,787,868	33,539,913
日本品ヲ外国ニテ同上	25,439,050	13,404,034	10,431,690
日本品ヲ日本ニテ同上	10,043,380	9,609,848	9,303,515
外国品ヲ外国ニテ同上	731,924	761,178	178,672
合計	76,229,962	62,562,928	53,453,790

◎飯田 出来上リノ見場悪シ最初ハ損失ヲ覚悟セザルベカラズ

◎益田 ドロ柳ヲ軸木ニ用ユレバ可ナラム

◎山口 米国フヒラデルヒヤSage社製ノ燐寸製造器械ハ巧  
 ミニ出来居リ軸木ヲ製シ之ニ薬品ヲ塗付スル等一ニ器械ノ  
 作用ニ依ル殊ニ該器械ノ長所ハ出来上リタル燐寸カ五拾本

ツ、出テ来ルヲ以テ直ニ之ヲ箱ニ詰メ得ルニアリ然レトモ  
 又其欠点ハ薬品ノ付キ方不同ナルノ点ニアリ若シ人アリ  
 「ハケ」ヲ以テ薬品ノ付キ方不足ナル処ヲ補フトキハ此欠  
 点ヲ免カル、コトヲ得ヘシ又此器械ニハ蒸氣ノ作用ニ依リ  
 軸木ノ乾燥セシムルノ装置ヲモ付セリ

◎益田 高辻技師ノ渡米ヲ幸ニ夫等ノ器械ニ付テモ十分取調  
 ヘシムルコトト致スベシ

◎福井 燐寸ノ輸出国ハ貧弱ナリ

【二回ノ二 6 a】

◎益田 仮令貧国ト云ハル、モ更ニ顧ミル所ニ非ス十分其輸  
 出ヲ拡張スヘキノミ

俵昨年度ニ於ケル營業ノ成績ノ取調出来シタル故其大要ノ  
 ミヲ左ニ述フヘシ(詳細ハ考課状ニ譲ル)  
 明治三十二年度商品ニ関スル成績左ノ如シ

【(一)に表6】

本表第一項ヲ日本ノ輸入貿易ノ総額ニ対比スレハ凡一割八  
 分一厘五

【二回ノ二 6 b】

表8 〔決算勘定書科目別売渡高〕

	32年度売渡高	31年度売渡高	30年度売渡高
	円	円	円
綿花、糸、布	36,448,639	20,864,806	20,155,104
石炭	10,219,321	8,243,555	4,630,620
生糸	5,004,339	3,151,398	2,189,240
米	4,770,593	8,756,544	2,419,893
鉱物	3,265,222	2,170,279	2,187,573
農産物	2,976,351	2,507,047	1,378,293
機械類	2,576,316	2,474,073	8,099,631
鉄道用品	2,385,301	5,312,607	4,510,385
水産物	567,475	1,996,143	3,285,803
雑品	8,014,405	6,886,476	4,597,248
合計	76,229,962	62,562,928	53,453,790

〔翻刻注：明治31年度の合計欄の数値は科目別内訳の合計より200,000円大きく、32年度は同じく2,000円大きいのが、原本数値のママとした。〕

(三十一年度ハ一割四歩強) 第二項ヲ輸出貿易ノ総額ニ対  
比スレバ凡一割一步八厘強(三十一年度ハ八歩強)ニ当ル  
尚参考ノ為メ最近ノ二年度ニ対照スルコト如左

〔(ハ)に表7〕

即チ三十二年度ハ三十年ニ比シテ四割弐歩、三十一年ニ比  
シテ二割二歩ノ増率ニ相当ス之ヲ決算勘定書ノ科目ニ従ヒ  
表示スレハ左ノ如シ

〔(ハ)に表8〕

【二回ノ二 7 a】

◎益田 綿布ニ付テハ昨年来共通計算規定ヲ適用シ首部ヲ設  
ケタル結果大ニ本商売ノ発達ヲ致シ今後益進歩ノ見込アリ  
就テハ諸君ノ御参考迄ニ藤野君ヨリ成行ヲ述ヘラレタシ

◎藤野 先ツ綿布ノ取扱高ヨリ述ヘンニ各仕入店ニ於ケル当  
季綿布取扱高左ノ如シ

店名	買方	売方
東京	五六〇九八 円	八一、六三七 円
名古屋	三〇、一六六	一三、八九三
大阪	四五三、四一九	三二一、七〇六

右ノ内東京ニテ取扱ヒタルハ手織木綿多数ヲ占メ其内大部  
分ハ台北ヘ輸送セリ大阪ニテハ主トシテ器械綿布ヲ取扱ヒ  
タル為メ金高巨額ニ上レリ

【二回ノ二 8 a】

又各販売店ニ於ケル綿布取扱高ハ下ノ如シ

店名	買方	売方
台北	七九、四八九円	四七、九一六円
香港	一〇九、九六四弗	一一三、六二九弗
上海	九五、六三一兩	九三、四六八兩
天津	五二、三一八兩	五六、四二三兩
	四、六七七兩	

(但仁川芝罘并營口ハ報告未着)

是ヨリ進ンテ綿布商売ノ概況ヲ述ヘンニ本年ハ取分ケ欧州綿布ノ景況可ナリシ為メ支那人ハ総テ欧米ニ対スル約定ヲ延引シ其結果現物ノ払底ヲ告ケ大ニ日本綿布ノ輸入ヲ企図シ又其当時日本ニ於ケル綿布ノ相場ハ比較的割安ナリシカ為メ大分清国ニ輸出セラレ之カ一ノ広告トナリテ日本綿布ノ真価ヲ認知セラレ

【二回ノ一 b】

其後再度注文入込ミタリ然ルニ我機械綿布ノ産出高ハ僅々三百万円ニ過キササルニモ拘ハラズ支那ニ於テ使用スルモノハ五千万円以上ナレハ単ニ其十分ノ一ダモ不足從テ続々來ル所ノ注文ニ對シ相場ノ沸騰ヲ致シ引続キ支那ノ需用ヲ充タス能ハズ支那ニ於テハ又々欧米綿布欧米綿布ヲ買付クルコトナリ我綿布ハ殆ント忘却セントスルノ傾ヲ呈セリ斯

ル有様ナルヲ以テ日本棉布業ノ發達ヲ画セントナレハ須ラク先ツ我機械織布ヲ増加セシムルノ準備ヲ為サ、ルヘカラス依テ試ミニ我機械織布ハ克ク米國棉布等ニ競争シ得ヘキヤ否ヤヲ取調ヘタルニ今日迄ノ処ニテハ旧來ノ日本紡績系ニテハ到底器械棉布ヲ製織シ得サルコトヲ發見セリ蓋シ當初紡績器械ヲ輸入スルニ當リテヤ專ラ日本棉ヲ以テ十六手又ハ十八手ノ太糸ヲ紡出センコトヲ目的トセリ現ニ東京紡績ノ如キ日本ノ綿問屋ヨリ

【二回ノ一 g a】

日本棉ヲ買入レテ紡績ヲ為スノ目論見ヲ以テ設立セラレタルモノナリ然ルニ武州三州等ノ日本綿ハ紡績ニ適セサルヨリ支那綿ヲ輸入シ以テ印度綿ノ輸入ヲ計リ更ニ進テ米國綿ノ供給ヲモ仰ク程度ニ進ミタルモ各紡績ノ使用スル棉花ハ未タ何レモ織緯ノ極テ短キモノナルヲ免レス從テ之ヲ以テ紡出シタル綿糸ハ手織綿布ヲ製出スルニ適スベキモ機械綿布ヲ製織スルニハ不適當ナリ何トナレハ糸ノ切断スル度合多ク從テ工女ヲ要スルコトモ多ケレハナリ然ラハ米國ニ於ケルト同シク最良ノ紡績機械ヲ用ヒ其原料タル棉花モ最良品質ノモノヲ用ヒ其紡糸ヲ以テ機械棉布ヲ織成スルトセハ如何棉花運賃ノ差、石炭代價ノ差金利ノ差等ヲ見込ムモ工女ノ賃銀非常ニ低廉ナルノ点ニ於テ我織布事業ハ終局ノ勝

利ヲ占ムベシ今米国地方ヲ視察セル人ノ報告ニ依レハ米國  
工女ハ平均一人

【二回ノ二 9b】

ニテ七台ヲ受持チ一週五十四時間ニテ賃銀七弗五十仙ノ趣  
キナレハ之ヲ我貨ニ幣換算セハ約十五円トナリ一時間ノ賃  
金殆ソト二十五錢ニ相当スヘシ然ルニ日本ノ工女ハ一日十  
二時間以上ノ労働ニ対シ平均三十錢ヲ超エサルヲ以テ一時  
間ノ賃銀二錢五厘ニ過キス全然米國工女ノ賃銀ニ比シ十分  
ノ一ノミ此安キ工女ヲ使用シ其技術ハ米國工女ト伯仲ノ間  
ニ在リトスレハ競争上ニ於テハ決シテ敗ヲ取ルノ恐レナシ  
然ルニ從來我國ノ織布会社力損失ヲ重ネ殆ソト工場ヲ休止  
セサルベカラサルカ如キ悲運ニ遭遇シタルモノアルハ畢竟  
原料綿花ノ良好ナルモノヲ使用セサリシニ原因スルモノニ  
シテ小名木川棉布会社ノ如キモ此点ニ着目シ原料ト器械ト  
ノ關係ヲ親切ニ調査シテ以來利益ヲ拳ケ得ルニ至リ又岡山  
紡績会社力盛況ヲ極メ多額ノ配当ヲ為シ得タル所以ノモノ  
モ究竟初メヨリ織布ノ目的ニ適合セル紡績器械ヲ据付ケ原  
料ヲモ精選シタルニ職

因セスバ非ス然リ而シテ近時紡績業者間ニ於ケル一般ノ風

【二回ノ二 10a】

潮ハ紡績器械ヲ増設セハ須ラク瓦斯其他ノ細系タルヘシ否  
ナ細系紡績ヨリモ寧ロ織布事業ニ着手スヘシト云フカ如キ  
傾ヲ示シツ、アリ現ニ下野棉布会社、東京紡績等ノ如キモ  
織布ノ設計ヲ申込来リ其他関西ノ各紡績モ早晚織布時代ニ  
移ルヘキコトヲ予想セルモノ、如ク何レモ如何ナル器械カ  
適當ナルヤ「ノースロップ」ハ最新發明ノ織機ナリトコ  
トナルカ果シテ然ルヤ等ノ点ニ付キ速ニ断定ヲ与ヘラレン  
コトヲ翹望シツ、アル姿ナリ故ニ我社ニ於テハ速ニ欧米ニ  
於ケル新器械ヲ調査シ「ノースロップ」ハ如何果シテ今日  
ノ工業經濟ニ適合スルヤ否ヤ將タ又「プラット」ノ織機ハ  
如何等ノコトヲ審案シテ断定ヲ与ヘ紡績会社ヲシテ抛ルヘ  
キノ指針ヲ得セシメサルベカラズ余ハ信ス欧米ヘ技師ヲ派  
遣シ織機ノ調査ヲ為サシムルコトハ焦眉ノ

【二回ノ二 10b】

急務ナルコトヲ若シ夫レ我社ニシテ機械選定者タルノ名譽  
ヲ荷ハンカ尚ホプラットノ紡機ニ於ケルカ如ク織機ニ於テ  
モ亦唯一ノ供給者トナリ一方ニ於テ紡績業者ヲ満足セシム  
ルト共ニ至大ノ利益ヲ占得スルコト敢テ難キニ非サルナリ  
手織棉布支那輸出ニ就テハ海外支店ト見本ノ授受ヲ為シ大  
ニ研究スル所アリタリ元來手織ハ其品物ノ値段ヨリモ寧ロ  
売込方大切ナリ例ヘハ東京人ハ薩摩飛白、琉球紬等各地ノ

名産ヲ購入シ其価ノ高下ノ如キハ敢テ問フ所ニ非ス要ハ売込ヲ勉ムルト否トニアルノミ台湾ニ於テハ物産会社カ大ニ力ヲ致シタル結果茶木綿ハ当社ノ印ナレハ其印丈ニテ取引出来スル有様ナリ又支那へハ從來木綿縮綿フランネル、綿ブランケット等ノ輸入アリタルカ之ハ日本人カ売り引メタルニ非ス日本ニアル支那人カ本国へ持ち行キテ其売弘ヲ勉メタルモノナリ即

【二回ノ一 11a】

チ木綿縮ハ足利ニ於テ造リ又綿フランネルモ紀州辺ニ於テ西洋品ニ模擬シテ織立テタル処支那人ハ其目新シキヲ見テ之ヲ持ち帰り苦心經營ノ末之カ販路ヲ拡張シタルモノナリ而シテ幸ニモ木綿縮其販路益拡大シ南洋一帶太平洋諸島其他英米ニ迄モ輸出ヲ見ルニ至リ二十七年程度ニ於テ其輸出高百万円以上ニ達シタル処日本工業家ノ通弊ナル粗製濫造ノ結果生地ノ目方ト同量ノ糊ヲ付クルモノアルニ至リ大ニ其声価ヲ損シ輸出額モ頓ニ減少ヲ来セリ又綿フランネルモ各季之ヲ用ユル故甚シキ失態ヲ来サ、ルモ夏季之ヲ用ユレハ直ニ褪色スヘク染方不完全ナル点ハ大ニ信用ヲ落スノ原因トナリ其他ノ手織木綿ノ如キモ亦自ら己ノ頭ヲ刎ネルカ如キ形勢ナリ然ラハ如何ニシテ此弊ヲ救済スヘキカ他ナシ第一ニ信用組合ヲ設立スルニアリ蓋シ此信用組合ハ米國ニ行

ハル、「トラスト」ノ如ク生産超過シテ各自ノ不利益

【二回ノ二 11b】

ヲ醸成スルヲ防クノ主意ニアラス全ク粗製濫造ヲ防キ新販路ヲ拡宏スルノ目的ニアリ今日我國ノ座繰糸ハ一ノ重要貿易品タル所以ノモノハ開明社ノ如キ一種ノ信用組合ヨリ幾十百人ノ手ヨリ挽キ出シタル糸ニ対シ「デニール、フン、光沢等ヲ甄別シ内金ヲ前渡シ其集マリタル同品種ノ糸ヲ荷造シテ出荷スルニ依ルモノニテ若シ這般ノ組合の組織ナクンハ各個人ノ手ニ為リタル座繰品ハ輸出品トシテ今日ノ如キ発達ヲ現ハサ、ルヘシ去レハ手織木綿ニ付テモ亦各地ニ此種ノ信用組合ヲ設ケ同品種ノモノヲ集メテ包装シ一定ノ商標ヲ付シテ輸出ヲ計リ且其値段ノ如キモ新販路ヲ求ムルノ際ナレハ幾分力之ヲ割安ニシ少々ノ損失ヲ忍ハサルヘカラス今夫レ我國ノ木綿縮ハ特有ノ産物ニシテ他國ニ於テ製出セラル、モノアルヲ見ス從テ其輸出額ハ年々増加スヘキ筈ナルニ去二十七年以來漸次減退ヲ来シ遠カラズシテ枯涸ヲ招カントスルノ状アルハ遺憾

【二回ノ二 12a】

千万ノ至リナリ故ニ信用組合ヲ設ケ第一ニ木綿縮ノ輸出ヲ計リ漸次綿フランネル、綿ブランケット、手拭地等ニ及ホ

サハ我國綿布ノ販路ヲ拡張シ得ヘキヤ豪毛疑ヲ容レヌ然レトモ若シ不幸ニシテ信用組合ノ制度ヲ実施スル能ハスンハ行商ノ手ニ依リテ清國ノ内地ニ売込ムノ策ヲ取ルノ外ナシ試ミニ見ヨ日本ニ於ケル木綿商ノ七八分通りハ江州商人ノ手ニ依リテ成立スルコトヲ彼等ハ初ヨリ天秤棒ヲ肩ニシテ木綿ヲ行商シ以テ今日アルヲ致シタルモノニシテ堀留并長谷川町ニ於ケル有力ナル木綿商人ノ大半ハ江州人ナリ此他九州ニ大阪地方ニ所トシテ江州商人ノ跳梁ヲ極メサルナシ彼等ハ実ニ箱根山ヲ踰ユルノ困難ナリシ時代ヨリ天秤棒ヲ荷担シテ東西ニ奔走シ以テ今日ノ素ヲ為シタルモノナレハ此方法ヲ支那ニ推シ及ホシ続々行商ヲ支那ニ派遣シ本部ヲ上海其他ノ居留地ニ置キ深ク支那内地ニ江州商人的

【二回ノ一 12b】

行商ヲ試ミシメハ既往ニ於テ江州商人カ日本ノ木綿業ニ付テ成效セルカ如ク此支那内地ニ於ケル江州商人的行商モ亦大ニ我日本綿布ノ販路ヲ拡張シ得ヘシト信ス  
従来綿布商売ニ付テハ互ニ見本ヲ交換シ売行見込アルモノヲ取調ヘタルニ止レトモ斯ノ如キ方法ニテハ到底事情ノ疎通ヲ計ル能ハス從テ斯業ノ拡張ヲ望ムヘカラス英人カ最初金巾ヲ日本ヘ売込ムニ当リテヤ我國ノ棉布ハ巾一尺ニシテ長ケ二丈八尺ナルコトヲ知ラス二尺五寸巾ノ金巾ヲ輸入セ

リ蓋シ其當時ニアリテハ日本ハ綿布ヲ製織スルニ手工ヲ用ユルヲ以テ若シ自國ニ於テ製造スル機械綿布ヲ輸入セハ大ニ其販路ヲ拡張シ得ヘシト信シタリシナラム此断定ハ大体ニ於テ其正鵠ニ中リシヲ以テ二尺五寸巾ノモノニテハ失敗シタレトモ之ヲ三尺巾ニ改メ遂ニ今日一千万円余ノ輸入額ヲ見ルニ

【二回ノ一 13a】

至リタルモノナリ去レハ我商人ニシテ支那内地ニ木綿ヲ売込マントスルニハ先以テ当業者ヲ支那内地ニ派出シ如何ナル綿布カ最モ売行宜布カルヘキヤヲ調査セシメサルベカラズ從來支那内地ニ赴キタルモノハ官吏政治家等ノミニシテ木綿商人カ深ク支那内地ニ入り木綿ノ取調ヲ為シタルコトヲ聞カススル有様ニテハ我綿布輸出業ノ發達ハ企図シ得ヘカラサレハ向後大ニ視察員ヲ派出シ行商ヲ試ミシメサルベカラズ先達來其向ノ商人ニ此意見ヲ吐露シタル処何レモ大賛成ニテ既ニ旅費ヲ調ヘ支那内地行ヲ申込モノ六人ニ上レリ若シ更ニ此事ヲ木綿ノ産地ニ檄セハ数十人ヲ得ル敢テ難キニ非サルベシ斯クテ此種ノ人々カ支那内地巡廻シテ十分取調ヲ尽シ同地方ニ向キ宜シキ綿布ヲ製織シテ我社ニ之カ売捌ヲ委託スルノ日ニ至レハ始メテ我綿布ノ販路ハ大ニ支那内地ニ拡張スルニ至ルヘケム

## 【二回ノ一 13b】

次ニ何故ニ支那綿布ハ高価ニシテ日本ノ綿布ハ安値ナルヤト云フニ支那人ハ織布ニ拙ニシテ工賃ヲ要スルコト比較的ニ多キカ故ナリ而シテ又江州ノ蚊帳ハ製造粗末ナルモ日本全国ニ其販路ヲ有スル所以ノモノハ江州商人カ之カ売捌方ニ尽力セルノ結果ナリ既ニ日本ノ工女ハ賃銀極メテ低廉ニ且技術モ巧妙ナルニモ拘ハラス日本商人カ江州商人ノ蚊帳ニ於ケルカ如ク綿布ヲ支那ニ売弘ムルコト能ハサルハ遺憾千萬ノ至リナラスヤ故ニ我社ハ一方ニ於テ米國ニ於ケル綿布器械及織布業取調ヘノ為メニ欧米ヘ技師ヲ派遣スルト共ニ一方ニ於テ清國ヘ綿布業視察ノ為メ係員ヲ派遣シ且ツ同一目的ノ当業者ヲ勧誘シテ同行スルコト、シ又一方ニ於テ輸出手織綿布ノ種類ヲ分ツテ信用組合ヲ組織セシメ以テ大ニ斯業ノ擴張ヲ計リ賃銀低廉ナル工女ノ辛苦ニ依リテ織成セラレタル綿布ノ輸出ヲ旺盛ニセサルヘカラス而シテ此信用組合ノコトハ足利地方ノ当業者

## 【二回ノ一 14a】

ニモ話シタル処何レモ大ニ賛成ノ意ヲ表シ組合ノ成立ニ尽力スヘキ旨ヲ約セリ如此世人カ一般ニ共同一致ノ必要ヲ認めタル折柄ナレハ信用組合ノ組織ニハ最モ好時機ナリト信

ス今若シ幸ニシテ組合ノ成立ヲ見ルトセン乎木綿縮ノ生産額ヲ取調ヘ其内輸出カ何程之アルヘキカヲ取調ヘ其額丈ノ製造方ヲ組合員ニ分配シ之ヨリ製造ヲ増減スルヲ得サラシメ分配数量ノ製造出来シタル上ハ生産費以内ノ値段ヲ以テ之ヲ買入レ通帳ニ記入シテ之ヲ渡シ置キ進テ其物品売上ノ

後前貸金ヲ差引キ其残額ヲ配分ス斯ノ如クセハ恰モ自ラ其製品ヲ海外ニ送り且ツ自ラ之ヲ売却スルト同一ノ結果トナリ共同ノ利益ヲ計ルニ於テ最モ便利ナル方法ナリ而シテ此信用組合ヲ組織スルニハ木綿縮ノ広巾物ノ産額ヲ約三百八十万円ト見之カ買入資金トシテ其買上品ヲ担保トシ約五十万円ヲ下ラサル金額ヲ組合ニ貸渡サ、ルヘカラズ然ラサレハ到底此組合ヲ持続

## 【二回ノ一 14b】

セシムルコト能ハサルベシ此事ニ就テハ尚別ニ社長ニ請願スヘキ筈ナリ

当社ノ取扱品ハ台湾并支那ニ輸出スルモノ多数ナルカ其大半ハ既ニ他人カ輸出シ居リタルモノナリ当社ニテハ新規ニ販路ヲ発見シタルハ茶木綿ニシテ台湾地方ヘ大ニ売行クノミナラズ広東地方ヘモ引合フヘキ見込アリ向後此商売ハ益々発達スベシ

朝鮮ヘハ従来日本商人カ多数入り込ミ至ル所ニ日本市街存

立スルノ有様ナレハ手織木綿ノ輸入モ從テ多ク金高約百万円以上ニ達セリ主ニ三河大阪及九州地方ヨリ尺巾ノ白木綿カ入り来リ居レリ此他器械綿布輸入モ尠ナカラス向後益輸入ヲ増加スヘケレハ我々ハ大ニ力ヲ朝鮮地方ニ延ハサ、ルベカラス殊ニ支那綿布ヲ使用スルト日本綿布ヲ使用スルトノ利害得失ハ瞭々火ヲ觀ルヨリモ明カナルモノナレハ支那綿布ハ日本綿布ノ為メ朝鮮市場ヨリ驅逐セラルベシ故ニ我社ニ於テハ第一着歩トシテ朝鮮ノ要港へ

【二回ノ二 15 a】

引合店ヲ設クルコト、致シタシ就中元山津へノ輸入ハ朝鮮全体ノ輸入額ノ五割以上ヲ占ムル趣ナレハ同地へハ是非共引合店ヲ設ケタシ

◎益田 綿布首部ヨリモ只今藤野氏ノ述ヘラレタル所ト同一ノ議案提出セラレ居レリ即チ

第一号 織布器械及織布業取調ノ為メ欧米へ技師ヲ派遣スルノ件

織布器械取調ノ為メニ此度呉服店ヨリ高辻技師ヲ欧米ニ派遣スルコトナリタルヲ以テ目的ヲ達シ得ヘキノミナラス既ニ倫敦紐育両店、申送り取調ヲ為サシメ其報告書ヲ入手セリ故ニ当業者ニ対シ説明ヲ与フルコトニハ差支ナシ

第二号 清国へ綿布業視察ノ為メ係員ヲ派遣スルコト且同

一目的ノ当業者ノ同行ヲ各店ニテ勧誘スル事  
之ハ綿布商売関係アル店カ時々申合セテ係員ヲ派遣スルコトニ致シ

【二回ノ二 15 b】

其時ニ經何スレハ可ナリ別段茲ニ評議ヲ要スル程ノコトナシ

第三号 朝鮮要港へ木綿商売ノ引合店ヲ定ムル事

仁川ニ既ニ大阪支店ノ出張員アリ又元山津へ出張員ヲ派出スルノ要否ハ別ニ「清国、朝鮮、南洋各地方ニ出張員ヲ常置スルノ必要得失及其場所」テフ議案アルヲ以テ其際之ヲ評議スベシ

第四号 輸出手織木綿ノ種類ヲ分ケテ各種信用同盟組合ヲ設立スルコトヲ各店ニテ勧誘スル事

此事ハ深ク研究ヲ要ス

第五号 器械織綿布ノ買持売越額ヲ尚五百俵増加スル事

此事ハ別ニ本会ニ於テ評議スルノ要ナシ

◎寺島 名古屋ニテハ大高ノ産出アルモ一万二万反ノ大数ヲ集ムルコトハ困難ナリ故ニ信用同盟ニ組合ヲ設クルカ又ハ同シ種類ノ織布ヲ業トスル者

【二回ノ二 16 a】

ヲ少シツ、集メ其団体ニ於テハ同一ノ品質ノモノヲ織出ス様ニ為サシムルカ何ントカノ手引ヲ為サ、ルヘカラス或ハ又有力家ニ資金ヲ出サシメ手織木綿工場ヲ設立スルモ一策ナル可キカ要スルニ如何ナル方法ナルトヲ問ハス容易ニ同品質ノ品物ノ集マル工夫ヲ為スコト肝要ナルベシ尤モ今日總テノ綿布業者ノ合同シテ一大信用同盟組合ヲ組織セシムルコトハ容易ニ成就スヘクモアラサルモ小部分ツ、ヲ集合セシムルコトハ強テ困難ニ非ルベシ現ニ綿毛布業者ノ同盟ハ既ニ出来セリ是レ蓋シ該業ニ従事スルモノハ何レモ名古屋市中ニ集合シ居レルカ故其團結モ容易ナリシモノナラム向後ハ一定ノ品物ヲ製出シ其売捌方ヲ当社ニ托スルコト、ナルベシト考フ

◎**福井** 余ハ足利ノ木綿縮紀州ノ綿フランネル東京近傍ノ茶木綿ト云フカ如ク其地方々々ニ依リ一ツツ、合同セシメンコトヲ希望ス其以上ノ大合同ハ素ヨリ別論ナリ

【二回ノ二 16 b】

今仮リニ足利ノ木綿縮ノ合同ヲ計ルトスレハ第一着ニ資金貸与ノ必要ヲ感シ来ル

◎**益田** 内地売ト外国売トヲ問ハス貸金ヲ為サ、ルヘカラサルカ

◎**藤野** 支那地方へ既ニ木綿縮ノ輸出アルモ濠洲地方ノ如キ新規ノ地方へ引合ヲ為スニハ勢ヒ損失ヲ恐レス可成値段ヲ低クセサルヘカラス此損失ハ内地売ノ分ニ負担セシメサレハ到底新販路ノ開拓ヲ為スコト能ハサルヲ以テ内地売ト外国売トヲ問ハス信用組合ハ前貸ヲ為サ、ルベカラズ

◎**福井** 内地売ニモ手ヲ着クベキヤ否ヤニ付研究シタルニ足利ノ産出品中九割ヲ内地向ニシテ外国向ハ一割ニ過キス故ニ内地売テモ我手ニ押ヘサレハ外国輸出ヲ十分發達セシムルコト能ハス

◎**益田** 果シテ然ラハ内地売迄当社ニ取扱フコト能ハス呉服店ヲシテ取扱ハシムルノ外ナシ

【二回ノ二 17 a】

◎**飯田** 内地ノ製品ハ従来ノ経験ニ徴スレハ品質揃ハサルノミナラス期限往々延滞スルコトアリ且原料タル糸ノ相場騰貴スルトキハ辞柄ヲ設ケテ品質ヲ落シ若クハ破約スルコト珍シカラズ之ヲ防ク為メ組合法ヲ設クルコトハ至極可ナルカ如ク思ハルレトモ是迄此点ニ付深く取調ヘタル所ナキヲ以テ是非ノ意見ヲ述ヘ難シ尚篤ト取調フルコト、スベシ

◎**寺島** 只今内地売ノコトニ付御話アリタルカ仮合同盟組合成立後ト雖トモ品質常ニ良好ナルニ限ラス時々検査ノ結果不合格品ヲ生スルコトアルベシ此場合ニハ之ヲ内地ニ二売払

フノ外ナカルベシ

◎益田 外国輸出ノ目的ヲ以テ造リタルモ品質不良等ノ為メ  
別ネタル分ハ内地売ト為スコト実ニ已ムヲ得サルニ出ツル  
モ内地売ノ目的ヲ以テ造リタルモノヲ引受ケ販売スルカ如  
キハ断シテ不可ナリ三井ニ於テハ既ニ呉服店ヨリ内地売ノ  
取扱ヲ為セルニ拘ハラス物産会社カ均シク同地売ノ取扱ヲ

為スカ如キハ不都合此上ナシ

【二回ノ二 17 b】

◎藤野 足利ノ三井銀行ニ於テ融通ヲ与ヘツ、アル商品ノ重  
ナルモノハ即チ木綿縮ナリトノコトナリ又以テ如何ニ同地  
方ニ於ケル木綿縮ノ織立テカ盛ンナルカヲトスルニ足ル

◎益田 信用組合ヲ設ケシメ内地売ハ呉服店之ヲ引受ケ海外  
売ハ当社之ヲ引受クルコト、セハ随分面白カルヘキ歟

◎飯田 此他綿布ノ小問題アレトモ月末清国各店ノ綿糸取扱  
者ヲ大阪支店ヘ集メ協議会ヲ開ク考ナレハ其時ヘ譲ルコ  
ト、シテハ如何

◎益田 夫レニテ可ナリ此他輸出品ニ付何カ見込アルモノナ  
キヤ

◎寺島 麦稈真田并花筵ハ如何

◎飯田 麦稈真田并花筵ハ漸次支那ノ製品ニ庄倒セラレント  
スルノ傾キアレハ当社ニ於テ骨ヲ折ル丈ノ価値アルヤ否ヤ

疑ハシ

◎益田 若シ紐育支店ニ於テ手カ廻ハルナレハ取扱ヒ見度モ  
ノナリ

【二回ノ二 18 a】

◎呉 資力アルモノカ力ヲ副ユルトキハ日本ノ製造高ハ増加  
スベシ

◎益田 岡山地方ニテ蘭ヲ作ルトキハ肥料ヲ要スルコト多キ  
モ而モ一反歩ニ付二百円ノ收穫アリ寒中田地ヲ踏ミ蒔付ヲ  
為シ米ヲ植エルニハ少シク後レル位ノ時期ニ刈入ヲ為ス而  
シテ其跡ニ米ヲ種ユレハ四俵ノモノ三俵ニ減スルモ尚收穫  
アリト云フ故ニ蘭ノ耕作ハ農家ニ取り極メテ利益ニシテ蘭  
筵ノ販路拡張スルコトハ彼等ニ取り非常ノ仕合ナリ九州地  
方ニ於テモ亦之ヲ耕作スル次第ナル故先年紐育ノ岩原支  
店長婦朝ノ節本品ノ取扱ヲ始ムルヤ如何ト問ヒタル所當時  
生糸ノミニテモ困難アル商売ニテ其上器械棉花等ノ商売モ  
アリ手廻ハリ兼ヌル旨ヲ以テ取扱ヲ辞シタルニ依リ其儘ニ  
打過キタリ

◎呉 輸出貿易拡張ノ事ハ当社ノ大方針ナレハ仮令紐育支店  
ノ人員

【二回ノ二 18 b】

ヲ増加シテモ此商売ヲ開始スルコトニシテハ如何聞ク所ニ依レハ蘭ハ支那ノ方可ナルモ柄ハ日本ノ方可ナリ而シテ之ハ長ク用ユルモノニアラサル故模様奇麗ニシテ価廉ナル方売行宜シカルベシト云フ

◎益田 手廻り兼ヌルニモ拘ハラヌ強テ其取扱ヲ始ムルトキハ却テ在来ノ商売ヲモ退歩セシムルノ恐レアリ何レ紐育ヘハ羽二重商売ノ為メ人ヲ増加スヘキコト、ナルヘキヲ以テ其上ニテ花筵ノ取扱モ出来レハ始ムルコト、スベシ

◎福井 兎毛角取調ノ上着手スヘキ品物ノ中ニ入レ置クコトニ致シタシ

◎寺島 花筵ハ桑港ニテハ如何

◎小田垣 桑港ニテハ売行ナク南方テキサス地方ヘ送ラサルベカラズ且本品売込ニ付テハ常ニ売手ヲ廻ラセルコト必要ナルノミナラズ其税金モ一ヤードノ目ノ数ニ依リ異ナリ取扱方中々面倒ナリ

◎益田 輸出スヘキ品物ニ付テハ尚種々アルヘキモ姑ク茲ニ論及スルコトヲ止メ

輸出商売拡張ノ大方針定リタルニ付テハ特ニ輸出部ナルモノヲ設クルカ將タ又東京、大阪、ノ雜貨掛中ニ輸出ニ専従スル掛ヲ置クカニ付御意見ヲ承リタシ蓋シ是迄ハ雜貨掛中

【二回ノ二 19 a】

ニ於テ輸出入双方ヲ取扱ヒタルモ斯ノ如ク輸出入ノ一掛ニ属セシメ置クトキハ勢取扱方困難ナル輸出ノ方等閑ニ流レサルカ如何別シテ大阪神戸并東京ノ意見ヲ承リタシ

◎飯田 余ハ今日輸出部ナルモノヲ設ケ特ニ一部ノ仕事トシテ輸出ニ力ヲ入レルコトニセハ素ヨリ十分仕事モ発達スヘシト考フルモ若シ斯ク如クセハ其種類非常ニ繁雜ニ渉ルベシ現ニ今日ニアリテモ紙綿布其他諸種ノ雜貨アリ又綿布ノ如キハ綿花部ノ統轄ニ属シ生糸ハ横浜米ハ兵庫ノ取掌ニ属スト云フカ如ク商売々々ニ依リテ重モナルモノノハ部力分レ居ル故今日此等ヲ併合シテ輸出部ヲ設ケンヨリモ寧ロ各店

【二回ノ二 19 b】

ニ輸出掛ヲ設クル方便宜ナラン歟大阪支店ニ於テハ雜貨掛ヲ輸出輸入ノ両掛ニ分課セシカトモ考ヘタルコトアレトモ輸出雜貨ノ商売ハ多クハ多少損失ヲ醸スカ又ハ損失ナキモ利益ヲ得ルコト未タ難出来モノ多数ナレハ之カ取扱ヲ為ス者ノ身ニ取リテハ何程奔走スルモ利益挙ラストアリテハ大二張合ナク又他掛ヨリモ同一ノ感ヲ抱カレ不知不識精神ノ粗喪ヲ来ス事ナシトセス依テ品物ニ依リテ掛ヲ分チ燐寸ト金物ヲ組合ハス等可成取扱者ノ力ノ落ちサル様工夫シテ只今実行シ居レリ何レ往ク々ハ輸出ト輸入トヲ分チ又輸出中ニ在リテモ其種類ニ依リ掛ヲ分ツヘキ時来ルヘキモ今日ハ

未タ輸出部ヲ特設スルノ必要ニ迫ラスト考フ

◎**呉** 輸出ヲ盛ナラシムルニハ之カ売捌ニ当ル海外店ノ力ニ俟タサルヘカラズ而シテ輸出部ヲ設ケテ各店ニ刺衝ヲ与ヘ時ニハ東洋并欧米各店ヘ

【二回ノ一 20 a】

モ輸出部ヨリ人ヲ派出シ輸出品売捌ノ状況ヲ視察督励セシムルコト、セハ大ニ効果ヲ奏スルナルベシ

或ハ輸出ヲ別掛トスルコトハ困難ナリトノ説モアランカ余ハ困難ナル丈夫丈ケ担当者ノ技倆ヲ奮フヘキ余地アル次第故何人モ喜ンテ此難局ニ当ランコトヲ望ムヘシト考フ

◎**益田** 本部参事中ニ輸出ヲ督励スル掛ヲ置キ社長ノ目代トナリテ其督励ニ従フコト、スルノ案ハ至極面白シト考フ

◎**上田** 一ノ検非違使ナリ至極宜シカラム

◎**小田垣** 輸出部ヲ作レハ輸出掛ヲ廃スルカ又輸出掛ヲ設クレハ輸出部ヲ廃スルカ何レカ一途ニ定メサルベカラス然ラサレハ海外等ヨリ書状ノ往復ヲ双方ヘ為スベキコト、ナリ氣脈ノ疎通ヲ欠クコトナシトセス

◎**呉** 輸出部ハ輸出ノ督励ニ当ルノミニテ自ラ商売ヲ為スニハ非ス

【二回ノ一 20 b】

故ニ斯ル心配ナシ

◎**臼井** 参事中ニ勸商掛ナルモノアリ之ヲシテ輸出督励ノ事ヲ取扱ハシムレハ可ナラン

◎**益田** 特ニ輸出督励掛ヲ置ク方宜シカルベシ

◎**福井** 燐寸又ハ銅等ノ如キ在来ノ商売ニ尽力スルコトハ輸出部ノ督励ナキモ各店之ヲ能クスベシ然レトモ羽二重ノ商

売ヲ始ムルトカ又ハ花筵ノ商売ヲ始ムルト云フカ如キ新商務ハ之ヲ各店ノ成行ニ放任スルヲ得ス故ニ輸出部自ラ之カ開始ニ当ルコト、シテハ如何

◎**益田** 輸出督励掛ヲ設ケ諸方ヘ出張シテ輸出商売ノ督励ヲ計ルモノトセハ専門ニ此事ニ従事セシムヘク他ノ商売ヲ兼担セシムルヲ得サルベシ

◎**飯田** 銅ノ商売ヲ為スモノニ鉛又ハ錫ノ引合ヲモ為サシムルトキハ取引先

【二回ノ一 21 a】

同一ニテ太甚便利ナリ然ルニ銅ハ輸出ニシテ鉛并ニ錫ハ輸入ナレハ之ヲ同一ノ掛ニ取扱ハシムルヲ得ストナレハ人手ノ少キ店ニアリテハ太甚不便ナリ殊ニ如此掛ヲ小区分スルトキハ一方ニ於テハ用事ニ忙殺サレ居ルニ一方ハ用事ナキ為メ遊ヒ居ルト云フカ如キ結果ヲ来スベシ

◎**益田** スタツツヲ融通セシムレハ可ナラム

◎福井 米國貿易商会ハ輸出部ヲ分課シ居レリ

◎呉 外国商館ハ大抵皆然リ

◎飯田 銅ハ一ヶ月二三回ノ引合アルノミ然ルニ棉糸モ銅モ  
刷子モ皆一ノ輸出掛ニ屬セシムルトセハ銅ノ引合アル毎ニ  
遽ニ相場ヲ聞キ廻ハラサルヘカラス若シ之ヲ鉛錫等ノ同一  
ノ掛ニ屬セシメ置クトキハ金物ノ掛員ハ常ニ銅ノ相場ニモ  
注意シ居ル故ニ大ニ便利ナリ

◎福井 夫レハ銅ノ商売閑ナルカ為メナリ若シ銅掛ヲ置クト  
仮定スレハ唯

【二回ノ二 21 b】

茫然ト注文ノ来ルヲ待ツ訳ニ行カサル故自然東奔西走其商  
売ノ拡張ヲ計リ其結果大ニ該商売ノ發達ヲ見ルヘキヤモ知  
ルベカラス東京營業部ニ於テハ金物ノ取扱ヲ分ツテ二トシ  
鉄ノ掛ヲ特設セリ其結果鉄掛ノモノハ諸方ヲ廻リテ鉄ノ事  
ヲ聞取り来リ為メニ鉄商売ノ助長ニ資スルコト尠少ニアラ  
ス若シ之ヲ分設セサラン乎斯ク迄ノ發達ハ見サルベシ

◎飯田 鉄ト他ノ金物トハ大ニ趣キヲ異ニセリ加之相当ノ商  
売高ニ達シタルモノハ其掛ヲ分設スルモ差支ナキモ未タ商  
売高ノ極メテ小ナルモノヲ分課スルカ如キハ其可ヲ見ス

◎益田 大阪ノ輸出品ハ如何ナルモノナルヤ

◎飯田 燐寸棉布（棉糸ハ棉花部ニ屬ス）硫酸、銅、鉄、ラ

ムネ瓶、其他種々ナリ

【二回ノ二 22 a】

◎益田 輸出掛ヲ區別シテ輸出雜貨ノ取扱ヲ為サシムルコ  
ト、シ而シテ銅ノ如キ会々取引アルニ止ルモノハ他ノ掛ヲ  
シテ取扱ハシムルモ可ナリ

◎呉 特ニ輸出掛ヲ設ケラル、トキハ一ヶ年ノ後ニハ必スヤ  
余程ノ進歩ヲ見ルナラム

◎益田 輸出雜貨掛テフ名義ヲ用ヒ綿布ハ従来ノ通り棉布掛  
又綿糸ハ棉花掛ノ所掌ニ屬セシメ置キテ差支ナシ

◎福井 輸出ノ商売ハ日本ニテ買ヒタルモノヲ外国ニテ売捌  
クモノナレハ日本ニテ仕入方注意スヘキハ勿論外國ニテハ  
大ニ其売り方ニ勉メ貫ハサルベカラス若シ売子不足ナレハ  
本店ヨリ人ノ差廻ハシヲ得ルコト、シ十分売方ニ尽力セラ  
レンコトヲ望マサルヲ得ス又内地ニ於テモ仕入方ハ極メテ  
困難ナルモノナレトモ十分力ヲ致スベキハ論ヲ俟タズ

◎益田 先方ヨリ謂ヘハ日本ニテ仕入方高キ故売捌キ困難ナ  
リトノ苦情

【二回ノ二 22 b】

モアルベシ兎毛角内地ニテハ安値ニ仕入レ又海外ニテハ販  
路ヲ見出し輸出商売ノ發達ヲ期セサルベカラス

之ヲ要スルニ会社ノ大方針タル輸出貿易ヲ拡張スルニ付テハ費用ヲ吝マス取調員ヲ海外ニ派遣スルコトモ為スヘク又輸出督励掛ヲ設ケテ各店ニ刺激ヲ与ヘシムルコトモアルベシ各店ニ於テ輸出ノ商売ニ当ル人々ハ其方針ヲ以テ進ムコト、承知セラルヘク又販売店ニアル人々モ其趣旨ヲ詳悉シテ十分販売方ニ努力セラレタシ

〔第二回了〕

# 三井物産「内地支店長会議々事録」(明治三三年) 第三回・ 第四回

吉川 容・大島久幸

前号に引続き、三井物産「内地支店長会議々事録」(明治三三年)の第三回(第三日目)分と第四回(第四日目)分を翻刻掲載する。第三回分の一部を吉川が、第三回分の一部と第四回分を大島が翻刻したうえで、両名が二回分を通した原本照合を行った。また原本照合に当っては、秋葉直子氏ならびに鈴木邦夫氏に御協力いただいた。

## 凡例

一、原則として漢字は通用の字体を用いたが、固有名詞や慣用句などで原本通りとした場合もある。

一、合字はカタカナに改めた。

一、「( )」内は翻刻者による注記である。

一、判読不能の文字については□で示すか、「( )」内で注記した。

一、原本では発言者名を一字ないし二字分上げて記載しているが、翻刻では冒頭に「◎」を付加したうえで発言者名をゴチで表記した。

一、表9は原本では本文中で横に寝かされた横書き罫線無し

の表であるが、収録の都合上独立した横書きの表として作成した。表の番号は翻刻に際して付したものである。誌面の都合により原本での当該箇所に近い位置に配置し本文中に原本
---

での位置を注記した。

一、原本の丁の区切りを【】内に示した。原本での丁数は用紙右下（原本は袋綴製本されているのでその状態では左頁のど側下）に漢数字もしくは算用数字で記されており、その数字は会議各回毎（回によってはさらに午前・午後と思われる区分毎）に更新されている。参照の便を考え【】内には回数（午前・午後）の区分がある場合は「一」「二」で区分と丁数（算用数字）を記しさらに用紙前半（袋綴じでは左頁となる）の場合は「a」後半（袋綴じでは次の右頁）の場合は「b」を付した。

本史料の翻刻を許可くださり諸々ご高配を賜った公益財団法人東洋文庫に感謝申し上げます。本史料の所在を翻刻者にご教示くださり翻刻にあたってご助言をいただいた鈴木邦夫氏に記して御礼申し上げます。

〔翻刻原本 公益財団法人東洋文庫所蔵「三井物産」内地支店長会議事録〕請求記号六四二〕

第三回ノ一 一月二十日

【三回ノ一 1 a】

◎上田 昨日ニ引続キ会議ヲ開クヘシ本日は正午頃迄専務理事

事差支アリ出席無之故余ニ於テ暫ク会長席ヲ汚スヘシ

先ツ左ノ議案ニ付御協議致スヘシ

一、清国、朝鮮、南洋各地方ニ出張員ヲ常置スルノ必要得  
失及其場所

清韓兩國ノ各開港場ニ於ケル貿易ハ近來欧米各國ノ最モ注目スル所トナリ各自銳意其設備ヲ為セルノ際ニ当リ我社ハ昨年仁川、芝罘、厦門及ヒ漢口ニ常置出張員ヲ置キ商売ノ拡張ヲ計レリ而シテ今後モ尚各要地ニ出張員ヲ派遣シテ益々業務ノ伸張ヲ計ラントス即チ遼東半島ニ於ケル新開港地ノ商売、元山津ニ於ケル北部朝鮮露領西比利亞ノ貿

【三回ノ一 1 b】

易亦不遠米國ノ版図トシテ種々ノ新事業起ルヘキ馬尼刺等ハ我社カ今日ヨリシテ出張員ヲ常置シ相当ノ業務ヲ經營スヘキ地ナリト信ス之常置員ナルモノハ即チ当会社ノ代表者ニシテ其一挙一動ハ直チニ会社全体ニ関スルモノナレハ其

出張員ノ責任ハ実ニ容易ノモノニアラス從テ其派遣スヘキ人物ノ選択及存廢ハ大ニ慎重ヲ要スルヲ以テ其場所及其取扱フヘキ商務ノ輕重ヲ講究セント欲ス

既ニ御承知ノ如ク清國ニ於テハ厦門并芝罘ニ出張員アリ又漢口ニ於テモ鉄、石炭并棉糸ノ商売ノ為メ藤原氏ヲ出張員トシテ常置セシムルコトナリタリ此他ニ尚出張員ヲ置くノ必要ナキヤ又朝鮮ニ於テハ既ニ仁川ヘ藤木秀次郎氏ヲ出張セシメアルモ此外ニ尚元山津ヘモ出張員ヲ派出セシメントノ

【三回ノ一 2 a】

内議アリ又遼東半島ヘハ過般長崎支店長松尾氏ヲ出張視察セシメタル結果今日ハ未タ目星シキ金額ノ注文ヲ引受ケ得ラレサルモ向後大ニ見込アリ即チ今日ハ少々面倒ニテモセメント石炭等纏リタルモノ、外セメント樽瓦ノ如キ其他小口雜貨ノ如キ何レモ親切ニ取扱ヒ置ケハ大ニ先方ノ氣受ヲ宜クシ信用ヲ増加シ他日大高ノ商売ヲ掌握スルノ階段トナルヘシト考フ故ニ旅順口大連灣地方ヲ兼ネテ出張員ヲ常置スルコトニ決シタリ右ハ既ニ出張員ノ派出シアルモノ及派出ニ決シタルモノニ付テ述ヘタルモノナルカ此他ニ尚出張員ヲ派出セシムルノ必要アル場所ナキヤ御考ヲ承リタシ

◎飯田 元山津二人ヲ派出スルコトハ略ホ御決定ニ相成リタ

ルヤ

◎上田 此点ニ付テハ追々諸君ヨリノ御申出モアリ旁派出ノ必要アルヘシト

ノコトニ大略内決セリ

【三回ノ一 2b】

◎北村 元山津ハ未タ充分ニ開ケ居ラス金融機関ノ設備ナキハ勿論陸上ケ等ノ工合モ面白カラスト聞キ及ヒ居リタリ此辺ハ御調付キ居レリヤ

◎上田 機関ハ備ハレリト云フヲ得ス船舶ハ浦塩斯德行ノ郵船カ寄港ス蓋シ此機関ノ備ハラサル丈ケ夫レ丈ケ面白味モ多キ次第ニテ若シ機関備ハリ居ルトキハ何人ニテモ自由ニ往復シテ商売ヲ為スヘキモ機関備ハラサル為メ從來余リ商業上ノ交通ナシ從テ棉系ノ売込等案外多望ナルヘシト考フ

◎福井 日本ヨリ朝鮮ニ輸出セララル、棉布ハ合計百二十万円ナルカ其七分通りハ元山津ヘ輸送セララル、モノナリ從テ元山津ノ商売ヲ掌握スルトキハ朝鮮ニ於ケル日本棉布ノ商売ノ關鍵ヲ握ルコト

トナルヘシ且愛知県ノ人ニテ是迄元山津トノ棉布商売ニ熱心從事シ居リタル人カ物産会社ニ依頼シテ一層其商売ノ拡

【三回ノ一 3a】

張ヲ計リタシトノ申出ヲ為シタリシ旨耳衆ニセリ旁以テ元山津二人ヲ派出スルコトハ必要ナリト考フ

◎上田 仁川ニ藤木氏出張以來棉系商売上大ニ功能アリタリトノコトヲ聞テ「二字抹消カ」而シテ釜山ヘハ兵庫ヨリ先年石油ヲ売込ミ米ヲ買取ル為メ人ヲ派出シ居リタルモ其後米ノ買入ヲ止メタルトキ出張員モ引返シタリ然ルニ釜山ヨリ東側ニテ元山津地方二人ヲ派出シ置カサレハ棉系布商売上到底充分ノ仕事ヲ為シ能ハストノ考ヲ起シ同地ニ出張員派出ノ事ヲ内決シタル次第ナリ然レトモ朝鮮貿易ニ就テハ大阪支店最モ関係深キ故充分飯田氏ノ御意見ヲ承リタシ能ハサ

【三回ノ一 3b】

ルモ今日迄ノ処ニテハ朝鮮ノ貿易ハ總テ仁川ヲ通シテ為シ得ヘシト信シ居リタリ即チ畜ニ棉系布ノ商売ノミナラス更ニ一步ヲ進メテ米又ハ豆ノ商売ヲ為ストスルモ仁川ニ於テ之カ取扱ヲ為シ得ヘキモノト考ヘ居リタリ然ルニ福井氏ノ話ニ依レハ棉布ノ輸入額中七分ハ元山津ニ入ルモノナリトノ事故左ル重要ノ関係アル所ナレハ勿論同地ニ出張員ヲ派遣スルカ又ハ代理店ヲ設ケテ連絡ヲ付クルコト必要ナリト考フ

◎呉 余毛朝鮮ノ事ニハ詳カラサルヲ以テ詳細ニ意見ヲ述フルコト能ハサルモ大体ニ付テ一言センニ從來日本人ハ朝鮮ヲ外国視シタルノ嫌アレトモ朝鮮ハ実ニ政治上并商業上密接ノ関係アル所ナレハ之ヲ日本化セシメ単ニ棉糸布ノミニ止ラス其他ノ物品ニ付テモ凡テ日本品ヲ嗜好セシムル様仕向ケサルヘカラス從テ出張員ヲ朝鮮ニ増派

スルコトニハ大体ニ於テ賛成ス

【三回ノ一 4 a】

◎上田 元山津へ鉄道連絡スルカ又ハ汽船ノ往復頻繁ナルトキハ仁川ヨリ商売ヲ営ムコトモ出来得ンモ今日ハ交通極メテ不便ナレハ棉糸布商売ノ為メニモ元山津へ人ヲ派スル方可ナリ又前公使加藤増雄氏ノ説ヲモ叩キタルニ釜山仁川等ニハ日本人沢山ニ入込居リ他国ノ開港場へ入込ミタルカ如キ感ナリ恰モ我国内ニ在ルカ如キ心地ス即チ居留地ヲ歩メハ腰ノ曲リタル老嫗ヤ垂髻ノ子供アリ一見日本内地ニ異ナラス然レトモ資産家其他有力ナル商人ニ乏シク多クハ一獲千金ノ目的ヲ以テ渡航シタル者ナレハ其行動甚タ感心スヘカラルモノアリ為メニ朝鮮人ハ強チ日本人ノ来航ヲ厭ハサルモ去リトテ勿論歓迎セス殊ニ甚タ不都合ナル事ニハ時々詐欺手段ヲ以テ朝鮮人ヲ苦シマシムルモノアリ為メニ信用ヲ失墜スルヲ免カレス之

【三回ノ一 4 b】  
ニ反シテ米国人其他ノ外国人ノ有様ヲ見ルニ大抵相当ノ資産家ニテ其談話ニモ夫々憑拠アリ有望ナル事業ニハ資金ヲ投スルヲ惜マス自然朝鮮人ハ外国人ヲ信用シテ日本人ヲ信用スルコト薄シ夫ノ人參商売ニ付テモ日本人ノ遣リ方ハ甚タ面白カラス其為メ一時日本人ノ手中ニ取メ得タリシ本商売モ再ヒ日本人ノ手ヲ離レントスルノ傾アリ又朝鮮皇室ニ於テモ有力ナル人來リ着実ナル事業ヲ経営セントナレハ隨分其筋ノ人ヲシテ耳ヲ傾ケシムル迄ニ漕キ付クルコトハ容易ナリ故ニ三井家ノ如キハ須ラク立派ナル人ヲ平城辺ニ常置セシムルコトニ致シタシ決シテ失望スルカ如キ結果ヲ持来スコトハナカルヘシ云々ノ談話モアリタリ之ヲ要スルニ大体ニ於テ人ヲ派出スルコトハ決シテ不利ニ非ス棉糸并棉布ノ取扱ノミトスルモ決シテ商売ノ不足ヲ憂ヘサルヘシ故ニ差向キ元山

【三回ノ一 5 a】

津ニハ出張員ヲ派出致度考ナリ

◎飯田 呉氏ノ説ノ如クセハ朝鮮并支那ノ何レノ地方へ人ヲ出スモ可ナリトノ論結トナルカ勿論人ヲ出セハ出シタル丈ノ事ハアルヘキモ一時ニ各地方ニ出張員ヲ派出シ得ヘキモ

ノニアラス殊ニ一時二人ヲ得ルコトハ非常ニ困難ノ次第ナレハ出張員ヲ派出スルニハ先以テ最モ見込多キ場所ヲ先ニセサルヘカラス大阪辺ノ俚諺ニ朝鮮商売ヲ三商七盜ト云フコトアリ即チ七盜ニアラサレハ商売成立タサルヲ云フ如此ハ固ヨリ小商人ノ事ニシテ堂々タル物産会社ノ仮リニモ念頭ニ浮フルコトサヘ為スヘカラスルモノナレハ這般ノ商人ト対峙シテ確實ナル營業ヲ為スコトハ非常ニ困難ナリト云ハサルヘカラス現ニ仁川出張員ノ如キ相当ノ利益ヲ挙げ且商売高モ可ナリニアリト云フ迄ニ進歩スルハ容易ノ業ニ非スト思惟セラル斯ル有

【三回ノ一 5b】

様ナルヲ以テ朝鮮二人ヲ出スニ当リテハ元山津ナルト將タ新開港場タル木浦馬山浦等ナルトヲ問ハス十分ノ取調ヲ為シタル後ナラテハ手ヲ下シ難シト考フ何カ參事ニ於テ朝鮮貿易ニ付キ取調ヘラレタルモノアレハ承リタシ

◎**白井** 朝鮮貿易ニ付テハ參事ニ於テモ別ニ取調ヘタルモノナシ但先年服部山本兩氏出張ノ節取調ヘタル報告書アリ之二領事ノ報告ヲ參酌セハ大要ヲ知悉シ得ヘシ  
元山津ト平壤ト何レカ商売上見込アルヘキヤ

◎**上田** 平壤モ勿論見込アルヘキモ仁川京城ヨリ距ル遠カラス交通亦容易ナルヲ以テ既ニ商人ノ入込ミタルモノ多ク余

リ面白キ商売モナカルヘシ反之元山津ハ交通不便ニシテ何人モ未タ余リ手ヲ下サ、ルノミナラス棉糸布ノ商売ハ朝鮮中第一位ヲ占ムル

【三回ノ一 6a】

ヲ以テ若シ出張員ヲ派出スルトセハ元山津コソ然ルヘシト考ヘタル訳ナリ併シ尚何レカ最モ見込アルヘキヤ調査審究ノ上決スルコトトナスヘシ

◎**遠藤** 元山津ニハ取引先一二軒アリ積送ルモノハ石油ニシテ先方ヨリ輸入スルモノハ大豆ナリ大豆ハ朝鮮中ニ於テ最モ多ク元山津ニ出廻ハルモノニシテ岡崎八町味噌ノ原料ハ元山津ノ大豆ニ限レリ故ニ同地ニ常置員ヲ派出セラル、トキハ棉糸商売ノ傍大豆ノ取扱ヲ為スコトヲ得ヘク又元山大豆ノ取扱ヲ為スカ為メ牛莊大豆ヲ売込ムノ手蔓トナルコトモアルヘシト考フ三州ノ岡本八左エ門氏ハ帆前船ヲ以テ元山津トノ商売ヲ營ミ往航ニハ金物、棉布、石油等ヲ積行キテ復航ニハ大豆、沙金并牛角等ヲ積來リ居レリ大豆ハ即チ八町味噌ノ原料トシテ売込ムモノニテ注文常ニ幅濶シ却テ注文二応シ切レサル程ナリト云フ

【三回ノ一 6b】

◎**寺島** 岡本氏カ最初棉布ヲ売込ムニ当リテハ大ニ辛苦ヲ為

シタルモ兩三年間勉強ノ結果追々其販路ヲ拡張シ今日ハ一  
ヶ年十五万疋即チ三十万反ノ棉布ヲ売捌ク趣ニテ岡本ノ商  
標ニテ通ル迄ニ進ミタリト云フ

◎長谷川 從來会社ニ於テ出張員ヲ派出スルニハ先以テ其地  
二人ヲ出張セシメテ視察ヲ遂ケシメ其報告ニ基キ果シテ見  
込アルコトヲ確カメタル上初メテ出張員ヲ常置セリ蓋シ出  
張員ハ会社ヲ代表シテ仕事ヲ為スモノナレハ其行為ニ付テ  
ハ会社自カラ責任ヲ帯ヒサルヘカラス從テ出張員派出ニ付  
テハ須ラク慎重ノ注意ヲ用ヒサルヘカラス然ルニ元山津へ  
ハ棉布類カ沢山行クソウナリト云フカ如キ抛所ナキ薄弱ナ  
ル理由ニ依リテ出張員ノ派出ヲ決スルコトハ大早計ニアラ  
サルカ殊ニ或ル人カ該地方トノ商売ヲ為シテ結構ナル旨申  
居

【三回ノ一 7a】

リタリトテ他ニ是ヨリ一層見込アル場所之アルヘキヤモ知  
ルヘカラス勿論朝鮮人ハ総テ木綿ヲ着用スル人種ナレハ同  
地ニ対スル商売ハ固ヨリ着目スヘキモノナルモ其仕事ノ難  
易并商売ノ大小等ヲ深く考査スル所ナカルヘカラス故ニ朝  
鮮へ出張員増遣ノ事ハ釜山及元山津ノ実情ヲ充分視察調査  
シタル上ニ御決定相成リテハ如何

◎上田 実ハ其辺ノ御意見モ承知シタキ為メ御諮問ニ及ヒタ

ル次第ナレハ尤モナル御意見トシテ聞き取り置クヘシ  
次ニ清國ノ方へ移ルヘシ

◎福井 余ハ一体商売ヲ為スニハ可成其土地ノ人ト直接取引  
ヲ為ス方便利ニシテ且実効ヲ奏スルコトモ多シト考フ例へ  
ハ日耳曼人又ハ亜米利加人カ商売ヲ為スニ付テモ皆然リ而  
シテ土地ノ者ト直接ニ商売ヲ開キ一廉ノ商売トナリ支店又  
ハ出張所ヲ設ケ然ルヘシ

【115a】

【三回ノ一 7b】

トノ目途立チタル上ニテ初メテ店舗ヲ設クヘシ乍去清國ト  
朝鮮トハ殆ント日本内地同様ト考ヘテ取引ヲ為スヘク從來  
恰モ外国ノ如ク見做シタルハ其當ヲ得ス即チ清國又ハ朝鮮  
トハ直接ニ取引ヲ為サントスルモ可然引合先ナキヲ以テ広  
ク出張員ヲ差出シ取引ノ衝ニ當ラシムヘシ反之歐米ニ対シ  
テハ可成其土地ノ商人ト直接商売ヲ開キ愈必要ニ迫ル迄ハ  
人ヲ常置セシメ若クハ支店出張所等ヲ設クルノ要ナシト考  
フ

◎上田 御氣付ハ尤モニテ当社ノ方針モ亦容易ニ店舗ヲ開カ  
ス前年香港ニ於テ三ヶ年間太古洋行ニエヂエントヲ托シタ  
ルカ如キ將タ新嘉坡支店芝罘出張員ノ如キモ久シク其土地  
ノ商人ト直接取引ヲ為シタル末初メテ開店又ハ常置シタル

カ如キ実例既ニ之ヲ証セリ尚談カ岐路ニ入りタルモ只今清  
国へ出張員ヲ派出スルコトノ要否ニ

【三回ノ一 8 a】

付テ詳議シツ、アル際故可成其事ノミニ話ヲ纏メタシ

◎吳 支那ニ出張員ヲ派遣セラル、ニ付テハ何レ其場所ニ就  
テ充分調査セラル、コトナランカ御参考迄ニ余ノ考ヲ略述  
セシニ揚子江沿岸中漢口ニハ既ニ出張員アル故之ヲ省キ江  
西省ノ開港場ナル九江ニハ出張員ヲ置クノ価値アリト考フ  
蓋シ同地ハ上海支店ヨリ其商売取引ヲ為シ得ヘシトノ説ア  
ルヤモ知ラサレトモ兎モ角九江ハ江西省産物ノ出入スル衝  
路ニシテ鉄石炭等ノ鉱物ニ富ミ日本并英國モ同地方ニ注目  
シツ、アル程ナレハ揚子江沿岸中ニ於テハ重要ナル位置ヲ  
占ムルモノト謂フヘシ其次ハ上海ニ近キ鎮江ナリ同地ハ南  
京ノ入口ニシテ南京ニ入ル貨物ハ悉ク此処ニ集ル且北京ヨ  
リスル運河并杭州ヨリスル運河モ亦集中スルヲ以テ貨物ノ  
一大集散地ナリ故ニ出張員ヲ常置スルノ価値アリト考フ

【三回ノ一 8 b】

◎上田 小室氏ヨリモ丁度吳氏ノ説ノ如ク旧臘九江并南昌ニ  
人ヲ派出致シタキカ適當ナル人物ナキヤト申来リタリ  
大阪ニテハ棉糸布売捌ノ為メ支那内地ニ人ヲ派出セントノ

考ナキヤ

◎飯田 充分其考アリ既ニ北清ニハ天津牛莊芝罘等ニ支店又  
ハ出張員アリ之レニテ差支ナキモ四川筋ニテ重慶ニ至ル迄  
ノ間ニハ僅カニ一ノ漢口ニ出張員アルノミナレハ九江鎮江  
等ハ最モ差向キ必要アリ更ニ進シテ重慶迄ノ重ナル処ヘハ  
夫々人ヲ派出スルコトニ致シタシ上海ノ商売ハ兎角北清ノ  
方面ニ偏シ四川地方ニ伸ヒサルノ憾アリ故ニ棉糸ノ将来ヨ  
リ推ストキハ北清ハ天津牛莊芝罘ノ三ヶ所ニ於テ十分其販  
路ヲ擴張スレハ別ニ新施設ヲ為スノ要ナキモ四川筋ニハ大  
ニ力ヲ致シ從來印度棉糸ノ占領シ居タル範圍ヲ蚕食セサル  
ヘカラス故ニ四川筋ニテ重慶ニ至ル迄ノ

【三回ノ一 9 a】

間ニ於ケル要港ニハ漸次出張員ヲ派出セラレンコトヲ希望  
ス若シ如此スルトキハ甯ニ棉糸ノミナラス大ニ棉布ノ商売  
ヲモ擴張スルコトヲ得ヘシト信ス

◎上田 南清方面ニ於テハ別ニ出張員ヲ派出スル要ナキカ税  
関ノ統計表ニ依レハ汕頭ニ輸出セラル、棉糸ハ尠少ニ非ス  
同地ノ商売ハ香港ヨリシテ經營シ得ヘキヤ將タ出張員ヲ派  
出スルノ要アリヤ

◎吳 南清ハ福建廣東広西ヨリ東京地方ニ至ル迄ノ区域ヲ含  
ム福建省中ニ於テハ既ニ廈門ニ出張員アリ従前外人ヲ以

テ代理店トナシ居リタル時代ト異ナリ商売大ニ進ミ昨年度ニ於テモ三千有余俵ノ棉糸ヲ販売セリ汕頭ハ広東省ノ北方二位スル港ニシテ南清中広東二次テ最モ棉糸ヲ消費スル所タリ

## 【三回ノ一 9b】

殊ニ其後背ニ潮州府ヲ控ヘ其間機業極メテ盛ニシテ頻リニ棉布ヲ織リ台湾其他南洋諸島海峡殖民地等へ輸出セリ台湾向キハ近時日本製品ノ為メ大ニ其販路ヲ侵奪セラレタルモ南洋并海峡殖民地々方ニ輸出セラル、モノ少ナカラス而シテ汕頭ニハ商売ノ盛ナル割合ニハ外国商館少ナク港湾并陸上ノ設備モ不完全ニシテホテルノ如キモ適當ナルモノナシ乍併段盛ナル商業地ナレハ我社ニ於テ出張員ヲ常置スルトキハ必スヤ好結果ヲ奏スヘシ殊ニ同地ハ牛莊ト大豆并大豆粕商売頻繁ナレハ支那人ト競争シテ牛莊大豆并大豆粕ヲ同地方ニ販売スルコトトセハ困難ハ困難ナルヘキモ一廉ノ商売トナルヘキ望アリ且燐寸ノ商売モ助成セシムルコトヲ得ヘシ厦門ニ於テモ近来燐寸ノ商売ハ發達シ鯉印燐寸ハ立派ナル一商品トナレリ

## 【三回ノ一 10a】

香港ヨリ北ニハ汕頭ノミナルモ進ンテ西ニ入レハ梧州ト称

スル内地ノ開港場アリ同所ハ内地ニ入り込ミ居ル為メ海洋ヲ航行スル船舶ハ進航スルヲ得ス故ニ荷物ハ香港ヨリ河船ニ積替ヘテ輸送セサルヘカラス旁出張員ヲ置クモ他ノ開港場ニ於ケルカ如ク盛ニ商売ヲ經營スルコト能ハサルヘキカ又東京并海防地方ニハ日本棉糸ノ輸入セラル、モノ少ナカラサルヲ以テ此辺ノ二三港(ハノイノ如キ)ハ取調ノ価値アルヘシ

又広西湾バクホウニ北海ト称スル所アリ当時仏領ナルカ之ヨリ三四十哩ノ奥ニ南甯ト唱フル場所アリ広西省内ニ於テハ梧州ニ優ル市場ナリト云フ余ハ実地踏査セサルモ西洋人ノ旅行記ニ徴スルモ亦支那人ノ言ヲ聞クモ疑ナキモノ、如シ梧州并南甯ハ雲南ヘノ通路ニシテ日本十手棉糸ハ雲南ヘモ販路ヲ有スルニ依リ若シ梧州

## 【三回ノ一 10b】

南甯等二人ヲ派出スルトセハ広西并雲南地方ニ対スル棉糸商売ヲ拡張シ得ヘシ尤モ南甯ハ開港場ニ非サルカ故ニ出張員ヲ常置スルニハ及ハス単ニ視察員ヲ派出スレハ可ナランカ

◎上田 松尾氏ニ承り度ハ長崎ト浦塩斯徳トノ商売ナリ

◎松尾 浦塩斯徳ヘハ米ヲ輸出セリ但シ之ハ朝鮮米ト日本米トノ直段ノ高下ニ依リ消長アルモノニシテ若シ日本米割高

ナルトキハ朝鮮米輸入セラレ又朝鮮米不作ナレハ日本米輸入セラル又米ト共ニ大麦モ輸入セラル之ハ精ケテ馬糧ニ供ス此他麦粉ハ直接米国ヨリ輸入ス曩ニ長崎ニ於テ浦塩斯徳ヲ目的トスル麦粉会社起リタルモ麦粉不良ノ為メナルカ将タ浦塩斯徳ニ於ケル買方思ハシカラサリシ故ニヤ麦粉会社ハ手ヲ引キテ麦粉器械ハ運転ヲ中止シツ、アリ之ヲ要スルニ格別ノ商売ナシ加之露国ニ於テ愈給

【三回ノ一 11 a】

督ヲ旅順口ニ置クトセンカ浦塩斯徳ハ其管轄ノ下ニ属スベキヲ以テ向後盛大ニ赴クヘシトハ思考セラレス最モハバロフカトノ鉄道全通セリ浦塩斯徳ヲ経テニコライスク等ヘ盛ニ糧食ヲ〔印字が薄クニ文字ほど判読不能〕スヘシトノ説モアレハ十分本社ニテ御取調ヲ仰キタシ今日ノ処ハ〔同右〕トノ間ニ於テ格別経営スヘキ商売ナシ

◎遠藤 従来浦塩斯徳ヘハ長崎ヨリ白米ヲ輸出シタルコトアルモ〔同右〕ハ仁川ヨリ粃米ヲ磨擦米トシテ浦塩斯徳ヘ送りツ、アリ而シテ仁川ノ米ハ兵庫ヘ来リ壱石ニ付日本米ヨリ壱円三十銭安キヲ以テ浦塩斯徳ヘ送ルモノハ長崎ヨリ日本米ヲ送ルニ比シテ壱石ニ付式円位安直ニ当ルヘシ従テ朝鮮飯令少々ノ不作ナリトモ向後長崎ヨリ浦塩斯徳ヘノ日本米ノ輸出ハ見込ナカルヘシ

◎上田 西比利亞鉄道全通ノ曉ニハ浦塩斯徳モ立派ナル港トナルベク大

【三回ノ一 11 b】

連湾開港ノ為メニ衰頹ヲ来タスカ如キコトナカルヘシ尚此点ハ取調ヲ要ス

◎飯田 要スルニ支那并西比利亞方面モ鉄道ノ關係如何ニ依リ大ニ変化ヲ来タスヘク且支那鉄道ノ開発ハ三十年間ノ歴史ヲ五ヶ年間ニ短縮スルノ結果トナルヲ以テ速ニ取調ニ着手セサルベカラス

◎上田 南洋馬尼刺、東京、盤谷方面ニ対スル長谷川氏ノ御意見ヲ承知致シタシ

馬尼刺ノ商売ハ今日ノ処重ニ砂糖ト石炭トノ關係ニテ出来得ルナレハ一名出張員ヲ派出致度考ナルモ適當ナル人ヲ得サルト人手不足ナルトノ為メ荏苒今日ニ至レリ惟フニ米國非律賓間ノ競争モ遠カラスシテ平定ニ帰スベク然ル上ハ米國ハ兵卒一萬位ヲ駐屯セシメテ守備隊トシ港湾其他ハ大ニ資金ヲ投シテ

【三回ノ一 12 a】

改造ヲ計ルナルヘク又澳太刺亞トノ關係モ生スヘキヲ以テ毎ルヘカラサル商業地トナルヘシ故ニ此際大ニ注目スヘキ

所ト考フ

◎長谷川 馬尼刺ハ西班牙ノ所屬ヨリ米國ノ所屬ニ移ル大変化ノ時代ナレハ之カ取調ノ必要ヲ感シ吳氏香港支店長タルノ日小林正直ヲ同地ニ派遣シテ取調ヲ為サシメ余吳氏ノ後ヲ襲ヒタル後モ商売上ノ用事アリテ山本庄太郎ヲ派出シ取調ヲ為サシメタリ然ルニ時恰モ戰時中ニ屬シタルヲ以テ詳細ナル調査ヲ為シ能ハサリシモ要スルニ米國カ非律賓ヲ其所屬ト為シタル上ハ巨資ヲ投シテ諸般ノ經營ヲ為スヘク就中第一ニマニラ、イロイロ及セブニ於ケル砂糖商売ニ變革ヲ來タスヘシ從來西班牙政府ノ政策ハ總テ之ヲ自然ニ放任シ地方ノ僧侶ヲシテ金ヲ取ラシメタルカ如キ有様ナリシモ米國ニ於テハ大ニ之カ啓發ヲ計リジャバノ方法ニ倣フテ砂

【三回ノ一 12b】

糖ノ耕作ヲ為サシメ製造品ニハ夫々階級ヲ付スルナルヘク自然買入ノ信用ヲ増スニ至ルヘシ殊ニ馬尼刺ノ砂糖ハ日本向ニ適當シ精製モ亦容易ナレリ爪哇糖同様大ニ日本ニ輸入セラルヘク加之爪哇糖ノ歐洲ニ輸出セラル、ト馬尼刺ノ砂糖カ歐洲ニ輸出セラル、ト便不便ノ差少ナカラサレハ日本ヘハ重ニ馬尼刺糖ノ輸入ヲ見ルニ至ルヘシ然ルニ是迄通り馬尼刺ニ在ル二三会社ト引合ヲ為スヘキヤ將タ直接地元買付ヲ計ルヘキヤ大ニ研究ヲ要ス

砂糖商売ニ次クハ「ヘンプ」ノ商売ナリ是迄ハ二個ノ製糖会社ノミヲ相手トシテ取引シタルニ止マリ從テ日本ヘノ輸入ハ少ナカリシモ向後ハ追々取引成立スヘシ一昨年来ハ戰争ノ為メ「ヘンプ」ノ出ツル沿海諸港ヲ封鎖セラレタルヲメ取引殆ント成立セサリシ

次ニ取引アルハ石鹼ノ材料タル「コブラ」ナリ此取引モ向後發達スルナラン

【三回ノ一 13a】

日本ノ石炭ヲ馬尼刺ヘ送ルニハ運搬便宜シカラサルノミナラス陸揚等ニ要スル設備完全ナラサル為メ荷渡ニ日子ヲ要シ滞船久シキニ互ルコトヲ免カレス即チ香港ニ於テハ一日ノ荷扱高一千五百屯乃至二千屯ナルモ馬尼刺ニ於テハ一日僅ニ三百屯内外ニ過キス從テ馬尼刺向ケハ運賃割高二テ商売ノ發達ヲ妨ケタルコト少ナカラサリシノミナラス屢船ノ戻荷ニ積取ラレタル豪州炭ノ為メニ販路ヲ壟斷セラレタルコトアリシ年去戰爭平定ノ曉ニハ六万屯ノ船舶ヲ以テ馬尼刺ト「パシフヒツク・コースト」トノ間ニ航海ヲ為ス船会社ノ設立ヲ見ル趣ナレハ必スヤ米國ヨリ來ル船舶ハ日本ヲ經テ香港ヲ終点トナサスシテ馬尼刺迄航路ヲ続クルカ又ハ日本ヨリ直接馬尼刺ニ赴クナルヘク何レニシテモ馬尼刺ハ汽船ノ「ターミナル」トナリ沿岸船并馬尼刺ト他ノ各港ト

ノ連絡十分ナルニ至リ商業上有望ナル一市場トナルヘク石炭商売ニ付テモ亦大二見込アルヘシト考フ

【三回ノ一 13 b】

◎上田 菲律濱群島ニ対スル棉布燐寸ノ商売并後藤毛布膝掛等ノ商売ハ如何勿論防寒品ハ入用ナカルヘキモブランケット等ノ入用ハ多少ハ之アルヘキカ

◎長谷川 雜品ニ付テモ取調ヲ為シタルカ素ト々々裸体人種ナルヲ以テ沢山ノモノハ需用ナシ且西班牙ノ風ニ做レタルヲ以テ自然雜品ノ需用アルモ欧州製品ヲ使用スルナルヘシ毛織物ハ全然見込ナシ又木綿類ハ一時支那人ノ移住ヲ禁シタル故其必要ノ原因ヲ失ヒタルモ亦再ヒ此禁ヲ解キタレハ是等移住者ニ対シテハ多少供給ノ望アルヘシ但多クハ其本国タル厦門汕頭ノ綿布ヲ購入スヘキヲ以テ此商売ハ寧ロ日本品ヨリモ支那製品ヲ引合フ方望アルヘシ

◎上田 毛織物望ナシトスレハ寒冷紗、金巾、木綿縮ノ類ハ如何

◎長谷川 金巾杯ハ輸入アルヘク亦燐寸モ輸入セラルヘシ要スル二何時モ西班牙

【三回ノ一 14 a】

政府時代ノ例ヲ以テ推論スルコト能ハス向後ハ米国人ノ使

用スル上等物ト日本人ノ使用スル位ノモノト双方需用アルヘシ麦酒ノ如キモ亦売行アラム兎モ角モ十分出張員ヲ派出スヘキ価値アリ

◎上田 綿糸ハ如何

◎長谷川 極メテ需用少ナシ

◎飯田 単ニ縫糸位ノミニ止ラム

◎長谷川 熱帯地方ニ於テ米カコボレ雨力降りテ自然ニ成育シ收穫ヲ得ルカ如ク馬尼刺ニ於ケル砂糖ハ別ニ耕作ヲ施スニ非ス自然ニ發育シタル砂糖ノ幹ヲ集メ之ヨリ砂糖ヲ搾取スルノミ其懶惰ナル推シテ知ルヘシ

◎南 煙草并珈琲ノ商売ハ如何

◎長谷川 珈琲ノコトハ余リ聞キタル所ナシ

【三回ノ一 14 b】

◎上田 熱帯国ナル故煙草ノ外珈琲ノ産出モアルヘシト考フ此等ハ米國ヘハ米人持チ行クヘキモ英吉利并独逸ヘ輸出スル見込ナキヤ

◎長谷川 見込アルヘシ是迄西班牙人ハ少シモ自カラカルチベートシタル形蹟ナシ從テ其商人ノ数モ少ク馬尼刺、イロタタ、セブ、ヲ合シテ僅ニ三十軒内外ニ過キス而シテ之トテモ単ニ定マリタル事ヲ為スノミニシテ少シモ輸出貿易ノ伸長ニ力ヲ致ス等ノコトナシ從テ輸出入統計表ヲ見ルモ

輸出品ハ寥々タルノ有様ナリ

◎上田 然ラハ益々以テ常置員ヲ置クノ価値十分之アリト信ズ

◎長谷川 且馬尼刺ニ対スル商売ハ其種類太甚面白シ

◎白井 従来馬尼刺ニハ重モ二英國製品ノ輸入アリタルモ昨年来大ニ減少シテ三分ノ一二下リ其代リニ米國品ノ輸入ヲ見ルニ至レリ

◎上田 磐谷ニ付テノ長谷川氏ノ意見如何

【三回ノ一 15 a】

◎長谷川 暹羅ノコトハ取調シタルコトナシ藤田領事婦朝ノ際其談話ヲ聞キタル位ニ止ル石炭ハ吳支店長時代ニ送荷シタル分未ダニ残存セリ同國ハ非常ニ日本好キノ國ナレハ英仏人カ互ニ争ヲ為シツ、アル間ニ漁夫ノ利ヲ占ムルハ兎モ角モ商売トシテハ思ハシキモノナク米并ニチーク材ヲ除キテハ殆ント望ナシ石炭ノ需用ハ一ヶ年僅カニ一万吨内外ニ止リソーミルノ如キハ大抵皆自家ノ材木ノ挽屑ヲ燃料ニ使用セリ但電気鉄道出来ノ趣キナレハ之ニ多少石炭ノ需用アルヘキカ山本庄太郎両度同地ヘ出張取調ノ結果稍有望ナル旨ノ報告ヲ為シ居レトモ格別見込アルモノナク特ニ常置員ヲ置クノ必要ヲ認メス米ノ用事アル場合二人ヲ臨時ニ派出スル位ニテ可ナルヘシ

◎吳 長谷川氏ノ説ハ御尤千万ナルカ他ヨリ聞込ミタル品ニテハ暹羅

【三回ノ一 15 b】

ハ独立國ナル為メ兵隊アリ其使用スル羅紗并毛布ハ最近歐州ヨリ取寄セタルモ割高二付若シ日本ニテ割安ニテ割安ノ物製造セラル、ナレハ買取り度旨陸軍大臣ヨリ其筋ヘ交渉アリタリト就テハ在暹羅ノ日本公使ヲ通シテ交渉セハ後藤毛織物製造会社ノ製造ニ係ル羅紗并毛布等ヲ売込ミ得ヘキヤモ計ラレズ

◎北村 常置員ヲ置キテ売捌ク程ノ必要ナシ唯需用アル際条約定ヲ為セハ可ナラム

◎福井<sup>カ</sup> 常備兵ハ五千人ナリ一人二枚トスルモ一万枚ニ過キス極メテ小サキ商売ナリ

◎長谷川 暹羅ノ如キハ別ニ別ニ常置員ヲ置クノ要ナキモ通信員ノ如キモノヲ置クコトニ致シタシ

◎上田 東ン京并西貢ニ付テモ磐谷ト同一ナルヘシ

【三回ノ一 16 a】

◎大野 暹羅ニ輸入セラル、品物ハ大抵皆皇室若シクハ皇族ノ御用品ニシテ他ハ在留外國人ノ所用品ノミ士人ハ殆ント何物ヲモ使用セス故ニ通信員ヲ之ヲ置クノ要ナカラム

◎**上田** 福井氏先年豪州出張ノ結果羊毛并鉛ノ商売ハ大ニ発達セリ向後同地ニ常置員ニテモ派出スルノ要ナキヤ

◎**福井** 豪州ハ面積我國ノ二十倍アルモ人口ハ稀少ニシテ三百五十万人余ニ過キス從テ人口多キ我國トハ往々其趣ヲ異ニシ商売モ同一ノ場所ニテ成立セス夫々買付場所ヲ異ニス例ヘハ鉛ノメルボルンニ於ケル羊毛ノシドニーニ於ケルカ如シ蓋シメルボルンニ於テ羊毛ノ買付ヲ為シ能ハサルニ非サルモ非常ニ割高ニ当リ不利益ナルヲ免レス鉛ヲシドニーニテ買付ケントスルモ亦同シスル有様ナ故豪州ノ商売ハ勢ヒ各所在地ノ確實ナル商人ト直接引合ヲ開始

【三回ノ一 16 b】

セサルヘカラス依テ当社ハ鉛ニ付テハメルボルンニ於ケル鉛ノ山ノ持主ト直接取引ヲ開クノ必要ヲ感シブロークンヒル、プロフレターリ、コンパニート取引ヲ初メタルニ同社ハ能ク東洋ニ於ケル鉛商売ノ大体ニ通シ大抵ノ事ハ後日ノ取引ヲ思ヒテ我慢シ呉ル、ニ依リ近頃大イニ本商売ノ発達ヲ致セリ向後モ依然同社ト取引スルノ考ナリ斯ル次第ナルヲ以テ当分出張員派出ノ要ナシ

◎**南** 昨年中東京、大阪、上海并香港ノ四店ニテ何程鉛ノ商売ヲナシタリシヤ

◎**福井** 少クトモ四千屯此金六十万円位ナルヘシ

◎**南** 然ラハ豪州ニハ矢張是迄通りメルボルン、シドニー、ブリスベーン等夫々引合店ヲ作り置ケハ別ニ出張員ヲ置クノ必要ナシト云フカ

◎**福井** 然リ

◎**飯田** 藤瀬氏新嘉坡ニ在リシ時申立テタル爪哇ニ出張員ヲ派出スルノ件ハ如何ナル御評議ニナリタルヤ

◎**上田** 其当時爪哇ヘハ一名派出致シタシト考ヒ居リタルモ人ナキ為メ実行ヲ見ルニ至ラスシテ打過キタリ其後爪哇糖ノ商売ハ益増加シ来リ一時ハ双方ノ事情疎通セサルカ為メ甚タ心ヲ勞シタルコトアリシモ幸ニ取引先ナルマクレイン社ハ有力ニシテ確實ナル為メ円滑ニ取引ヲ完了シツ、アリ向後モ益親密ニ取引シ大ニ斯業ノ擴張ヲ計ル考ナリ而シテ爪哇トハ砂糖以外ノ引合ナキヲ以テ出張員ノコトニ付テハ別ニ本店ニ定リタル考ナシ

◎**飯田** 爪哇ノインヂゴハ大ニ評判宜シクカルカツタ、マドラス等ノインヂゴヨリモ勢力アリ此事ニ付新嘉坡支店ト書帖并電信ヲ以テ往復セルモ更ニ

【三回ノ一 17 b】

其要領ヲ得ス単ニ見本ヲ送り来リタルノミニテ之ニ対シ注

文ヲ与フルモ商売成立セス如何ニモ残念ノ次第ナリ只砂糖ノ商売ニ付テハマクレイン社力巧者ニ立廻リ居リタリトテ  
 豪州メルボルンニ於ケルブロークンヒル、プロフレターリ  
 ー、コンパニートハ異ナリマクレイン社ハ生産者ニ非ス他  
 ヨリ砂糖ヲ買集メテ供給スル一種ノ商人ナルコト尚ホ亦印  
 度棉ノライオン社ニ於ケルカ如シライオン社モ最初ハ確實  
 ナリト考被取引シタルモ其後出張員ヲ孟買ニ派出シタル結  
 果土地ノ事情取引ノ模様等ヲ詳カニスルニ從テ同社ト取引  
 スルノ不利益ナルコトヲ悟リ遂ニ出張員ニ於テ自カラ買付  
 ノ任ニ当ルコト、トナリ爾來ライオン社ヨリハ更ニ棉花ヲ  
 買入レサルコト、ナリタリ故ニ矢張爪哇ニモ砂糖商売ノ為  
 メ一人ノ出張員ヲ派出セシメタシ況ンヤインヂゴノ商売ア  
 ルノミナラス燐寸商売ノ如キモ大ニ同地方ニ新販路ヲ求ム  
 ルノ要アルニ於テオヤ

◎上田 御説ノ如ク人サヘアレハ出張セシメタシマクレイン  
 トノ關係ニ付テハ本社

【三回ノ一 18 a】

ニ於テモ一時心配セルコトアリ昨年七月ノ交東京精製糖會  
 社ノ注文ハ益々大高トナリ且同社ノ専務取締役ノ鈴木藤三  
 郎氏ハ斯業ニ掛ケテハ中々巧者ノ人ナレハ之ヲ満足セシム  
 ルニハ一通リノ働ニテハ不可ナリト考ヘ倫敦ヘモ電信シテ

他ノ相場ヲ聞合ハセ他ノ口ヨリモ買入ヲ為サント試ミタル  
 処藤瀬新嘉坡支店長ヨリ非常ノ抗議ヲ申込来リタリ其要旨  
 ハ新嘉坡支店ニ於テハマクレイン社ト約束ヲ結ビ当社ニ於  
 テ入用ノ砂糖ハ総テ同社ヨリ買付クヘキ意味ノ約定ヲ為シ  
 在ルニモ拘ラス此約定ヲ無視シ他ヨリ砂糖ノ買付ヲ為サン  
 トスルカ如キハ將來ノ商売上大ナル障害ヲ来スヘシ何故マ  
 クレイン社ノ取扱振ニテ御不満足ナルヤ今日迄ノ先方ノ取  
 扱振ヲ見ルニ一モ批難スルヘキ点ナシ且マクレイン社ハ有  
 力ナル会社ニシテ手広ク此商売ヲ為シ居レリ成程同社ハ自  
 家ノ製品ヲ以テ注文ニ応スルニ非ス他ヨリ品物ヲ買集メ之  
 ヲ供給スルモノナレトモマ社以外ノ

【三回ノ一 18 b】

商人ヨリ買約スルモ亦均シク他ヨリ品物ヲ買集ムルモノニ  
 シテ而モ其勢力ハ遠クマ社ニ及ハス何ソマ社ニ勝ルノ働ヲ  
 為スコトヲ得ン且マ社ハ香港ニ於ケル太古并怡和ノ注文ヲ  
 モ年来取扱ヒ凡テ満足ノ結果ヲ得セシメツ、アルモノナレ  
 ハ当社ノ注文如何ニ拡大スルモ裕々之二応スルノ力アリ故  
 ニ同社ヲ信用シ安心シテ取引ヲ為スヘク直段ノ如キモ他社  
 ノ直段ヨリ安キモ決シテ高キ様ノコトナシ云々ト申来リ  
 其旨倫敦ヘモ出帖シ茲ニ再ヒマ社ノミト取引スルコト、ナ  
 リタリ去レハ砂糖之事ニ付テ後日出張員ヲ派出スルコトア

ルヘキヤ知レサレトモ今日ノ処ハ少シモ懸念ナシ尤モ飯田氏ノ説ノ如クインチゴ其他燐寸等雜貨商売ノ為メニ出張員ヲ出ス事ハ別論ニテ出張員ヲ常置セシムレハ夫丈ノ効能ハ必ス之アルヘキモ何分今日ノ処人手不足偶ニ之アレハ差勝リタル急務ノ方ヘ差向クル為メ適當ナル出張員ヲ得ル能ハサルコトハ焦慮ノ至リナリ

【三回ノ一 19 a】

◎益田 是ヨリ營業機関ノ設備テフ議題ニ移ルベキ管ナルモ先ツ其前ニ一応營業資金并金融ノ現在ヲ報告セサルベカラス何トナレハ如何ニ設備ノ完全ヲ期セントスルモ資金ノ許サ、ル程度ニ迄進ムコト能ハサレハナリ

当社ノ資本金其他ハ如左

一、資本金 一、〇〇〇、〇〇〇円  
 一、積立金 三、六五〇、〇〇〇〃  
 一、社船積立金 七五三、三六〇〃  
 合計 五、四〇三、三六〇〃

右ノ外尚銀行ヨリノ借金アリ勿論銀行ヨリ鉅額ノ融通ヲ得ルコトハ好マシカラサルモ該行ニ於テハ三井各商店ノ為メ六百万乃至七百万迄ノ需用ニ応スルノ余裕アリ現在融通セラルモノハ五百万円位ナルベシ

【三回ノ一 19 b】  
 此内現ニ物産会社ノ借入レ居ルモノハ貳百万円余ニシテ此外ニ手形ヲ振出シ割引ヲ受ケ居ルモノ等アリ夫此ヲ合シ四百万円位ニ上ルヘク此高ハ常ニ三井銀行ヨリ融通ヲ受ケ得ヘキ高ナレハ之ヲ前記五百四十万円ニ合スレハ九百四十万円トナル

此内

一 所有汽船 一、三三二、六三五円  
 一 不動産 四八八、〇五〇〃  
 一 公債 四一七、八八八〃  
 一 株券 一一四、五六五〃  
 合計 三、三三三、一三八〃

ノ固定セルモノヲ差引クトキハ残額六百万円余カ即チ營業資金ナルヘキモノニシテ此資金ヲ以テ約八千万円ノ商売ヲ經營シ

【三回ノ一 20 a】  
 タルナリ此他尚正金銀行クレンウォルト及渣打銀行等ヨリクレヂットヲ得ツ、アルモノアレトモ是等ハ単ニ一時ノモノナレハ營業資本ト見ルコト能ハス故ニ前記六百万円ヲ資本ト見做シ之ヲ腦裡ニ収メ置キテ營業機関ノ設備ニ関スルコトヲ講セラレタシ

———  
 〇〇  
 營業機関ノ設備

從來我社カ商売ニ要スル機関即チ取扱掛員、倉庫、舁下船、曳船、庫船、其他ノ設備ハ必要ノ緩急ニ応シ事情ノ許ス限リ之ヲ為セリト雖トモ近来營業ノ膨張及今后一層商業ノ擴張ヲ計ルト共ニ之ニ対スル機関ノ設備ヲ十分ニセサルヘカラス而シテ之ヲ為スニ自ラ緩急得失アリ依テ后日取捨ノ参考トモナルヘキ各店長ノ希望ヲ陳述セラレンコトヲ望ム

———  
 〇〇  
 【三回ノ一 20 b】

右議案ニ明記セル如ク事自ラ緩急アリ素ヨリ一時ニ設備ヲ計ル能ハス然レトモ各店ニ於テ必要ナリトスル設備ヲ述ヘラル、コトハ大ニ参考トナルベシ

◎飯田 大阪支店ニ於テハ其後追々設備ノ事ニ付申出シタルニ付殊更擴張ヲ要スルモノナキモ倉庫ハ今一層擴張ヲ要スト考フ

蓋シ先年小野浜ニ倉庫ヲ設クルコトヲ出願シ許可ヲ得テ建設ノ上當時使用シツ、アル次第ナルカ建築ノ當時ニハ少シク過大ナルヤノ感アリタルモ今日トナリテハ却テ不足ヲ感スル位ナリ故ニ今一層擴張ヲ願ハサルベカラズ尤モ大阪并神戸築港ノ成行如何ニ依リテハ倉庫ヲ設置スヘキ場所ニ関

係ヲ及ホスヘキモ右築港ハ如何ニ成行クヘキヤ今日ニテハ未タト知シ能ハサルヲ以テ先ス小野浜之倉庫

ヲ取扱ケ可然ト考フ

———  
 〇〇  
 【三回ノ一 21 a】

又石炭運送ノ為メ先般川舁ヲ二三十隻造ルコトノ許可ヲ得既ニ着手セリ本月中ニハ式三艘ハ出来スベシ之ハ全ク一部分ノ用ニ充ツルニ過キサレハ今后其成績如何ニ依リ増設ヲ願出ツルコトアルベシ又神戸ト大阪トノ間ニ於ケル舁船ノコトニ付保險会社ヨリ相談アリ各会社連合シテ舁船ヲ造ルカ又ハ保險会社ニ於テ舁船ヲ造リ各会社ノ荷物ヲ取扱フコト、スルカノ相談シアリ相談未タ熟セサルモ今日ノ処ニテハ自身ニテ舁船ヲ造ラサレハ不便尠ナカラサルベシト考フ尚十分取調ノ上願出ツルコトトスベシ

若松ト神戸并大阪間ノ汽船ニ就テハ既ニ図面モ出来シ予算書モ只今相談シテ調製シツ、アリ近々提出ノ考ナリ又石炭倉庫モ追々狹隘ヲ感スヘキニ付早晚擴張方ニ付キ

願出テサルベカラス大阪支店ノ設備ハ先ツ是位ノ処ナリ  
 【三回ノ一 21 b】

◎益田 大阪ノ築港ハ今后八年ヲ經過スレハ完成スヘク其眺ニハ大艦巨舶モ自由ニ出入スルコト、ナリ從テ大阪ハ荷物

ノ集散地トナリ倉庫等モ建設セラルベシ而シテ八年ハ実ニ一瞬時ナレハ我社ニ於テ入用ナルヘキ倉庫地等ハ今ヨリ用意シテ買入置カサルベカラス郵船会社ノ如キハ既ニ広キ土地ヲ買取り居レリ用意実ニ周到ナリト云フベシ

◎飯田 港ノ工合如何ニ相成ルヘキヤ分ラサルモ石炭倉庫ハ安治川附近ニ設クルコト然ルヘキカ港頭ニハ何レモ倉庫ノ建築ヲ見ルヘキモ是等ハ重ニ雜貨ヲ倉入スルコト、ナルヘク石炭ノ如キ安物ハ倉入ニ適セサルベシ

◎益田 紡績系ノ如キモ安治川辺ヘ舁ニテ持ち来リ倉入スルコト、ナルベシ

【三回ノ一 22 a】

神戸ニテモ築港ヲ計画セルモ大阪ノ築港落成ノ上ハ海外ヘ輸出セラル、モノモ大率皆大阪ニ入ルヘク大阪ハ実ニ荷物ノ集散地トナルモノト覚悟セサルベカラス從テ小野浜ノ倉庫ハ今日ハ設立スルモ他日不用ニ属スルコトアルヘキモ知ルベカラス尤モ茶ノ如キ神戸ニ集散スルモノモアルヘキモ綿糸ノ如キハ勿論大阪カ其集散地トナルニ相違ナシ

◎飯田 大阪ノ築港ハ予定ノ通り成効スルトハ信シ得ス矢張大阪ハ沿岸ノ汽船カ入港スル位ニ止リ海外航ノ汽船ハ神戸ニ入港スヘシト考フ

◎益田 其ハ誤解ニテ大阪ノ築港成効セハ大阪附近ノ産物ハ

大阪ヨリ輸出セラルヘク単ニ神戸ニハ出港ノ際立寄りテ神戸ニ集リタル荷物ヲ積込ム位ニ止マルベシ從テ今日ヨリシテ之ニ備フルノ策ヲ

樹テサルヘカラズ

【三回ノ一 22 b】

◎飯田 安治川辺ノ倉庫地ヲ買入レ置ケハ何レニシテモ間違ナシト思料ス西成鉄道全通以來大和地方ヨリ来リ荷物ハ同道ノ敷地内ニ設ケ盗人除ケニハ柵ヲ造リ屋根ヲ垂鉛板葺トシ鐵道会社ニテ該敷地入用ノ場合ニハ六ヶ月前ニ予告シ得ル条件ニテ借入方交渉中ナリ相談纏ルトキハ大和地方ノ紡績会社等ヘ石炭ヲ送ルニハ大ニ便利トナル

◎益田 我社ト銀行ニテ東区ノ末端ニ聯合建築ヲ為スコトハ大ニ頷ク傾ケタル処ナルカ今日ハ既ニ場所ノ選定其宜ヲ得サリシヲ悔ユ尤モ大阪築港ノ設計ヲ信用セサレハ夫迄ナルモ天保山沖ニ赴キテ築港ノ現状ヲ見レハ設計通り成効スルモノト信セサルヲ得ス而シテ築港

【三回ノ一 23 a】

ニシテ成効スルトキハ大阪ハ実ニ日本ニ於ケル中央市場トナルヲ以テ之ニ対スル設備ヲ為サルベカラス幸ニ築港附

近二ハ新田多キヲ以テ之ヲ埋立ツルトキハ如何ナル設備ヲモ為スコトヲ得ヘク大阪ニハ向後七千屯位ノ飛脚船モ容易ニ入港シ得ルコト、セサルベカラス否ナ入港スルコト、ナルベシ尚又西成鉄道カ出来タル丈ニテモ大和地方トノ連絡便利トナリタリト云フ位ナレハ今後四五本ノ鉄道敷設セラレ且聯貫鉄道モ通スルニ至レハ荷物ハ皆大阪へ集中シ大阪港ヨリシテ他へ輸送セラル、コト、ナルベシ

◎長谷川 神戸ノ築港少シク後レタリ併シリバプールトマンチェスタートノ關係ヲ考察スレハ大阪ハマンチェスターニシテニシテ其製造品ノ出入ハリバプールノ地位ニアル神戸ヲ經由スルコト、ナルヘキモ知ルベカラズ

◎益田 一体神戸トカ大阪トカ云フ地方的ノ考ヲ起スハ誤ナリ何レモ全ジ

【三回ノ一 23 b】

日本ノ内ナレハ便利ナル方ニ築港スルコト適當ナリ而シテ大阪ハ製造力ノ大、商人ノ衆、資本ノ豊富、鉄道ノ集中ニ於テ適カレ神戸ノ上ニアリ從テ一朝築港ヲ完成スル以上ハ強テ不便ノ存セサル限リ大阪カ商売ノ中心点トナルヘキハ敢テ弁ヲ要セス從テ神戸ハ石炭積込場所位ニハナルヘキモ船ノ「ターミナス」ハ大阪ニ歸スルモノト断言セサルヲ得ス

◎飯田 大阪築港事業ハ資本不足ナクト考フ

◎益田 其事ハ別論ナク大阪ノ築港ハ大阪一地方ノ築港ニアラズシテ日本ノ築港ナリ既ニ之ニ着手スル以上ハ之カ完成ヲ為サシメサルベカラズ

◎飯田 日本政府遣リ方悪シ大阪並神戸ノ築港論盛ンナリシトキ政府ニ於テ今少シク十分ノ調査ヲ遂ケンナランニハ大阪ノ築港ヲ見合ハセ神戸ノ築港ニ全力ヲ尽スコトニナリタリシヤ知ルベカラズ

【三回ノ一 24 a】

◎益田 今日之ヲ云フハ時期既ニ遅シ加之築港ハ可成中央市場ニ近キ所ニ於テセサルベカラズ此点ヨリスルモ大阪ノ築港ハ当ヲ失シタルモノニアラズ其ハ偕措キ大阪築港ノ事ハ日本政府モ既ニ可決セル所ナレハ必スヤ其完成ヲ期スルナルヘク從テ今日ニ於テ予シメ大阪築港完成後ニ備フル策ヲ樹テ完成後曩ノ計畫カ大ニ其凶ニ当リシコトヲ思ヒ合ハスル様致度モノナリ

◎吳 神戸ノ設備ハ大阪ニ關係多シ而シテ余ハ大阪ノ築港モ神戸ノ築港モ成効スルモノト見做シテ立論スベシ差向キ築港ニハ大阪八年神戸十年ノ日子ヲ要スルカ其間ニ夫々ノ設備ヲ完カラシメサルベカラス倉庫ハ小野浜ニ五百坪許リヲ建築シ外ニ上屋四百坪ヲ設ケタル結果荷物ノ倉入上大ニ

便利ヲ得タリ向後入用ノ場合ニハ三井銀行ニテ建築セル分  
ヲ借入ル、コトヲ得ヘク又貿易倉庫

【三回ノ一 24 b】

会社等へ貸渡ス分モ期限ヲ一年位ト為シ置キ当社ニテ入用  
ノ時ハ期限后之ヲ引上ケテ借受ケ得ルコトニ三井銀行支店  
ト交渉済ナレハ向後倉庫建築ノ必要ハ之ヲ認メス只小野浜  
ハ船繋惠シク且一方ニ偏在セル故別ニ棧橋ヲ造リ又税関構  
内ヨリ連絡スル鐵路ヲ敷設スルコト、セハ大ニ便利ナルベ  
シ

又大阪築港并神戸築港完成ノ暁ニハ荷物ノ陸揚、卸ノ事ハ  
当社ノ手ニテ為スコトニ致シタシ蓋シ其頃迄ニハ物産会社  
ノ商売モ大ニ發達シ神戸ニ出入スル荷物ノ過半ハ当社ノ取  
扱ニ歸スルコト、ナルヘク又爾カ致シ度考ナレハ此取扱ヲ  
他人ニ托スルカ如キ事ニテハ到底満足ナル結果ヲ得ヘカラ  
ズ故ニ当社自ラ之ヲ經營スルカ若クハ当社ノ手ニテ組織シ  
タル株式会社等ニ之カ取扱ヲ為サシムルコトニ致シタシ而  
シテ当社ノ荷物ノミナラズ神戸ニ出入スル荷物ハ凡テ其陸  
揚

卸ヲ引受クルコトニ致シ度希望ナリ

【三回ノ一 25 a】

右ハ大阪関係ノ設備ナルカ是ヨリ神戸支店ノ設備ニ付テ述  
ヘンニ神戸ニテハ石炭ノ商売ヲ拡張シ郵船会社ノ燃料供給  
鐵道局并山陽鐵道、鐘紡、川崎造船所等ヘノ石炭売込ヲ取  
扱ヒツ、アリ此運搬ヲ從來合ノ子船ヲ利用シタル為メ運賃  
ハ割安ナルモ帆力ニテ二百五十哩余ノ海路ヲ駛走スル事故  
ニ危険少ナカラサルノミナラス期限延引スルコト屢次ナリ  
且盆正月ハ仕事ヲ休ミ時化続キニハ更ニ出帆セス旁到底引  
当トスルヲ得ス然ルニ一方ニ於テ郵船会社ノ定期船ハ毎回  
必ス何百屯カラ積込シ若シ当社ニ於テ之カ供給ヲ為サ、ル  
トキハ出帆ヲ延引スルノ已ムヘカラサル事トナルニ依リ當  
社之責任ハ太甚重ク運炭機關ニ付テハ十分用意シ置ク所ナ  
カルヘカラス此点ニ付テハ大分研究ノ

【三回ノ一 25 b】

末曳船ヲ以テ運炭ヲ為スノ餘算ヲ立テツ、アリ不日提出ノ  
積リナルカ其要領ハ先ツ參百屯ノ曳船ヲ造リ式拾五万斤積  
ノ和船五艘ヲ曳カシムルニ在リ此勘定ハ算當ニアタルモ只  
茲ニ一ツ困難アルハ若松并神戸共三百屯ノ船ハ横付ケヲ為  
シ能ハス為メニ舁ヲ用ユルノ要ヲ生シ其費用若松ニ於テ三  
十錢神戸ニ於テ二十九錢合計六十錢弱ヲ要ス故ニ之ヲ横付  
ケニスルノ設備ヲモ為サ、ルヘカラス然ラサレハ曳船ヲ用  
ユルノ功能ナシ

◎益田 三百屯位ノ曳船ニテハ途中少シク風波ニ遭ヘハ単船

他ヲ棄テ、逃ケサルヘカラサルコトアルヘシ

◎呉 先年大阪神戸ノ運送家、石炭商人并船長等関係シテ関西曳船会社ノ設立ヲ計画セリ而シテ自カラ其任務ニ当リタル船長ノ意見ヲ叩キタルニ一ケ年数度ノ天候ヲ除クノ外曳船ニ差

支ナシトノ事ナリ

【三回ノ一 26 a】

◎益田 大阪築港ノ処ヘ石ヲ積ミ来ル船ヲ見ルニ形皿ノ如ク艫ニ汽鐘アリ深サ十呎ニテ千屯位ヲ積ムト云フ斯ル種類ノ船ヲ造リテハ如何

◎呉 若松神戸并大阪ニ於テ横付ケニナル様セサレハ不可ナリ

◎益田 若松ニテハ横付ケニスルコトヲ得ヘシ只今迄ノ設計ハ十二呎ノ船カ入り得ル様ニ為ス目的ナリシモ此度更ニ十六呎迄ノ船カ入り得ル様ニ為ス筈ニテ此度更ニ議會ニ於テ五十万円ノ支出ヲ可決スル都合ナリ故ニ若松ノ方ハ安易ナルモ大阪并神戸ニ於テ八十呎ノ船ヲ入り得ヘキヤ

◎飯田 八呎位ナラム

◎呉 神戸八十一呎ニテモ十二呎ニテモ可ナリ

◎長谷川 新在家町ノ方ハ棧橋ノ二間程先キハ深サ二十二三

呎アリ小野浜

【三回ノ一 26 b】

ノ方モ今少シ棧橋ヲ出セハ差支ナカラム

◎益田 若松并阪神間ノ石炭運送船ノ設備ハ支給之ヲ実行シタシ

◎長谷川 若松ノ方十三呎ニテモ十六呎ニテモ可ナリトセハ十呎ノドラフトニテ神戸并大阪ヘ石炭ヲ運送スヘキ汽船ヲ造リ之ヲ牛莊又ハ武豊行ニモ流用スレハ便利ナラン

◎益田 浅井監督并三好工学博士ノ説ヲ聞キタル二十呎位ノ水入ニテ千屯以上ヲ積ム船ヲ造ルコトハ出来得ヘシトノコトナリ併シ浅井ハ此船ニテ遠州灘ヲ乗り切ルコトハ御免ヲ蒙ル方ナリト申居リタリ

◎松尾 三菱ハ若松長崎間ニ使用スル為メ初音丸ヲ造リタルモ若松ノ築港未タ完成セサル為メ初音丸ヲ門司長崎間ニ使用シ居レリ

◎北村 若松ニ廻ハシタルモ積入ニ二時間ヲ要スル為メ門司ヘ廻ハスコトニ改メタルナリ

【三回ノ一 27 a】

◎上田 名古屋ニテ必要ナル設備ニ付テ述ヘラレタシ

◎寺島 名古屋ニハ是迄会社所有ノモノナシ当初店舗ヲ開ク

二方リテハ商売ノ傾向如何ニ成行クヘキヤ分ラサリシヲ以テ必要ニ応シ順次其設備ヲ為スコト、シ店舗モ単ニ伝馬町ニ借宅シタリ其後石炭商売ヲ開始シタル結果熱田ニ石炭置場ヲ設クルノ必要ヲ感シ地所ヲ借入レ又肥料商売ノ為メニ納屋町ニ倉庫付ノ家屋ヲモ借入レタリ斯ル有様ニテ名古屋支店ニハ一ノ土地ナク一ノ家屋ナシ幸ヒ肥料商売ニ付テハ三井銀行ヨリ百八十坪ノ肥料倉入ニ適當ナル倉庫ヲ借入レ得タルヲ以テ該商売ニモ差支ヲ来サ、ルモ今日既ニ該倉庫ハ手一杯ノ姿ナレハ此上商売高増加スルトキハ倉庫ノ不足ヲ来スヘシ

又近頃牛莊ノ大豆并大豆粕ハ四日市武豊兩地方ヘモ輸入セラ

【三回ノ一 27 b】

ル、コト、ナリタルカ武豊ハ物産会社ノ豆粕輸入ヲ以テ外國品輸入ノ嚆矢トスル位ナレハ一モ設備ノ見ルヘキナシ乍去三河付近ノ商売ハ向後武豊ニ拠リテ成立スルコト、ナルヘキヲ以テ相当ノ地所アレハ買入シ倉庫ヲ建築スルコトニ致シタシ尤モ今日税関モ単ニ仮事務所ニテ執務ノ有様ナレハ不日他方ヘ移転スルヤモ計リ難シ其際余リ税関ト遠カリテハ不都合ナレハ地所買入ニハ一考ヲ要スヘシ  
四日市ニモ荷物随分出入スルモ会社ノ倉庫ナシ故ニ適當ノ

モノアレハ上申ノ上購入シタシト考ヘ昨年以來取調ヘタルモ更ニ売物ナク今日迄上申スル程ノモノナカリシ就テハ少々ノ場所丈ニテモ買入置キタシ

熱田ハ四日市并武豊カ貿易港トナリタル結果商売ヲ兩地方ニ奪ハルヘキ傾アリ其為メ築港ニモ影響シ目下休止ノ姿ナリ

【三回ノ一 28 a】

旁同地ニハ不用ノ土地倉庫等モ生スヘク只今買入ヲ為スノ必要ナシ

名古屋支店現今ノ借家ハ非常ニ狹隘ナルノミナラス益家賃ヲ引上ケ来ル故店丈ナリトモ良キ場所ニ土地ヲ買入レテ建築シ又倉庫敷地トシテ相当ノ場所アレハ買入置キタシ此節丁度適當ナル場所見当リタル故上申シ置キタリ右ハ官有地ニテ不日入札払下アル筈ナレハ其節当店ニテモ入札スルト、致シタシ坪数ハ一万余ニシテ家ヲ建ツルニモ倉庫ヲ造ルニモ便宜ノ地ナリ且地内之堀割ヲ通スレハ各所トノ交通自由ニシテ荷物集散上非常ニ便利ナルヘシ

◎益田 遠藤氏ハ出京ノ際武豊ヘ赴キタルカ

◎遠藤 赴キタリ三河地方ノ商売ヲ經營スルニハ必要ノ地ナラム

【三回ノ一 28 b】

◎益田 同地ニテハ棧橋アリヤ

◎寺島 棧橋ヲ設クルノ計画アリ今日我社ニ於テ土曾会社ノ

棧橋ヲ借りテ使用セリ

◎益田 倉庫ハ入用ナキカ

◎寺島 入用ナリ又四日市ニモ倉庫入用ナリ

◎益田 四日市ニハ在来ノ倉庫少ナカラス之ヲ借入ル、コト

ヲ得ルナラン

次二門司支店ノ希望ヲ述ヘラレタシ

◎水谷 門司支店ハ東ノ端ニアリテ万事非常ニ不便ナリ先達

来毛利家ヨリ陸軍省ヘ移シタル地所ノ約二百坪払下出願方

ノ事ヲ上申シ既ニ毛利家ヘハ交渉アリタル様ニ承知セルカ

其結果如何俟リニ此地所カ出来ルモノトスレトモ単ニ二百

坪ニ過キサレハ支店ヲ建築スルニ漸ク足ルノミ然ルニ先般

大阪ノ山本氏三池ヨリノ帰途

【三回ノ一 29 a】

門司ニ立寄りタル節向後綿花并綿糸ヲ門司ニテ取扱フコ

ト、為スニ付テハ倉庫建築ノ必要アリ故ニ今ヨリ予シメ取

調ヲ為シタキ旨相談アリタリ、現在ノ家ノ裏ニ二百坪程

ノ地所アルモ鉄道連絡セサル故綿糸ノ倉入ニ適セス尤モ差

当リハ九州倉庫会社ヨリ借庫ヲ為スコトヲ得ンカ故ニ端の

支障ハ来サ、ルモ追々入用ヲ成スヘク其位置ハ陸軍省ノ地

所即チ毛利家ノ地所カ最モ適當ナリ何レ倉庫ヲ建テサルヘ

カラストセハ一日モ速ク建ツル方利益ナリ然ルニ今日門司

ニハ適當ノ地所ナキ故倉庫地ヲ買フコトハ困難ナリ幸ヒ毛

利家ノ地所ハ是迄我社ニ於テ借入シ居リタル縁故モアリ旁

先方ヘ相談セハ譲受ノ出来サルコトモ勿ルヘシ若シ毛利家

ニテ地所ノ代リカ入用ナレハ当社ノ所有地ト交換スルモ可

ナリ

◎益田 埋立地ヲ買ヒタル分ハ如何同所ヘハ鉄道連絡ノ筈ナ

リ

【三回ノ一 29 b】

◎水谷 鉄道ノ連絡付クヘキヤ否ヤ太甚怪シ高橋氏九鉄社長

タリシトキ鉄道連絡ノ筈ニテ貿易倉庫会社カ倉庫ヲ建築シ

タルモ鉄道未タ連絡セス宝ノ持チ腐リノ如キ有様ナリ

◎益田 鉄道ハ必ス連絡スヘシ

◎水谷 鉄道連絡スレハ右ノ埋立地ニテ可ナリ陸軍省ノ地所

ハ都合如何

◎益田 未タ結果ノ不明ナリ先以テ六ヶ敷モノ思ハサルヘカ

ラズ

◎水谷 仲津手前ノ宇ノ島ヘ豊州線延長ノ計画アリ門司迄ハ

四十三哩ナルモ宇ノ島八十哩程近シ從テ神戸并大阪送りノ

豊前炭<sup>ビ</sup>ハ行ク々々ハ此所ヨリ出ツルコト、ナルヘシ今日ハ未タ機関整備セス從テ船ヲ雇フニモ高ク付キ十哩近キモ費用却テ多シ来ル三十五年迄ニハ豊州鐵道会社ニ於テ埋立ヲ為シ波止場ヲ造ル計画ナレハ此計画成ルノ日ハ豊州炭ハ宇ノ島へ出ツルコト、ナルヘシ故ニ当社ニ於テモ商売上ノ

【三回ノ一 30 a】

便益ヲ計ル為メ予メ宇ノ島ニ三千坪計リノ地所ヲ買ヒ取り置キタシ

◎上田 同地方へハ是迄三田尻地方ヨリ米ヲ運送スル船カ来往セリ石炭ヲ積込ムトスルトキハ冬期ハ風浪高クシテ積込出来サルモ夏期ハ都合宜シ若シ防波堤ヲ築造スルトキハ冬期ニテモ荷役ニ差支ナキニ至ルヘシ

◎水谷 山本氏ヨリ紡績会社行ノ綿花ヲ神戸ヨリ大阪へ運送スルニ付完全ナル舢舨ヲ造ル時ハ保険料普通十二銭ノモノモ四銭ニテ可ナルニ依リ門司ニテモ舢舨ノ改良ヲ計リテハ如何トノ相談アリタリ右ノ舢舨ハ「チヨキ」形ナルヲ以テ幾分カ安全ナレトモ門司ニテハ雜貨少キヲ以テ常ニ雜貨積ノミニ使用スルヲ得スシテ雜貨ナキ場合ニハ石炭積ニ之ヲ使用セサルヘカラス從テ「チヨキ」形ニテハ不可ナリ若シ

【三回ノ一 30 b】

之ヲド船トスルトキハ保険料ヲ割安ナラシムルコトヲ得ス乍去門司ノ舢舨ハ平均五六万斤積ナルモ其形ヲ大ニシテ十万斤積位トシ荷物ヲ少シ積込ムトキハ危険ナシ元来舢舨ノ沈没スルハ荷物ヲ十分積込ミタル場合ニ波ノ動揺ヲ来スニ依ルモノニテ荷物ノ積方少ナケレハ此危険ナシ是レ即チ輪出来ノ舢舨ニ難船少キ所以ニシテ船ノ積量ヲ十万斤位トシ棉花二百本ヲ積込ムモノナレハ百五十本位積ミ置ケハ危険ノ憂ナシ而シテ其舢舨ノ經濟ヲ取調ヘタル処石炭サヘ積メハ十分算盤ニ当ルコトヲ發見セリ

◎益田 舢舨業者ニ於テ改良舢舨ヲ造ラサルヤ

◎水谷 舢舨業者ヲシテ取扱ハシムルトキハ危険多キヲ以テ自カラ舢舨ヲ持ツ方可ナリ

◎益田 金ヲ貸シテ舢舨ヲ造ラシメテハ如何

【三回ノ一 31 a】

◎水谷 金ヲ貸サ、ルモ石炭ノ積方ヲ特約スレハ舢舨造ルヘシ年併舢舨業者ハ二百五十本積込船ニハ二百五十本丈積込ムニ依リ危険ヲ避クル能ハス故ニ矢張自身ニテ舢舨ヲ有シ二百五十本積込船ニハ二百本丈積込ムコト、セサルヘカラス

◎益田 若松神戸間ノ運送船ニ付テハ名策ナキヤ

◎水谷 汽船ヲ造ルトスレハ且下ノ和船積ニ比シ運賃高値トナルヲ以テ荷主ハ汽船積ヲ好マサルヘシ

◎益田 何故割高二付クヤ

◎水谷 若松ノ曳船業者ノ実験ニ依レハ割高二付ク趣キナリ

尤モ曳船構造ニアラサル船ヲ使用シタル故ナランモ彼令曳船ノ構造ニ作りタル船ヲ用ユルモ幾分高値トナルヘシ

◎長谷川 構造ニ入費嵩ミ且通信省ノ免状ヲ得ルニ付色々面倒ナル

事項アルカ故ナリ

【三回ノ一 31 b】

◎呉 和船ノ運賃ハ常ニ割安ニ非ス時トシテ非常ニ割高ナルコトアリ殊ニ其危険多キヲ思ハ、少々運賃ノ高キ事位ヲ論スルノ違ナシ

◎益田 長崎ニ於ケル庫船阿房丸ノ実験ハ如何

◎松尾 庫船ハ石炭積ハ第二ニシテ棉、砂糖等ノ雜貨類ヲ積ムコトカ第一ノ目的ナリ之ハ賃錢ニ拘ラス品物ヲ濡ラサ、

ル点カ最モ価値アル所ナリ而シテ本船ヨリ荷物ヲ受取りタル上之ヲ他ヘ配送スル迄ハ庫船中ニ積込ミ置クモノニテ其時日長キニ亘ルコトアリ即チ三池送り棉花ノ如キ便船ノ来ル迄庫船中ニ置キ便船来リタルトキ取出シテ三池ヘ送付ノ手續ヲ為ス是迄ノ経験ニ徴スレハ船ノ經濟ハカツタナリ然レトモ之カ為メ便利ヲ得ルコトハ非常ナレハ尚ニ艘位造リタシ

◎益田 神戸ノ倉船ハ結果如何時化ノ時ニモ差支ナキヤ

【三回ノ一 32 a】

◎呉 大ニ便利ナリ荒レノ時ニモ差支ナシ尤モ送り方深ク未タ完全ノ庫船ト云フヲ得サルモ要スルニ之アルカ為メ尠ナカラサル便利ヲ得ツ、アリ

◎益田 門司ニテハ此種ノモノハ入用ナキヤ

◎水谷 西風ノ吹キ荒ム場所柄ナル故到底望ナシ

豊前炭ノ取扱ハ近来益増加シ鉄道ニテ続々着炭アリ然ルニ鉄道線路ノ通セル置場ハ毛利家ヨリ借入ノ地所アルノミニテ之トテモ地形三角ニナリ居リ全ク使用シ能ハサル場所アリ貯炭増加ノ場合ニハ非常ニ困難ヲ感ス然ルニ丁度三池炭置場ノ隣地ニ浅野総一郎氏所有ノ地所千百坪余アリ當時蔵内次郎作氏之ヲ借受ケ居レルカ坪六十五円ニテ買取り方申出アリ蔵内氏ハ六十円ニ附直シ未タ相談纏マラス右ハ荏苒日ヲ経ルニ於テハ邪魔ノ入ルコトナシトモ限ラス而モ同地所ハ是非共入用ノ地所ナル故物産会社ニ

【三回ノ一 32 b】

於テ買入資金ヲ貸与セラル、カ又ハ自身之ヲ買取ラル、コトニ致度旨相談アリ余ハ比地所ヲ当社ヘ買入致度モノト考フ

◎遠藤 兵庫ノ店ニ於テハ倉庫モ既ニ不足ヲ感セサルニ依リ

別段新タニ設備ヲ仰クヘキモノナシ併シ近來倉庫カ益奥深クナリタル故輕便レールヲ架設スルコトニ致シタシ

◎松尾 関東省ニ対スル商売ハ一昨日余ノ述ヘタル如ク尙尙大ニ見込アルヲ以テビクトリヤベイニ相当ノ地所ヲ買取り置クコト必要ト考フ何レ出張取調ノ上、上申スル所アルヘシ

◎益田 長崎支店ニ於テ要スル設備ナキカ

◎松尾 長崎ハ追々有望ナル商売地トナルヘク又先般港務局ヲ置カレテ以來市街モ漸次増加ノ傾向アリ為メニ倉庫敷地ノ如キハ益々拵底ヲ來セリ先年竹田氏支店長タリシトキ木鉢ニ埋立地ヲ造リタルモ一部分

【三回ノ一 33 a】

ハ肥料会社又一部分ハ築港事務所ニ貸渡シアル為メ当社ハ僅カニ三分ノ一即チ一千坪余ノ地所ヲ使用セルニ過ギス之ニテハ何分手狭ヲ感シ石炭置場ニモ差支ユルヲ以テ過般上申許可ヲ得テ女神ノ地所ヲ購入シ石炭置場ニ供シツ、アリ然ルニ石炭ヲ雨曝ラシ日曝ラシト為シ置クトキハ大ニ品質ヲ損スルヲ以テ速ニ倉庫ヲ建設スルコトニ致シタシ現ニ三菱ノ如キモ港口ニ立派ナル倉庫ヲ建設セリ尙雜貨倉庫モ一棟位ハ入用ナルヘシ右ノ地所ハ実ニ買物ニテジャーデンノ

如キハ英國ノ御用炭置場ニ供スル為メ地所搜索中ナレトモ未タ見当ラサル有様ナリ

又長崎ノ店舗モ大分古クナリタレハ新築ヲ願ヒ度モノナリ

◎益田 次ニ東京ノ設備ハ如何

◎福井 別段ニ廉立チテ云フヘキコトナシ東京ニ於テハ幸ヒ三井銀行箱崎倉庫

【三回ノ一 33 b】

アリ雜貨倉庫ニハ事ヲ欠クコトナシ此節同行ニ対シ当社ノ為メニ特ニ三百坪余ノ倉庫建築方ヲ交渉中ナリ若シ此倉庫ニシテ出來スルトキハ是迄ノ如ク數個ノ倉庫ヲ借入ル、コトヲ止メ右専用倉庫ニノミ倉入シ倉番ヲ一名当社ヨリ付シテ受渡ヲ一切取扱ハシムルトキハ大ニ便利ナリト考ヘツ、アリ又石炭ノ為メニハ石川島ノ地所アリ差当リ不足ヲ感スルコトナシ

又横浜支店考モアランカ横浜ヨリ東京ヘ石炭ヲ船船ニテ積取ルコトハ大ニ不便ナリ若シ吃水十呎位ノ汽船ヲ造リ得レハ横浜揚ヲ止メテ品川ヘ直送スヘキモ此事ハ直チニ実行ヲ見ル訳ニモ行カサレハ是迄通り横浜ニテモ石炭ノ取扱ヲ為サ、ルヘカラス然ルニ横浜ニ於テ石炭ヲ渡スニハ從來ノ慣行上公明正大ノ取扱ヲ為スニ非常ノ支障アリ之ヲ防ク為メ倉庫ヲ建築スルノ必要ナキニシモアラス尙ホ

【三回ノ一 34 a】

此事ハ研究中ニ属スルヲ以テ北村氏トモ相談ノ上申立ツル  
 コトモアルヘシ元來横浜ニテ石炭ヲ渡スニハ看貫ヲ為サス  
 蓋シ看貫ヲ為ストキハ滞船料ヲ支払ハサルヘカラス結果ト  
 ナリ却テ不利ナルヲ以テナリ乍去若シ倉船ヲ作り一度本船  
 ヨリ倉船ニ積移シ看貫ノ上得意先ニ荷渡スルコト、セハ石  
 炭受渡上正確ヲ保スルヲ得利益モ少ナカラスト考フ又横浜  
 東京間ノ船船ハ石炭積ト棉花積トヲ問ハス郵船会社ノ船ニ  
 テ積来リタルモノハ同社ノ達磨船ニ抛リ得ル故便利ナルモ  
 其他ハ何レモ破レ船ニ依頼セサルヘカラス從テ少シク風波  
 高キトキハ直チニ海難ニ遭遇スルノ恐アリ危険此上ナキヲ  
 以テ船改良ヲ画策セサルヘカラス殊ニ昨今ハ毛類トツブノ  
 如キ容積小ニシテ金高多キモノ、取扱漸ク増加シ此等ハ一  
 艘ノ船ニテ五六万円ノ金高二上リ少シノ潮濡ヲ蒙ルモ直チ  
 二四五千円ノ損失ヲ醸スノ有様ナレハ船ノ改良

【三回ノ一 34 b】

ヲ計ラシムル為メ当業者ニ資金ヲ貸与スルカ將タ又自カラ  
 船船ヲ製造スルカ何レカノ方法ヲ執ラサルヘカラス尚未篤  
 ト取調ノ上ニ答申スル所アルヘシ

◎北村 是ヨリ横浜支店ノ希望ヲ述ヘンニ横浜支店ノ事務所

ハ未タ古キニアラサルモ倉庫ハ非常ニ広古ク且茶ヲ倉入ス

ル為メニ建テタルモノナレハ生糸倉入ニハ不適當ナルノミ  
 ナラス現ニ狹隘ヲ来シツ、アリ故ニ三階建位ノ大倉庫ニ改  
 築致シタシ又事務所モ奥行浅ク箆箱然タル家ニテ日本第一  
 ノ開港場タル横浜ニ於ケル密ノ事務所トシテハ余リニ狹隘  
 ニシテ且不体才ナリ之モ事務ノ取扱ノ便利ニシテ外觀ノ見  
 苦シカラサル様改築ヲ願ヒタシ

又東京送りノ船船等ノ事ニ付テハ福井氏ノ説ニ同感ナリ尤  
 モトツブノ如キ金高物ハ鉄道便ニテ陸送スル方安全ナルヘ  
 シ

【三回ノ一 35 a】

◎益田 今年ハ海ト鉄道トカ連絡スル筈ナレハ重要品ハ稅務  
 手續ヲ了リタル後直チニ鉄道ヘ渡シ陸送スルコト、為ス方  
 可ナラン

◎福井 東京ノ築港出来得ル迄ハ陸送ヲ取ルノ外ナキモ只今  
 ノ鐵道線路丈ニテハ荷物ヲ搬送スルニ不足ナリ横浜東京間  
 ノ線路ハ是非共四五本ニハ為サ、ルヘカラス

◎山口 横浜新橋間ハ四本ト為スコトニ定マリ居ルモ大蔵省  
 ニ於テ金ヲ出サ、ル為メ未タ実施ノ運ニ立至ラサルナリ

◎益田 之ハ是非共速カニ四本ニセシメタシ高架鐵道出来ノ  
 上ハ旅客ハ凡テ常盤橋内ニテ上リ下リヲ為スコト、ナルヘ

ク新橋ハ貨物ノ集散場所トナルヘシ

次二三池ハ如何

◎**浅野** 三池ニテハ別段設備ヲ要スルモノナシ棉花ハ追々門

司ノ方ニテ取

【三回ノ一 35 b】

扱フコト、ナリ其設備ハ同地ニテ為スコト、ナルヲ以テ之ヲ略シ社船ニテ口ノ津ヘ積ミ来ル雜貨ニ対シ阿房丸一艘口ノ津ニ現在アルモ尚一艘位ハ入用ナリト考フ

又三池石炭ヲ運搬スル船不足ナリ殊ニ三池粉炭ノ直接売リヲ取扱フ上ハ其方ノ運炭上ニ合ノ子船ヲ使用スルコトモ必要ニ付益々以船船ノ不足ヲ来ス之ヲ鉾山会社ノ方ニ於テ五十艘計リ新造スルコトニ致シタシ

◎**南** 口ノ津支店ニ於テ第一ニ願度ハ石炭荷役上ノ敏速ヲ計ル為プリーニ二三個ヲ増設スルニ在リ只今浅井監督ニ依頼シ費用見積中ナレハ追テ伺出ツルコト、スヘシ

次ニ鉾山会社ノ曳船ハ既存ノ分三艘并出来掛リタル分一艘アルカ此取扱ハ凡テ物産会社ニ属セシムルコトニ致シタシ蓋シ不慣ナル鉾山

【三回ノ一 36 a】

会社カ之ヲ取扱フヨリモ慣レタル物産会社カ取扱フ方船ノ

經濟ニ取りテモ利益ナルノミナラス是迄杵島郡ノ石炭ヲ運

フ為使用スル場合ノ如キハ内証ニテ之ヲ動カシタルカ如キ有様ナリシモ向後ハ物産会社ノ取扱ニ移シ公明正大ニ使用シタシ勿論之カ取扱ヲ為スニ付テハ鉾山会社カ曳船ノ為メニ支出シタル經費ハ物産会社ニ貰ヒ受クルコトニ致シタシ又荷役ヲ迅速ナラシムル方法ニ付テハ團氏ノ持帰ラレタル器械ハ大ニ好結果ヲ呈シツ、アリ之ニ就テハ社船ノウインチヲ改良シ且ハツチヲ尚二個位宛増設スルコトニ致シタシ又本船二三艘入港セル場合ニ荷役ヲ速カナラシム為メ段平船ヲ増加スルコト、致シタシ之ハ金ヲ貸渡シテ造ラシムルカ又ハ当社自カラ之ヲ造ラサルヘカラス

◎**浅野** 先年鉾山会社ニ於テ資金ヲ貸渡シ段平船五十艘ヲ造ラシメタル

【三回ノ一 36 b】

コトアリ

◎**南** 尚ホ五六十艘ハ入用ナリ一艘ニ付三百円位ツ、貸金セハ可ナランカ

又蛭子鼻ニアル鉾山会社ノ木造セツツ四棟ニ雜貨ヲ倉入シツ、アルカ之ハ鉾山会社ヨリ譲受ケ大屋新開地ノ方ヘ改築致シタシ

◎**益田** 倉庫、船、曳船、倉船等ノコトニ付テハ段々御意

見ヲ承リタシ尚人ノコトニ付テモ御氣付ヲ承知致シタシ元  
 来人ヲ採用スルニ付テハ昨年来殊ニ注意シ参事ヲシテ十分  
 撰択ニ勉メシメ又我々モ面会シテ人物ヲ見其上ニテ採用シ  
 タルヲ以テ昨年七八月ノ交入社シタル人々ニハ必スヤ其選  
 ビ方ノ当ヲ失ハサリシコトヲ信ス尚昨今計算方ノ人ヲ商売  
 方ノ方ヘ引拵ケテ使用シタル為計算方ニ従事スル者不足ヲ  
 感スルニ至リタルカ夫等ノ補充方并前年来段々入社シタル  
 高等商業学校、地方商業学校若クハ工業学校卒業生

【三回ノ一 37 a】

ノ採用方等ニ付心得ト相成ルヘキ事共ヲ承リタシ  
 ◎飯田 各店共人手ノ不足ヲ感シ居ラル、様子ナルカ大阪ニ  
 於テモ大ニ其不足ヲ感シツ、アリ昨年ハ余程差廻ハシヲ願  
 ヒタル積リナリシ処考課狀調製ノ際取調ヘタル処ニテハ僅  
 ニ前年ニ比シ一人ノ増加ノミ本年ハ何卒思ヒ切リテ沢山御  
 採用アリタシ大阪支店ニ於テハ今日□人ノ人ヲ増加セラ  
 ル、モ更ニ差支ナキノミナラス夫々仕事ヲ見出タシ給料ニ  
 超過スル丈ノ効果ヲ拵ケ得ヘシ又是迄入社シタル人ノ成績  
 ニ付テ考フルニ早速ニ役立ツハ高等商業学校卒業生ニテ地  
 方商業学校卒業生之ニ次ク故ニ差向キ人員ノ入用ナル場合  
 等ニハ商業学校卒業生ヲ差廻シ貫フコト一番都合宜シ

◎福井 東京ニ於テモ人手ハ常ニ不足ニテ少シ流行病ニテモ

アルトキハ直チニ

【三回ノ一 37 b】

事務ニ支障ヲ生ス殊ニ受渡掛員ノ不足ニハ困難ヲ感スル所  
 ニシテ該掛員ニハ最モ信用ヲ措キ得ル人ヲ廻ハサルヘカ  
 サルノミナラズ其掛員ノ働如何ニ依リテハ利益アリシ商売  
 モ損失ニ歸スルコト、ナルヲ以テ一時ノ間ニ合ハセ人ヲ此  
 掛ニ使用スルハ太甚面白カラズ然ルニ今日ハ不得已間ニ合  
 ハセノ人ニテモ使用セサルヲ得サル有様ナリ斯ル次第ナル  
 故ニ受渡ノ如キ容易ニ出来ソウニテ其実容易ナラサル仕事  
 ニハ予備ノ人ヲ平生養成シ置キ其人ノ性質力量如何ヲ考察  
 シテ漸次他ノ掛ヘ廻ハスコトニ致シタシ依テ飯田氏ノ説ト  
 同シク可成多人數ヲ御採用願度且其人ハ高等商業学校卒業  
 カ若クハ之ト同等以上ノ学力アル人ニ願ヒタシ昨年ニ雇入  
 アリタル内ニテハ高等商業学校卒業生成績最モ宜シク又大  
 学卒業生モ申分ナキノミナラス比較的早く商売上ノ事カ分  
 カル様ニ見受ケラル

【三回ノ一 38 a】

故ニ大学ナリ高等商業学校ナリ將タ又之ト同等以上ノ学力  
 アル人ナリヲ可成多ク雇入レラル、様致シタシ

◎呉 人ノ事ニ付テハ少シク意見アリ先以テ会社ノ大方針ヲ

定メテ貰ヒタシ是迄ノ成行ヲ見レハ使用人ハ恰モ聖人ナルカノ如ク何ノ用事ニテモ出来得ルモノト認メラレ居ルニハ非サルヤノ感アリ乍去一ノ仕事ニ熟達スルコトハ其仕事ノ上ニ於テ最モ必要ニシテ且有益ナル事ナレハ綿花、綿糸、石炭等商売高ノ大ナルモノニ付テハ夫々専門ノ人ヲ用ヒ其商売ニ専從セシムルコト、セハ大ニ利益ナルヘシト考フ次ニ最モ必要ヲ感シツ、アルハ勘定方ニテ何レノ店ニテモ勘定方ニハ困難ヲ極メツ、アルモノ、如シ蓋シ勘定方ハ何人モ一生涯從事スルコトヲ嫌ヒ機會アレハ他ノ掛ニ転センコトヲ計ル斯クテハ会社ノ計算上不利ヲ醸スノ恐アレハ勘定方ハ終身役員トシ特別ノ取扱

【三回ノ一 38 b】

ヲ為スコト、シ且海軍主計学校ノ如キ三井ノ勘定方ヲ養成スル学校ヲ造リ尋常中学卒業位ノ人ヲ募リテ勘定方ニ仕立テルコト、シ右ニ一言シタル如ク之ヲ終身役員トスルト共ニ特別ノ取扱トシ仮令勘定方ニテモ本店計算課ノ主任トモ為リ得ヘク又海外ノ勘定方主任トシテ赴任スルモ道之アリト云フカ如ク前途ニ希望ヲ抱カシメ安ンシテ其職ニ從事シ得ルコト、シテハ如何

◎寺島 昨年差廻ヲ受ケタル高等商業学校卒業生ハ成績宜シ此度山中塩辭職シタルニ付テハ其代リトシテ納屋町ノ肥

掛ヘ勘定方兼出納方トシテ差廻ハスヘキ年輩ノ一人一人至意入用ナリ又昨今鉄并毛類ノ商売追々増加シツ有ルヲ以テ之ニ從事セシムヘキ人モ一人入用ナリ□商業学校卒業生ヲ御差廻ハシ願ヒタシ

◎上田 年輩ノ人入用ナルハ如何ナル故ニヤ

【三回ノ一 39 a】

◎寺島 金ノ請取方ヲモ取扱ハシムル故落付キタル人入用ナリ

名古屋ニテハ掛員ヲ諸方ニ派出セシメサルヘカラス故二人手ヲ要スルコトモ割合ニ多シ

◎飯田 人ヲ雇入ル、際ニハ十分体格ニモ御注意願ヒタシ近頃ハ学問ニ重キヲ置キタル故ニヤ病身ノ人多ク大甚困却ス

◎上田 御説ノ通り本店ニ於テハ容易ニ人ヲ採用セス容貌体格并生国ニ至ル迄之ヲ吟味ス茲ニ余ノ一ツ感シタルコトアリ日清戦争後社船ノ増加ニ伴フテ船員モ増加シ若手中ニテマセマチツクノ十分出来ル人モ輩出シ機関監督一名ヲ除クノ外機関長ハ凡テ日本人ナルノミナラス古クヨリ会社ニ在リタル機関長ノ内一人ハ辞シテ神戸ノ鉄工所ニ從事シ外ニ尚一人辭職セル人モアリ殆ント若手ヲ以テ満タサル、ニ至レリ此等ノ人ハ何レモ能ク勉強シ不時ノ出来事アル場合モ克ク之ヲ措断

【三回ノ一 39 b】

シ船舶入渠ノ際モ少シモ抜目ナク注意シ殆ント欠点ナキモ只一ツノ欠点ハ身体強壯ナラサルニ在リ尤モ二等機関士位迄ハ可ナルモ一等機関士若クハ機関長トナリ頭ヲ多ク使用スルニ至ルトキハ申合ハセタル如ク脳病又ハ胃病ニ罹リ之ヲ下船セシメ熱海若クハ大磯ニテ加療セシムルトキハ健康旧ニ復ス是ハ決シテ我儘ニテ骨休メヲ為スニ非ス必竟頭ヲ多ク使ヒ勉強ヲ為ス割合ニ養生ニ注意セズ運動不足勝ナルニ原因スルモノナリト信ス西洋人ハ大抵皆戸外ノ遊戯ヲ試ムルモ日本人ニテ之ヲ為ス者少シ蓋シ一欠点ナリ就テハ陸上ノ人ニモ養生方ヘ付テハ十分注意ヲ施サル、様致シタシ幸ヒ近來端艇并玉突等ノ設備アリ之等ニ対シテハ会社ハ相当ノ入費ヲ支出スルコトヲ厭ハサル考ナレハ各自亦其意ヲ体シ平素運動ヲ盛ニシ体力ヲ養ハレンコトヲ望マサルヲ得ス

【三回ノ一 40 a】

◎呉 神戸ニ於テハ運動ノ必要ヲ認め従来ノボートノ外ニライプラーリヲ設クルコト、運動ヲ盛ニスルコト、二付特ニ委員ヲ設ケ各掛ノ主任ヲ要員トシ今後毎週日曜日毎ニ郊外ノ散策其他種類ノ運動法ヲ講スルコト、シ各自月給ノ二分

ヲ出金シテ其費用ニ充ツルノ工夫中ナリ就テハ重役各位ヨリモ補助ヲ得大阪并兵庫店等トモ聯合シテ大ニ体育ノ發達ヲモ計リ度考ナリ

◎南 現行ノ使用人登用試験規則ニ依レハ子供ヨリ日給者トナリ又ハ日給者ヨリ月給者トナルニハ必ス試験ヲ受ケサルヘカラサル成規ナルカ之ヲ支店長ノ見込ニ依リテハ無試験ニテ日給者又ハ月給者ニ拔擢シ得ルコトニ改メタシ

◎上田 試験規則ヲ嚴ニシタルハ可成學問アリ何レヘ出スモ恥シカラサル人ヲ得タシトノ考ニ基キタルモノニテ日進月歩ノ今日ニ在リテハ月給者ハ大学

【三回ノ一 40 b】

若クハ高等商業学校位ハ卒業セルカ又ハ之ニ同等以上ノ学力アル者ナラサルヘカラス日給者トテモ亦同シク地方商業学校又ハ尋常中学位ハ卒業ノ学力ナカルヘカラス此主意ニテ試験規ヲ定メタル次第故何処迄モ之ヲ貫徹セサルヘカサルナリ尤モ門司若松等ニテ石炭ヲ汽車ヨリ請取り之ヲ舩船ニ積込ム事ヲ監督スル人ノ如キ又ハ棉花ノ検査人ノ如キハ一種ノ能力ヲ要シ必スシモ學問アル人ニアラサレハ採用セスト云フカ如キ嚴重ノ規則ヲ実行シ能ハサルニ依リ近頃涉外掛ヲ設ケタリ或ハ本店ノ主義嚴ニ過クルトノ御感シモアランカナレトモ之ハ今少ク実行ノ結果ヲ見ルコト、致シ

タシ

◎浅野 大学又ハ高等商業学校ノ人ヲ取ルニ当リテハ其試験ノ成績ヲ参酌スルコトモ必要ナリ勿論試験ノ成績ハ良好ナリシモ実務ニハ余リ役立タスト申ス如キ学問モ之ナキニシモアラサルモ要スルニ成績

【三回ノ一 41 a】

良好ナル人ハ才氣アル人カ然ラサルモ非常ノ勉強家ナルヘケレハ試験ノ成績ハ人ヲ採用スル場合ノコンシデレーション中ニ入レ置クコトニ致シ貫ヒタシ

◎上田 勿論此点ニモ注意シ試験ノ席次ヲ参酌シ居レリ即チ入社申込者アレハ先以テ其卒業ノ席次ヲ見タル上参事ニ於テ面会シ然ル後専務理事又ハ余ニ於テ面晤ノ上種々談話ヲ試ミ一度ニテ不十分ナレハ二度モ三度モ面会シテ当方ノ議論ヲモ持出シ其返答如何モ見テ之ヲ採用ス即チ試験成績モ勿論コンシデレーション中ニ入レアル次第ナリ

◎浅野 子供ハ試験ノ上ニアラサレハ日給者ニ採用シ得ス從テ受験ノ為メ勉強ヲ強ユルノ姿トナリ健康ヲ害セシムルコトナシトセス故ニ本人ノ働キ様如何ニ依リテハ無試験ニテ日給者ニ採用スルコトニ致シタシ而シテ余ハ向後コッピ―ボーイ専門トシテ小使ヲ使用致度考ナリ

◎上田 未タ各店ヘ通達セサルモ本店ニ於テハ子供ハ之ヲ全

廃スルノ方針ナリ

【三回ノ一 41 b】

蓋シ以前ハ父兄ニ於テ子弟ヲ商人ニ仕立テントスルニハ三井ノ如キ御店ニ奉公セシムルヲ最モ良好ノ方便ナリト信シ首尾克ク勤メ上ケタル上ハ之ニ家督ヲ讓ルト云フカ如キ有様ニテ三井ニ入ルレハ自然ニ立派ナル商人トナリ得ヘシト信シ子弟其者モ亦三井ニ奉公スルヲ難有感シタルナリ而シテ今日ニ於テハ尚世間ニテハ此觀念ヲ有シ居ルニモ不拘實際ハ大ニ之ト異ナリ為メニ父兄ヲ失望セシムルコトナシトセス即チ昔風ノ商家ナレハ番頭カ終日小僧ヲ監督シ夜ニ入レハ読書算術ヲ習得セシムル等陶冶ノ道ニ於テ至レリ尽セリト雖モ会社ノ如キハ之ト異ナリ勿論英語漢学算術等夫々教師ヲ定メテ其教ヲ受ケシムルコトニハ為シアレトモ彼等ハ早朝ヨリ夜ニ入ル迄茶煙草盆ノ取扱ニ將タ書状ノコッピ―ニ終日役々トシテ使用セラレ且執務時間後ハ重役以下一同退散シ跡ニハ一人ノ彼等ヲ監督スルモノナキ姿ナレハ自カラ悪習慣

【三回ノ一 42 a】

ニ感染シ易シ故ニ使フ方ニハ極メテ調法ナレトモ子供ノ一身上ヨリ考フレハ寔ニ氣ノ毒千万ナルノミナラス会社ニ其

子供ヲ托シタル父兄ノ考ニモ悖ルル次第ナレハ子供ハ可成之ヲ廢スル方針ニ定メ其代リニ二十歳前後ノ大供ヲ使用スルコト、スヘク社長ニ印ヲ貰ヒニ來ルニモコツピーヲ取ルニモ一々子供小使ヲ使役セス自分自ラ之ヲ為スヘシト申渡シ居レリ現ニ西洋人ノ店テハ子供ヲ使用セス倫敦支店ノ如キハ小使スラモ之ナク唯小使トモ稱スヘキ者ハ店員ノ退散後机ノ上ヲ整ヘ紙屑ヲ掃除シ戸締リヲ為ス位ニ止リ一人ニテ二三十室ヲ受持チ居レリ要之子供小使ヲ使用スル習慣ハ可成之ヲ打破スルコト、致シタシ

◎平田 函館ニ於テハ別段設備ト申ス程ノ事ナシ唯硫黄ノ取扱ヲ盛ニスル以上ハ之カ倉入用ニ供スル為他へ貸与シアル倉庫ヲ取戻サ、

ルヘカラズ  
【三回ノ一 42b】  
(第三回了)

◎益田 第四回ノ一 一月二十一日 午前  
昨日ハ大分船ノ話出テタル故本日ハ運漕業拡張ノ可  
否ヲ議セム

【四回ノ一 1a】

運漕業拡張ノ可否

創立ト共ニ起リタル社有風帆船ハ頼朝秀吉ノ両汽船ノ補助コロトナリ漸次隻数ノ増セル当社ノ汽船ハ現今山丸ヲ始メ七隻ニシテ孰レモ幸運ニ乗シ航海シ年々十分ノ積立金ヲナシテ利益ヲ得加之商業ノ補益スルコト尠シニアラス現金二百三十三余万円ノ資金ヲ之ニ擲テルモ十分ノ価値アリト信ス然レトモ現今ノ社船八年々増加スル石炭ノ運搬ニ殆ント其大部分ヲ要セラレ他ニ大ニ社船ノ利用ヲ渴望セル砂糖豆粕其他ノ回漕ニ従事スルヲ得サルハ

【四回ノ一 1b】

大ニ遺憾トスル処ナリ特ニ露政府ノ北清ニ於ケル經營ハ不遠大ニ支那海ニ於ケル航海業ヲ發達セシムルノ原因タルヤ疑ヲ容レス又内地各港間ノ石炭運送ノ如キ到底日本形船ノミニヨリテ之ヲ為スヘカラス而シテ帝國汽船主ノ所有船ハ其数少ク而モ雇船契約ヲ重ニセサル結果其商売ニ及ボス危険実ニ少カラス左スレハ孰レノ点ヨリスルモ社船ノ増加ハ一望マシキコトナレドモ又是ニ要スル資金ノ必要及航海奨励法案ノ命運等ニ就キ熟考ヲ要スルモノアリ依テ其可否得失ヲ審議有之度及諮問候也

◎**益田** 本日八藤村氏出席ナキモ社船ノコトハ上田理事モ御承知ナレハ御質問ナサルヘシ兎ニ角今日ハ七艘ノ船ヲ有シ何レモ

【四回ノ一 2a】

使用ニ追ハル、有様ニテ直接ノ利益ヲ拵ケ得ルノミナラス之ガ為メ間接ニ当社ノ商務ヲ助成スルコト尠ニアラス當諸君ノ御意見ハ仔細ニ陳述セラレタシ

◎**上田** 砂糖商売開始以來社船ヲ爪哇ノ航海ニ用ユルコトトナリ為メニ船ノ不足ヲ感スルコト一層深キヲ致セリ蓋シ爪哇ヘ社船ヲ送ル場合ニハ往航ニ石炭ヲ新嘉坡ヘ送り復航ニ爪哇ヨリ砂糖ヲ積取ルモノナレハ砂糖ノ商売ニハ極メテ都合ヨキモ石炭ノ方ヨリ云ヘハ大ニ運搬力ヲ削減セラル、ノ結果ナルヲ以テ迷惑ノコトトナル即チ香港通ヒノ船ヲ爪哇航ニ充ツルトスレハ唯一口ニ云ヘハ香港行ノ船ヲ一艘爪哇ヘ振向ケレハ可ナルコトナルモ香港ヘハ一ヶ月ニ二航海出來得ヘキモ爪哇ヘハ約二ヶ月ヲ要スルヲ以テ之カ代船ハ三四航海分ヲ雇ハサルヘカラス故ニ石炭ニ取りテハ非常ニ迷惑ノ事共ナリ

【四回ノ一 2b】

而シテ昨年ハ砂糖ノ商売成立シタルモ船舶払底ニシテ雇船

ニ困難ヲ感ジ其結果香港行ノ社船ヲ爪哇回航シタシカタメ石炭ノ蒙リタル不利不便尠少ニ非サリシ

◎**益田** 航海奨励法改正ノ結果本年外国ヨリ買入レタル船ハ

従前ノ半額シカ奨励金ヲ得ル能ハス從テ外国製ノモノヲ買フヨリハ材料ヲ買入レ日本ニ於テ造ル方利益ナリ然ルニ大船ヲ造ルトスレハ四五年前ニ比シ鉄類二三割方モ高価ナレハ資本ノ都合モ考慮シ又商売上ノ必要ヲモ斟酌シ造船ヲ必要ト認ムレハ之ヲ決行スルコトアルヤモ計ラレサルモ船ヲ造ル時期トシテハ余リ適當ト云フヲ得ス

◎**呉** 北清地方ニ付テハ大阪ニテハ棉糸ヲ輸出シ兵庫ニテハ大豆大豆粕ヲ輸入ス故ニ之ヲ組合ハセ社船ヲ応用スルトキハ機敏ノ

【四回ノ一 3a】

働ヲ為シ得ヘク他人ト競争上実ニ便利ナリ

◎**上田** 船舶課ニテ取調ヘタル社船ノ運搬表並ニ本年度船腹入用高調ヲ御参考トシテ左ニ掲グベシ

〔いかに表9〕

【四回ノ一 4a】

◎**遠藤** 昨年初布引丸ヲ牛莊商売ニ使用スルコトノ許可ヲ得

表9 三十二年度社船運搬表

上海	社船	150,216	}	203,461	}	社船 408,016 雇船 281,463 689,479 tons石炭		
	雇船	53,245						
香港	社船	212,654	}	302,541				
	雇船	89,887						
新嘉坡	社船	11,765	}	118,859				
	雇船	107,094						
其他	社船	33,381	}	64,618				
	雇船	31,237						
	社船運搬	408,016 吨	雇船運搬	381,973 吨				
石炭	408,016 担							
砂糖	242,887 担							
豆	148,118 担	329,416 担(□□)						
鉄鋼	4,304 吨							
棉糸	11,094 俵							
木炭	42,089 俵							
			Percentage					
			上海	香港	總計			
			社船	73.8	70.3	59.2		
			雇船	26.2	29.7	40.8		
石炭海外雇船数	84艘							
内地 "	67艘							

Estimate of Future Tonnage Arrang'mt.

一ヶ年	入用高	社船運送高	差引不足高
上海運炭	250,000	175,000	75,000
香港 "	350,000	245,800	104,200
新嘉坡 "	150,000	21,000	129,000
其他 "	100,000		100,000
砂糖	25,000	25,000	
大豆	30,000	16,000	14,000
	905,000	482,800	422,200

三航海致シ運賃ハ二十三銭ノ割ニテ計算シタルニ本船ヲ

【四回ノ一 4b】

碇泊セシメ置クヨリハ利方ナリシ商内ハ四日市一艘分代ハ神戸揚ニテ出来セリ其次ニ秀吉丸ヲ雇入レ往航ニハ天津へ滿船棉糸ヲ積ミ復航ニハ大豆大豆粕ヲ牛莊ヨリ積来リ四航海往復セリ内二航海ハ四日市揚又ニ航海ハ神戸揚ナリ此航海ニ於テ結局貳百五拾円ノ損失ヲ来シ大阪ト兵庫ト一日二十五円宛ヲ負担シタルモ本船ニヨリテ大阪兵庫兩店カ棉糸並ニ牛莊商売上便利ヲ得タルコトハ実ニ尠少ナラサリシナリ而シテ又秀吉丸積高ハ壹万三千担ニ過キサルモ此位ノ船ナレハ牛莊ニ於テ何時ニモテ現品ノ買持出来積込ニ差支ノ来サルノミナラス牛莊並ニ神戸四日市

ニ於ケル荷物揚卸ニモ一日ヲ要スルニ止ルヲ以テ非常ニ便利ナリ故ニ若シ牛莊商売ノ為メニ船舶ヲ新造スルトセハ三萬担以下ノ積量ニ致シ度又牛莊名古屋間ニ

【四回ノ一 5a】

一艘牛莊東京間ニ一艘ヲ通ハシムルコトニ致シタシ神戸ニ於テハ郵船会社並商船会社ノ定期船アルヲ以テ雇船ニ不都合ナシ本年モ大阪商船会社ノ船ヲ毎月一艘十八錢ノ運賃ニテ四月ヨリ十二月マテ約定セリ蓋シ五六兩月間ハ商売余リ成立タサルヤモ計リ難キモ其場合ニハ一航海位空船ニテ戻ルコトアルトスルモ尚二十錢内外ノ運賃ニ過キササルヲ以テ割安ナルヘシ即昨年ハ最低運賃十五錢十一月頃ニ至リテハ式十六錢五厘迄ニ雇船セリ他人ハ大抵三十錢位ニテ雇船セリ牛莊開河前并ニ閉河前ニ運賃暴騰スルヲ常トスレハ十八錢ノ約定ハ決シテ不利ニアラス如此神戸揚ハ雇船ニ差支ナキモ東京並ニ名古屋揚ノモノハ雇船極メテ困難ナレハ前ニ述ヘタル如ク此間ニ用ユル船舶ヲ一艘ツ、都合ニ艘新造スルコトニ願ヒタシ若シ牛莊商売間隙ナルトキハ旅順大連灣等ノ商売

【四回ノ一 5b】

用ユルモ可ナリ而シテ屯數ハ千二百噸内外トシ置ケハ最モ

便利ナリ

- ◎松尾 牛莊通ヒノ船ハ千二百屯位ノモノ最便利ナリ即チ秀吉丸位ノモノ至極適當ナレトモ今少シ造船方法ヲ改良セハ水入同一ニシテ千二百屯ノモノ千五百屯積ミ得ル様為シ得ヘシト考フビクトリヤベニハ棧橋ノ設備出來ル筈ナレハ積込方ノ時間ヲ要セズ且船ノ大小ニヨリ經濟ニハ左程相違ナキヲ以テ可成積量ヲ多クシ置ク方割方ナリ
- ◎益田 營口開河トナル上ハ大連灣ヨリ大豆大豆粕ヲ積込スコトハナカルベシ
- ◎松尾 鐵道ノ運賃安ケレハ營口ヨリモ大連灣積ノ方利益ナリ

◎益田 營口大連灣間ノ鐵道ハ何哩ナリヤ

◎松尾 九十哩ナリ

【四回ノ一 6a】

- ◎益田 九十哩アリトスレハ鐵道ヲ利用シテ大連灣ニ積出シ同所ヨリ積込ムコト、ナルヤ否ヤ疑ハシ
- ◎遠藤 従來川下シノ運賃ハ高価ナリシ故鐵道吉林へ開通スルノ曉ニ於テ鐵道ノ運賃低廉ナルトキニ川下シヲ止メ鐵路ニ依リテ大連灣へ持チ來ルコト、ナルヤ計リ難シ
- ◎松尾 吉林辺ノ大豆大豆粕ハ大連灣へ集中スヘシト信ス
- ◎益田 遠藤氏ノ說ハ式千屯ノ船ニテハ過大ナル故一千二百

噸位ニ致シタシタシ云フカ

◎松尾 船ノ送り方ニ依リテハ千二百屯ノモノヲ千五百噸モ積ム様ニ為スコトヲ得ルナラン

◎遠藤 船ハ造リ得ルナランモ牛莊ニテノ買方困難ナリ

◎松尾 是迄ハ舢下ニテ川下リヲ為シ陸上セスシテ其儘ニ持チ居タル故

【四回ノ一 6b】

買入方困難ナリシモ向後鐵道ニテ大連灣へ集中スルコト、ナレハ買入方ニハ困難ヲ見サルベシ

◎寺島 売方ニモ關係アリ小船ノ方便ナリ殊ニ四日市武豊等何レモ陸上ニ關スル設備全カラサルヲ以テ益小船ノ方都合宜シキ結果トナル

◎松尾 豆粕ノ商売ノミニ使用スル目的ナレハ小形ノ船ニテモ可然モ豆粕商売ハ常ニ繼續シテ存在スルモノニアラス時ニ他ノ方へ差向ケル必要起ル場合モアル可ケレハ矢張事情ノ許ス限りノ大形ト為シ置ク方可ナリ

◎遠藤 北清航ハ何レノ点ヨリ見ルモ千屯乃至千五百噸位ノ船ナルヲ要ス

◎長谷川 松尾氏ノ言フ如ク豆并ニ豆粕ノ商売ハ年中繼續シテ

【四回ノ一 7a】

アル訳ニモアラス旁豆並ニ豆粕ノ商売ノミヲ目的トシテ船ヲ造ルハ策ヲ得タルモノニアラス元來欧州通ヒノ船ハ其数少ナカラサルヲ以テ香港並ニ新嘉坡向ケノ雇船ヲ為スコトハ敢ヘテ困難ニアラス然ニ北清商売ニ用ユル船ハ其数比較的ニ少ナキニモ拘ラス大豆豆粕ニ関シ広東、厦門、及仙頭等ト牛莊トノ間ニ於テ商売ノ成立ツ時期ト日本ト牛莊トノ間ニ商売ノ成立ツ時期トカ同一ナルヲ以テ那威船主ノ如キハ此時期ニ際シ特ニ船ヲ東洋ニ廻ハス位ナルモ而モ尚船腹ノ不足ヲ來シ雇船方極メテ困難ナレハ茲ニ初メテ造船ノ必要ヲ來スモノナリ然リト雖モ限リアルノ資金ヲ以テ船舶ヲ構造セシトセハ各種商売ニ共同セラル、如キ便利ナル船ヲ造ルコトヲ目的トセザルベカラズ況ンヤ船ノ生命ハ数年ヲ以テ終ルモノニアラス少ナクトモ二十五年以上ハ繼續スベキヲ以テ十数年以後ノコトモ腦裡ニ画クノ必要アルニ

【四回ノ一 7b】

於テヤ現ニ遠藤氏ハ一昨年ハ「ローヤル」号ヲ大ニ便利ナル船ナリト云ハレタリ同船ハ貳千屯以上ヲ積ム船ナリ然ルニ只今承ル処デハ二千屯ノ船ハ不便也秀吉丸ノ如ク千二百屯ノ船カ便利ナリト云ハレタリ如此僅ニ一ヶ年ノ向ニテモ大ニ御説ニ變動アル位ナレハ今日便利ナル秀吉丸モ異

日再び不便ヲ感スルコトアルヘキヤ知ルベカラス故ニ何十年ノ後迄モ使用シ得ヘキ船舶ヲ構造スルニ方リテハ単ニ豆粕ノ商売ト云フカ如ク一部局ニ踞踏セス今少シク其觀察点ヲ広ケサルベカラス仮令豆粕ノ商売ニハ少シノ不便アリトスルモ一般商売ノ便宜ノタメニハ之ヲ忍ハサルヘカラス殊ニ又船ノ經濟ヨリ論スルモ式千屯ノ船ヨリハ式千五百噸ノ船ノ方利益ニシテ又式千五百噸ノ船ヨリモ參千屯ノ船ノ方割合宜シ旁以テ此等諸ノ点ヲ斟酌シ石炭積ニモ豆並ニ豆粕積ニモ適用セラルベキ「カーゴボート」ヲ

【四回ノ一 8a】

造リ「ウィンチ」ヲ多クシ「ハッチ」ヲ廣クシ又万一戰爭起リ御用船ニ供用セラル、コトアルヤ計ラレサルヲ以テ其場合ニ備フルタメ空氣取り明り取りヲ十分ニシ日本沿岸北清南清及馬尼刺ノ商売ニモ利用シ得ヘキ船舶ヲ造ルコト最モ便宜ニアラサルカ、而シテ天津牛莊上海神戸武豊等何レモ十三呎ナレハ差支ナカルヘク造船事業ノ進歩セル今日十三呎ニシテ二千乃至二千五百屯ノ船ヲ造ルコトハ敢ヘテ難キニ非ルベシ一例ヲ挙クレハ「ローヤル」号ハ喫水十七呎九寸ニシテ其積高二千百屯ナリ然ルニ其後二造リタル愛宕山並ニ富士山ハ喫水モヨク浅ク而モ其動揺ハ少クシテ乗船上不便ナク船長海員ノ如キトモ有明丸ニ乗ルヨリモ寧口前

二者ニ乗ルコトヲ好ムノ実アリ又香港ニテ南氏ノ取調ヘタル「ゼルマニヤ」ト称スル船ハ喫水十九呎三寸ニシテ積量式千八百屯也是等ノ事情ヨリ考フレハ支那各港

【四回ノ一 8b】

并ニ南洋ヲ目的トスル二千屯乃至二千二百屯ノ船舶ヲ十三呎乃至十四呎ノマキシムニテ造リ得サルコトナカルヘク其方大ニ利益ナルヘシト考フ之ヲ要スルニ限りアル資本ヲ以テ長生命ノ船舶ヲ造ラントスルニ方リテハ単ニ大豆大豆粕ト云フカ如キ一部ノ考ヲ去リ全体ノ便益如何ヲ熟考セサルベカラス若シ右ノ如ク全体ニ便利ナル船舶ナリトスレハ今日五六艘ヲ新造スルモ決シテ其使途ナキヲ憂ヒサルナリ

◎南 昨年下半年ノ入用噸數ヲ四十二萬屯トシ社船ノ内大船四艘ハ香港ニ航海トシ小形ノ二艘ハ上海三航海トシテ計算スルトキハ半年間ニ社船ノ運搬力三十萬屯トナリ差引十二萬屯即チ一ヶ月二萬屯ノ船腹不足ヲ來ス而シテ余ノ考ニ依レハ我社ノ輸出入商売ハ益増進スヘキヲ以テ此際一ヶ月式萬屯ノ

【四回ノ一 9a】

搭載力ヲ増加スルモ更ニ過剩ヲ感スルノ憂ナシ而シテ如何ニシテ此増加ヲ計ルヘキヤト云フニ余ハ一艘八千屯位ノ大

船ヲ造ル方利益ナリト信ス蓋シ八千屯ノ船ヲ航海セシムルノ費用ハ劍山其他ノ船ヲ航海セシムルニ比シ費用割安ニ当ルノミナラス口之津ノ積入ニハ他ノ小形ニ比シ日数ヲ要スルコト多カルヘキモ香港等ニ於ケル荷渡ニ至リテハ更ニ不便ヲ感セス現ニ彦山劍山ノ荷役ハ有明並ニ勝立ヨリモ荷役速ナルノ実歴ニ徴スルモ一艘ハ八千屯ノ船ヲ造リ今一艘千四五百屯ノ北清通ヒノ船ヲ造ルコト得策ナルヘキカ人或ハ南阿事件平定ヲ見ルノ日ハ御用船解雇セラレ運賃ノ下落ヲ来スヘキヲ思ヒ船舶屯数ノ増加ニ対シテ批難ヲ試ムル者アラシモ知ルヘカラサレトモ余ノ見ル所ヲ以テスレハ運賃市場ノ趨向ハ一般ニ騰貴ノ一方ニ在リト信ス況ンヤ我社ノ船舶ハ今ヤ各港ニ於テ

## 【四回ノ一 9 b】

信用ヲ博シ万一屯数ニ余裕アレハ之ヲ貸渡スルニ於テ毫モ其借主ナキヲ慮ルノ要ナキニ於テオヤ余ハ断言ス船舶屯数ノ増加ハ実ニ刻下ノ急務ナリト  
尚從來聊遺憾ニ堪ヘサルハ社船ノ船腹ニ余裕アル場合ニ於テ之ヲ同業者ニ貸与スルコトヲ非認セラレ居タル一事ナリ蓋シ彼等ハ若シ当社ニ於テ社船ノ貸渡ヲ為サ、レハ他ヨリ之ヲ借入レテ其当用ヲ充タスカ故ニ何モ局量ヲ小ニシテ貸渡ヲ否ルニ当ラズ從テ向後船ノ余裕アルカ又ハ半荷ハ当社

ノ荷物ヲ積ミタルモ半荷ハ余裕アルカ如キ場合ニハ之ヲ貸渡スルコトトセハ便利ナルヘシト考フ

◎上田 南氏ノ説如ク大船ヲ増加スルモ之ヲ香港並新嘉坡向ニ引当ツレハ使用ニ苦シムコトナシ殊ニ爪哇ノ砂糖商売アリ又時ト

## 【四回ノ一 10 a】

シテ米國へ棉花積取りノ為メ船ヲ仕立ツルコトアルヘク旁決シテ屯数ノ余裕ヲ感スルコトナカルヘシ且唐津、口之津、門司等ヨリ横浜へ石炭ヲ輸送スルタメニハ從來トテモ常ニ雇船ヲ使用シ其屯数モ少額ニアラス又松尾氏ノ取調ニヨレハ旅順大連湾地方ニハ一ヶ年二十万屯余ノ需用アリ現ニ昨年ニ於テモ北清地方ノ石炭注文ハ漸ク増加シ旅順大連湾ハ勿論威海衛并ニ膠州湾トモ新販路ヲ開始セリ勿論他日支那ニ於ケル炭鉱開發セララル、曉ニハ如何ナル結果ヲ呈スヘキヤ未タ知ルヘカラサルモ刻下北清地方ニ於テ日本炭ノ需用少ナカラサルハ疑ナキ事実ニシテ昨年度ノ如キ雇船不如意ナリシ為メ注文ヲ取逃カシタルコトモ少ナカラサリシ又ハ茲ニ意外ノ感アルハ牛莊並ニ天津閉河スルトキハ北清航路ニ使用セラル、小形船舶ハ大ニ

## 【四回ノ一 10 b】

閑散トナリ為メニ運賃之下落ヲ致スヲ常トスレトモ昨冬以來今春ニ掛ケテハ依然運賃カ高値ヲ維持スルノ点ニアリ尤モ香港并ニ上海ヨリ北清地方ニ赴ク船舶ハ十二月ヨリ一月ニカケ入渠又ハ繫留シテ修繕ヲナスヲ例トシトシテ上海埠頭二十余隻ノ汽船カ錨下シテ修繕ニ余念ナキヲ見ルコトアリ此等モ船舶不足ヲ繼續シタル原因ナルヘキモ兎ニ角船舶カ一般ニ払底ナルカ蔽フヘカラサル事実ニシテ我國ノ如キモ近年頓ニ船舶ノ増加ヲ来シタルニ拘ラス貿易ノ伸張非常ナルヲ以テ船舶ハ常ニ欠乏ヲ免カレサル有様ナレハ船舶増加説ニハ至極賛成ナリ

◎松尾 従来牛莊商売ニ従事スルモノハ競フテ小形ノ汽船ヲ借入レタルモ大連灣ニシテ間斷ナク大豆大豆粕ノ集中市場トナルトスレハ却テ式千屯位ノ船ヲ造ルコト適當ナラン

【四回ノ一 11 a】

◎浅野 船ヲ造ルコトハ大ニ考慮ヲ要スル問題ナリ昨日常務理事ヨリ指示セラレタル所ニヨレハ当社ノ運轉資金ハ六百萬円ナリ然ニル俛リニ八千屯ノ船舶ヲ新造スルモノトセシカ約壹百万円ヲ要シ資本ノ六分ノ一ヲ固定トナル元來物産会社ニ於テ從來既ニ資本ヲ固定セシメタルモノ多カリシニ此上更ニ資本ヲ固定セシムルハ策ノ得タルモノニアラス且ツヤ商売ノ幼稚ナリシ時代ニ於テハ自カラ運輸機關ヲ備フ

ルノ必要ヲ感シタルモ商業發達ノ曉ニハ運輸機關ハ至テ其進捗ヲ致スヘキヲ以テ商業者自ラ之ヲ備フルノ要ナキニ至ルベシ故ニ我社ニ於テハ今後二三十年後ノ商界之成行ニモ着目シ大形新造ノコトハ之ヲ見合ハセ差向キ北清商売ニ使用スヘキ船舶不足ノ為メ商売上差障ヲ来ストセハ千五百噸乃至式千屯ノ喫水浅キ船舶一艘丈ヲ備フルコトニ

【四回ノ一 11 b】

スレハ可ナラム

◎小田柿 船ノ事ニ付一言希望ヲ述ヘンニ一昨々日来話ノアリタル風帆船モ今日ノ商売ニ適セストスレハ汽船ヲ一艘太平洋面ニ浮ヘルコトニ願ヒタシ

◎益田 荷物ノ都合宜シク且船ノ計算モ立ツヘキ場合ニハ何時ニテモ船ヲ廻スヘシ然ラサレハ廻スヲ得ス

◎小田柿 折角商売ノ進歩ヲ計リ且鐵道会社トノ關係モ付ケ引合フ様ニ勉ムヘシ

◎益田 先刻遠藤氏ハ一担十八錢ニテ約定セリトノコトヲ述ヘラレタリ一担十八錢トスレハ一ヶ年ノ運賃收入六万余円ニ過キスポロ船ナレハ夫ニテ引合フヘキモ千五百屯ノ船ヲ今日新造スルトセハ參拾万円内外ヲ要スヘキヲ以テ六万円位ノ運賃ニテハ到底

## 【四回ノ一 12 a】

引合ハサルナリ尚此計算ノコトハ船舶課ニ於テ取調ハシムルコト、スベシ

◎福井 足ノ浅キ石炭船ノ計算モ御調査願ヒタシ

◎益田 東京マテ汽船ニテ持来ルコトハ到底望ナシ

◎福井 十呎位ナレハ可ナラン

◎益田 三好博士八十呎位ニシテ千屯余ノ船ヲ造ルコトヲ得ヘシトノコトナレトモ遠州灘ヲ乗切ルコトヲ船長厭フトスレハ致方ナシ

◎松尾 三池口之津長崎間ニ用ユル船ヲ少シ多ク作り貰ヒタシ住之江口之津間ノ船モ不足ナリ

◎南 住之江口之津間ノ船ハ現在四十余艘ニテ八千屯ノ炭ヲ運搬スル次第故到底不足ナリ且船ヲ作ルト否トハ別問題トシ船ヲ多クスルノ利害ヲ調査シタルニ昨年下半年間二ハ可也

## 【四回ノ一 12 b】

杵島ノ炭ヲ積ミ来リタル船ヲ滞船セシメタルモ滞船料ハ一屯ニ付二十七錢ニ過キス然ルニ之ヲ陸揚シ更ニ陸ヨリ積込ムトスレハ陸上并ニ船側迄持チ来ル費用二十五六錢ヲ要ス從テ船舶ヲ十四五日間(住之江出帆二十三日間)滞船セシムルモ更ニ損失ナシ去レハ右ノ船ヲ倍數トスルモ経

濟上毫モ不利益ヲ来スコトナシト考フ

◎益田 船ノ方ハ夫レニテ不利益ヲ蒙ラサルヤ

◎南 引合フモノト見ヘ船頭ハ却テ滞船ヲ喜ノ感アリ

◎浅野 船頭ハ一向構ハサルモ船主ハ迷惑ヲ蒙ルモノ、如シ

◎益田 三池口之津間ノ船ハ如何

◎浅野 凡ソ五十艘不足ナリ

◎南 住之江ヨリ口之津迄モ凡五十艘入用ナリ

## 【四回ノ一 13 a】

◎益田 船ノコトニ就テハ大抵諸君ノ意見ヲ承リタリ此上ハ計算ヲ立テ、利益トナレハ新造スルコトモアルヘシ先船ノコトハ之レニ止メ次ハ石炭部ヲ門司ニ新設スルノ可否ニ付討議スヘシ

石炭部ヲ門司ニ新設スルノ可否

三池石炭ノ販売ニ得タル經驗ハ能ク他ノ雜種石炭ノ取扱ニ応用サレ会社ノ信用ト相俟ツテ年々販売高ノ増進著シク昨三十二年度ニ於ケル内外各地ノ取扱高ハ無慮壹百五十拾万屯ニ達セントス其大部分ハ三井鑛山会社ヲ初メ貝島太助氏其他ノ鉱業家ヨリノ委託荷物ナレハ取扱ニ最モ親切且周到ナラサルベカラサルト同時ニ一方ニ於テハ販売方ニハ三菱会社北海道炭鉱会社安川

## 【四回ノ一 13 b】

商店等ノ勁敵ト競争ノ覚悟ナカルヘカラス是等ノ諸点ヲ熟考スルトキハ炭坑所在地ニ近接セル門司ニ於テ新ニ石炭部ヲ設置シ敏活ニ運動セハ今日ニ比シ幾分ノ便利ヲ感セシカ内外各店共ニ關係スル所多キヲ以テ特ニ慎重ニ審議セラレタシ

◎益田 曩ニ商品ノ種類ニヨリテ特ニ一部ヲ設ケ其商売ニ最モ密接ノ關係アル支店ヲ首部トシ所謂分業主義ヲ実行シタル結果大ニ該商売ノ發達ヲ助ケタルモノ、如シ從テ亦之ニ做フテ石炭部ヲ門司ニ新設スルトキハ石炭商売ノ發達ヲ計リ得ベキカ是レ茲ニ諸氏ノ意見ヲ叩カントスル所ナリ尤モ此問題ガ共通計算規定ニ關スル件ヲ諮問シタル後ニ議題トスルノ至當ノ順序ナレトモ出席員ノ都合上

## 【四回ノ一 14 a】

先ツ以テ本件ヲ議スルコト、ナシタル  
從前ハ石炭ノ引合方区々ニシテ大ニ其統一ヲ欠キタル為メ兩三年前石炭部ヲ東京ニ置キ以テ本商売ヲ總轄セシムルコト、為シタルカ一昨年余ノ香港並ニ上海ヲ巡回シタル結果香上兩店共偏ニ本店石炭部ノミニ依頼シ活動ノ自カラ遅緩ヲ極メ神經亦内地石炭ノ狀況ニ遠ルノ弊アリ門司ノ石炭相場ハ何程ナルヤノコトモ香上兩店ニ通シ居ラス又香上兩地

ノ炭況ハ門司ニ於テハ全然不明ナルカ如キ有様ニテ其間一ノ脈絡ナルモノナシ是必竟本店ノ指図ノミニ依リテ進退スルノ極此弊ニ陥リタルモノナルコトヲ感知シ爾來門司炭ハ直接引合ヲ為スヘキ旨ヲ命シ其後大ニ神經ノ銳敏ヲ致セリ然ルニ近頃ニ至リ鉾山会社ヨリ石炭部ヲ

## 【四回ノ一 14 b】

門司ニ設クルコトニ付相談アリ蓋シ石炭部ヲ東京ノ如キ石炭ニ緣故薄ク神經銳敏ナラサル処ニ置クハ不可ナリ殊ニ近來日本炭ヲ支那各港ニ売込ム事ニ付テハ一般ニ非常ノ發達ヲ來シ香港並ニ上海ニ赴キテ石炭ノ引合ヲナスコトハ實ニ容易ナルコトヲ悟リ何人ニテモ直ニ香上ヘ渡航□□有様トナリ此商売ハ最早物産会社之專売ニアラズ且門司ニ在ルトキハ此等競争者ノ動靜ヲ偵知スルノ便ナルノミナラス常ニ石炭ノ間ニ起臥シ日々耳ニスル所モ石炭談ヲラサルハナキ有様ナレハ斯ル場所ニ適當ナル人ヲ置キテ海外トノ引合ニ當ラシムルハ最モ必要ナリト云フニ在リテ三池炭ハ引目ニハ關係ナシト思ヒタル鉾山会社ヨリ却テ石炭ヲ門司ニ置クノ企望ヲ申出テラル、ニ至リタリ

## 【四回ノ一 15 a】

要スルニ從前ハ香港、上海、新嘉坡等ニ支店ヲ有シ居タル

コトハ石炭商売上我社ノ他競争者ニ勝リタル所ナリシモ今日ハ何人モ右等各地へ出掛クルコトトナリ更ニ優劣ノ理由トナラス唯僅ニ倫敦ニ支店ヲ有スルコトノ一事カ聊カ他ニ超越スルノミナレハ此際門司ニ石炭部ヲ新設シテ大ニ本商売ニ尽瘁スルコトハ必要ノコトナルヘキカ尚此点ニ付十分意見ヲ述ヘラレタシ

尚一言御注意迄ニ述フヘキハ前ノ議案ニハ三十二年度ノ取扱高百五十八万屯トアルモ本年ノ取扱予算高八門司ノミニテモ尅百万噸ニ達シ此他三池七十万噸杵島唐津等三四十万屯ニ上ルベケレハ総取扱高ハ約二百万屯トナルベク我國ノ石炭産出高ノ三分ノ一弱ハ即チ我社ノ取扱ニ

属スヘキモノナリ

【四回ノ一 15 b】

◎**水谷** 是迄門司ニテ他ヘ石炭ヲ売却シタル場合ニ何故ニ斯ル手筋ヘ売却シタリヤ等ノ小言ヲ蒙ルコトアリ蓋シ門司ニ於テハ其手筋ヘ石炭ヲ売ルトキハ我社之商売上不利益ヲ計ルコトヲ知悉シ居タランニハ素ヨリ商売之駆引上売却ヲ見合スヘキモ一方ニ於テ坑主ヨリ売却ヲ迫ラレ他方ニ於テ斯ル事情ヲ審ニセサルタメ往々前文ノ如キ行違ヲ来スコトアリ故ニ門司ニ於テ夫等ノ駆引ヲ為シ得ヘキ石炭部ヲ置クコトハ焦眉ノ急務ニシテ一日モ速〔急〕を抹消〕ニ其実行ヲ

望マサルヲ得ズ

◎**寺島** 是迄取扱上ノ經驗ヨリ云ヘ八門司ニ石炭部ヲ置カル、コトハ至極結構ナルコトト考フ現ニ門司并ニ若松ト直接

【四回ノ一 16 a】

取引ヲ開キタルノミニテモ大ニ便利ヲ受ケ居レリ元來一昨年共通計算規程ヲ定メ各取扱店中主モナル一店ヲ首部トスルコトニ定メラレタル時ニ当リ石炭部ハ門司ニ置カサルヘカラストノ議論出テタルモ其論行レズ遂ニ東京ノ石炭課ニ於テ本商売ヲ統一セラル、コトトナリ爾來暫ク実行シタル結果其不便ヲ感シタル所ヨリ門司若松ヘ直接引合ヲナシ得ルコトヘ改正セラレタルナリ此点ヨリ考フルモ石炭部ヲ門司ニ置クコトハ極メテ便宜ノ方法ニシテ何人モ異論ヲ挟マサル所ナルベシト考フ

◎**小田柿** 門司ニ石炭部ヲ置カル、コト、ナレハ内外共石炭ノ取扱ハ凡テ該部ニ於テ統轄スルカ

◎**呉** 従來三池石炭ノコトニ付テハ凡テ本店ヨリ之ヲ指図セリ

【四回ノ一 16 b】

然ルニ門司ニ石炭部ヲ設クルトキハ三池石炭ノ取扱モ門司

二一任シ部長ニ於テ本店ノ指図ヲ俟タス之ヲ処理シ得ルコト尚大阪綿花首部ノ棉花糸商売ニ於ケルカ如クナル乎

◎益田 大阪綿花首部ノ権限ニモ限界アリ何事モ本店ノ指図ヲ俟タス決行シ得ルニアラス石炭部ニ於テモ亦之ト同ジク其権限ニ区域ヲ立テ三池石炭ノ引合ニ関スル大方針ノ如キハ素ヨリ本店何出テ本店ハ之ヲ鉱山会社ニ引合シメル上指図スルコト、ナルベシ

楮石炭部ヲ門司ニ置クモノト仮定スレハ杵島郡ノ石炭ノ如キ長崎支店ノ取扱ニ属スルモノハ如何スヘキヤ

◎水谷 杵島郡ノ炭ハ長崎ニ出テ同地方ニ於テ販売セララル、モノニシテ門司ニテハ関係極メテ薄シ從テ是迄石炭部ニ

於テ干渉スルモ其実効ナシ

◎福井 門司ハ石炭ヲ最モ多ク取扱フ仕入地ナリ

◎益田 門司ハ石炭ノ主腦地ナリ他ノ石炭商ノ動靜ニ逐一之ヲ詳ニスルコトヲ得例ヘハ安川ハ如何ナル行動ヲ為シツ、アリヤ又何人カ香港ヘ赴キタルヤ等ノコトハ東京ニ在リテハ一向分ラサルモ門司ニ在ルトキハ百事手ニ取ルカ如シ其地採掘高並ニ貯炭ノ増減等細大トナリ之ヲ詳知シ得ヘシ勿論唐津炭ノ状態並ニ北海道炭ノ有様等ハ報告ヲ得テ之ノ知了スルノ外ナキモ要スルニ石炭ノ重モナル集散地ハ門司ノ

【四回ノ一 17 a】

外ナラサルヲ以テ同地ニ主腦ヲ置クコトハ商戦上最モ必要ノ事ニ属ス

◎寺島 白水ハ東京杵島ハ長崎ニテ取扱フコト尚支那棉ヲ長崎ニテ取扱ヒ得ルカ如クセハ差支ヲ見ス

【四回ノ一 17 b】

◎平田 石炭部ヲ門司ニ置クコトハ至極可ナリト思考ス常磐炭ハ全体ノ石炭相場ヲ左右セス否ナ門司ノ相場ニ係テ自ラ左右セラル、モノナリ從テ特ニ之ヲ東京ニ於テ取扱ハシムル如キ方法トシテ可ナラン

◎水谷 常磐炭ハ海外ニ関係ナシ此関係アルハ杵島ト唐津ノミ尤モ之トテモ今日東京ニテ統轄セルヨリ推セハ門司ニテ統轄スルモ可ナリ

◎益田 門司ニ居ル人丈ニテハ平日ノ用務ニ追ハレ取調モ成リ難シト考ヘ此度参事長長谷川氏ヲ門司ニ常置シ實際ニ付調査ノ上如何ニ其関係ヲ定ムレハ可ナルヤヲ研究シ其上叡石炭部ヲ門司ヘ置クコト必要有益ナレハ其事ニ取計フ談ナリ要スルニ大体ニ於テ諸君中ニ異論ナキモノト認ム

【四回ノ一 18 a】

尚叡石炭部設置ノ上ハ門司トノ関係ヲ一層機敏ニシ二百方屯ノ売捌上支障ヲ来サ、ル様各店共十分尽力セラレンコト

ヲ求ム惟フニ豊筑炭ノミニテモ百万屯ノ大嵩ニ達シ委託主  
モ一二人ニ止マラサル事故門司ニ在リテ直接委託主ニ接ス  
ル人ハ随分種々ノ苦情モ聞クナルヘク其間ニ処シテ委託主  
ヲ満足セシムル様措弁シ行クノ困難ハ中々推想ノ外ニ在ル  
ヘシ就テハ各販売産地ノ人ニモ十分奮勵競争者ニ後レヲ取  
ラサル様売捌方ヲ努力セラレタシ桑港ヘハ容易ニ日本炭ノ  
輸入ヲ見ルコト能ハサルヘシトハ考フレトモ小田柿氏カ先  
方ニ在リテ時々売捌方ニ付電信シ来ルコトハ大ニ其勞多シ  
トスル所ニシテ出来得ルナレハ少々安直ニテモ布哇并ニ桑  
港ヘハ売込度モノト考ヘツ、アル次ナリ

次ニ各支店ニ特別掛員ヲ置クノ件ニ移ルヘシ

【四回ノ一 18 b】

各支店ニ特別掛員ヲ置クノ件

各店ニ於テ従来取扱ヒ又ハ今後取扱フヘキ商業ニ付テハ是  
等ノ經驗ニ徴シ特別ニ一部若クハ掛リナルモノヲ設ケ其掛  
員ヲシテ専心其事業ニ係ル事項ヲ調査研究セシムル事ニ大  
ニ有益ナルヲ確信ス即チ本店營業部中ノ毛類掛及ヒ棉糸布  
掛等はナリ依テ各支店ニ於テモ其例ニ倣ヒ之ヲ設クルハ有  
益ノ事ナルヲ以テ各自其必要ト認ムルモノニ付陳述有之度  
候事」

是ハ極メテ難キ問題ノ如キモ決シテ然ラス蓋シ今後大ニ拡

張ヲ施スヘキ大切ノ仕事ニ付テハ兼務ハ面白カラズ必スヤ  
専心專意之レニ当ルノ主任者ヲ定メ以テ十分力ヲ尽サシム  
ルコト該商売ノ擴張上必要ニシテ又上策ナリト信ス是迄各  
店ニテハ雜貨掛

【四回ノ一 19 a】

雜品掛又ハ売買掛等ノ名称ヲ用ヒ総合一括諸般ノ品物ヲ取  
扱ハシメタル有様ナルモ其内獨立セシムルノ要アルモノナ  
キヤ若シアリトセハ茲ニテ陳述セラレタシ

◎**名古屋** 差当リ綿布ノ掛ヲ獨立セシメタシ此他毛類、器械

其他種々ノ雜貨類アルモ何レモ未タ取扱高小ナレハ兼任セ  
シメテ可ナリ唯綿布ノミハ向後尤モ大ナル商売トナルヘク  
且其取扱綿密ニシテ且之ニ慣熟スルヲ要スルノミナラス少  
シク器械ノ心得アルコトヲ必要トスルカ故ニ此掛リ丈ハ獨  
立セシメ十分其發達ヲ計ラレ度考ナリ

◎**福井** 東京ニ於テハ金物掛ヲ置クコトニ致シタシ此掛ノ可  
減各店共之ヲ置キ以テ互ニ氣脈ヲ通スルコト、致シタシ棉  
花掛カ出来レハ綿花掛同志カ氣脈ヲ通シ棉布掛カ出来レハ  
又

【四回ノ一 19 b】

棉布掛相互ニ氣脈ヲ通シ以テ商売ノ擴張ニ資スルコトヲ得

如此各店各事情ヲ異ニスレトモ可成同一ノ掛ヲ置キ其名  
前モ同一ニスルトキハ商売上大ニ便宜ヲ得ヘシ今夫レ金物  
掛ノ名称ハ何レノ店ニテモ無之ヲ以テ東京ノミ之ヲ置クモ  
果シテ夫丈ノ効能アルヘキヤ否ヤ大ニ躊躇スル所ナレトモ  
大阪ニテモ亦名古屋ニテモ之ヲ置キ同身一体ノ働ヲナセハ  
其結果大ニ見フヘキモノアリト信ス

尚又是ハ一般ニ関係スル事ナルカ序ニ前ニ述ブル事トセシ  
ニ夫ノ統計ヲ明ニスルコトハ商売上極テ必要有益ナル事ニ  
テ各店共希望スル処ナルカ之ハ本店本部中ニ特ニ統計掛ヲ  
設ケラル、カ又ハ各支店ニ此種ノ掛ヲ設クルコトニ致シタ  
シ宜布御評議ヲ仰ク

◎益田 此事ハ名古屋ニテ大阪並ニ東京ノ人カ集リタルトキ  
モ談合アリタリトノコトナルカ実ニ尤モ千万ノ事ナリ就テ  
ハ參事中ニ特ニ

【四回ノ一 20 a】

統計掛ヲ設ケ之カ取調ニ当ラシムルコト、為スカ一番宜シ  
カラム而シテ統計掛ノ平日勉ムヘキコトハ日本ト海外ノ貿  
易ニ関係スルコトヲ取調フルカ其職務ノ一ナリ即チ大蔵省  
ノ取調ヘタルモノニテモ不十分ノ処アレハ之ヲ審実調査シ  
又大蔵省ノ取調ヘサルモノモ税関其他ニ付調査スヘシ又會

社ノ營業セル商品ニ付テノ産出額販売地ノ模様等ヲ調査ス  
ルモ其職務ノ一ナリ以上ハ常務トシテ為スヘキ仕事ニ屬シ  
其他ハ各店ノ依頼ニヨリテ取調ヲナス而シテ此等取調ノ結  
果ハ各関係店又ハ依頼店へ報告スルコトトス勿論古キ事迄  
モ取調ヘ統計鑑ノ如キ浩瀚ノモノヲ造ルモ功能薄シ時ニ役  
立ツモノヲ調査シ參考ニ供スルコトトスヘシ  
凡ヘテ今後ノ商売ハ統計ニ依ラサルヘカラス從テ此掛カ出  
來テ十分ノ働ヲ示ストキハ其利益勘ナカラサルヘシ尚參事  
中ノ設計

【四回ノ一 20 b】

掛ノミニテハ不足ナレハ各店ニモ其掛ヲ置クコト、スルモ  
可ナリ

◎松尾 旅順并ニ大連灣ニ於テハ種々ナルモノ、注文ヲ受ク  
之ハ此ニ細ナルモノニテモ引受ケ置ケハ後日ノ商売ヲ助長  
スルノ基トナル故可成取扱ヲ為ス考ナルカ其内石炭並ニ棉  
糸等ハ夫々其掛ヘ引合ヘハ可ナルモ其他ノ雜品ニシテ何レ  
ヘ引合可然哉分カラサルモノアリ引合上太甚不便ヲ感スル  
ニ付各店ニ関東省掛ヲ設ケ其掛ヘ引合ヘハ宜布様ニ到置貴  
ヒ度シ

◎福井 金物生糸ト云フカ如ク夫々ニ掛ヲ設ケ其仕事ニノミ  
專從セシムルトキハ其商売ハ非常ニ發達ス名古屋ニ於テモ

金物ノ取扱アレハ金物掛ヲ置キテハ如何

◎寺島 雜貨ノ取扱ハ口数非常ニ多キモ取扱金高少シ然ルニ  
一々人ヲ區別スレハ多人数ヲ要ス尤モ人ヲ増加シ掛リヲ

區別スレハ夫丈ノ功能ハ必ラスアルヘキモ今日ノ処実行出  
來難シ

【四回ノ一 21 a】

◎益田 福井氏ノ各店可成掛ノ名称ヲ同一ニスルコトハ余ハ  
同意ナリ一方ニテハ雜貨掛ト云ヒ一方ニテハ売買掛ト呼ビ  
居リテハ甚タ錯雜ヲ來スノ恐レアリ然レトモ各店悉ク其商  
売ヲ異ニスルニヨリ何レノ店ニモ同一ノ掛ヲ置クコトヲ得  
ス東京並ニ大阪ハ大抵同一ノ掛ヲ置キ差支ナカルヘキモ名  
古屋ニハ之ヲ応用スルコト能ハス殊ニ門司ノ如キニ至リテ  
ハ石炭ノ取扱重モナレハ同店ニ毛類綿布等ノ掛ヲ置クノ要  
ナキハ自明ノ理ナリ從テ福井氏ノ論ハ大体ニ於テハ可ナレ  
トモ東京ト大阪ニ店ノ外ハ行ハレ得ス

◎淺野 三池支店ノ如キハ雜品掛ヲ二ツニ分ツコトスラ六ツ  
カシ故ニ余ハ必スシモ掛ヲ区分セス商品毎ニ首部ヲ造リ雜  
品掛ハ首部ノ指図ニヨリ働クコト、セハ可ナリト考フ即チ  
大豆大豆粕ノ

【四回ノ一 21 b】

レポートハ兵庫ヨリ棉花ノレポートハ大阪ヨリ又棉布ノレ  
ポートハ東京ヨリ何レモ其首部ニコノ指図ヲ得之ニ依リ売  
込方ノ世話ヲ為スコト、セハ差支ナカラン

◎益田 大ナル商品ニ付テハ首部ヲ造ルモ可然モ小ナル商品  
ニ付首部ヲ造ルハ如何ナルヘキヤ寧ロ関西九州ハ大阪ヲ首  
部トシ同店ヘ問合ハセ相場ノ變動等モ同店ヨリ通知シ又靜  
岡以東並ニ北海道ハ東京ヲ首部トシ名古屋ハ品物ニヨリ大  
阪又ハ東京ノ何レカヘ問合ハスコト、スル方可ナランカ

◎淺野 是迄東京ノ營業部力有スル銑鉄カ神戸ニ在リ大阪支  
店ノ有スル銑鉄モ又神戸ニアリ而シテ其仕入時異ルカタメ  
双方値段異リ從テ三池ニテハ双方ヘ値段ヲ問合ハセ安キ方  
ヨリ買付ケ販売シタルカ如キコトアリシ

【四回ノ一 22 a】

◎福井 夫レハ金物ニ付テノ重モノナル引合店ハ何レナルヤヲ  
定メ置ケハ可ナリ而シテ金物ノ商売ノ經驗アリ且品物ヲモ  
持チ居ルハ東京ナレハ金物ニ付テハ東京ヲ引合店トシ又器  
械ニ付テハ大阪モ東京モ同一ノ經驗アル故何レニ問合ハス  
モ可ナリト考フ

◎寺島 掛ヲ区分シ一人數掛兼担トスルコトニシテハ如何  
◎福井 何レ商売ハ首部ニ依ツテ為スコト、ナラン金物モ亦  
引合店ヲ定メ恰モノノ部ノ如キ形トナス

◎**呉** 東京ノ鉄力神戸ニアリタルハ変則ナリ平素神戸ニアル鉄ハ大抵皆大阪ノモノナリ故ニ関西ノ各支店ヨリ現物ノ引合ヲ為スニハ大阪へ申送り之ニ反シテ大口ノ注文ハ東京營業部へ引合ヒ營業部ハ他ノロト組合ハセテ上海支店へ申送り漢口ヨリ買付ノ上社船便ヲ利用シテ之ヲ取寄スルコト、セハ可ナラン

◎**益田** 品物々々ニ依リ首部ヲ定ムルコトハ一説ナリ但シ首ハ主部ト改ムル方穩当ナラン

【四回ノ一 22 b】

尚如何ナル品物ニ付テハ何レノ店ヲ主部トスヘキヤハ特別委員ヲ定メ其委員ニ取調ヲ附託スヘシ付テハ左ノ五名ヲ氏名スヘシ

飯田、福井、長谷川、呉、寺島

◎**呉** 神戸ニ於テ曩ニ船舶掛ヲ輸出、輸入、棉花輸入ノ三掛ニ区分シタル処其結果大ニ宜シ而シテ神戸ニハ商売少キ故商売ニ関スルコトハ雜貨掛ニ於テ之ヲ兼担セリ此外ニ為替ト雇船トノ特別仕事アリ為替ハ是迄勘定掛ノ附属仕事ト為シ居リタルモ銀行ヲ廻リテレートヲ聞キ合ハセ又大阪ト電話ニテ打合ヲナス等優ニ半日ノ仕事アリ神戸ニ於テ勘定掛員尚一名入用ナルハ即チ此仕事アルカ故ナリ尤モ他店ニ於テ為替掛ヲ

【四回ノ一 23 a】  
分設スル仕組トナレハ神戸ニ於テモ特ニ為替掛ヲ設ケテ可ナリ又雇船ハ是迄支店長直轄ノ仕事トシ通信掛ヲシテ之レヲ取扱ハシメタリ之モ依然通信掛ノ取扱ト為シ置キ差支ナキモ其下ニ働クヘキ助手一名入用ナリ

◎**益田** 為替掛ハ支店長次役ニ於テ之ヲ取扱フコト能ハサルヤ勘定掛ハ勘定専門ナリ然ルニ為替掛ニハ大ニ一般營業上ノ頭ヲ要スルヲ以テ之ヲ勘定掛ニ兼任セシムルハ面白カラス

◎**呉** 次役ハ輸出掛主任ノ任ニ当リ且シブピングノ事ヲ監督ス此上外廻リハ出来難シ

◎**益田** ラリー社ニ於テ為替ノ事トシツピングノ事ハ非常ニ之ヲ重視シ二人ノ支配人ヲ置キ一人ニハ為替ノ事ヲ掌ラシメ他ノ一人ニハシツピングノ事ヲ取扱ハシム外廻リハ若手助手ニテ可ナリ

【四回ノ一 23 b】

支店長次席ノ人ハ為替ノ事ニ頭ヲ入レ夫々指揮ヲ与フルノ必要ナキヤ

◎**呉** 然ラハ勘定掛ハ勘定ノミトスベシ

◎**益田** 銀行ヨリレートヲ聞キ廻ルニハブローカーモアリ又

若手ノ人ヲ助手トシテ使用スルモ可ナリ而シテ大阪ノ希望ヲ聞キ為替ノ取極ヲ為スコトハ支店長ノ下ニ機敏ナル次席者ヲ置キ之ヲシテ取扱ハシムルヲ可トス但為替掛ヲ特ニ設クルノ要アリヤ

◎呉 助手ハ通信掛ニ附屬セシムレハ可ナリ

◎益田 先刻松尾氏ヨリ関東省掛ノ設置説出テタルカ此事ハ他へ出張スルモノ、身ニ取りテハ実ニ重大ノ事ナリ即其注文物ニ付問合ハセノ書状ヲ発スルモ更ニ其返事ナキ様ノ事実アリテハ出張員ハ立チ場ヲ失フコト、ナル故ニ関東省掛テフモノヲ特設セル訳ニハ行カズト

【四回ノ一 24 a】

スルモ此点ニ付テハ特ニ各店ノ注意ヲ喚起セサル可カラズ

◎福井 此事ハ関東省ノミナラス向後追々揚子江沿岸地方へモ人ヲ派出スルトセハ之レ等ニモ関鍵ヲ結局某ノ支店ニ明カニ属スルカ如キ商売ニ付テハ其支店ノ長又ハ当該店へ申送ルヘク然ラサレハ参事ニ於テ力ヲ致スコト、スル外ナシ

◎益田 注文物アリタルトキ東京営業部長又ハ大阪支店長ニ申送ツルモ其品物カ重高モノニアラサレハ先以大口ノ入札物等ニ取掛リ出張員より申来リタル小口ノモノハ後ト廻シトスルコトナシトモ限ラス故ニ一店ニ必ラス一名ノ通信員ヲ置キ其者カ書状ノ往復ヲ取調べ若シ支店長へ来リタル手

紙ニ対シ返事ナケレハ其返事ノ差出方ヲ支店長ニ廻リ又雜貨掛へ来リタル手紙対シ返事ナケレハ之ヲ雜貨掛ニ迫ルト云フカ如ク通信上ニ付キ

【四回ノ一 24 b】

責任ヲ有スル者ヲ定メ置クノ要ナキカ

◎福井 特ニ掛リヲ置クコトハ六カシカラシ

◎益田 電信掛若クハ書記ヲシテ取扱ハシメハ差支ナシ

◎福井 支店長へ来リタル手紙ヲ等閑ニ付シ置クカ如キ憂ハナカルヘシ

◎益田 他ニ大注文アルトキハ出張員ヨリ申越シタルセメント樽ノ如キ小口ノモノハ後廻シトナルハ人情ノ事ナリ然レトモ出張員其人ニ取りテハ鉄道局ノ大入札ヨリモセメント樽ノ方大切ノ商売ナリ

◎長谷川 一寸掛リノコトニ関鍵シテ一言スヘシ先刻商品ニヨリ主部ヲ定ムルトノ説アリタリ而シテ仮リニ特設ノ部ヲ設ケサル品物ニ付関東関西ノ二大部二分ケ東部西部主部ト云フカ如キ名称ヲ付シ而シテ従来ノ趨勢上東京ヲ東部主部大阪ヲ西部

【四回ノ一 25 a】

主部トナスコトアリトセンカ海外出張員并ニ海外支店ニシ

テ何レニ引合可ナルヘキヤ分明ナラサルカ如キモノニ付テ  
 八右主部へ問合ハセ来ルヘク而シテ東部主部へ問合ハセタ  
 ル手紙ノコツピーハ西部主部ニ又西部主部へ問合ハセタル  
 手紙ノコツピーハ東部主部へ送り問合ヲ受ケタル主部ニ於  
 テ其品物ニヨリ夫々産地附近ノ支店へ注文ヲ発スルコトト  
 シテハ如何

◎益田 主部ノ事ハ特別ノ委員ニ於テ協議決定シ更ニ報告ス  
 ヘシ而シテ出張員ヨリノ問合ニ対シ各店ニ於テ其軽重ヲ付  
 ケ返事ヲ出サ、ルモノ等アリテハ折角出張員ヲ出スモ何ノ  
 効能ナキニ終ルヘキヲ以テ此点ハ如何ニ括リヲ為スヘキ  
 カ此等モ特別委員ニ於テ研究スルコト、ナスヘシ

◎浅野 若シ長谷川氏ノ説ノ如ク関西主部関東主部ノ二ツニ

【四回ノ一 25b】

分ル、トセハ受渡上ニ混雜ヲ来スヘキヲ以テ是亦混雜ヲ防  
 クタメ神戸ヲ関西受渡首部横浜ヲ関東受渡主部トシ受渡上  
 間違ノ生セサル様ナサマルベカラス

◎呉 至極御尤ノ御説ト考フ

◎益田 其辺モ凡テ特別委員ニ於テ取調フベシ

【四回ノ一 1a】

第四回ノ二 一月二十一日午後

◎益田 庶務課ニ於テ何カ規則ノ改正等ニ付意見アレハ申述  
 フベシ

此問ニ対シ庶務課田中ヨリ別段規則ノ改正ニ付意見ナキモ  
 従来使用人入社ノ節写真二十四葉ヲ会社ノ費用ヲ以テ写シ  
 取ラシメ之ヲ各店ヘ一葉ツ、配送シ来リタルモ之ハ差迄必  
 要ナク且費用モ嵩ムコトユヘ之ヲ改正シ入社ノ節ハ自費ヲ  
 以テ写真二葉ヲ会社ニ差出シ一葉ハ本店ニ備ヘ一葉ハ本人  
 ノ勤務スヘキ支店ニ送り本人転勤ノ場合ニハ原勤務店ヨリ  
 転勤先ヘ其写真ヲ送ルコト、セハ可ナラントノ意見ヲ申出  
 シタルモ本来此写真制度ヲ設ケラレタルハ同シ物産会社ニ  
 在

【四回ノ二 1b】

リナカラ互ニ顔ヲ知ラサル様ニテハ不便ナリトノ主意ニ出  
 タルモノナレハ依然従来ノ通各店ニ一葉宛ヲ備付ケ置クコ  
 ト、為スヘク又事実之アルトキハ転勤ノ辞令アリタル場合  
 ニ如何ナル人カ来ルヘキヤ直ニ之ヲ知り得ヘシトノ呉、長  
 谷川、松尾諸氏ノ意見アリ結局写真ハ従前ノ通り二十四葉  
 宛ヲ差出サシムルコトニ決シ且三井家御主人方并三井各商  
 店重役ノ写真ヲ一葉宛備付クルコトニ庶務課ニ於テ手配ス  
 ルニ決セリ

次二田中ヨリ營業税届ノ方針ヲ一定スルコトニ付希望ヲ述

ヘタルモ之ヲ略ス

次ニ上田理事ヨリ各店業務要領ニハ大抵日々ノ出来事ヲ網羅アル故業務要領サヘ見レハ其大体ニ

【四回ノ二 2a】

通スルヲ得ヘキモ而モ重要ナルコトハ手紙ヲ以テ詳細申出アリ度近來手紙ノ書キ方減少シ気脈ノ疎通ニ於テ遺憾ノ念ナキ能ハス宜シク反省ヲ望ム旨ノ申出アリ

次ニ益田専務理事ヨリ書状ハ可成要点ヲ簡潔明瞭ニ記載スヘク猥リニ冗長ニ涉ルトキハ卒読ニ堪ヘス自然用向ノ弁シ方遅ル、ノ弊アルヲ以テ此点ニ付テモ注意アリタシト述ヘラレ又福井氏ヨリ書状ハ可成一紙ニ認ムルコトニ致シタシトノ希望ヲ述ヘ専務理事ヨリ一件半紙位ニテ可然云々ノ警話モ出テタリ

(以上ハ一々議事ノ筆記ヲ登録スルノ要ナキヲ以テ単ニ要梗ノミヲ撮録ス)

【四回ノ二 2b】

◎益田 曩ニ形式調査委員ヲ設ケ売買、受渡、計算、支払并受取等ニ関スル形式ヲ定メ之ヲ実行セリ其結果事務ノ整頓ヲ致シタルヤ將タ単ニ手数ノ繁雜ヲ致シ贅費ヲ増加シタルニ過キササルヤ現況ヲ承リタシ加之目下參事ニ於テ当会社ニ

於ケル營業取扱手續ヲ編纂スルコトニ相成居リ其内ニ売買約定ヲ締結スルトキハ如何ナル約定書ヲ取替ハスヘキヤ又受渡ハ如何ニスルヤ船積方ハ如何等凡テ会社ニ於テ取扱フ諸般ノ手續ヲ記載スル都合ナリ若シ本書ニシテ編成セラ、トキハ新規ニ会社ニ入社シタルモノモ此書ニ依テ大体ノ取扱手續ヲ知了シ得ヘク大ニ便利ナリ又之ト同時ニ參事ニ於テ商業用語ヲ一定スルノ勞ニ從ヒツ、アリ蓋シ商業用語ノ一定ハ

【四回ノ二 3a】

極メテ困難ナル事業ニシテ現ニ「ビル、オフ、レーデン」テフ文字モ正金銀行ニ於テハ之ヲ船積証書ト訳シ郵船会社ハ引替証書ト訳シ又「オッフアー」ナル文字ハ訳語ヲ付セスシテ普通「オッフアー」ト称シ居レリ乍併訳語ニ二途ニ出ツルハ不都合少ナカラサルノミナラス又到底訳語ナキモノハ兎モ角モ然ラサル以上ハ原文ノ儘ヲ用ユルハ面白カラサレハ參事ニ於テ是等原文ノ訳語ヲ一定シ之ヲ各地方ニ於ケル商業学校ニ採用セシメ漸次其用途ヲ拡充スルトキハ遂ニ商業用語ノ一定ヲナスニ至ルヘシトノ考ヨリ頻リニ其事ニ從ヒツ、アリ故ニ此際形式実行ノ結果如何ヲ知ルハ必要ノ事ニ屬ス

◎福井 東京ニ於テハ最初ハ從來ノ慣習ヲ改メタルコトユヘ

## 【四回ノ二 3 b】

遣り難カリシモ漸次慣ル、二從ヒ毫モ不便ヲ感セサルノミナラス大ニ便利ヲ得ルニ至レリ就中保管受渡ノ事明カニ区劃立チ何レノ倉庫中ニ仕舞込マレタルモノアリタレトモ昨今ハ斯ル事ナク在庫品ハ夫々人ノ目ニ留リ速ニ処分スルコトヲ得又勘定ノ事モ大ニ都合宜シク金ノ請求並ニ受取方モ延滞セス又当初ハ伝票ヲ使ヒ方不手際ナリシモ此節ハ大ニ之ニ慣熟シ伝票カ物ヲ言フ迄ニ進歩シ形式実行ノ趣旨ハ全然貫徹スルヲ得タリ尚多少改正ヲ加フヘキ箇所アルヘキモ大体ニ於テ結果至極良好ナリ

◎**呉** 神戸ニ於テハシツピングノ事其重ナルモノニシテ荷物ノ出入頻繁ナルカタメ時ニ荷物ノ行方不明ナルモノヲ生シ大ニ困難スルコトアリ曩ニ郵船会社船ニテ積来リノ米棉九十一俵行

## 【四回ノ二 4 a】

先不明トナリ郵船会社ノ帳簿ヲ見ルモ亦当社ノ帳簿ヲ調フルモ更ニ相分ラス大ニ困却セリ依テ形式掛ニ交渉シテ取扱手續ニ改良ヲ加ヘ今日ハ何品カ何レニ在リヤ又ハ何品ヲ出庫セリヤ等ノ事常ニ明瞭ヲ致シ且伝票ヲ出スニアラサレハ

倉庫掛ニ於テ荷物ノ出入ヲ肯ンセサルヲ以テ結果寔ニ宜シ尚今後仕事ノ増加スルニ從ヒ時ニ改正ノ必要ヲ感スルナラ

ン夫此本年一月四日主任會議ヲ開キ何人カ見ルモ成程文明のノ取扱ヲ為セリト首肯セシメ得ル様ナサ、ルヘカラストテ小泉吉彦ヲ形式委員長トシ目下改良ノ研究中ナリ又倉庫ハ伊達他人二郎之ヲ担任シ取締ヲ嚴ニシ伝票ナシニハ品物ノ出入ヲ為サ、ルヲ以テ其結果大ニ良好ナルコト右ニ一言シタルカ如ク検査員取調ノ結果モ定メシ大体ニ於テ

## 【四回ノ二 4 b】

不都合ナカリシモノト信ス此等ノ点ハ多少費用ヲ要スルモ益發達セシメサルヘカラス又當時参事ニ於テ会社ノ營業取扱ノ手續ヲ御編纂中ノ趣キナルカ此事ハ極メテ有益ノ事ト信ス我神戸支店ニ於テモ詰員ノ転動頻繁ナル処ヨリ各掛ノ事務取扱要領ヲ頂戴シ置クノ必要ヲ感シ小泉ヲ委員長トシ各掛ヨリ各其取扱事務ノ要領ヲ書面ニ認メテ差出サシメ之ヲ書類編纂シ一部ヲ重役ニ提出シ一部ヲ支店ニ保存スルノ計画中ナリ

◎**福井** 營業部ニ於テモ一目シテ用事ノ分り得ル様各掛ノ事務取扱手續書ヲ調製中ナリ

◎**益田** 夫等ハ何レモ参事ノ編纂材料トシテ提出スヘク印刷方見合ハスヘシ他ニ参事希望ナキカ又用語一定ノ事ハ如何

ナル

進ミニアルヤ

【四回ノ二 5 a】

◎長谷川 伊沢氏之ヲ調製シ余ハ其校閲ヲ引受ケタルモ更ニ進歩セス此度門司詰トナリタルニ付テハ大野氏ニ引継ク考ナリ

◎臼井 昨日来ノ御話合ノ結果トシテ参事ノ職責非常ニ重キヲ加ヘタリ然ルニ参事ハ居ナカラニシテ各店ノ事情ニ通スルコト能ハス去リトテ毎季考課状ノ提出ヲ待チ居リテハ時期ヲ失スヘキニ依リ各店ヨリハウイークリー若クハモンズリーニ其店ノ事情ヲ報告セラル、様致シタシ

◎福井 業務要領日報ニテハ分ラサルヤ

◎大野 業務要領日報ヲ詳シクスレハ格別今日ノ俣ニテハ到底不十分ナリ

◎益田 大阪並本店営業部ヨリ毎週売買約定高ノ報

【四回ノ二 5 b】

告出ツルモ之ハ一応ノ参考タルニ止マリ売買取消ノモノモアルヘク必スシモ此表ニ信ヲ措ク能ハス

◎福井 實際受渡ヲ了リタル高ハ受渡掛ヨリシテ正確ニ報告スルコトヲ得ヘシ

◎上田 臼井氏ノ説ハ調査課ニ関係アリ元方監査方時代ニ於テハ各店ヨリ種々ノ表ヲ取寄セ同方ニ於テ各店ノ形勢并勘定ノコトヲ知り得ルノ仕組ニ相成リ居リタルモ斯クテハ各店ニ於テ種々ノ表ヲ造ラサルヘカラス非常ノ手数ナリトテ調査課ハ自ラ出掛ケテ取調ヲナスノ方法ニ改メタリ其結果各店ハ大ニ手数ヲ省ケタルモ調査課ニ於テハ一向各店ノ状況ヲ詳ニスル能ハサルコト、ナリタリ從テ参事ニ於テ各店業務ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ材料ナキニ苦ムト共ニ調査課ニ於テモ此種ノ

【四回ノ二 6 a】

材料ヲ得ルノ必要ヲ感セサルカ

◎臼井 何レヨリモ発案ナケレハ参事ヨリフオームヲ造リ各支店ヘ廻ハシ其フオームニ依テ報告ヲ受クルコト、ナスヘシ

◎長谷川 各支店ヨリ表ノ提出ヲ求ムルモ至極名案ナレトモ現今我社ノ仕事ハ非常ニ増加シタルニ依リ「アクチーブ」ノ人ヲ一二人造リ恰モ「トラベリング、エゼント」ノ如ク各地ヲ巡回セシムルコト、ナス方可ナルヘシ

◎福井 輸出督励掛アリ之ヲシテ其任ニ当ラシムレハ可ナラシ

◎呉 督励掛カ商売ニ干渉スルコトハ不可ナリ輸出拡張ノコ

トハ何人モ脳裡ニ銘スル処ナレハ督励掛ハ単ニ之ヲ刺激スレハ足レリ

◎益田 奨励掛ハ商売ニ干渉スルニアラス唯小言ヲ云フノミ

【四回ノ二 6b】

而シテ其小言ヲ聞カサレハ重役ニ其旨申出ツレハ重役ヨリ克々命令ヲ下スコト、ナルナリ

參事ニ於テ其時ノ成行ヲ知ルタメニ八日々ニ約定ノ成立チ行ク分ノ報告ヲ取レハ可ナリ而シテ商売ノ結了高ハ毎季ノ考課狀ニ依テ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ即チ參事ハ今日大阪并東京營業部ヨリ提出シ居ル約定週報ノ如キモノヲ集ムレハ足ルヲ以テ「フオーム」ヲ作り之ヲ各店ニ送り毎週一回其「フオーム」ニ基キ報告セシムルコト、為スヘシ

◎臼井 「フオーム」ヲ造ルコト、セム尤モ考課狀ハ本店ニ於テ全体ノ分ヲ取纏メタルモノヲ調製シ之ヲ各支店ニ送付シ置クモ各支店ノ考課狀ハ常ニ本店ノ振合通りニ行カサルモノ多シ甚タシキニ至リテハ全ク意味ヲ取違ヘ販売

【四回ノ二 7a】

約定高ト結了高トヲ混淆セルモノアリ斯ル有様ナルヲ以テ仮令「フオーム」ヲ造ルモ尚取扱者ト打合ヲ要スルコトモ生スヘシ

◎淺野 間違アリタルモノニハ符箋ヲ付シテ送り戻シ訂正ヲ為サシムレハ次回ヨリハ「フオーム」通りノモノヲ差出し得ルニ至ラム

◎益田 報告ニ付テハ參事ヨリ送付ノ「フオーム」ニシテ實際ニ適合セスルトキハ之ヲ改メテ可ナリ乍去考課狀ハ必ス本店ノ振合ニ係ルコト、セサルヘカラス

◎臼井 各地出張常置員ニモ各支店同様考課狀ヲ提出セシムルコト、致シタシ桑港ノ如キ考課狀ナキタメ何レヨリ品物来リタルヤ分ラス又売リタル品モ研究不能ニシテ考

【四回ノ二 7b】

課狀編成上甚タ差支ヲ感ス

◎小田柿 委細承知セリ

◎益田 用事ヲナスタメニ常置セラレタル出張員ハ支店同様ニ見做スヘキモノナレハ勿論考課狀等ヲ差出サ、ルヘカラス其責任モ支店長ト同様ナリ

◎小田柿 桑港ニ於テ仕事ヲナスニ方リテモ小田柿一己ノ名義ニテハ取引ヲナスヲ得ス從テ三井、エンド、コー又ハ三井物産会社等ノ名義ヲ用イサルヘカラス向後ハ Mitsui & Co.ナル名称ヲ用ヒ度考ナリ

◎益田 桑港旅順ノ如キハ支店同様ノモノニシテ単ニ一時出張員ノ派出セラレタルトハ異ナリ

◎長谷川 厦門出張員ニ付テモ研究ノ末三井洋行ノ看板ヲ

【四回ノ二 8 a】

掛ケサレハ取引ヲナス能ハサルヲ以テ其看板ヲ掛ケシムルコト、シ而シテ銀行等ニ示ス委任状ニハ余ノ本店ヨリ受ケ居ル委任状中復代理人ヲ選定シ得ルトノ条項ニ基キ同一条項ノ委任ヲ厦門出張員ニ与ヘタリ又サインヲ為スニ付テモ「エゼント」テフ文字ヲ用ユルトキハ恰モ他人カ三井ノ代理店ヲ為シ居ルカノ如キ觀アルヲ以テ矢張「パープロキユレーション」デ「サイン」セシムルコト、セリ

◎松尾 ビクトリアベイニ於テモ商人ニ一等ヨリ五等迄ノ鑑札アレトモ当社カ店ヲ出ストナレハ勢ヒ一等鑑札ヲ受ケ堂々ト看板ヲ掛ケサルヘカラス

◎福井 会社ヲ代表スル人ト代表セサル人トヲ分チ唯ニ前者ノミナラス後者ノ人ヲモ派出シ出張シテ用事ハ弁スルモ独

【四回ノ二 8 b】

立シテ他ト契約ヲナシ若クハ手形等ニサインヲ為シ能ハサルコト、シ以テ容易ニ此種ノ人ヲモ出シ得ルコトニ為サ、ルヘカラス

◎益田 一時出張取調ノ場合ニハ委任状ヲ要セサルモ常置員トシテ取引ニ当ル上ハ相当ノ権限ヲ与ヘサルヘカラス

◎福井 其取引事項ニ対シ時々委任権限ヲ与フルコト、シテハ如何

◎益田 権限ノ範圍ハ別問題トシ苟モ出張員トシテ常置セシムル以上ハ予メ委任権限ヲ附与シ置クニアラサレハ日常ノ用務ヲ弁シ能ハサルベシ

◎福井 向後鎮江九江等諸方ヘ人ヲ派出スルコト、ナレハ單ニ一個ノ通信員ノ如キ名義トシ商売ヲナスノ都度別ニ委任ヲ与フルコト、スル方法モ用ヒサルヘカラス然ラサレハ人ヲ容易ニ

【四回ノ二 9 a】

派出シ得サル結果トナル

◎益田 海外ニ派出スルモノニ三等ノ區別ヲ付スルコトヲ得ヘシ桑港并旅順口大連灣出張員ノ如キハ殆ント支店同様ノモノニシテ第一等ニシテ其次ハ或ル部分ノ商売ヲ為サシムルタメ出張セシメタルモノニシテ其仕事ヲナス丈ノ権限ヲ有ス是レ第二等ナリ又其次キハ純然タル通信員ノ如キモノニシテ第三等ニ位ス

◎福井 漢口出張員ノ地位如何

◎益田 上海ノ出張員ニシテ通信員ノ重キモノナリ即チ棉糸等ノ商売ニ付上海支店ノ委任ヲ受ケ居ルモノナリ

◎福井 常置員ニテモ何等ノ権限ナキモノモ置クコトニ致タ

シ

◎益田 三井ノ出張員トシテ常置シ用事ヲ弁セシムル以上ハ

全ク権限ナキモノトスルヲ得ス

【四回ノ二 9 b】

◎長谷川 常置員ニハ委任状ヲ与ヘサルヘカラス然ラサレハ  
仕事ヲナスヲ得ス

◎益田 芝罘ニ出張セシメ居ル大岡ノ如キハ問屋ヘ出張シテ  
上海支店ヨリノ電信并指図ノ受次ヲナスモノナリ故ニ上海  
支店ヨリ綿糸五百俵何十何両ニテ売却スヘシト申送り大岡  
之ヲ先方問屋ヘ申込ムトキハ上海支店カ申込ヲナシタルト  
同一ノ効力アリ即チ大岡ハ「リミツテッド、パワー」ヲ有  
スル者ナリ

◎福井 外国人ノ遣り方ハ如何

◎益田 品物ニ係リ「リミツテッドパワー」ヲ有シ居ル場合ニ於  
テモ一応本店ヘコンファーマーシヨンを為シタル後約定ヲ  
取結フヲ普通トス然レトモ物産会社ノ出張員トシテ看板ヲ

【四回ノ二 10 a】

掛ケ居ル場合ニ於テハ其人ノ行為ニ付物産会社ハ無責任ヲ  
主張スルコトハ信義上并ニ向後ノ取引關係上到底不能ナル  
ヘシ

次ニ輸出入商売擴張ノタメ工業家ニ資金ヲ貸与スルノ可否  
ニ付議スル処アルヘシ

〱〱〱

輸出入商売擴張ノ目的ヲ以テ工業家ニ資金ヲ貸与シ其事業  
ヲ發達セシムルノ可否

我社取扱ノ商売八年々長足ノ進歩ヲ為シ輸出入共ニ全国  
貿易高ノ要部ヲ占ムルニ到リタルハ誠ニ賀スヘキ事柄ナリ

【四回ノ二 10 b】

尚一層之ヲ伸張セントスルニ方リ或ハ見込アル工業家ニシ  
テ資本欠乏ノモノアリ或ハ小資本家ノ個々経営セル事業ニ  
シテ合同團結ノ上ナラテ<sup>(P)</sup>バ当社ノ信ヲ措キテ取引スルニ足  
ラサルモノアリ是等ノモノニ対シテハ資金ノ幾分ヲ貸与シ  
テ其ノ事業ヲ發達セシムルノ得策ナルモアランカ会社全体  
ノ資本金融通力等ヲ斟酌シテ其可否ヲ審議シタシ

〱〱〱

◎益田 本件ニ付テハ一々仕事ニ付テ諮問セサルモ今後資本  
ヲ貸与シ事業ヲ起サシムル上ニ於テ自カラ結果現ハルヘシ  
而シテ外国品ヲ日本ニ於テ製造シ既ニ輸入ヲ防キタルモ  
ノ、取調ハ井上伯カ經濟会ニ示スタメ調査セラレ居リ又如  
何ナル事業ハ之ヲ起セハ利益アリ会社ヨリ之ニ資本ヲ貸

渡スモ可ナリヤトノコトハ營業部ニ於テ大分取調ヘタルモノアリ後ニ之ヲ述フルコト、スヘシ

【四回ノ二 11 a】

元來物産会社カ人ニ事業ヲ起スコトヲ勸ムルトキハ第一ニ資本ノ補助ヲ得タシトノ申込ヲ受クヘク然ルトキハ寧ロ三井一手ニテ其事業ヲ經營スル方可ナルニアラスヤトノ考モ出ツヘシ乍去物産会社ノ大方針ハ仮令資本ヲ貸渡スモ可成他人ニ其事業ヲ經營為致当社ハ其製造品ノ売捌若クハ原料ノ買入ヲ一手ニ引受クル方利益ナリ何トナレハ若シ一手ニ資本ヲ出シテ其事業ヲ經營スルトキハ其製造品ノ取扱ノミトナリ〔他ノ競争同業者ノ製造品ノ取扱ノミトナリ〕を抹消〕他ノ競争同業者ノ製造品ノ取扱ヲ為シ能ハサルモノ之ニ反シテ可成人ニ事業ヲ起サシメ大キク同業者ノ合同販売ヲ引

【四回ノ二 11 b】

受クルコトニ勉ムル方商売ヲ拡張スル上ニ於テ得策ナレハナリ此方針ニ依リ当社力資金ヲ貸与スヘキ事業如何ヲ調査スルコトハ決シテ無用ノ業ニ非ス而シテ近頃起リタル鉄道関係ノ事業ハ姑ク擱キモスリン製造業毛織物製造業并ニ今後起ルヘキトップ製造業、釘并電気二閔スル事業ノ如キ蓋シ有望ナルモノナラム電氣器械類ノ取扱ヲ為スニハ芝浦ノ

製作品ノミヲ取扱フヤ又米國ゼネラルエレクトリックコンパニーノ代理店ヲモ引受クルヤ將又芝浦ヲシテゼネラルエレクトリックト組ミ合ハセ当社ニ於テ其製品ノ販売ヲ引受クヘキヤ是等ノ点モ講究ヲ要ス先ツ福井氏ヨリ取調ヲナシタルモノニ付述フル所アルヘシ

◎福井 品物ハ種々アルヘキモ現在物産会社カ取扱ヒ居ル

【四回ノ二 12 a】

品物ニ密接ノ関係アリテ且其業カ後日大ニ發達スヘキモノヲ撰ハサルヘカラス而シテ今日我々カ取扱ヒ居ルモノニテ益盛大トナルヘキ見込アルモノハ毛類関係ノ仕事ナリ之ハ向後益々發達セシメ当社ニ於テ其全權ヲ握ルコトニ致度其為メ后藤毛織物製造株式会社ヲ助ケ大ニ其業務ノ拡張ヲ計ラシメタルコトハ既往ニ於テ諸員ノ熟知セラル、所ナリ茲ニ尚一ツ新規ニ起シ度ト考フルハ羊毛ヲ梳クトップヲ造ル事業ナリトップハ羊毛ノ半製品ニシテ之ヨリ直チニ毛糸ヲ紡キ得ルモノナルカ日本ニ於テハ未タ之ヲ製造セス尤モ二ヶ所ニ於テ少々ハ製造セラル、モ規模小ニシテ独立營業ニアラス即チ王子ノ製絨会社ニ於テトップヲ製造スルモ自家ニ於テ使用スルモノ、一部ヲ充タスニ過キス又千住製絨所ニ於テモ僅少額ヲ

## 【四回ノ二 12 b】

製造スルモ是亦同所ノ需用スラ充タスニ足ラス元來我國へハ一ヶ年間ニ羊毛類參百万円ノ輸入アルモ原毛ヲ支那濠州印度等ヨリ輸入スルモノ少ク多クハトツプニテ欧州ヨリ輸入ヲ仰ク有様ナリ故ニ内地ニ於テトツプノ製造業ヲ起スコトハ極メテ有望ナルノミナラス此製造業ヲ間接ニ当社ノ手ニ握ルコトハ毛織物并ニ原毛ノ商売上勲ナカラサル便益ヲ得ルヲ以テ余ハ三井家ニ於テ十分此事業ニ着手セラル、ノ価値アリト信ス尚本事業ニ関シテハ聊カ取調ヲナシタル所アリ且予算モ出来シ居ル故何レ近日有力者ヲ集メ下相談ヲ始ムル考ニテ熱心ナル賛成者アルヘキ見込ナレハ必ス其成立ヲ見ルヘキコト、考フ現ニ独乙人ニテトツプ製造器械ヲ二十ヶ年位低利ニテ貸渡シ原料ヲ自カラ供給スルノ条件ニテ

## 【四回ノ二 13 a】

本事業ノ成立ヲ計ラシメント計画シツ、アル趣ナレハ旁此際当社ニ於テカヲ添へ先鞭ヲ着クルコトニ致シタキモノナリ  
次ニ紙ノコトニ付テハ先日輸出商品ノ処ニ於テ詳述シタルカ夫ノ爾來大ニ輸出ノ見込アルコッピ紙ノ如キハ第一ニ製造家ヲ糾合シテ堅固ノ団体ヲ形造ラシメサルヘカラス而

シテ製造家ニ資金ヲ貸与スルカ又ハ団体ニ製品ヲ抵当トシテ貸金ヲ為ス等ノ方法ニ依リ以テ其業務ノ發達ヲ助成セサルヘカラス又先日藤野氏ヨリ述ヘタル足利ノ縮ハ嘗テ外国へ少ナカラサル輸出アリタルモ近年大ニ減少ノ傾アリ蓋シ資本少ク国家ノ為メヲ思フ暇ナク唯其時限リ金ニナルモノヲ造ルタメ粗製濫造ニ流レ声價ヲ落シ輸出減少ノ結果ヲ來シタルナリ故ニ小製造家ヲ合同セシメ其組合ニ資金ヲ貸与ス

## 【四回ノ二 13 b】

ルカ若クハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ助成セサルヘカラス又砂糖ノ精製業モ今後益發展スベシ從來物産会社ハ精糖会社ニ対シ資金ヲ貸与セサルモ原料売込方ニ付金融ノ便ヲ与へ或ハ約束手形ヲ受取り或ハ現品ヲ預リ置キ現金引替ニ一部分宛ノ引渡ヲ為ス等ノ方法ニ依リ製精糖会社ニ対シ二十五万円ノ信用ヲ与へ居レリ斯ノ如クニシテ砂糖ノ商売ヲ当社ノ手ニ握リ他人ハ到底手出シヲ為スコト能ハサル有様ヲ呈シ当社砂糖商売益隆盛ヲ致スト共ニ製精糖会社モ安心シテ安直ニ原料ヲ買入ル、コトヲ得社運益發達セリ今後毛精糖事業ニ対シテハ出来得ル丈ノカヲ添へ責メテハ香港ヨリ輸入スル精糖ヲ防遏致度キモノナリ

## 【四回ノ一 14 a】

又電気ニ関スル仕事モ必スシモ物産会社ニハ限ラサルモ三井家ノ内ニテ手ヲ付ケ日本ノ需用ヲ充タスコト、セサルヘカラス之ニ付テハ資金ヲ要スルコトモ大ナルヘク又急速ノコトニハ參ラサルヘキモ營業部ニ於テハ常ニ此点ニ注意シ居リ何時カハ此商売ヲ手ニ入ル、コトニ致度考ナリ又少シク岐路ニ入ルモ米國ニハ大電気工業会社二個アリ一ハゼネラルエレクトリックコンパニーニシテ又一ハウエスチングハウスナリ後者ハ已ニ高田商会ト組合ヒ居ルヲ以テ当社ハ前者ヲ手ニ入レサルヘカラス此事モ考ノ内ニ置クヘク又電気ノ器械ハ日本ニ於テ製造セサレハ割高二当ルモノモアルヲ以テ此点モ取調ヘ置カサルヘカラス

又石炭ノ商売ヲ盛ニスルタメ運搬ノ道ヲ付クルコトニ助力セサルヘカラス現ニ目下磐城ノ某坑主ヨリ運搬費割高二当ルニ

## 【四回ノ一 14 b】

依リ或地方ヘ小港ヲ築クカ又ハ水戸ヘ鉄道ヲ敷設シ度資金ノ貸与ハ出来サルヤトノ相談アリ如此モ我社石炭商売ノ擴張ヲ計ルタメニハ助勢ヲ必要トス此他種々ノ資金を注入スヘキ事業アルヘシ之ヲ要スルニ当社力取扱ヒツ、アル仕事ニシテ後日見込アルモノヲ取調ヘ其事業カ人ノ手ニテ成立

兼居ル場合ニハ会社ヨリ直接資金ヲ貸与スルカ若クハ又間

接ニ之ヲ助勢スルノ必要ヲ感スルコト往々之アルヘキナリ

◎長谷川 会社ノ商品ヲ擴張スルタメニハ工業家ニ資金ヲ貸与シ其事業ノ成立ヲ計ラシムルコトモ必要ナレトモ尚一步ヲ進メ外国輸入品ニ對抗スヘキ毛織物類ノ製造綿織子并ニ毛織子ノ織立金巾ノ製織等ヲ盛ニシ内地ノ需要ヲ充タシ外国品ノ輸入ヲ防クト共ニ朝鮮并支那

## 【四回ノ一 15 a】

地方ヘモ供給スルノ段階トシテ倫敦支店ニ尽力ヲナサシメ同地ノ器械製造家ヲシテ器械ヲ日本ニ持来ラシメ且幾分ノ資本ヲモ出サシメ右等ノ事業ヲ經營スルカ又ハ三井ニテ其組合ニ加盟スルコト差支ユルナレハ他人ヲシテ組合ハシメ物産会社之ヲ監督スルカ如キ仕組トナスコトモ必要ナルヘシト考フ現ニ村井兄弟商会ニ於テハ米國煙草会社ト組合ヒ外資輸入ノ端緒ヲ開キタリ余カ先年倫敦ニ在ルノ日マンチエスターノ製造家等ニ此事ヲ談シタルニ若シ三井カ此事ニ從フナレハ器械モ持ち行クヘク又工場モ建ツルコトトスルモ可ナリトマテ云ヒタルモノ兩三軒アリタリ今日ハ時機モ大ニ熟シタル故倫敦支店ニ於テ尽力セシメハ案外容易ニ目的ヲ達シ得ルナラント考フ

## 【四回ノ二 15 b】

◎益田 夫等ノコトモ努メサルヘカラス併シ器械ヲ持チ来リ

日本人ト組合ヒテ製造業ニ従事スルカ如キハ中々行ハレサルヘシ何トナレハ日本人ハ中々ノ働キ手ニシテ器械ヲ持チ来リ共同營業ヲ為スモ数年ヲ出スシテ其事業ヲ日本ノ手中ニ奪ハル、ノ恐レアルヲ以テ容易ニ此相談ニ応スルノ外人ナカルヘシ村井ト米國燐寸会社トノ組合ハ純粹ノ商売ナリシユヘ合同スルヲ得タルモノナルヘシ

福井氏ノ述ヘタル如ク会社カ資本ヲ貸渡シ商売ヲ取ルコトハ先方ノ人次第ナリ即其事業ノ確實ナルヲ要スルハ勿論堅忍不拔能ク其事業ヲ仕遂クルカ如キ人物ヲ見込ミテ貸渡スコト、セサルヘカラズ斯ル人ナレハ必スヤ成功スヘシ例ヘハ渋沢氏ノ古河、浅野両氏ニ於ケルガ如シ

## 【四回ノ二 16 a】

又当社カ后藤ニ助力シ又精製糖会社ニ助勢シツ、アルカ如キハ必竟後藤及精製糖会社ノ鈴木氏ヲ見込ミタルニ依ルモノニテ必竟其成效ヲ見ルヘキヲ信ス

◎寺島 モスリン会社ハトップヲ造ルコトハ断念シタルヤ

◎福井 差当り望ミナシ

◎寺島 日本ノ織物ニ使用スル上等ノ毛糸ヲ造ルコトモ必要ナルヘシ

◎福井 毛糸ハ需用多カラズ故ニ着目スヘキ程ノ価値ナシ即チ需用高ハ百五六拾万円ニ止リ内百万円程ハ日本ニ於テ造

ラレツ、アリ

◎長谷川 輸出奨励ノコトハ上下拏テ熱中セル所ナルモ我国ニ於テハ未タ輸出スヘキ品物甚タ少ナシ爾後大ニ其発達ヲ

## 【四回ノ二 16 b】

図ルヘキハ勿論ナルモ亦一方ニ於テ内地ニテ製造シ得ヘキ物品ハ可成其製造ヲ盛ニシ以テ外国品ヲ市場ヨリ駆逐セサルヘカラス左ニ参考ノタメ輸入外国品ニ対抗スル内地産品ノ一二ヲ述フベシ

一、羅紗 二十八年後ニ於ケル羅紗ノ輸入高ハ如左(万位ニ止ム)

二十八年 二十九年

三、一一〇、〇〇〇円 四、一一〇、〇〇〇円

三十年 三十二年

二、三三〇、〇〇〇円 三、二四〇、〇〇〇円

三十一年度ニ於ケル内地ノ産出高ハ如左

千住製造所 一、二〇〇、〇〇〇円

後藤毛布織物会社 六〇〇、〇〇〇円

王子製造所 五〇〇、〇〇〇円

合計 二、三〇〇、〇〇〇円

向後製造高ヲ増加スルトキハ自然外国品ノ輸入ヲ減スヘシ

二、毛布 ノ輸入高ハ如左

【四回ノ二 17 a】

二十八年

二十九年

一、五六九、〇〇〇円

一、九四〇、〇〇〇

三十年

三十一年

六二七、〇〇〇円

五一九、〇〇〇円

三十一年度ニ於ケル内地生産高ハ如左

日本毛布株式会社(東京) 二〇〇、〇〇〇円

大阪毛布株式会社 一八〇、〇〇〇

其他 一〇〇、〇〇〇

合計 四八〇、〇〇〇

大阪毛布会社ハ大ニ其製造力ヲ増加シタレハ昨年度ニアリ

テハ合計九拾万円位ニ上リタルナラム

三、モスリン ノ輸入高ハ如左

二十八年

二十九年

三、六三〇、〇〇〇円

六、四九〇、〇〇〇

三十年

三十一年

三、八三〇、〇〇〇

四、四〇〇、〇〇〇

【四回ノ二 17 b】

三十一年度ニ於ケル内地産出額ハ如左

東京モスリン紡織株式会社 一、八〇〇、〇〇〇円

大阪モスリン紡織株式会社 六〇〇、〇〇〇

合計 二、四〇〇、〇〇〇

四、フランネル ノ輸入高ハ如左

二十八年

二十九年

九六〇、〇〇〇円

一、九九〇、〇〇〇

三十年

三十一年

一、一八〇、〇〇〇

一、三六〇、〇〇〇

三十一年度ニ於ケル内地産出額ハ大阪毛糸製造株式会社ニ

於テ製造スルモノ式拾三万円位ノミニニ過キス

五、帽子 ノ輸入高ハ如左

二十八年

二十九年

八二、〇〇〇円

二七七、〇〇〇

三十年

三十一年

二六八、〇〇〇

二四七、〇〇〇

三十一年度ニ於ケル内地生産額ハ如左

東京帽子会社 二〇〇、〇〇〇円

帝国帽子会社 一一〇、〇〇〇

明治製帽会社 一〇〇、〇〇〇

【四回ノ二 18 a】

大阪浜谷 一〇〇、〇〇〇  
 其他 七五、〇〇〇  
 合計 五九五、〇〇〇  
 六、印刷用紙 ノ輸入高ハ如左  
 二十八年 三〇七、〇〇〇円  
 三十年 三十一、〇〇〇  
 八五六、〇〇〇

【四回ノ二 18 b】

三十年度ニ於ケル内地生産高ハ如左  
 王子製紙会社 八六一、〇〇〇円  
 有恒舎 七二、〇〇〇  
 神戸 五一八、〇〇〇  
 四日市 五〇四、〇〇〇  
 富士製紙会社 九二八、〇〇〇  
 千寿製紙会社 五四二、〇〇〇  
 大阪下柳 六二、〇〇〇  
 大阪安部 一、〇〇八、〇〇〇  
 京都磯野 二五二、〇〇〇  
 東肥 五〇〇、〇〇〇 (昨三十一年火災アリ工場一部分焼  
 失セリ從テ其産額減少セシナラム)

二十九年 七二三、〇〇〇  
 三十一年 二、二八二、〇〇〇

大阪真島 五〇四、〇〇〇

【四回ノ二 19 a】

合計 五、七五一、〇〇〇  
 印刷用紙ハ如此製出盛ナルヲ以テ二十八年以降如左海外ニ  
 輸出シ居レリ

二十八年 二四〇、〇〇〇円  
 二十九年 六七、〇〇〇  
 三十年 五四、〇〇〇

◎福井 毛糸ハ大阪毛糸会社ニ於テ製造スル式拾參万円ノ外  
 後藤ニテ製造スルモノ尚式拾万円余アリ合計四十万円以上  
 トナル

◎益田 愛知県下ニ於テモ毛織物若クハ精糖ノ会社等起ラサ  
 ルヤ

◎寺島 精糖会社ノコトハ当時伊藤伝七氏取調中ナリ又亀崎  
 紡績設立見合ニ付其資金ヲ以テ人造肥料会社ヲ設置セント  
 スルノ目論見アリ此他一ノ宮附近ニ毛糸紡績会社

【四回ノ二 19 b】

ヲ起サントノ相談モアリタリ  
 ◎益田 各支店ニ於テ豊田織機ノ販売ヲ助勢スルコト、ナリ  
 タルニ付テハ一応同機械ニ関スル大要ノコトヲ寺島氏ヨリ  
 陳ヘラルヘシ

## ◎寺島

近來女工ノ払底ヲ來シ賃銀騰貴シタル結果手織事業ハ漸ク器械織布ニ移ラントスルノ傾向ヲ生シ愛知県ニ於テハ其氣運殊ニ盛ナリ即チ龜崎ニ於テ粗末ナル木製器械百台ヲ据付ケ蒸氣機関ヲ以テ之カ運転ヲ試ミタルモ構造不完全ナリシカ為メ蹉跌ヲ來シタルヲ初メトシ岡崎龜崎辺ニ於テ続々織機ノ發明セラル、モノアリ中ニハ其原料ヲ鉄ニ取ルモノモアリテ無慮數十個ノ織機カ諸方ニ於テ發明セラレタリ豊田織機モ即チ其一ニシテ大体ノ構造ハ他ノ織機ト異

## 【四回ノ二 20 a】

ナラサルモ杼カ右ニテモ左ニテモ止マルコトガ同織機ノ特色トシテ専売ト相成リ居ル点ナリ外國製ノ織機ハ単ニ左右何レカ一方ニ於テ止ルノミ聞ク処ニ依レハ近頃又々日本ニ於テ杼カ何レノ処ニ於テモ止ルモノカ發明セラレントシツ、アリト云フ蓋シ杼カ右若クハ左ニ於テ止ルトキハ反物ニ不同ヲ生スルモ之ニ反シテ何レノ処ニ於テモ止ルトキハ糸ノ切レタル際直チニ其所ニ於テ糸ヲ接続シ得ルヲ以テ反物ニ「ムラ」ヲ生スルコトナク此点ニ於テ豊田織機ハ未タ完全無欠ノモノト云ヒ得サルモ兎ニ角右ニテモ左ニテモ止ルコトハ其ノ一特色ナリ

豊田織機ハ一人ニテ四台迄ヲ受持チ得既ニ実行シツ、アルハ一人ニテ三台ヲ受持チ一日十二時間ノ操業ニテ三反半ヲ

織立ツルコトヲ得ヘシ而シテ最初ハ一尺巾ノモノヲ製造シタルモ之ハ単ニ

## 【四回ノ二 20 b】

内地向ニ止マリ清國輸出向ノ棉布ヲ織ルニハ適當セス從テ一尺一寸巾ノモノヲ織立テ得ル器械ヲ作りタリ當時続々注文アルモ何レモ一尺一寸巾物ナリ而シテ此程更ニ二尺巾ヲ織リ得ルモノヲ造リ之ヲ試験シタルニ其結果可也良好ナリ即チ初メハ二十手ト三十手ノ糸ニテ織リタルニ結果宜シク依テ次キニハ三十八手ト四十手ヲ用ヒ又且下縦三十八手横四十二手ヲ以テ試ミ中ナリ右ハ概シテ其結果良好ナレトモ唯一ノ欠点ハ巾広物ハ器械之狂ヒアルカ為メカ布目歪ニナルノ嫌アリ此点改良中ナリ又巾広物ハ織上ケノ上一度ロールニ掛ケサルヘカraz然ルニ之カ設備ナキ為メ仏作りテ魂ヲ入レサルノ姿ナレハ是亦完備ヲ要ス

## 【四回ノ二 21 a】

二百台ト纏マリタル台数ヲ据付ケシムルコトハ一考ヲ要ス何トナレハ機械其モノハ可也ノモノナレトモ前後ノ設備未タ完全セサルヲ以テ大数ヲ据付クルモ之カ始末方困難ナレハナリ現ニ今日ハ糊付器械ノ設備ナキ為メ糊ヲ手ニテコネ

一反宛塗ルト云フカ如キ有様ナリ又機ニ掛ケル前糸ヲ揃ヘル器械ノ如キモ旧式ノモノニ抛リツ、アル現況ナレハ是等モ改良ヲ要ス余モ最初ハ五百台若クハ八百台ノ大高ヲ売却スル考ニテ三重紡績分工場等へ相談シタルモ何分前二述フルカ如ク糊付器械等完備セサルカ為メ中間ノ織機丈ハ安値ナルモ前後ノ器械ハ鉄製ノ外国品等ヲ買入レサルヘカラス甚タ不釣合ノ次第ニテ斯ル大口物ハ引合ヲ見合ハセタリ要スルニ今日ノ処ニテ八十台二十台位ヲ据付ケ水車又ハ石油機関ヲ応用シテ織立ヲ為

【四回ノ二 21 b】

ス位カ丁度相当ナレハ余リ多数ヲ勸メ大仕掛ニ取掛カラシムルトキハ後ニテ困難ヲ引起シ当社迄モ迷惑スルコトナシトセス故ニ大高ヲ据付シムルコトハ熟考ヲ要ス

今日ハ製造方ヲ名古屋車輛会社ニ託シ一ヶ月五百台宛ヲ造ルノ約束ナルモ其運ニ至ラス十二月二ハ五十台一月二ハ二百台ヲ造リ得ヘキ予定ナリ然ルニ注文ハ非常ニ多ク名古屋ノミニテモ既ニ注文台数七百五十二上リ其後続々申込アルモ出来期限不明ナルヲ以テ仮相談ニ止ムル位ナリ此他大阪九州地方ヨリモ注文アリ中々ノ盛況ナリ而シテ織機ノ売込ニ伴フテ石油発動機関等ノ売行モ之アルヘキ見込ナルヲ以テ大阪支店へ協議ノ上四馬力乃至七馬力位ノモノヲ取寄セ

置クコト、セリ

◎益田 豊田織機ハ今日我国ノ手織業進歩ノ一段階トシテ

【四回ノ二 22 a】

將タ今日ノ織<sup>（イマ）</sup>長短定マリナキ綿糸ヲ以テ織立ヲ為スニハ適當ノ器械ト思料シタルヲ以テ当社其一手販売ヲ引受ケンカト考ヘタレトモ当社ニ於テハプラット社ノ織機ノ代理店ヲモ引受ケ居リ而シテ同社トノ約定ニ依レハ織機ノ望ムアレハ先以テプラット社ノ織機ヲ勸メサルヘカラス斯クシテ注文主カ尚ホ特ニ某々ノ織機ヲ買取り呉レヘシトノ注文ヲ為ス場合ニハ其織機ノ買付方ヲ取計ヒテ差支ナキコトニ相成リ居ルヲ以テ全上織機ノ一手販売ハ松本服部両名ヲシテ之ヲ引受ケシメ而シテ当社ハ豊田織機ノ買付ヲ申込ム者アレハ其取扱ヲ為ステフ手續ニ取極メタリ就テハ各支店ニ於テハ当社カ一手販売ヲ引受ケ居ルト同様十分注文引受ニ勉メラルヘク是實ニ我社ノ利益ニ止マラス我木綿織物業上ノ進歩ヲ來

【四回ノ二 22 b】

スコト、ナルヘキナリ

◎浅野 三池支店ニ於テハ折角久留米熊本地方等ヲ勧誘シテ注文ヲ引受ケタリ現今ハ差向キ堅縞ヲ織ル都合ナルモ行ク

〳〵ハ白木綿ヲ織ルコト、ナルヘシ売行見込ハ如何アルヘキヤ海外ノ模様ハ時々本店棉布首部ヨリ報告ヲ得タシ

◎**福井** 時々報告スヘシ尚名古屋ニテ試ミタル二尺巾ノ木綿カ立派ニ織立出来タル趣キナレハ天竺木綿ハ該織機ニ依リ容易ニ織成セラルヘク而シテ本品ハ支那地方ニ無限ノ需用アルヲ以テ売約ニハ困難ナカルヘシ

◎**寺島** 豊田織機ニテ天竺木綿ヲ織ルコトハ困難ニアラサルモ織立ノ上ロールニ掛ケサレハ輸出品ニ適セス故ニロール器械モ

織機ト共ニ販売スルコト、為サ、ルヘカラス

【四回ノ二 23 a】

◎**福井** 豊田織機ニ依リテ織立テタル木綿ノ内、内地向ノモノハ相当利益アルモ輸出向一尺一寸巾以上ノモノハ勘定余リ面白カラス就テハ此上共十分研究ノ上若シ利益アル勘定トナレハ三井家ニ於テ工場ヲ起シ輸出向綿布ヲ織立ツルカ若クハ又製織品ヲ上直ニ買入ル、ノ約ヲ以テ他人ヲシテ工場ヲ起サシムルカ何レカノ方法ヲ執ラサルヘカラス此等ノコトハ尚ホ飯田寺島両氏ト協議スルコト、スヘシ

◎**浅野** 豊田織機ノ販売方ニ付一考ヲ要スル事ハ此織機ハ極メテ簡單ナルモノニシテ必竟手工ヨリ器械工業ニ移ル一階段トモ見ルヘキモノナレハ他日大仕掛ノ織布業起ルノ日ハ

豊田織機ハ顧ミラレサルコト、ナルヘキヤモ未タ知ルヘカラス故ニ今日ヨリシテ

其改良方ヲ工夫シ以テ工業界進歩ニ伴随セシムル様心掛クルコト必要ナルヘシ

【四回ノ二 23 b】

◎**福井** 良キ發明アレハ其専売ヲ讓受クルコトアルヘク又外國ノ良法ヲ模擬スルコトモアルヘク十分改良ヲ加フル管ナリ現ニ此度仏國大博覧會開設ニ付テハ「ノースロップ」其他新發明ノ織布機械カ種々出陳セラレ居ルヘケレハ見物旁渡仏致度旨豊田ニ於テ申居ル位ナリ

又今日我國ノ綿系ハ良好ノ機械ヲ以テ織成スルニ適セサルノミナラス支那ニ於テ細系ニテ織リタル綿布ヨリモ日本ノ太糸ニテ織リタル綿布ノ方需用多シ又器械精良ナレハ其原価高キタメ利息ニ遂ハレ該機械ニテ織成シタル綿布ハ到底勞銀ノ低廉ナル支那ヘハ売込ミ能ハサル結果トナルヘシ

【第四回了】



三井物産「内地支店長会議々事録」(明治三三年) 第五回・  
第六回・第七回・第八回並びに解題

吉川 容・大島久幸

前号に引続き、三井物産「内地支店長会議々事録」(明治三三年)の第五回(第五日目)分・第六回分(第六日目)・第七回(第七日目)分・第八回(最終回(第八日目)分)を翻刻掲載する。第五回分・第七回分・第八回分を吉川が、第六回分を大島が翻刻したうえで、兩名が四回分を通した原本照合を行った。また原本照合に当っては、秋葉直子氏にご協力をいただいた。

凡例

一、原則として漢字は通用の字体を用いたが、固有名詞や慣

用句などで原本通りとした場合もある。

一、合字はカタカナに改めた。

一、「」内は翻刻者による注記である。

一、判読不能の文字は□で示すか、「」内で注記した。

一、原本では発音者名を一字ないし二字分上げて記載しているが、翻刻では冒頭に「◎」を付加したうえで発音者名をゴチで表記した。

一、表10から表15は原本では横に寝かされた横書きの表であるが、収録の都合上縦に起こして配置した。表の番号は翻刻に際して付したものである。野線は適宜補足した。

一、原本の丁の区切りを【】内に示した。原本での丁数は

第五回分から第七回分では用紙右下（原本は袋綴製本本されているのでその状態では左頁のど側下）、第八回分では用紙左下（同じく右頁のど側下）に漢数字もしくは算用数字で記されており、その数字は会議各回毎に更新されている。参照の便を考え【】内には回数と丁数を記しさらに用紙前半（袋綴じを見開いた状態では左頁）の場合は「a」、後半（次の見開きで右頁）の場合は「b」を付した。

前号までに掲載した第一回分から第四回分に翻刻の誤りが幾つか見わかりました。これらについては三井文庫WEBサイト上にて正誤を明らかにいたします。

本史料の翻刻を許可くださり諸々ご高配を賜った公益財団法人東洋文庫に感謝申し上げます。

〔翻刻原本 公益財団法人東洋文庫所蔵「三井物産」内地支店長  
会議事録〕請求記号六四二二

第五回 一月二十二日午前

【五回 1 a】

◎益田 本日ハ共通計算規程ニ関スル件ヲ議スヘシ

共通計算規程ニ関スル件

社内競争ノ弊ヲ除キ商務ノ発達ヲ謀ル為メニ設ケタル共通  
計算規程ハ輸出米、綿花、綿糸、生糸、豆粕等ノ商品取扱  
上大ニ便益ヲ与ヘ其結果稍見ルヘキモノアリ故ニ益々其区  
域ヲ広メ之ヲ応用セントスルニ当リ同規程中ニ改正スヘキ  
点ナキヤ又同規程ノ実行ヲ今一層鞏固ナラシムルノ方法ア  
リヤ  
右及諮問仕候也

◎益田 共通計算規程実行後ノ成績即チ其利害得失ノ実験談

ヲ述

【五回 1 b】

ヘラレタシ今後石炭ヲモ共通計算トスヘキヤ否ヤ又羽二重  
商売ニ付三井呉服店ト一種ノ共通計算法ヲ実施スルノ利害  
如何等ニ付大ニ参考トナルヘシト信ス

◎遠藤 兵庫ニ於テハ更ニ差〔數文字消失〕ス否ナ輸出米ノ

如キ倫敦ト直接引合トナリタル為メ大ニ便利ヲ〔數文字消  
失〕少シノ不便アルハ輸出米買入資金ニ在リ蓋シ外人ハ  
何レモ二〔一文字消失〕五厘位ノ低利ノ金ヲ使用スルモ当  
社ハ二錢七八厘ノ金ヲ使用セサルヘカラス勿論倫敦ニ対シ  
荷為替ヲ取組ムモノ、如キハ正金銀行ニ於テ船積書類ヲ付  
セスシテ一ケ月前ニ為替ヲ取組ムコトヲ得ルノ便法アレト  
モ亦此便法ニ依リ能ハサルモノアリ夫等ハ前文ノ如ク二錢  
七八厘日歩ノ金ヲ利用スルノ外ナキヲ以テ外人ト競争ス  
ルコト能ハス此点ハ御工夫ヲ願ヒタシ其他ニハ更ニ不便ナ  
シ

◎益田 金ノ安キヲ要スルハ共通計算ニ拘ラス何事ニテモ然  
リ此節正金銀行

【五回 2 a】

ニ於テハ為替ノ出合上頻リニ輸出ノ増進ヲ希望シ日本ノ高

キ米ヲ輸出シ蘭貢ノ安キ米ヲ輸入スルコト、シテモ輸出ノ増加ヲ計リ度モノナリ云々申居ル位ナレハ此機ニ乗シテ同行ヘ交渉スルトキハ必スヤ輸出商売ニ付特別ノ便宜ヲ与ヘ呉ル、ナルヘシ

◎北村 横浜ノ生糸勘定ニ付テハ普通ノエキスポートアツカウントヲ開キチエツキニエキスポートアツカウントノ印ヲ押シ置ク然ルトキハ品物ノ積出前ニ為替ヲ約束シ之ニ対シ資金ヲ引出スコトヲ得ルガ正金銀行ノ規則ナリ而シテ今日迄我々ノ振出シタル手形ニハ一タヒモ間違ナカリシヲ以テ此頃ハ正金銀行ニ於テ大ニ我社ヲ信用シ五十万ニテモ百万ニテモ船積書類ナシニ手形丈ヲ振出シ資金ヲ引出スコトヲ得既二十一月末ヨリ十二月ニ掛ケテ百五十万円計リノ手形ヲ振出シ之ニ対シ何等ノ故障ナク便利ヲ与ヘ呉レタリ而シテ荷為替ノ利息六分ナレトモ右手形ノ利息ハ五分ノ

【五回 2b】

割合ナリ斯ル有様ナルヲ以テ今日生糸ノ買入資金ニ付テハ更ニ心配ナシ再言スレハ如何ナル方法ニ依リ輸出生糸ノ荷為替ヲ取組ムヘキカニ付テハ常ニ研究ヲ費シツ、アルモ仕入資金其モノニ付テハ毫モ心配ナキナリ

◎益田 斯ル事ハ大ニ各店ノ参考トナルナリ就テハ神戸ニ於テモ兵庫ニ於テモ又東京ニ於テモ横浜ノ例ニ依リ輸出勘定

ニ就テハ特別ノ便宜ヲ与フヘキコトヲ正金銀行ニ迫リ若シ便利ヲ与ヘサレハ十分不平ヲ訴フヘシ而シテ為替ヲ円ローントシ品物ヲ海外ニテ売リ上ケタルトキ返却スヘク其利息ハ何程ト豫シメ約束シ置クヘシ且利息八年五分トシ若シ六分ト申出ツルトキハ五分ニ引下ケシムヘシ此事ハ神戸ニ於テ山川氏ニ交渉スヘシ

◎大野 山川氏ニ交渉シタル処金ハ融通スルモ利息ハ市中ノ金利同様ニ願ヒタシトノコトナリシ

【五回 3a】

◎北村 エキスポートアツカウントトスレハ低利ニ融通スルナルヘシ

◎呉 此事ハ帰神後大ニ交渉ヲ試ムヘシ

◎北村 輸出米資金ニ付テハ生糸其他ノ普通ノエキスポートアツカウントトハ勘シク其趣ヲ異ニスルモノアリ蓋シ普通ノエキスポートアツカウントナレハ二週若クハ三週間ニシテ結了スルモノナルモ輸出米ニ至リテハ十月頃二十一月若クハ十二月積ヲ売約スルモノナレハ資金ノ融通ヲ受クヘキ期限長シ故ニ先方ニ於テ普通ノエキスポートアツカウントノ例ヲ適用スルコトハ否ムモノナラン

◎呉 長期ノ融通ニ付テハ綿糸ノ例アリ即チ綿糸ハ三ヶ月間融通ヲ得ルモノトシテ最初ノ一ヶ月間ハエキスポートアツ

カウントノ利率ニテ借入シ一ヶ月ノ終リニ約束手形ヲ振出し一錢六厘日歩若クハ年六分ニテ融通ヲ得二ヶ月目ノ終リニ為替ヲ取組ミ年五分ノ利ニテ融通ヲ得ルコト、

ナリ前後通計三ヶ月間ナリ

【五回 3b】

◎**益田** 米ノ資金モ先方ヘ十分事情ヲ談シ他ノモノニ使用セサルコトヲ明カニシ先方カ安心ノ出来ル丈ニ為ストキハエキスポーツアツカウントノ例ヲ応用シ得ヘシト考フ

◎**寺島** 棉花ノ共通計算ハ誠ニ好都合ニ運ヒ居レリ即チ首部ヨリC.H.何程ト電信シ来ルトキハ之ニ予テ取極メアル百斤ニ付六十歩若クハ五十歩ヲ加算シテ得意先ヘ売渡シ而シテ其内ヨリ神戸其他ノ諸入費ヲ控除シ残額丈ヲ名古屋店ノ利益トナスナリ然ルニ大豆大豆粕ハ之ト異ナリ兵庫ヨリ大凡ノ値段ヲ通知シ来リ名古屋ニテハ其以上ニ売リ上ケレハ相当ノ利益アリト考ヘ売約ヲ為シタルニ後ニ至リ愈買付ノ上船ヲ廻ハシ来リタルトキニハ大ニ狂ヒヲ生シ予定値段ヨリ高価ニ買付ケラレ利益ノ積リナリシモノカ却テ損失ニ帰スルコトアリ尤モ其反對

ニ予定値段ヨリ安く買付出来タルトキハ利益ヲ増加スル結

【五回 4a】

果トナルモ如此ハ極メテ稀ナルノミナラス何レニスルモ予算値段トハ相違ヲ来スコトハ商売上不便少ナカラサルノミナラス勢ヒ人情ノ常トシテ可成自店ニ安く買付ケ出来タル分ノ差廻ハシヲ得ンコトヲ望ムニ至ルヘシ故ニ之ハ矢張棉花同様首部ハC.H.ノ値段ニテ引受ケ實際買付ヲ為シタル結果生スルコトアルヘキ損益ノ差ハ首部之ヲ負担スルコトニ致シタシ是レ即チ共通計算規程ニ関シ改正ヲ望ム第一要点ニシテ他ニハ別ニ不都合ヲ認メス

◎**遠藤** 最初相場ヲ報知スル場合ニハ凡ソ買付得ラルヘキ値段何程、運賃何程、為替相場何程ト予定スルモ實際ノ値段ハ買付ケ後ニ非サレハ之ヲ知り能ハス然ルニ首部ニ於テ其損益ヲ負担スルコト、ナレハ勢ヒ損ヲ為サ、ル様大丈夫ノ値段ヲ通報スルコト、ナリ為メニ商売ノ成

【五回 4b】

立ヲ妨クルコト、ナルヘシ

◎**益田** 首部ニ於テハ販売店カ利益ヲ得タル程度ニ於テ後荷ヲ以テ損失ヲ負担セシムルニ依リ太甚困却スルトノ苦情販売店ノ間ニ在リ

◎**遠藤** 決シテ左様ノ事ナシ

◎**益田** 首部カ受負フコト、ナレハ或ル時ハ損シ或ル時ハ利シ之ヲ平均シテ行クコト、ナル

◎寺島 首部ニ於テ○五 値段ニテ引受ケ其後ノ損益ハ凡テ負担スルコト、セハ大ニ便利ナリ

◎益田 各販売店ニ於テ売値ヲ定ムルニハ支那人等カ持チ来リテ販売スルモノヲ比較シテ決セサルヘカラス即チ競争者ノ相場ヨリ高値ナルトキハ到底売行ヲ見サルナリ然ルニ首部ニ損益ヲ持タシメ首部ヨリ常ニ損失ヲ来サ、ル様十分ノ値段ヲ通報スルトキハ到底商売成立セサル

ノ患ヲ生セサルカ此点モ一考ヲ要ス

【五回 5 a】

◎寺島 若シ首部ニ○五 値段ヲ以テ引受ケシムルコトカ行ハレスンバ各販売店ハ其売上勘定ヲ悉皆首部ニ移スコト、シテハ如何是ハ現行共通計算規程ノ明文ニハ相違スレトモ共通計算ノ実ヲ拳クルコトヲ得ヘシ

◎北村 共通計算ノ主意ハ各店ニ利益ヲ有セシムルトキハ其間之競争ヲ来タスヲ以テ其利益ヲ首部ニ集メ各販売店ハ単ニ主部ノ指図ニ依リ売掛并代金ノ取立ニ任セシムルト云フニ在ルモノナラム

◎長谷川 共通計算規程ヲ見ルトキハ其第九條ニ  
 売買物品ノ代価ニシテ舟乗値段ヲ以テ取極タル場合ニ於テハ首部、又沖荷値段ヲ以テ取極タル場合ニ於テハ仕入店ニ於テ運賃ノ引合并保険ノ取極メ等ヲ担当スヘシ

トアリ即チ首部カ舟乗値段ヲ以テ買入ル、場合ニハ之ニ運賃并保

【五回 5 b】

險料等ヲ加算シ販売店ヘ引合ヲ為スヘキコト、ナル又第十五條ニ

首部ニ於テ特ニ経伺ノ上商品ノ買持若クハ売越ヲ為ス場合ニ於テハ相場ノ變動ヨリ生スヘキ買持品若クハ売越品ノ損益ハ自カラ之ヲ負担シ各販売店ヘハ原価ニ拘ラス時価ヲ以テ之ヲ売渡スヘシ

トアリ寺島氏ノ説ハ即チ第十五條ニ該當ス如此買持ノ場合ト否ラサル場合トニ依リ其趣ヲ異ニシ錯雜ヲ免カレサルヲ以テ北村氏ノ説ノ如ク改正ヲ施スモ可ナラン要スルニ此点ハ各関係店協議ノ上修正案ヲ調製スルコト、シテハ如何

◎益田 其外ニ今少シ利害ヲ講究スルコトト、致シタシ  
 ◎長谷川 未タ買付出来サルモノヲ販売スルハ取りモ直サス売越ナレハ共通計算規程第十五條ニ依リ其損益ヲ首部ニ於テ負担スヘク寺島氏ノ

【五回 6 a】

憂フルカ如ク販売店ニ損益ヲ負担セシメラル、カ如キコトナキ筈ナリ

◎寺島 大豆大豆粕ノ取扱ハ北村説ノ如クシ棉花糸ハ是迄通

リトシテ可ナリ蓋シ棉花商売ノ大ニ發達シタルハ可成多ク  
売リテ可成多クノ利益ヲ拳ケンコトヲ努メ非常ニ勉強シタ  
ル結果ナリ故ニ今之ヲ改ムルノ要ナシ

◎長谷川 棉花首部ハ共通計算規程ヲ明文通り実行セル故円  
滑ニ取引出来スルモ兵庫ニ於テハ第十五条ヲ無視セル結果  
種々ノ支障ヲ来タスニ非ラサルカ

◎遠藤 棉花ト大豆大豆粕トハ大ニ其趣ヲ異ニセリ即チ大豆  
大豆粕ハ売約ノ際未タ買付値段ノ分ラサルモノニテ愈買付  
ノ上其ヨリ生スル損益ハ販売店ニ受持タシムルニ依リ販売  
店ニ於テ大ニ励ミヲ来スナリ

◎浅野 三池ニ於テハ運磁丸ノ返リ便ヲ利用シ何レヨリモ荷  
物ヲ取ルコトヲ得ヘキカ時トシテハ兵庫ヘ申送り同店ノ買  
持品ヲ購入スルコト安直ナ

【五回 6b】

ルコトアリ又長崎カ首部ノ指図ニ依テ長崎ニ於テ買付ケ居  
ル品ヲ買取ル方割安ナルコトアリ従テ双方ヘ値段ヲ交渉シ  
安値ノ方ヨリ買付クヘキ結果トナル如此ハ非常ニ不便ナレ  
ハ首部カ凡テリスクヲ取り長崎ニテ買付ケタル荷物モ長崎  
ニテ直チニ売却スルモノ、外ハ兵庫ノ買持品トシ兵庫ニ於  
テ其売り方ヲ管轄スルコト、為ス方可ナラン

◎益田 損益ハ如何ニスルヤ

◎浅野 首都タル兵庫ノ負担トスル

◎水谷 輸出来ハ北村説ノ如クセリ即チ昨年積出ノ五千百屯  
ノ内二千屯ハ神戸積残り三千百屯ハ馬関積トシタルモ其勘  
定ハ凡テ首部持トセリ

◎益田 北村説ハ理屈上ニ於テハ間然スル所ナキモ販売店ニ  
於テ少シモ利益ナキトキハ奨励ノ道ナク自然骨ヲ折ラサル  
コト、ナリ商売遅鈍

【五回 7a】

トナルヲ免カレズ此点ハ熟考ヲ要ス

◎長谷川 共通計算ノ趣旨ハ互ニ競争シテ利益ヲ拳ゲントス  
ルノ弊ヲ避クルニ在レハ自店ニ利益ヲ成サストテ更ニ憂フ  
ル所ニ非ス否ナ今日利益カ直接現ハレサルニ依リ十分ノ働  
キヲ為サスト云フカ如キ支店長ハ絶無ナルヘシト考フ

又共通計算規程第十八条ニハ「本店ニ於テハ各関係店ノ勘  
定書ヲ総合シテ共通計算ノ実ヲ拳ケ以テ其損益ノ成績ヲ明  
ニシ之ヲ各関係店ニ表示スヘシ」トアルモ本店ニテ纏ムル  
ハ時期後レナルヲ以テ首部カ各店ノ損益ヲ取調ヘテ各関係  
店ヘ報告スルト共ニ本店ヘモ上申スルコトニ修正スル方可  
ナラム

◎益田 寺島ノ意見如何

◎寺島 余ハ前二述ヘタル如ク棉花系ハ従前ノ通りトシ大豆大豆粕ハ其損益

【五回 7b】

ヲ首部カ負担スルコトニ致シタシト考フ蓋シ最初共通計算規程ヲ設クルニ方リテハ余モ北村説ノ通り仮令損益ハ分ラサルモ売込サヘスレハ可ナリトノ考ヲ抱キ當時其説ヲ主唱シタルモ遂ニ行ハレス現行ノ共通計算規程ヲ見ルニ至リタルモノナルカ実行ノ結果案外不便ヲ見ズ

棉花商売ノ如キ円滑ニ行ハレ向後益進歩ノ色アリ只大豆大豆粕ノ取扱上ニ付聊カ不便アルヲ以テ此点ニ関スル改良意見ヲ吐露シタルモ而モ今急遽ニ最初ノ考通りニ為サントスルハ大早計タルノ嫌ナクンバ非サルナリ

◎遠藤 首部ニ於テ販売店ヨリ注文ヲ得タル場合ニ一旦三円ニテ出来ル旨通知シタリトスレハ實際ノ買付ハ三円五錢ナルモ將タ二円九十五錢ナルモ凡テ三円ニテ仕切ルコト、スヘシトノ寺島説通りニテ差支ナカラン

◎福井 余ハ北村説ニ同意ス即チ損益ハ凡テ首部ヘ集ムルノ主義ヲ取ル

【五回 8a】

モ各販売店ニ於テ口銭ハ挙ラサル故勉強シテ売捌ニ従事セ

スト云フカ如キ恐レハ少シモ之ナシト考フ加之首部ニ集ムルトキハ帳簿上利益損如何ヲ知り得ヘカラサルカ如キ觀アルモ其実取扱者ハ大抵何程ノ利益ヲ挙ケ得タリヤ之ヲ推臆スルニ難カラサルナリ

◎吳 利益ヲ出ス出サヌノ問題ハ半季決算ノ際ニ起ルモノナレハ平常其利益ハ首部ニ於テ之ヲ集メ置キ半季末ニ於テ一步トカ一步五厘ノ利益ヲ販売高ニ応シテ販売店ヘ付廻ハスコト、シテハ如何

◎遠藤 牛莊商売ハ手数料杯ハ見込ムコトヲ得ス若シ一步若クハ一步五厘ノ手数料ヲ加算スルトキハ競争者ノタメニ制セラレ商売ノ成立ヲ見ルコト能ハサルヘシ現ニ一担ニ付三錢カ口銭ノ經費ヲ減少スル為メ營口支店ヲ出張員ニ改メタル位ナリ

又棉花ハ日本沖何程ニテ約定ヲ為スコトヲ得ルヲ以テ買持品ナルト否ト

【五回 8b】

ニ拘ラス値段ヲ定メテ首部ニ於テ之ヲ引受ケ得ルモ大豆大豆粕ハ之ト異ナリ牛莊ニ於テ現物買付ノ上ニアラサレハ實際ノ原価ヲ知ルコト能ハス故ニ棉花ノ例ヲ推シテ大豆大豆粕ノ場合ヲ論スル能ハス

◎益田 共通計算ノ起リハ仕入店ニ於テ利益ヲ見ルトキハ原

価割高二当り販売店ニ於テ他ノ競争者ニ勝ヲ占メラル、恐アリ故ニ仕入店ハ利益ヲ取ラス仕入原価ヲ販売店ニ通知シ仲次店モ亦實際ノ経費ノミヲ領取シ販売店ヲシテ十分他ノ競争者ニ拮抗シ得セシメントスルニ在リ即チ販売店ヲシテ原価ヲ知ラシムルト云フコトハ最モ必要ナル点ニシテ海外トノ引合ニ於テ特ニ然リトス例ヘハ鉄道ノ入札ニシテモ若シ倫敦支店ニ於テ二分五厘ノ口銭ヲ加算シ日本ヘ値段ヲ報知スルトセン乎日本ニ於テ更ニ此上ニ口銭ヲ見込ミ入札ヲ為スルトキハ何時モ他人ノ為メニ注文ヲ取ラレ当社ハ電信料損トナルヘシ

## 【五回 9 a】

◎長谷川 共通計算ノ原価ヲ販売店ニ知ラシムルコトカ主意ナルコトハ御説ノ通りニテ其為メ営口ヲモ共通計算中ニ加ヘタルナリ然ルニ首部ヨリ販売店ヘ値段ヲ報知スル場合ニハ未タ實際買付出来居ラサル場合ニシテ首部ハ多分何程ナレハ買付ケ得ヘク又運賃ハ何程為替相場ハ何程ナルヘク從テ一担何程ニ売レハ可ナリト予算シテ其値段ヲ販売店ヘ報知スルモノナリ左レハ買付原価、運賃、為替相場等ニ就テハ首部自ら責任ヲ負担スルモノナレハ之二伴フ損益モ亦首部自カラ之ヲ受持タサルヘカラス

◎益田 大豆大豆粕ハ實際買付ヲ為ス迄ハ値段不明ナリト云フモ大抵ハ見当付キ居ルモノナリ

◎遠藤 首部ノ報知値段ト實際買付ケ得タル値段トハ格別相違ヲ来スコトナシ

## 【五回 9 b】

◎益田 然ラハ棉花ト殆ント差異ナシ

◎北村 余ノ考ニテハ一昨年共通計算規程ヲ設ケラレタル以來今日ニ至ル迄実施ノ結果大ニ商売ノ発達ヲ助ケタレハ尚ホ一步ヲ進メテ利益ハ凡テ首部ニ集ムルコト、改正セハ層一層ノ好成績ヲ呈シ得ヘシト考フ即チ甲店ハ五万円ノ利ヲ得タリ又乙店ハ三万円ノ利ヲ得タリト云フカ如キコトハ全廢シ豆ノ商売ニテ何万円利シタリ棉ノ商売ニテ何万円利シタリト云フカ如クスルヲ可ナリト信ス殊ニ大豆大豆粕ノ商売ニ就テハ支那人ノ侮ルヘカラサル競争アリ旁以テ十分首部ノ働キヲ敏活ナラシメ販売店ハ一二首部ノ指揮ニ從ヒ一生懸命ニ其売込ニ努ムルコト、セハ可ナラム

◎浅野 先年共通計算ヲ設ケタル當時ト今日トハ大ニ各店并各掛ノ考モ変リ自店ノ利益如何ノ如キハ少シモ意ニ介セサル様ニナリタレハ最早

## 【五回 10 a】

北村説ヲ実行スルモ可ナリ而シテ今日共通計算規程ニ於テ  
販売店カ利益ノ一部分ヲ收受シ自店ノ損益ニ現ハスノ制ハ  
却テ該規程ノ実行上妨ケトナル所ニシテ其之アルカ為メ互  
ニ「カスリ」ヲ取ラントスルノ傾向ヲ生スルナリ故ニ北村  
説ノ如ク首部ニ於テ凡テノ損益ヲ負担スルコト、スヘシ

◎**福井** 綿花ニ就テハ從來争起ラサリシモ争ヲ惹起スヘキ分  
子ヲ含ミ居レリ即チ首部ニ於テ若シ利益ヲ貪ラントシ高キ  
値段ヲ販売店ニ報知シ販売店モ亦利益ヲ占メントシテ其上  
ニ口銭ヲ加算スルトキハ値段益々割高トナリ他ノ競争者ニ  
一籌ヲ輸スルカ然ラサルモ大ニ其働ヲ遲鈍ナラシムヘシ  
C. 値段ノ分り得ル綿花ニ付テモ既ニ然リ其値段ノ分り得  
サル大豆大豆粕ニ至リテハ首部ヨリ値段ヲ報知シ來ルモ実  
際買付ノ上ハ最初通知ノ値段ヨリ割高トナルヤモ計ラレサ  
ルヲ以テ勢ヒ其危険ヲ防ク為メ売値ヲ高クシ大ニ売方ヲ鈍  
ラシムルコト、ナルヘシ

【五回 10b】

故ニ損益ハ凡テ首部ノ負担トシ而シテ仕入店ハ可成安ク仕  
入ヲ為シ又販売店モ十分其売方ヲ努ムル様スルヲ得策ト考  
フ

◎**益田** 理論ノ上ニ於テハ北村説間然スル所ナキモ實際上ニ  
於テハ遠藤氏ノ云フ如ク販売店ニ利益ヲ得セシメサレハ楽

薄ク商売発達セサル結果トナラサルカ

◎**寺島** 今日ハ未タ利ヲ得ルモ得サルモ可ナリト云フ迄ニ進  
歩セス若シ各店共ニ聖人君子ナレハ可ナルモ是迄ノ経験ニ  
徴スレハ此事ハ云フヘクシテ実績ノ挙カラサルモノナルヘ  
シ故ニ今暫ク現今ノ假ト為シテハ如何

◎**浅野** 共通計算規程ヲ実行シテ今日便利ヲ得ツ、アルハ使  
用人ノ考力進ミタルコトヲ証明スルモノナリ故ニ今一歩ヲ  
進メ北村説ノ如クスレハ更ニ便利トナルヘシ且ツヤ今日使  
用人ノ考ハ大ニ進ミタルヲ以テ自店ニ直接利益ナケレハ十  
分ノ働キヲ為サスト云フカ如キ憂ハ万ニ之ナカルヘシ

【五回 11a】

◎**益田** 兵庫店ニ使用スル人カ売渡ヲ為スモ名古屋店ニ使用  
スル人カ売渡ヲ為スモ同シ事ナリト言ヘハ夫迄ナルモ若シ  
損益ハ首部ノ負担トシテ販売店ハ與リ知ラストナレハ兵庫  
店ニ於テハ首部ノ下ニ直接監督セラル、故自然目減リ等無  
之様注意スル度モ深キモ名古屋店ノ売渡者ハ直接自家ノ頭  
上ニ影響ナク且首部ノ支配モ及ハサル故幾分其間ニ目減  
ナキ様注意スル度モ浅キ結果トナルハ人情ノ免カレサル所  
ナルヘシ

◎**遠藤** 其極首部ニ於テハ店ニ依リ三円ノモノモ他ノ店ハ目  
減リ多キ故大丈夫ヲ取りテ三円五錢又八十錢トスルコト、

ナリ為メニ商売ノ成立ヲ妨クルコトナシトセス

◎**福井** 首部ニテ名古屋支店勘定三池支店勘定ト云フカ如ク勘定ヲ區別シ置ケハ各店共無責任ノコトヲ為サ、ルヘシ

【五回 11b】

◎**北村** 不親切ノ取扱ヲ為スト云フカ如キハ杞憂ニ過キサルヘシ同シ物産会社ノ仕事ヲ為スニ際シ他人ニ目方ヲ多ク与フルトカ又ハ不必要ナル入費ヲ掛ケルト云フカ如キ馬鹿氣タルコトヲ為スモノハ絶無ナルヘシ

◎**遠藤** 實際口ニテ云フ様ニハ行カズ営口大豆大豆粕ノ商売ハ一担ニ付三錢カ四錢ヲ儲クルニ止ルモノナレハ少々ノ目減リニテモ直チニ影響ヲ及ホスヲ以テ可成各店ニ直接ノ利害ヲ持タセ置キタシ

◎**福井** 各店共自分ノ販売シタルモノニ付受渡ニ注意スルハ勿論ノコトナレハ其辺ハ心配ニ及ハサルヘシ

◎**益田** 首部ハ販売地支店長ヲ指揮スルノ権能ナシ故ニ良シ受渡ニ不十分ノ点アリト考フルモノ一応注意方ヲ依頼スルノミニテ命令スルコトヲ得サルカ故ニ販売店ニ於テ若シ右ハ出来得ル丈ノ働キヲ為シタルモノニテ此上ハ致方ナシト答フルトキハ首部ハ更ニ之ヲ突キ込ミ得ス於是手直接ニ

【五回 12a】

利害ノ關係ヲ持タシムル方得策ナリトノ説モ出タルモノナリ

◎**長谷川** 牛莊商売ハ極メテ薄利ノモノニテ取扱店各利益ヲ貪リテハ到底商売ノ成立ヲ見ル能ハス故ニ共通計算ニ属セシメラレタルモノナリ從テ首部ニ於テ損益ヲ負擔シ販売店ハ利益ヲ収メサルコト、為スヲ必要トスルノミナラス時トシテ商売ノ發達ヲ計ル為ニハ甲販売店ノ利益ヲ殺テ乙販売店ヲ助ケサルヘカラサルコトモアルナリ然ルニ若シ遠藤説ノ如ク販売店ヲシテ利益ヲ収メシムルトキハ共通計算ノ精神ヲ没却スルニ非スヤ且ツヤ又販売店ニ於テ不親切ノ取扱ヲ為スト云フカ如キハ一片ノ杞憂ニ過キスシテ事實有リ得ヘカラサル事ナルノミナラス万一如此不都合ナル販売店アリトセハ本部ニ申立テ処分ヲ仰ケハ可ナラム

◎**上田** 兵庫首部ハ大分攻撃ノ中心トナリタルモ遠藤説ハ畢竟利益ヲ

【五回 12b】

販売店ニ持タシムル方商売ヲ發達セシムルニ利アリト云フニ在リ而シテ寺島氏ノ憂フル所ハ兵庫ハ首部ト販売店トヲ兼スルヲ以テ利益ヲ販売店ニ持タシムルトキハ兵庫ノ方ニノミ割合宜キ荷物ヲ廻ハシ名古屋等ヘハ割合悪キ荷物ノミヲ廻ハスコト、ナルトノ猜疑心ヨリ起リタルモノナリ乍去

遠藤氏ノ只今述フル所ハ首部ノ資格ニ於テスルモノニテ首部ハ利益ヲ収メス販売店ヲシテ利益ヲ収メシムルト云フ極メテ公正ノ説ニテ販売店ニ損益ノ関係ヲ頭腦ニ入レ節約スヘキモノヲ節約シ利益セラルヘキモノハ利益シテ可ナル次第ナリ

◎北村 首部ハ指値ヲ以テ引受クルコト、シテハ如何

◎遠藤 指値ヲ為シ之ニテ引受ケ實際買付ケノ結果少々ノ出入アルモ之ハ凡テ首部ノ負担トスルカ

◎寺島 左様ニシテ今一季試ミテハ如何

【五回 13a】

◎益田 共通計算ノ事ニ付進歩ノ考ヲ持チ出サレタルハ太甚悦シキ事ナリ元来此規程ハ一般ニ適用スル総則ヲ定メタルモノナルモ余リ細微ニ入り品物ニ依リテハ之ヲ適用シ能ハサルモノアリ現ニ生糸並輸出米ノ如キハ特別ノ共通計算規程ヲ定メ別ニ主腦ヲ置カスシテ仕入販売両店間損益ヲ共通スルモノトセリ此如品物ニ依リ又時ノ宜シキニ從テ共通計算ノ適用ヲ異ニセサルヘカラサルヲ以テ共通計算ノ本則ハ単ニ何レノ品ニモ適用セラルヘキ大原則ノミヲ定メ置キ其取扱細則ハ各物品ニ付個々ニ之ヲ規定スルコト、為ス方可ナランカ要スルニ此点ニ関スル双方ノ説ハ先刻来十分承リタレハ之ニテ止メ尚他ニ共通計算ニ屬セシムヘキモノアル

カ否ヤヲ議スヘシ

◎北村 石炭ハ第一ニ共通計算ニ入レテ然ルヘシ

◎益田 特ニ首部ヲ置カサルモノハ乗合勘定ニ屬スルモノト為スヘキカ

【五回 13b】

◎大野 共通計算ハ社内ノミニ適用スルヤ又ハ三井家全体ニ適用スルヤ

◎益田 会社ノ規則ナル以上ハ勿論社外ヘハ適用シ得ス從テ三井呉服店ト羽二重ニ付共通計算ヲ為サントセハ特別ノ約束ヲ取結フコトヲ要ス

現行ノ共通計算規程ハ前ニ一言セル如ク詳細ニ亘ルヲ以テ之ヲ修正スルノ要アリ而シテ其内ニハ必ス首部ヲ置クノ要ナキモノアリ現在ニ於テモ生糸輸出米ノ如キハ首部ヲ置カサルモノナリ又仕入店モ販売店モ利益ヲ収メス其損益ヲ凡テ首部ニ集ムヘキモノモアルヘク又販売店ニテモ利益ヲ収ムルコト、為スヘキモノモアルヘシ故ニ細則ハ其品物々々ニ付テ之ヲ定メ共通計算規程ニハ何レノ品物ニモ通用スヘキ大体ノ原則ノミヲ定ムルコトニ改メ其規定ヲ簡單ニスル方可ナルヘシ就テハ左ノ五名ヲ特別委員トシ修正案ノ起草ヲ托スルコト、スヘシ尤モ委員ノ修正案ハ必スシモ採用スルニ限ラス唯一ノ参考ニ供スル而已

委員 福井、長谷川、遠藤、寺島、南

【五回 14 a】

一月二十二日 午後

◎益田 何ナリトモ会社ノ業務上ニ付キ御心付アレハ承リタ

シ

◎福井 談カ輸出商売ノコトニ移ルモ魚油ノ商売ヲ今一度起シタシ此商売ノ困難ナルハ売方ノ一点ニテ売方サへ順序カ立チ居レハ日本ニテノ買入ハ左程困難ニアラズイリスノ如キハ買持ヲ為シテ海外ニ売方ヲ努メ居レリ我社ニ於テモ是非此商売ヲ再興致度モノナリ

◎益田 精製ヲモ為スカ

◎遠藤 精製シテ輸出スルコト、致シタシ

◎益田 仕入ハ安易ナルカ

◎平田 此事ニ付取調ヘタルカ急ニ多数ヲ集ムルコトハ困難ナルモ増毛、留萌、

【五回 14 b】

鬼鹿ニテ一方位ハ集マルヘシ而シテ本品買集ニ付テ最モ面倒ヲ感スルハ空函ノ配置方ナリ若シ空函ノ配置方其宜シキヲ得サレハ仮令魚油ノ方ニテハ利益アルモ空函ニ於テ欠損ヲ来タシ結局損失トナルヘシ即チ空函ノ配置ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ水汲用ニ使用シ又ハ之ヲ以テ家具ヲ製造スル等ノコトヲ為スヲ以テ空函ハ単ニ入用分丈ヲ配置シ残品アレハ多少費用ヲ要スルモ漁業部ヘ引取り翌年期節ニ至リテ更ニ又之ヲ配ルコト、スル方可ナリ

又買方ハ先年ハ小津、岩出等カ頻リニ買込ミ居リタル際ナリシ故買集メ困難ナリシモ此節ハ小津岩出等カ手控ヘ居ル姿ナレハ当社ニ於テ買集メハ左程困難ナラサルヘシ

◎益田 漢堡ノ武村ヘ申送り魚油ノコト見込ナシトノ報告ヲ得ルモ尚同人二十分力ヲ致サシメ是非共商売ト為スカ又ハ単ニイリス等ノ外国商館ニ

【五回 15 a】

売込ム事丈ニテモ為スカ

◎遠藤 後者丈ニテモヤリタシ

◎福井 千函二千函宛ハ稽古旁独逸等へ送荷スルコト、致シタシ

◎益田 イリス等へモ売ルカ

◎福井 海外輸出ノ残額アレハイリス等へモ売却スルモ可ナ

リ

◎益田 海外ニテノ販売ハ竹村<sup>〔マ〕</sup>之二当ルトスルモイリスハ多年此商売ニ従事シ十分経験モアル事ナレハイリスニハ到底及ハサルヘキカ

◎福井 此商売ハ大ニ巧者ニ遣ラサルヘカラス先年倫敦ヘ送リタル分ハ利益ナカリシモ漢堡ノブーヒアルドヘ送リタル分ハ幾分ノ利益トナリタリ

◎益田 余リ初メヨリ手広ク買入ヲ為サス漁業部ノ人ヲ使用シテ一方位買集メヲ為スニ止メタシ

◎福井 早速此商売ニ着手シタシ

## 【五回 15b】

◎平田 空函ハ予メ之ヲ配付シ置カサルヘカラス故ニ此商売ニ着手スルトセハ至急空函ヲ配付セサルヘカラス

◎福井 一ニ千函ダケニテモ買集メタシ

◎平田 千函位ナレハ漁業部ニテモ製出シ得ヘシ又小樽ニテモ仲買ノ手ヨリ買集メ得ヘク却テ空函ヲ配ルヨリモ便宜ナルヤ計リ難シ而シテ小樽ニハ会社倉庫アリ他ニ之ヲ貸渡シアルモ魚油一万函位ノ取扱ヲ為ストスレハ今ヨリ其用意ヲ為シ倉庫等モ取戻スコト、為サ、ルヘカラス

◎福井 是非用意スルコト、致シタシ

◎北村 魚油ハ石油函ノ假輸出スルカ

◎遠藤 然リ

◎北村 然ルトキハ途中又ハ先方ニ着シタル後漏リヲ生シ不都合ナリ

## 【五回 16a】

◎遠藤 石油函ニコールドルヲ塗リテ送り出スモノニシテイリスノ如キモ亦爾カセリ

◎北村 石油函ハ取扱ノ際損所ヲ生シ易シ故ニ葡萄酒ノ明樽ヲ用ユル方可ナラン

◎遠藤 日本内地ノ運搬方不便ナリ樽ハ嘗テ之ヲカストル油ニ試ミタルモ不結果ナリシ

◎北村 文明国ヘ送ルモノニ付先方ニテノ陸揚ニハ更ニ差支ナシ

◎福井 先方ニテ詰替ヲ為シテハ如何

◎北村 詰替ヲ為ストキハ空函力不用トナリ却テ損失ヲ醸スヘシ

◎平田 小津等ノ談ヲ聞クニ魚油ハ横浜ノ商館ヘ売込ムモ勘定ニ当ルトノコトナリ故ニ我社ニ於テモ一層此商売ヲ手広クシテハ如何

◎遠藤 当社ハ北海道ニ仕入機関ヲ有スルノミナルモ小津ハ房州并奥州各地ニ於テ仕入ヲ為シ下品ニテモ之カ取扱ヲ為シ居レリ故ニ当社ハ小津ノ

真似ハ為シ難カルヘシ

【五回 16b】

◎益田

然ラハ魚油ノ事ハ再考ノ上可成直輸出ヲ計リ内地売可ナレハ内地売ヲモ取扱ヒ先ツ以テ一万函ヲ程度トシ空函配付ノ事モ手配スルコト、為シ漁業部ヲシテ其買入ニ勉メシムヘシ

◎福井

次ニ硫黄ノ商売ヲ拡張シタシ元來硫黄ハ明治二十五年頃ニハ凡ソ四千万斤ノ産出アリ其當時ハ値段最モ安ク十二三円位ノ相場ナリシカ其後産出漸ク減少シ近頃ニ至リテハ一ケ年ニ千五六百万斤トナリタリ然ルニ又昨今北海道採掘「モヨロ」ニ於テ大硫黄山ヲ発見シ富多山商會之カ採掘ヲ計リツ、アリ一ケ年凡一万八千屯ヲ採出スルノ予定ナリト云フ此外ニ鉦山會社ニ於テ一ケ年凡五千屯北海道ニ於ケル他ノ山ヨリ九千屯、薩摩信州等ヨリ四千屯ノ産出アルヲ以テ硫黄ノ産出高ハ一ケ年約三万六七千屯ニ達スヘキ見込ナリ

【五回 17a】

然ルニ輸出ノ方ハ二十五年度ノ如キ大産出アリタル年柄ニ於テモ一万屯ヲ出テス又販路如何ヲ見ルモ此度小田柿氏ノ取調ヘタル所ニ依レハ太平洋沿岸ニ於テ無理ニ売捌ケハ一

万五千屯ノ売行ハアルヘキモ上値ニ売行ク高ハ一万屯ニ止ル趣キナリ蓋シ從來桑港其他太平洋沿岸地方ニハシシリ一産硫黄ノ輸入アリタルモ近頃シシリ一ノ硫黄山ハ合併シ若クハ有力ナル人ノ手ニ入りタルカ為メ安売ヲ為サス其結果桑港等へ硫黄ヲ搬送シ日本産ノ硫黄ト競争スルカ如キ愚ヲ為サス其為メ昨年シシリ一産ノ硫黄ハ少シモ桑港ニ輸入勿リシト云フ今後モシシリ一産ノ硫黄カ桑港ニ於テ売行ク値段迄ニハ日本産硫黄モ桑港ニ於テ売行クヘシ而シテシシリ一産硫黄(No. 2)ハ紐育着二十一弗ヨリ二十一弗半位ノ相場ナレハ之ヲ桑港ニ持ち來タストスレハ紐育桑港間ノ鐵道運賃若クハケーブコロニー廻リノ汽船賃ヲ要

【五回 17b】

スルヲ以テ仮ニ鐵道運賃ヲ四弗ト見レハ桑港着値二十五六弗ニ売捌カサルヘカラス又仮リニケーブコロニー廻リノ汽船賃ハ鐵道運賃ヨリ安値ナリトスルモ尚ホ二十四五弗ニハ該当スヘク到底日本品ト競争スルコトヲ得ス故ニ若シ日本ノ硫黄山所有者カ合同スルカ又ハ輸出ヲ一手ニ托スルトキハ日本硫黄ノ値段ハシシリ一産硫黄カ桑港ニ於テ価ヒスル程度迄引上クルコトヲ得ヘシ從テ我社ニ於テハ硫黄ノ販賣方ヲ一手ニ掌握セントノ考ヲ有シ且一手ニ掌握スル以上ハ桑港へ高値ニ売捌キ得ル高ハ一万屯ニ止ルヲ以テ各硫黄山

持主ノ合同勘定ヲ以テ扱捉「モヨロ」硫黄ノ採掘高ヲ減少セシムルカ又ハ安値ニテモ紐育方面へ売捌ヲ為サントノ考案ヲ有ス勿論此事ハ扱捉「モヨロ」硫黄山持主ト交渉ノ結果如何ニ依ルモノニシテ今日ヨリ其実行ハ断言シ能ハサルモ兎ニ角硫黄ノ販売方ヲ一手ニ集ムルコトハ漸次実行致度考ナリ

【五回 18 a】

桑港ニ売行クヘキ高ハ一万屯ナルカ此外ニ濠州へ向ケ五百屯、支那へ向ケ三千屯ノ売行アルヘク彼此ヲ合スレハ一万八千屯乃至二万屯位ハ輸出セラルヘシ但今日迄ノ税関調ニ依レハ一万三千屯以上輸出セラレタルコトナシ即チ昨年ハシシリ―産硫黄カ桑港へ入ラサリシ為メ一万三千屯ノ輸出ヲ見タルモ以前ニハ之ヨリモ少額ナリシ今参考ノ為メ金額ヲ以テ硫黄ノ輸出高ヲ示セハ如下

二十七年 二十四万円 二十八年 二十九万円  
二十九年 三十万円 三十年 三十二万円  
三十一年 四十七万円 三十二年 五十二万円  
右ノ如ク二万屯位ハ相当値段ニテ販売シ得ルモ其以上ハ安売セサルヘカラス但内地ニテモ六千屯位ノ需用ハアルヘキヲ以テ安売ヲ為スヘキ高ハ約一万屯内外ナリ

【五回 18 b】

◎平田 富多山商会ノ硫黄採掘模様ヲ聞クニ昨年ハ土硫黄ノ假ニテ有川迄運ヒ之ヲ貯蔵シ其高約二万屯ニ達シタリ之ヲ精鍊シ分止リ七分ト見ルトキハ其高一万四千屯ナリ之ニ今年度ノ採掘高一万八千屯(余ハ一万五千屯位ナルヘシト考フ)ヲ加フルトキハ「モヨロ」硫黄ノミニテモ三万屯以上ニ達スヘク此他各地ノ硫黄採掘業者カ是迄硫黄ノ景氣可ナリシヲ以テ益々其採掘高ヲ増加スルニ至ルヘケレハ我国ノ硫黄産出高ハ前年度ノ繰越ヲ計上セサルモ尚四万屯内外ニ達スヘキヤモ知ルヘカラス就テハ内地ニ於ケル品物ノ買集メ方ニハ困難ナキモ売り方ニハ十分力ヲ尽サ、ルヘカラス從テ内地ニ於テ合同販売ヲ計画スルヨリモ寧ろ桑港ニ於テ続々売込ミヲ為シ他ノ者ハ最早売約ヲ為スノ余地勿ラシメハ随分安ク叩キテ買入ヲ為シ得ヘシト考フ

◎小田祐 余モ此事ハ氣付キタル故今年一ケ年間ノ入用高ヲ約定センコトヲ試

【五回 19 a】

シタルモ何レモ入用高ヲ約定スルハ差支ナキモ値段迄約定スルコトハ出来難シトテ望ヲ達スル能ハサリシ今日桑港ニ於ケル硫黄商人ハ三四軒ナリ

◎**平田** <sup>〔14〕</sup> 富士山商会ニ交渉シテ採掘高ヲ減セシムルトカ又ハ硫黄山ノ持主ヲ連合セシムルトカ云フ如キコトハ到底実行出来サルヘシ

◎**益田** 福井氏ニ希望スル所ハ内地ニ於ケル六千屯ノ需用ハ何ナルヤヲ取調フルノ点ナリ蓋シ硫酸ヲ製造スルニハ近頃硫化鉄ヲ用ユルコト、ナリ居ルモ三万屯以上ノ硫黄採掘セラル、トセハ現今ノ相場ハ下落シテ三十五円カ二十五円迄モ下ルヘキヤモ難計然ル場合ニハ硫黄ヲ硫酸ノ製造用ニ供スルニ至ルヘキヤモ知ルヘカラス故ニ硫黄カ何程下落スレハ硫化鉄トノ競争ニ耐ユルヤヲ取調ヘ置キタシ又桑港ニ於テ何程先約定ヲ為スコトヲ得ルヤ

## 【五回 19 b】

◎**小田柿** 前二述ヘタル如ク値段ノ点約定シ得ス

◎**益田** ジョーレスモ約定セサルヤ

◎**福井** 一荷カニ荷位ナレハ約定シ得ルナラン

◎**益田** 然ラハ一荷ニテモ二荷ニテモ出来丈約定スヘシジョーレスニ手数料ヲ支払フモ差支ナシ

又「モヨロ」硫黄ノ精鍊方ハ十分探偵スヘシ分止リ大抵五分位ノモノナラム若シ蒸汽精鍊トセハ四分止リ位ナルヘク即チ二万石ノ土硫黄カ八千石トナルヘシ

◎**平田** 富多山商会ニ於テハ大ニ其採掘事業ノ拡張ヲ計ル為

メ外人ヨリ資本金二十万円ヲ借入レタル趣キナリ若シ当社ニテ売先ヲ塞ケハ大ニ困却スル事ナラム

◎**小田柿** 富多山商会ヘ多分米国贸易商会カ尻押ヲ為シ居ルナラム

## 【五回 20 a】

◎**福井** フレザーノ親類ナル同姓ノ者ヲ技師トシテ使用スルノミニテ別段外人トノ關係ハナカルヘシ

◎**小田柿** 桑港ニ於ケル硫黄商売ノ勁敵ハ米国贸易商会トパーロットノ二ノミ

◎**平田** 満俺ハ何ニ使用スルヤ

◎**益田** 鋼鉄ヲ製スルニ用ユ

◎**平田** 我国ニ於ケル満俺ノ産出ハ五万屯以上ナリトノコトナルカ輸出出来サルヤ

◎**益田** カスピアン海ノ近傍ニ露西亜ニ属スル一大満俺ノ産出地アリ故ニ到底日本ヨリ輸出セントスルモ引合ハサルヘシ

◎**小田柿** 亜米利加ノ塩鮭ハ見込ナキヤ

◎**遠藤** 東京ニテ取扱ヒタキモノナリ

◎**益田** 夫ハ深川ノ關係ナル故深川ト引合ヲ為スヘシ

◎**大野** 値段ハ引合フモ積船何時モ都合付カス商売成立ニ至ラサルコト多シ

此点工夫ヲ要ス

【五回 20 b】

◎平田 硫黄ノ商売ヲ拡張スル為メニハ買持ノ認許ヲ得タシ

◎益田 今年ハ買方ニ困難ヲ見サルヘキ見込ナレハ買持ハ許可致シ難シ

尚人ノ登用方其他何事ニテモ意見アレハ申立ツヘシ

◎福井 同一ノ商売ニ従事スル各店ノ者ハ時ヲ定メテ会合シ商売上ノ打合ヲ為スコトニ致シタシ左スレハ大ニ利益アルノミナラス同シ棉ナラ棉ノ仕事ニ付名古屋ノ人カ東京ヘ来リテ相談シ更ニ又大阪ヘモ赴キテ相談スルト云フカ如キ不便ナシ

◎長谷川 別段共通計算規定ノ内ニ明記スルノ要ナカルヘキモ棉花豆粕ト云フカ如キ共通計算ニ依リ取扱フ仕事ノ如キモノニ付テハ其部ノノ掛員カ一定ノ時期ニ会合シ諸般ノ打合ヲ為スコトハ商売ヲ円滑ニ進行セシムル上ニ於テ大ニ有益ナルヘシ

【五回 21 a】

◎益田 是ハ至極有益ナルヘシ

◎福井 吳氏ヨリ話アリタル如ク勘定掛并受渡ニ従事スル者ハ船員ト同シ取扱ヲ別ニシテハ如何

◎益田 之二対スル意見ヲ述ヘラルヘシ但採否ハ別論ナリ

◎福井 勘定掛ノ助手并受渡ニ従事スル者ハ特別ノ技能アルモノト同シク特別ノ地位ヲ与ヘ他ヘ転セサルモ安心シテ其業ニ従事シ得ヘク又給料モ他ノ割合ヨリハ多く与フルコト、セハ其事務ニ従事スル者モ大ニ励ミヲ起シ好都合ナルヘシト考フ

◎益田 幾分敷ノ手当ニテモ別ニ支給スルコト、為スヘキ敷

◎吳 同シ待遇方ナレハ勘定方ノ如キ趣味ナキ仕事ヨリハ他ノ仕事ニ転センコトヲ望ムヘシ故ニ特別手当ノ如キモノヲ支給シタシ勘定ノ仕事ハ中ニ隠レタル所ニ氣ヲ多く遣フモノナリ

【五回 21 b】

◎長谷川 之二伴フ害ハ勘定掛ハ他ノ商売ノ方ニ応用シ得サルコト、ナルヘシ

◎益田 何カ名案ナキヤ

◎福井 特別手当ヲ与フルノ方法カ最モ宜シカルヘシ

◎吳 特別手当ヲ多く与フルニ非サレハ壮年血氣ノ若者ハ矢張他掛ニ転スルコトヲ望ムナラン

◎遠藤 勘定掛ハ主任ノミニ手当ヲ与フルカ

◎益田 若シ仮ニ手当ヲ与フルコト、セハ主任ノミニ限ラス助手ニテモ与ヘサルヘカラス

◎北村 新タニ入社スル者ハ事務ニ慣レサル為メ役立タス依

テ一度之ヲ勘定掛ニ入レ見習ヲ為サシメ其内ニ得意ノ名前  
勘定書ノ認メ方等ヲ覚ヘシメ漸次他ノ掛ヘ回ハスコト、為  
ス方可ナラム

◎益田 今日ノ如ク人手ノ不足ナル場合ニハ其通り実行出来  
サルモ追々人手裕

【五回 22 a】

ニナレハ左様ノ方法ト為ス事便宜ナラム嘗テ一ケ年ハ勘定  
掛次ハ船舶次ハ受渡其次ハ売買方ニ用ユルコト、スレハ可  
ナラムトノ説モアリタルカ今日迄未タ実行スル能ハサリシ  
支那人ノ商店等ニ於テハ此種ノコトハ中々整頓シ居レリ

◎北村 勘定ト「シツピング」ノ事ハ何人ノ頭ニモ入レ置ク  
コト必要ナレハ新規入社ノ人ニハ必ス之ヲ遣ラシムルコ  
ト、シタシ

◎南 余ハ商業教育ヲ受ケサル学校ヨリ入社シタル者ハ初ヨ  
リ勘定掛ニ使用スルハ不可ナレハ参事トカ調査ノ如キ処ニ  
勤務セシメ一日中ニ一時間又ハ二時間宛会社ノ勘定法ヲ教  
ユルコト、スル方可ナラント信ス

◎益田 要スルニ勘定ノ事ハ何人ニモ心得サセサルヘカラス  
トノ点ニ付テハ異論ナキモノト認ム  
次ニシツピング并受渡ノ方ハ如何

◎北村 シツピング并受渡ノ事モ必要ナリ

◎平田 勘定ハ一ケ年位ヲ経レハ大抵分ルヘクシツピングハ  
半ケ年位ニテ可ナルヘシ

◎南 別ニ勘定又ハシツピング等ノ専門家ト為スノ要ナキ故  
一通り分レハ十分ナリ

◎呉 引続キ勘定掛ニ使用スヘキ人ハ中学卒業位ノ人ヲ募集  
シ特ニ会計学校ノ如キモノヲ会社内ニ設ケ勘定ノコトヲ教  
育シ以テ適任者ノ養成ヲ計ルコト、シテハ如何

◎南 是迄ハ単ニ俸給ノ高下ニ依テ使用人ノ地位ヲ區別シタ  
リシモ是ハ矢張従前ノ通り等級制ヲモ採用シ或ル人ハ俸給  
ノミヲ上ケ又或ル人ハ俸給ハ上ケサルモ等級ノミヲ上ケ又  
或ル人ハ等級俸給両ナカラ之ヲ昇スト云フカ如キ方法トシ  
以テ元老ヲ優遇スルノ途ヲ開キテハ如何

◎上田 海外店勤務者ニハ在勤俸ト本邦給ノ別アリ或ル者ハ  
本邦給上ラサルモ

【五回 22 b】

【五回 23 a】

在勤俸上リタリトテ喜ビ又或ル者ハ在勤俸上ラサルモ本邦  
給上リタリトテ悦フ等人ニ依リ異ナリ而シテ此等ノ方法ハ  
何レモ多少本人ノ満足ヲ買フニ於テ効能アルモノナレハ可

成其満足ヲ買フ方法ヲ多クシ置ク方便宜ナラントノ説モ出ツルナルヘシ

◎益田 等級ヲ設クルコトハ何カ故ニ必要ナリヤ

◎南 地位ニ依リテハ俸給少ナキモ其資格ヲ高メ他ノ俸給多キ人ト同等ニセサルヘカラサル要アルヘシ即チ其資格ノ高キコトヲ表彰スルノ方法トシテ等級制ヲ執ルノ要アリ

◎益田 外国ニ於テハ給料ハ之ヲ秘密ニ付セルノミナラス等級ノ制ナシ即チ何人モ同一ノ「ゼントルマン」ナリ初メテ入社セル人モ薄給者モ實際上ニ於テ区別ナシ

◎南 實際上ニ等級ヲ設クルノ要ナキモ事務上人ノ資格ヲ区別スルノ要アルヘシ

【五回 23 b】

◎益田 事務上ニ於テハ区別アリ即チ支店長課長主任等ノ区別アリ之ニテ十分ナルヘシ

◎臼井 余ハ南氏ノ等級説ニ賛成ス

◎浅野 余モ賛成ナリ先年常務理事ノ神戸へ来ラレタルトキ其説ヲ述ヘタリ即チ人ヲ奨励スルニハ手当ヲ増スモ月給ヲ増スモ位ヲ上ケルモ均シク其一方法タルヘク今日ノ如ク只月給ノミヲ目途トセシムルハ不可ナリ

◎小田柿 余ハ全然反対ナリ今日ノ俣ニテ更ニ差支ヲ見ス

◎益田 当社ニ於テモ支配人番頭手代等ノ区別ヲ設ケタレハ

多少社会ハ階級制ヲ認ムルノ傾向アルヘシ併シ此事ハ一般三井各商店ニ亘ルコトナレハ当社ノミニテ決スヘカラス

◎浅野 此点ニ付テハ日本人ノ考ハ未タ西洋人同様ニ進歩シ居ラス故ニ矢張階級制ヲモ採用スル方可ナリ

◎長谷川 月給ノ事ニ付帶シテ一言スルカ色々御都合モアルコトナランカ是迄本店

【五回 24 a】

各掛主任者ニハ手当アルモ各店主任者ニハ手当ナシハ不公平ナリ若シ本店各掛主任者ハ立派ノ人ニシテ各店ノ主任者ハ立派ノ人ニ非ストセハ別論ナルモ今日ノ所右様ニモ見受ケサレハ此区別ヲ廢シ本店主任者ノ手当ヲ止メテ之ヲ月給中ニ埋込ミテハ如何ハ参考迄ニ一言ス

◎寺島 此事ハ各店主任者中ヨリ不平等ツル基トナルヘシト考フ

◎臼井 大ニ不平者アルモノ、如シ

◎益田 手当ヲ与ヘサル代リニ八月給ノ点ニ斟酌ヲ加ヘアル故結局同一ナルモ兎ニ角ハ意見ノ趣ハ承リ置クヘシ

◎吳 一昨日南氏ヨリ意見ヲ述ヘラレタルカ如ク日給者ノ採用上除外例ヲ設クルコトニ致シタシ日給者ハ左程名譽ノ称ニモアラス旁現行規則ノ如ク嚴格ナル試験ヲ為サ、ルモ人物確實ニシテ相当ニ役立ツ以上ハ支

【五回 24 b】

店長ノ申立ニ依リ無試験日給者ニ採用スルコト、致サレタシ但支店長ヨリ推薦スルニハ入社後一ケ年ヲ経過セルコトヲ要スト為スモ可ナラン又更ニ月給者トナルニハ勿論試験ヲ經由スヘキモノトシテ可ナリ

◎上田 此事ハ従来度々各支店長ヨリ申立アリタルモ世ノ中ノ進ミタル今日会社へ使フ人ハ普通教育ナカルヘカラストノ趣旨ヨリ試験規則ヲ設ケタル次第ナレハ先ツ当分ハ規則通り実行スルコト、致シタシ

◎長谷川 支店長会議ハ各地ノ模様ヲ聞キ平生ノ考モ述ヘ色々ノ打合ヲモ為シ得テ極メテ有益ノモノナレハ毎年決算後一月ト七月ニ兩度ニ開クト云フカ如ク必ス時期ヲ定メテ開カル、コト、シ只開會期日前予シメメ之ヲ通知シ支店長ニ於テ何レモ会議ノ材料ヲ取揃へ出京シ得ル様ニセハ都合宜シカラム

◎上田 本店ニ於テモ大抵一年一度ハ開キタシトノ考ヲ有シ居リ七月頃ハ丁度各店共間隙ノ時期ナレハ其頃集マルコト、シ倫敦ト孟買トハ距離遠ク

往復ニモ日数ヲ要スルニ依リ前者ハ三ケ年ニ一度後者ハ二

【五回 25 a】

年ニ一度位出京スルコト、致セハ可ナラントノ希望ヲ有シ

居リ別シテ石炭會議ハ例年開會シ来リタル故昨年モ之ヲ開カントノ考ナリシ処海外ノ商売ノ都合若クハ其店ノ都合等ヨリ支障ノ者多ク遂ニ開會スルコトヲ得サリシ其為メ輸出米ハ輪出来、鐵道、器械ハ鐵道、器械、棉花ハ棉花ト云フカ如ク唯各商品ニ付關係店ノミニ三人會合シテ打合ヲ為シタルニ止リタリ併シ長谷川氏ノ言ノ如ク毎年時ヲ定メテ會合スルコトハ極メテ有益ノ事ト信ス

◎長谷川 毎年二回位ツ、全体ノ支店長ヲ集メテ會議ヲ開クコト、シ而シテ一月ノ會ニ差支アルトキハ次ノ七月ノ會ニ出席スルト云フカ如ク差支ノナキ者丈ニテモ參會スルコトハ是非実行致シタシ

◎上田 可成右様致度希望ナリ

◎吳 諮問事項ハ可成前以テ通牒ヲ得タシ突然ノ諮問ニテハ十分ノ材料

【五回 25 b】

モ集マラス從テ有益ナル意見ヲ述フル能ハス

◎南 輸出商売擴張之事ハ当社ノ大方針ニ決シタルカ尚ホ此外ニ外国品ヲ外国ニ販売スルコトモ当社ノ大方針ニ二加ヘ貫ヒタシ例へハ西貢米ヲ廣東地方へ販売スルカ如キ又廈門汕頭ノ移住民ヲ船舶ニ乗船セシムルコトノ如キ外国ニテノ

商売モ大ニ経営ヲ要スヘキモノト信ス

◎福井 事ニハ緩急アルヲ以テ先ツ第一着ニ輸出商売ニ専心  
従事シ尚餘力アレハ之ヲ他ノ方面ヘ向クルコト、致シタシ

◎呉 火災保険ノ成績ハ如何

◎長谷川 今日迄ノ積立金四万五千六百円余ナリ（長谷川氏  
火災保険課考課状ノ要点ヲ朗読シタルモ繁ヲ避ケテ之ヲ省  
ク）

◎益田 各店ヨリ調査課ヘ差出ス表ノ数ハ別段改正ヲ要セサ  
ルヤ

◎伊沢 可成綿密ノ表ヲ得度モ去リトテ餘リ表ノ出スヘキモ  
ノ多クナルトキハ各店

【五回 26 a】

ニ於テ迷惑可致ニ依リ先以現在ノ假ニテ差支ナシ

◎臼井 唯表ヲ差出スヘキ時期ニハ必ス差出スコトニ致シタ  
シ

◎益田 規則命令カ行ハレツ、アルヤ又貸金ハ何程出テ居ル  
ヤ等ノ事ハ常ニ分リ居ルヤ

◎伊沢 大抵分リ居レリ

◎益田 人ノ増給并黜陟等ハ本店ニ於テ一々之ヲ知ルコト能  
ハサルヲ以テ支店長ヘ照会スルトキニ支店長ノ手加減ニ依  
リ区々ノ回答アリ即チ十分ノ申立ヲ為ス人アレハ極メテ遠

慮ノ人モアリ其結果充分ニ注意ヲ為ス積リナルモ尚不釣合

ヲ来スコトナシトセス就テハ此弊ヲ避クル為メ平生諸員ノ  
勤務振ヲ本店ヘ報告シ置クコト、シテハ如何

◎福井 外務省ニ於テハ詮衡委員ナルモノアリテ各方ヨリノ  
報告ヲ集メ大臣ノ参照ニ供スルコト、ナリ居ル趣キナリ

◎南 毎月支店長カ各員ノ勤務振ニ対シ評言ヲ加ヘテ本店ヘ  
報告スルコト、

【五回 26 b】

セハ可ナラム

◎益田 三井銀行ニテハ如何ニ為シツ、アリヤ

◎伊沢 月々ニ差出スハ出勤日数ノ報告ノミナルモ季末人々  
ノ勤務振ニ関スル詳細ノ件ヲ報告シ且昇給ノ見込願ヲ申立  
ツルノ例ナリ

◎益田 之ヲ調フルニハ如何ニスルヤ

◎伊沢 秘書係ニ於テ取調ヘ申立不相当ノモノアリト認ムレ  
ハ之ヲ加筆ス

◎寺島 現在ノ有様ニテハ他店諸員ノ給料分ラサル為メ大ニ  
不便アリ即チ名古屋ニ居リタル者他店ヘ赴キ再ヒ名古屋ヘ  
帰来スル場合二月給料外ニ上リ居リ引続キ名古屋ニ勤務ス  
ル者ト不釣合トナリ若クハ又他所ヘ転シ居リタルカ為メ更  
ニ給料上ラサル等ノコトアリ之レ畢竟他店ノ給料更ニ分ラ

サルノ弊ニ根底スルモノナレハ自今他店ノ給料モ分り得ル様ニ致シ貰ヒタシ

◎長谷川 勤惰表提出ノ際甲乙丙等ノ等級ヲ付シ人事成績ヲ報告スルコトトシテハ如何

【五回 27 a】

◎寺島 階級ヲ五段位ニ分チ符号ヲ以テ之ヲ表示シ毎月勤惰表ヲ提出スル際之ヲ報告シ期末其報告ヲ湊合シテ黜陟ヲ行フコトト為セハ可ナラム

◎北村 横浜ノ如キハ非常ニ多忙ノ時ト閑暇ノ時トアリ閑暇ノ時ハ評ノ付ケ方ナキコト、ナル

◎益田 兎毛角モ毎月一回勤惰表ニ支店長自カラ評言ヲ付シ庶務課へ提出スルコト、シテハ如何

◎呉 文句ヲ一定セラレタシ

◎益田 増給等ノ見込ハ豫シメ之ヲ本店ニ差出シ而シテ其申立ヲ各店互ニ交換シテ可成不釣合ヲ避クルコト、セハ可ナラン歟

◎福井 政府ニ於テ実行シツ、アル如ク一度ニ上ケルヘキ額ヲ一定シ置クコトニシテハ如何

◎益田 毎月勤惰表提出ノ際三四等ノ階級ヲ付シテ報告シ置キ本店ハ之ヲ湊合シテ季末支店長ノ増給申立ト対照シ平日勤務振優

【五回 27 b】

等ナルモノニシテ季末増給ノ申立少ナケレハ其理由ヲ談合シ又平素勤務方良好ナラサルニ比較的増給申立多キトキハ是亦談合ヲ試ムル等其取調ヲ完全ニシ且各店ノ申立ヲ互ニ通知シテ不釣合ヲ防クコト、シ最後ノ申立ニ依リテ初メテ之ヲ決定スルコト、セハ不都合ナカルヘシ

◎呉 次ニ小供ヲ使用スルノ利害如何アルヘキヤ夫レハ会社ニ於テ小供ヲ使用スルノ利害ヨリモ寧ロ小供其者ニ取リテノ利害論トナル

◎北村 小供ノ内ヨリ勤メ年所ヲ経テ仕事熟達セル上ハ無試験ニテ月給者ニ採用致シタシ此種ノモノハ實際ハ役立ツモ試験ヲ為ス時ハ及第覚束ナシ故ニ商売上ニ特殊ノ技能アルモノト見做シ登用セラレテハ如何

◎益田 月給者トシテハ用ユヘキ人ハ特別ノ技能アルモノハ別トシ可相成学力アル人ニ致シタシ

【五回 28 a】

◎北村 小供ニハ余暇ヲ以テ勉強方ヲ勸メツ、アルモ早朝ヨリ船舶入港シ夜ニ入ル迄勤務ノ上関係店ヘハ其取扱ノ結果ヲ報告セサルヘカラサルカ如キ有様ナレハ勉強スヘシトノコトハ夜分眠ラスニ学問ニ励ムヘシテフ結果トナリ到底不

能ナリ

◎福井 今日ノ試験規則ノ下ニ於テハ小供ヨリ月給者ニ上ルコトハ殆ント不能ナリ故ニ小供ハ之ヲ全廃スル方可ナリ

◎益田 使用人タルニハ必ス相当ノ学力アル者ナラサルヘカラス故ニ如何ナル論アリトモ学力ナキ者ヲ登用スルコトハ断シテ不可ナリ

◎呉 月給者試験ハ六カシクスルモ日給者試験ハ之ヲ易クシテ可也

◎益田 当社ノ使用人タルニハ少クトモ尋常中学位ハ卒業シ居ラサルヘカラス

◎南 今日ノ試験ニテハ尋常中学卒業ノモノニテモ六ツカシカラム

◎長谷川 試験問題餘リニ六ツカシキ様ナリ

【五回 28b】

◎益田 試験問題ハ至難ニ失セサル様手心スレハ可ナリ

又小供ニ重要ナル電信等ヲ取扱ハシムルハ不可ナリ

◎上田 外国等ニ於テハ重要ナル書状ハ支配人自カラ之ヲ「コッピ」シ居レリ

◎長谷川 英国ニハ「コンマーシャル、スクール」ナシ故ニ普通学校ヲ終ユルトキハ直ニ商家ニ入りテ実務ニ従事スルヲ常トス

◎益田

自今小供ハ可成使用セサルコト、スヘシ  
(第五回了り)

表 10 明治三十三年度全国出炭予算表

産出地	出炭高	塊炭		塊以外ノ 石炭
		割合	屯数	
三池	739,500 <sup>T</sup>	45%	332,279*	407,223
筑豊	3,600,000	65	2,340,000	1,260,000
杵島郡	300,000	65	195,000	105,000
唐津	314,000	〃	204,100	109,900
佐賀県	70,000	〃	45,500	24,500
高島端島	150,000	60	90,000	60,000
長崎県	300,000	〃	180,000	120,000
北海道	600,000	65	390,000	210,000
磐城	350,000	75	262,500	87,500
元山	250,000	55	137,500	112,500
天草	25,000	15	3,750	21,250
紀伊	55,000	50	27,500	27,500
其他	200,000	〃	100,000	100,000
合計	6,953,500		4,308,127	2,645,373

〔\*翻刻注：332,277の誤記と推測される。〕

第六回 一月二十三日

【六回 1 a】

◎益田 本日ハ石炭ノ事ヲ議スベシ先ツ最初ニ石炭ノ需給ニ  
関スル数字ヲ示スコト、スベシ

◎福原 三十三年度ニ於ケル日本全国出炭予算表并当社ニ於  
テ取扱フヘキ石炭ノ数量調及其内既ニ売却シタルモノト向  
後売却ヲ要スルモノトノ區別ヲ示セハ如左

表 11 明治三十三年中門司支店取扱石炭一覧表

15/1/33 調

炭種	採掘高	売約済	差引残
大ノ浦 三尺塊	75,600吨	46,000吨	× 29,600吨
〃 三尺切込	50,400	50,400	—
〃 三尺粉	32,400	6,700	25,700
満ノ浦 三尺塊	17,280	—	17,280
〃 三尺粉	11,520	2,000	9,520
〃 五尺切込	21,600	21,600	—
大ノ浦 五尺塊	12,960	—	12,960
〃 五尺粉	8,640	600	8,040
〃 五尺切込	50,400	50,400	—
大辻 塊	126,000	8,300	117,700
〃 粉	54,000	2,900	51,100
芳雄 塊	30,240	18,000	12,240
〃 切込	21,600	21,600	—
〃 粉	20,160	230	× 19,930
山野 塊	52,800	2,000	50,800
〃 粉	43,200	7,800	35,400
金田 塊	60,000	42,900	× 17,100
〃 中塊	20,000	15,900	× 4,500 <sup>*1</sup>
〃 粉	20,000	1,500	× 18,500
豊岡 塊	72,000	26,000	46,000
仲津原 塊	18,000	340	17,660
〃 粉	18,000	—	18,000
峰地 塊	48,000	6,000	42,000
〃 粉	30,000	—	30,000
岩下 塊	28,800	21,300	7,500
〃 粉	14,400	—	14,400 <sup>*2</sup>
×印売却済ト全段	958,000	352,470	605,530
満ノ浦及豊岡等出炭増加ノ見込		89,230	
二付三十三年中一百万吨ハ榷ナル見込		441,700	516,300

〔翻刻注 \*1 : 4,100の誤記と思われる。\*2 : 原資料では末尾の0が消えている。〕

表 12 明治三十三年度杵島郡石炭取扱一覽

炭種	取扱高	売約済	差引残
杵島 塊炭	56,000 屯	20,500 屯	35,500 屯
〃 粉炭	24,000		24,000
市村 塊炭	45,500	5,000	40,500
〃 粉炭	19,500		19,500
福母 塊炭	49,000		49,000
〃 粉炭	21,000		21,000
	215,000	25,500	189,500

【六回  
3  
a】

表 13 明治三十三年度唐津炭取扱一覽

炭種	取扱高	売約済	差引残
芳谷 一等塊	48,000	20,900	27,100
〃 二等塊	16,000		16,000
〃 粉炭	16,000		16,000
鹿子岩 塊炭	9,750		9,750
〃 粉炭	5,250		5,250
	95,000	20,900	74,100

【六回  
3  
b】

表 14 三池石炭出炭及供給一覽

炭種	三十三年中		三十二年末 残炭	合計出来高	三十三年末 残炭	三十三年中	
	出炭額	割合				供給高	山焚料
塊炭	331,306	448	52,849	384,155	14,155	370,000	—
小塊	73,500	099	11,109	84,609	4,609	80,000	—
切込	8,250	011	5,208	13,458	900	7,558	5,000
粉炭	242,444	328	57,121	299,565	9,565	255,000	35,000
錆塊炭	47,190	064	42,508	89,698	9,698	80,000	—
錆切込	—	—	128	128	128	—	—
錆粉	34,560	047	59,118	93,678	3,678	30,000	60,000
悪炭	2,250	003	—	2,250	250	2,000	—
合計	739,500	100	228,041	967,541	42,983	824,558	100,000

明治三十三年一月廿二日調

【六回  
4  
a】

表 15 出炭及売約差引一覧

炭種	出炭額	売約高	差引未売炭	三十二年約定渡残
塊炭	370,000	225,300	144,700	43,259.55
小塊	80,000	15,000	65,000	—
切込	7,558	—	7,558	4,496.86
粉炭	255,000	179,100	75,900	13,079.40
錆塊炭	80,000	—	80,000	2,144
錆切込	—	—	—	—
錆粉	30,000	12,400	17,600	〃
悪炭	2,000	—	2,000	〃
	824,558	431,800	392,758	62,979.81

〔原表注（縦書き）〕

表中ノ売約高ハ確定分ニテ目下引合中ノ分左ノ通り

塊炭 四万噸

小塊 貳万四千噸

錆粉 壹万〇二百噸

粉炭ハ三池地壳及コークス原料ニ悉皆引当

(但海外小口引合口モ含ム)

【六  
回  
4  
b】

表 16

炭種	供給高	売約高	可売却分
筑豊	958,000	352,470	605,530
杵島	215,000	25,500	189,500
三池	739,500	495,000	244,500
唐津	95,000	20,900	74,100
	2,000,500*	893,870	1,113,630

〔翻刻注 \*2,007,500 の誤記と思われる。〕

前表ニ基キ本年度各種石炭取扱高ヲ合計スルトキハ如左

【六  
回  
5  
a】

右ノ如ク向後売却ヲ要スル石炭ハ実ニ二百十一万三千六百三十屯ノ巨額ニシテ昨年度ノ持越炭ヲ計上スレハ尚一層ノ増加ヲ来スヘク且此他ニ東京石炭掛ノ取扱ニ係ル磐城炭モ十万吨以上ニ達スベシ

◎益田 之ヲ要スルニ我社ニ於ケル石炭商売ハ大ニ拡張シ一ヶ年ニ

【六回 5b】

式百万屯ノ石炭ヲ売捌カサルヘカラサル次第ナレハ各販売店ニ於テハ十分ニ力ヲ尽シ各坑主ヲシテ満足ノ結果ヲ得セシメンコトヲ努メサルベカラズ尚売方等ノ点ニ付意見アレハ述ヘラレタシ

◎寺島 名古屋ニ於テハ和船ヲ以テ石炭ヲ積来ルニ依リ時トシテ欠乏ヲ来シ値段又大ニ騰貴スルコトアリ故ニ不絶現品ヲ貯蔵シ置キ石炭ノ欠乏シタルトキ之ヲ売込ムコトニ致シタシ又名古屋ニテハ運搬不便ノ為メ自由ニ何程ノ石炭ニテモ手ニ入ル、訳ニハ參ラサルヲ以テ船便アリ次第若松又ハ門司等ヨリ各種ノ石炭ヲ積取り来リ之ヲ調査シ一号二号三号等ニ區別シ上等炭ノ注文アレハ一号ヲ渡シ次品ノ注文アレハ式号ヲ渡スト云フカ如キ方法ト為ストキハ大ニ便利ナリト考ヘ先般石炭掛主任者ヲ若松ニ出張セシメタル際打合ヲ為サシメ置キタルモ其後船便ノ都合悪シク未タ実施ノ運

ニ至ラズ

併シ此方法ハ是非之ヲ実行シ不絶得意先ノ注文ニ応シ得ル様致シ置キタシ

【六回 6a】

◎益田 此事ハ丁度別問題トシテ諸君ノ御意見ヲ聞キタシト思ヒ居リタル処ナルカ恰モ横浜ニテ各種ノ茶ヲ混合シテ其品位ヲ定ムルカ如ク(茶ノ如ク細カニ區別シ能ハサルヘキモ)三池ヲ式割若シ三池ナケレハ油氣ノ強キ杵島炭ヲ二割ニ大ノ浦ヲ何割某石炭ヲ何割ト云フカ如ク適宜ニ調査シ三井ノ一等炭二等炭三等炭ト云フカ如ク其品種ヲ區別シテ販売シ而シテ売上濟ノ上ハ各委託坑主ニ対シ良キ炭ハ高ク悪キ炭ハ安く仕切ヲ出スコト、シテハ如何即チ従来ハ各工場ニ於テ各種ノ石炭ヲ混合シテ焚キタルモ向後ハ我社ニ於テ焚キ加減ノ宜シキ様混合シテ売渡スコト、シテハ如何

◎寺島 名古屋ニ於テハ是迄商人ニ於テ良キ炭ニ悪キ炭ノ混合ヲ

【六回 6b】

為シタル為メ混合炭ハ信用ナク当社ノ炭ハ混合之ナキ点ニ於テ大ニ信用ヲ博シ居リタリ依テ仮リニ当社カ混合ヲ為ストスレハ世俗ト一般ニ見做サルルノ恐ナキヤト考ヘ一応取

調タル処当社カ混合スルトセハ毫モ信用ニ影響ナキコトヲ確メ得タリ尤モ調査ハ若松ニ於テセス名古屋ニ於テスル方便宜ナルベシ何トナレハ名古屋ニ於テハ或ハ白水炭ヲ混合シ或ハ三池粉ヲ精ヲ混合スルヲ可ナリトスル場合アレハナリ而シテ此混合方ノ事ハ前二モ述ヘタル如ク是迄便船ナカリシ為メ実行ノ場合ニ立至ラサリシモ向後便船ノ都合付キ次第実行ノ考ナリ現今ハ石炭ノ在荷殆ント皆無ニテ只僅カ二三池精粉五十万斤余之アル而已ナリ

◎藤田 東京ニテハ専務理事ノ御申聞ニ基キ調査ノ事ヲ決行セント欲シタルニ杵島郡ノ石炭ヲ積取ル積ニ為シ置キタル船カ事

【六回 7a】

情アリテ予定ノ通り運ハサリシ為メ彼此延引シ居リタルモ昨今ノ漸ク積取りノ都合トナリタルヲ以テ或ハ白水又ハ唐津等ト配合シ売試ムルノ計画ナリ唯東京ニ於テ困難ヲ感スルハ従来小石炭商カ不良石炭ヲ混合シ上等石炭ノ名義ヲ以テ売却スルノ悪弊アリシヲ以テ可成三池粉炭壹万斤二付何程白水石炭壹万斤二付何程ト云フカ如ク各種石炭二付、格別ニ積リ書ヲ差出シ且現品モ区別シテ持込ミ自分ノ方ニテ勝手ニ混スルコトニ致シタシト云フノ点ニアリ併シ折角勸誘シテ我社ノ混合シタル石炭ヲ焚キ試ミシムルコトニ工夫

申也

◎益田 石炭掛其人ハ甲ノ炭ハ火力之足リ乙ノ炭ハ火力時々ナリ甲ト乙トヲ混合スレハ火力斯々ナリト云フカ如ク十分石炭ノ火力ト其功用トヲ知悉シ置キ之ヲ混合シ徳用向ノ炭ヲ送り出シ之ヲ得意ヘ売込ムコト、セサルベカラズ

【六回 7b】

◎福井 東京ニ於テハ磐城炭ノ需用益々増加シ九州炭ハ漸次減少ノ傾アリ旁以テ東京ノ如キニアリテハ調査ノ必要ヲ減スルニ依リ磐城炭ヲ土台トシテ之ニ如何ナル石炭ヲ混合スルコトカ最モ利方ナルヘキヤヲ講究シ三井何等炭ノ名義ニテ売出スヲ得策ナリト考フ

◎長谷川 鉄道ハ如何

◎福井 鉄道ノ方モ試ミタシ尤モ鉄道ニ於テハ一等炭二等炭等ノ名称ヲ用ヒ鉄道自ラ其炭ノ名前ヲ指定セルヲ以テ当方ニテ混合シタル石炭ノ試験ヲ乞フノ運ニ迄立至ラサリシモ試験ヲ願出ツレハ勿論試験シ呉ル、ナルヘク一応試ムル考ナリ

◎水谷 若松ニテハ送荷ニ流用スヘキ石炭ニ乏シカラサルモ船カ払底ナル為メ其目的ヲ果タス能ハス現ニ名古屋若クハ神戸ニテ売約済ノ

## 【六回 8 a】

モノモ積出方ニ困難セル位ナリ從テ別ニ送り荷ヲ為スニ付テハ先以テ船ノ心配ヨリセサルベカラズ

◎益田 貳百万屯以上ノ石炭ヲ売却セサルヘカラサルニ販売地ニ備荷ノナキカ如キ事ニ為シ置クハ不都合ナリ

◎水谷 炭ノ余裕ハアルモ船舶ナキ為メ致方ナシ

◎益田 十分船ノ工夫ヲ為サザルヘカラズ

◎水谷 汽船ハ用ヒ得ス和船ヲ用ユルノ外ナキニ名古屋行ノ和船ハ殆ント之ナシ

◎寺島 野田商船会社ハ六十萬斤積ノ和船五六艘ヲ所有シ居レルカ内三艘ヲ不絶当社ニテ使用スルコトニ約束セリ如此種類ノ船ヲ多ク約定シ置クトキハ運炭上大ニ便宜ナルノミナラス自然備荷ノ欠乏ヲ来スコトナク得意先ノ需用ヲ充タスコトヲ得ヘシ乍去和船

## 【六回 8 b】

ハ運搬二日子ヲ要スルノミナラズ天候險惡ノ場合ニハ全ク航海ヲ見合ハス外ナキヲ以テ到底引当ト為スヲ得ス從テ紡績会社ハ翌月入用ナル石炭ヲ今月注文スルカ如キ場合ニアリテハ少々割合ノ高キモ和船積ヨリ汽船積ヲ望ムナルヘク從テ今后ノ形勢ハ漸ク汽船積ニ傾クナルヘシ故ニ我社ニ於テモ此際千屯内外ヲ積載スル吃水極メテ浅キ汽船ヲ造リ運

炭用ニ供スルトセハ大ニ便宜ヲ得ヘシト考フ

◎益田 既ニ貳百万屯以上ノ石炭ヲ引受ケ居リ且明年度トモナレハ此上五十萬屯位ニ増加スヘキヤ計ラサルヲ以テ運炭上ニ就テハ必スヤ非常手段ヲ尽サ、ルヘカラス単ニ船舶ノ不足ニ困難スルトノミ異口同音ニ主唱シ居リタリトテ更ニ其効能ヲ見ス

◎水谷 名古屋行和船ノ事ヲ取調ヘタルニ近年通信省ノ規則厳格トナリ船長トナルコトカ非常ニ面倒トナリタル結果安運賃ニテハ到底

## 【六回 9 a】

引合ハス其為メ和船ノ払底ヲ来シタリ故ニ知多志摩辺へ資金ヲ貸シテ帆船ヲ新造セシメテハ如何

◎寺島 信用スヘキモノ少ク危險ナルモノ多カルベシ

◎益田 右ハ内地ヲ航海スル船ニテ奨励金ヲ得ルコト出来サルニヨリ古船ニテモ十分ナリ畢竟安ク動カシ得ル船ナレハ可ナリ

◎水谷 若松ノ築港出来上ラサレハ汽船積ハ望ナシ三菱ノ如キモ七百屯ノ船ヲ製造シタルモ若松ニ使用シ得サルカ為メ之ヲ門司長崎間ノ航海ニ使用セリ

◎益田 当社ノミナラズ他人モ亦然リ自カラ若松通ヒノ和船ノ運賃ヲ高価ナラシムヘク又仮令少シ高値ナルモ雇入ヲ為

サ、ルヘカラサルベシ從テ假令少シク大形ノボロ船ニテモ  
門司ト大阪東京若クハ名古屋間ニ使用スベキ船舶ヲ所有ス  
ルノ要ナキ歟

【六回 9b】

◎**福井** 古船ハ値段低廉ナルヘキモ若松ニ入港シ難ク且荷役  
ガ手間取ルノ嫌アリ

◎**益田** 若松ヨリノ運搬ニ就テハ何人ニテモ不便ヲ感シツ、  
アル所ナレハ少々ノコトハ忍ハサルベカラズ

◎**長谷川** 今日内地船主ノ有スル船ハ何レモ運搬不便ナリ故  
ニ同シ購入スルナレハ英國ニ於テコースチングニ使用スル  
カ如キ形ノ船ヲ買入ル、カ得策ナラン現ニカーヂフ炭ヲ運  
搬スル船ノ如キ簡單ナルモノニ至リテハ全クデッキヲ備ヘ  
サルモノアリ

◎**浅野** 和船ノ少キコトハ事実ナルモ今後之ヲ新造スルモ到  
底勘定ニ当ラサルヲ以テ寧ロ各地方ニ於テ散乱セル和船ヲ  
纏メテ使用スルコト、スル方可ナラム

◎**寺島** 金ニテモ貸渡スカ

◎**浅野** 和船ノ維持出来難キ折柄ナレハ若シ運賃ヲ高メ遣レ  
ハ喜テ運搬ニ従事スルナルベシ

【六回 10a】

◎**益田** 夫レハ時ノ景況次第ニテ今日ノ如ク運賃高価ノ日ニ  
ハ行ハレ難シ

◎**浅野** 尚一層高運賃ヲ支払ヘハ可ナルベシ

◎**水谷** 和船ノ数非常ニ減少シ居ルヲ以テ之ヲ集ムルコト面  
倒ナルベシ

◎**浅野** 余ノ口ノ津ニアリタルトキ和船ヲ集メ運賃ヲ普通ヨ  
リ聊カ割合良クシーノ団体ヲ組織セシメ且各船ヨリ保証金  
ヲ当社ヘ差入レシメ若シ当社ノ石炭ヲ積込マサルニ至ルト  
キハ其保証金ヲ没収スルコト、シ其結果大ニ良好ナリシ如  
此方法ヲ以テセハ可ナラム

◎**寺島** 名古屋ニ於テハ和船ノ運賃不定ニシテ且和船ハ引当  
トナラ

【六回 10b】

サル為メ各紡績等ヘ石炭ヲ売込ムニ当リテハ運賃ハ買手持  
トシ且其到着日限テ受負ハス只正味石炭ノ値段ノミヲ取極  
メテ売買ヲ締結スルコト、為シ居ルカ如キ有様ナリ

◎**浅野** 汽船ノ運搬ハ素ヨリ必要ニ相違ナキモ今日運搬ヲ汽  
船ニノミ拠ルコト能ハス故ニ普通一般ニハ可成和船ヲ使用  
スルノ外ナシ

◎**水谷** 知多志摩辺ノ船持ニ資金ヲ貸与シ帆前ヲ造ラシムル  
コトハ如何

◎寺島 船ヲ造ル際資金ヲ貸渡シ漸次運賃ノ上リ高ヨリ取立ツルコト、セハ可ナラム

◎益田 名古屋地方ニ対スル和船ノ運搬ハ永キ寿命ナシ故ニ資金ヲ貸与シテ和船ヲ新造セシムルコトハ一考ヲ要ス

◎水谷 鉄道ノ連絡出来タル后ニテモ艀ノ行ハル、ヲ見レハ縦令汽船ノ

【六回 11 a】

便開クルモ依然和船ノ運搬モ両立スヘキヤ未タ知ルベカラズ

◎益田 若松港ノ浚渫成効スルモ兩三年ヲ出テス而シテ成効ノ晚ニハ五十六呎ノ汽船ハ出入シ得ヘク其他唐津并住ノ江等何レモ汽船ノ入港出来得ルヲ以テ向後運搬ハ多ク汽船便ニ拠ルコト、ナルノ日アルベシ從テ和船アレハ之ヲ使用スルハ差支ナキモ態々資金迄モ貸渡シテ之ヲ新造セシムルノ要ナシ

◎寺島 向後追々商売カ機敏トナルニ從ヒ約定后一ヶ月位ノ内ニハ現品ノ到着ヲ要スルコト、ナルヘク從テ和船時代去リテ汽船時代至ルノ時アルベシ

◎福井 吃水十呎位ノ汽船ヲ造リ若松ト名古屋等ノ間ニ使用スルコト、シテハ如何

◎益田 吃水浅キ船ヲ新造スルトセハ式三十万円ヲ要スベシ

然ルニ熱田

ノ築港出来スルニ非サレハ八呎ノ船ニテモ十二呎若クハ十五呎ノ船ニテモ同一ニテ均シク一里モ二里モ沖合ニ繫泊セサルベカラズ

【六回 11 b】

◎福原 果シテ然ラハ依然和船ニ依ルノ外ナク汽船積ノ事ハ前途尚遠シト云ハサルベカラズ

◎益田 名古屋ニテハ石炭何程ヲ売却シ得ルカ

◎寺島 名古屋全体ノ需用額七万屯中当社ニ於テ四万屯ノ取扱ヲ為ス

◎益田 僅ニ四万屯位ヲ運搬スヘキ和船ノ都合付カサルニヤ

◎水谷 是迄ノ商売ニ止レハ大抵調フヘキモ向後商売発達スルトキハ運搬船ノ不足ヲ感スベシ

◎益田 然ラハ名古屋送りニ付テハ小運搬力ノ設備方ニ付工夫ヲ施ラスコト、スベシ

次ニ神戸又ハ東京送りニ充ツル為メ吃水浅キ汽船ヲ新造スルノ

【六回 12 a】

計画ヲ立ツルコトハ別論トシ差当リ運炭船ニ供スル古船ニテモ購入スヘキヤ

◎**呉** 汽船ヲ所有スルコトニハ大賛成ナルモ未タ各港ニ之ニ  
 対スル設備ナシ即チ棧橋ヲ造リ其棧橋へ汽船ヲ横付ケニシ  
 テ荷役シ得ルノ設備アレハ可ナルモ然ラサレハ矢張舢舨船ヲ  
 以テ本船ヨリ積取ラサルヘカラス費用ヲ要スルコト尠少ニ  
 非ス

◎**福井** 当会社ニ於テ鉄道局所用ノ一等炭ニ付テハ殆ント全  
 權ヲ有シ大抵何分カノ注文ハ必ス引受ケ得ルヲ以テ之カ運  
 搬方ニ付テハ平常其設備ヲ為シ置クノ要アリ其時々雇船ヲ  
 搜索スルカ如キ有様ニテハ太甚不都合ナルノミナラズ運賃  
 モ亦存外割高二当ルベシ故ニ古船ニテモ一艘安値ニテ買入  
 ル、コトニ致シタシ

◎**南** 古船ヲ安ク動カスニ其寿命ヲ五ヶ年又八十年ト見修繕  
 モ

【六回 12 b】

加ヘス又経費モ十分節約シ其船ノ自滅ニ任スカ如キ方法ニ  
 テ使用セサルベカラス然ルニ我社ニテ古船ヲ使用スルトナ  
 レハ修繕ヲ加ヘ経費モ他ノ船舶同様ニ使用スヘク其極古ナ  
 リトテ毫モ割安ニハ挙ラサルベシ故ニ此際古船ヲ買入レン  
 ヨリハ寧ロ一二年間古船ヲ雇入レテ当座ノ用ヲ充タシ置キ  
 其上ハ少々高キモ奮発シテ便利ナル船舶ヲ新造スルヲ可ナ  
 リト考フ

◎**福井** 若松ノ築港其他各地港湾ノ設備ハ今日ヨリ未タ窺ヒ  
 知ルヘカラサルモノアルヲ以テ差当リ一時凌キニ古船ヲ買  
 入レ置キ設備ノ完成ヲ見タル上ニテ之ニ適當ナル船舶ヲ新  
 造スルコト、為ス方可ナラム

◎**南** 二三年ノ寿命ト見テ古船ヲ買フハ差支ナカラム  
 ◎**水谷** 門司ト横浜間ニ何航海ヲ為シ得ヘキヤ

【六回 13 a】

◎**藤田** 式回ト六七分ナリ

◎**福井** 可成大形ノ船ヲ買入レタシ

◎**藤村** 式千屯内外ノ船ニテ式航海半位ナラン

◎**浅野** 式千屯ハ大ニ過クヘシ古船ノ事故水入ハ式十呎以上  
 ナラン

◎**寺島** 然ルトキハ仮令熱田ノ築港落成ノ暁ト雖モ到底港内  
 ニ入ルコト能ハス

◎**松尾** 石炭運搬ニ適當ナル船ハ東洋ニハ殆ント絶無ナルベ  
 シ寧ロ新シキ船ヲ買入ルル方可ナラン

◎**水谷** 鉄道へ売捌クヘキ一等炭ハ何程アリヤ

◎**藤田** 鉄道局横浜并江尻納五千屯、日本鉄道四千屯一ヶ月  
 約壹万屯ナリ

◎**水谷** 然ラハ式千屯位ノ船一艘アリテ差支ナシ

## 【六回 13 b】

◎松尾 私八千六百屯乃至式千屯位ノ石炭積込適当船ハ容易ニ之ナカルヘク良シ之アリト雖モ割高ナルヘケレハ寧ろ新造ヲ得策ト考フ

◎藤田 式千屯位ノ古船ナレハ八九万円ニテ買入レ得ベシ

◎浅野 吃水ハ式十五呎位ノモノナラム

◎藤田 四日市并神戸通ハ小形ノ船便ナルモ横浜通ハ大形ノ

方利益ニテ少クトモ式千屯以上ナラサルヘカラズ

◎福井 三四千屯位ノモノニテモ可ナリ

◎大野 運賃ノ安キトキヲ見テ一ヶ年間ノ雇船約定ヲ取結ヒ

置ク方古船ヲ買フヨリモ利益ナラン即チ一艘ハ式千屯(京都丸位)位ノモノヲ東京通ニ当テ又一艘ハ千式百屯位ノモノヲ神戸通ニ当ツルコト、シテハ如何

◎福井 船ヲ大ニシ東京行ノモノニ神戸行ヲ積合ハスコト、

スレハ可ナラム

## 【六回 14 a】

◎藤村 船大ナルトキハ神戸行ニハ不便ナリ

◎益田 大ナル船ニテモ通ヒ居ルトキハ神戸并名古屋共大ニ

便利ヲ得ルコトアルベシ

◎水谷 門司ト東京ノ間ノ運搬力重モナルモノナレハ大形ノ船ニテ可ナリ

◎益田 要スルニ内地石炭運搬ノ為メニ汽船ヲ持ツコトハ一

同ノ希望ト認ム但シ新造利ナルヤ將タ古船ヲ買入ル、方可然哉ハ尚取調フヘク又屯数ハ三四千屯位ニテ差支ナク主トシテ門司ト東京間ニ使用シ又場合ニ依リ神戸、名古屋、上海等ヘモ指廻ハスコトアルベシ

◎呉 此外ニ神戸并四日市通ニ用ユヘキ千壹式百屯ノ船ヲ一艘持ツコトニ致シタシ

◎益田 船ヲ持ツコトニハ余モ同意ナリ早々取調ヲ為シ且良キ船アレハ買入ル、コトモ為スベク又月雇年雇等ノコトモ為スベシ此他和船

## 【六回 14 b】

ノ持主ニ金ヲ貸渡シ若クハ汽船ヲ抵当ニ取り金ヲ貸渡シ該船ニ保険ヲ付シ安運賃ニテ雇入ル、等運搬力ヲ増加スルコトニ付テハ各自十分心掛ケ出来得ル丈ノ働ヲ為スコト、スベシ

◎福井 船ヲ買フト雇入ル、ト何レカ利益ナルヘキヤ

◎水谷 船ヲ買入ル、トスレハ他ノ社船ノ例モアリテ前者ノミ船員ノ俸給ヲ安クスルコト能ハス其他ノ経費モ亦然ルヲ以テ雇船ノ方算カニ利益ナルベシ

◎呉 物産会社ノ使用スル和船ハ大凡全体ノ四分ノ一位ナリトノコトナリ然ルニ今突然和船ヲ使用スルコトヲ止メ汽船

ヲ用ユルコト、セハ和船ニ於テハ其反動トシテ大ニ運賃ヲ引上ケ他ノ競争者ヲ利セシムルカ如キ結果ヲ来タスノ憂ナキヤ

◎水谷 物産会社カ和船ノ使用ヲ止ムルトキハ自然和船潤沢トナ

ルヲ以テ運賃下落ノ結果ヲ来スヘキモ当社ニ反抗ノ運動ヲ為スカ如キコトハ勿ルベシ

◎福原 今年運搬力少ナカリシハ通信省ノ船舶検査厳ニシテ屢々修繕ヲ命セラレ之カ為メ要シタル日数ノ多カリシトブラオンニ於テ長崎ヘ石炭ヲ回ハス為メ船ヲ使用スルコト多カリシトカ其重モナル原因ナルベシ

◎益田 運搬船ノコトハ夫丈トシ舢船ノ事ハ如何

◎福井 先日モ述ヘタルカ横浜ニ貳千屯乃至三千屯ノ庫船ヲ備ヘタシ

◎福原 本船デスパッチノ為メニ必要ナルカ

◎福井 デスパッチ并石炭ノ看貫ヲ為ス為メナリ

◎益田 是迄ノ庫船ニ付テノ経験ヲ承リタシ

◎上田 長崎ニ於テ独逸郵船二三池塊炭ヲ積込ム為メ庫船

【六回 15 a】

ヲ備フルカ如キ一種又ハ二種ノ石炭ヲ貯藏スルハ兎毛角東京ノ如キ各種ノ石炭ヲ取扱フ所ニテハ到底庫船ヲ利用スルコト能ハス勿論船中ニ区画ヲ立テ置ケハ可ナルカ如キモ此事ハ実行出来難キノミナラス一ヶ所ニ三百屯ノ石炭ヲ入レ得ヘキニ五六十屯ノ残炭アルカ為メ他ノ炭ヲ入ル、コト能ハス貳百四五十屯ノ「スペース」ハ無益ニ之ヲ明ケ置カサルベカラサルコトアリ今若シ東京ニ於テ庫船ヲ置クトスレハ一艘ニ二種類ヲ入レ六種類ノ石炭ヲ取扱フモノト見テ三艘ノ倉庫ヲ要スベシ斯ル次第ナル故庫船ヲ置クトハ不得策ナリト考フ

◎呉 庫船ヲ置クトキハ一度本船ヨリ石炭ヲ舢ニ移シ更ニ之ヲ庫船ニ積込ミ置キ更ニ又之ヲ舢ニ積込ミ燃料船等ニ積渡スコト、ナルヲ以テ費用モ亦少ナカラズ

◎福井 神戸ニテハ本船ヨリ受取ル際看貫ヲ為スカ

◎呉 積込ムトキ看貫ヲ為ス

◎福井 横浜ニテハ本船渡ニテ売却スル場合ニハ看貫ヲ為サス

◎藤田 庫船ヲ置クトキハ沖渡ノ場合ニ於テモ看貫ヲ為スコトヲ得ベシ即チ一度庫船ニ積取り更ニ之ヲ渡スコトヲ得ヘク看貫ノ為メ空シク本船ヲ碇泊セシムルノ憂ナシ

【六回 15 b】

◎益田 看貫ハ遣リ方如何ニ依リ左程時間ヲ要セサルベシ

◎藤田 貳千屯ノ石炭ヲ看貫スルニハ二日間ヲ要ス然ルニ雇  
船ヲ為スニ当リ普通碇泊日數ヲ積込并陸上ノ兩地ニテ五日  
間位ニ定メ置クニ依リ横浜ニテ看貫ヲ為スノ違ナシ

◎福井 現行ノ雇船契約ハ何レモ本船積込ヲ終リタルトキ其  
艙口ニ封印ヲ為シ置キ揚地ニ至リ封印ニ異状ナキトキハ本  
船ハ

欠斤ニ付無責任ノコトニ相成リ居ルモ此雇船方法ハ改良ス  
ルコトニ致シタシ

【六回 16b】

◎益田 雇船ノ仕方并欠斤ノコトハ別ニ之ヲ評議スベシ

◎松尾 庫船ノコトニ付一言セシ口ノ津ニテハ曩ニ日吉丸ト  
住吉丸ノ二艘ヲ買入レタルモ大ニ持テ余シ長崎ヘ持ち来リ  
タルモ同地ニテモ持テ余シタリ其後兵庫ト口ノ津ニテ帆前  
船ヲ二艘買入レ庫船ニ供シタルモ是亦差程役立タス費用ノ  
ミ嵩ミタリ故ニ余ノ經驗ヨリスレ

ハ庫船ハ百屯乃至貳百屯位ノモノトシ石炭ヲ本船ヘ積込ム  
場合ニハ庫船ヲ自由ニ移動シテ本船ノ船側ヘ横付ケ得ル様  
ニシ又川ヘモ這入り得ル様為シ置クヲ便利ナリト考フ夫ノ  
大ナル倉庫船ノ如キハ更ニ其便益ヲ見ス

◎福井 舩ノ大ナルカ如キモノ乎

◎松尾 百屯カ百五十屯位ノモノ最モ可ナリ

◎益田 必竟石炭ノ阿房丸ヲ造ルコト、ナル

◎松尾 舩船ナレハ一屯十五円替位ニテ出来スベシ

◎吳 神戸ノ分ハ百五十屯ニテ三千円ナリ綿糸用ニ使用シ  
ツ、アリ

【六回 17a】

第七回 一月二十四日

【七回 1a】

◎益田 本日ハ昨日ニ引続キ石炭ノコトヲ議スベシ何ナリト  
モ御氣付ノ事アレハ述ヘラレタシ

◎福井 門司ヨリ横浜ヘ石炭ヲ積来ル船ノ欠斤カ五分又ハ六  
分甚シキハ一割ニ達セシコトアリ依テ段々其欠斤ヲ少ナカ  
ラシムルノ方法ヲ研究シタルカ今日ノ雇船ノ仕組ニテハ船  
ハ欠斤ニ付一切責任ヲ帯ヒサルコト、ナリ「二文字判読不  
能」居ルカ故ニ自ラ積込方ハ雜駁ナルノミナラス途中ニ於  
テ不都合ノ所為アルモ之ヲ發見スルノ途ナク又陸揚地ニ於  
テモ荷上ノ際注意ノ足ラサルコトモアルベシ故ニ陸揚地ニ  
於テ荷上ノ際十分ノ注意ヲ加フヘキハ勿論ナルカ雇船契約

ノ仕組ヲ変シ船ヲシテ欠斤ニ付(二字もしくはは二字判読不能)責ヲ帶ハシムルコトニ為スハ最モ必要ノ事項ナリト信ス但船ヲシテ欠斤ニ付責任ヲ帶ハシムルトキハ勢運賃ヲ高クスルノ結果ヲ来スベシト雖トモ仮令運

【七回 1b】

賃割高トナルモ外国船雇入ノ場合ニ於ケルカ如ク二分以上ノ欠斤ハ船ニ於テ賠償セシムルト云フカ如キ条項ヲ置クコトヲ得策ナリト考フ

◎飯田 大阪ニテハ欠斤ノ責ヲ船ニ負ハシムルコトニ曾テ試ミタルコトアルモ運賃割高二当ルノミナラズ實際責任ヲ負フコトハ都合克行カサリシ

◎益田 船ニ於テ欠斤ニ付無責任トスルトキハ千屯シカ積マサル二千百屯積ミタルコトニシ百屯丈運賃ヲ食ルコト、ナリ結局荷主ハ積込マサル石炭ニ対シテ運賃ヲ支払ハサルヘカラサルニ至ル這ハ実ニ不都合ノ至リナレハ此点ノミニテモ改ムルヲ要ス

◎福原 雇船契約改正ノコトハ各店ニテ共同スレハ必ス実行シ得ヘシ今日日本ノ船主ハ毫モ約定ヲ重ンセス一度貸船ノ約束ヲ為スモ他ニ好運賃ノモノアレハ直ニ破約シテ好運賃ノ方ヘ向フノ有様ナリ即チ今日ハ単ニ欠斤ノミナラズ信用ヲ重ンセサル点ニ於テモ不都合少ナ

カラサレハ此等ノ点ハ須ラク改良ヲ計ラサルベカラズ

【七回 2a】

◎福井 今日ハ實際積込マサル石炭ニ対シ運賃ヲ支払ヒツ、アリ姿ナリ若シ之ト反對ニ千屯積ミナカラ九百屯ナリト云ヒテ九百屯ノ運賃丈ニテ済マサントセハ運賃ヲ高クスルニ非サレハ雇船ニ応スルモノナカルベシ畢竟東京ニテ比較的安運賃ノ船ヲ雇入レ得ルハ物産会社ハ押石ヲ為サス目方寬大ナル故ナリ世間ニテノ噂ヲ聞クニ雇船方ニ付最モ寬大ナルハ三井ニシテ三菱ハ大ニ嚴格ナリ而シテ小商人ハ非常ニ押石ヲ為スト此故ニ船主ハ先ツ以テ船ヲ三井ニ持チ來リ三井不用ナルトキ三菱、次ニ小商人ノ処ヘ持チ行ク順序ナリト如此三井ハ雇入方寬大ナルヲ以テ雇船容易ニ手ニ入り又運賃モ割安ナルヲ以テ結局太甚シキ損失ナキモ時トシテ一割内外ノ欠斤ヲ生シ之ニ對スル運賃ハ全ク損失ニ歸スルコトアリ且得意先ニ對シテモ斯ノ如ク多クノ欠斤アリ

【七回 2b】

之ニ對スル運賃ヲ損失セシメテハ殆ント弁明ニ苦ムコトアルヲ以テ是非改良ヲ要ス

◎淺野 聞ク所ニ依レハ門司ニ於テハ外国船ニテモ欠斤ヲ引受ケサルモノ多シトノコトナルモ口ノ津ニテハ2%以上ノ

欠斤ハ船ニ於テ引受クルコトニ相成リ居レリ

◎南 ビルオペレーディングニハ其旨ヲ記載スルモ實際責任ヲ負ハシムルコトハ六ケシキカ如シ

◎浅野 大抵責任ヲ負ハシメ得ヘシ門司ニテ外国船カ2%以上ノ欠斤ヲ引受ケストナレハ宜布門司ノ船積方ヲ改良セサルベカラズ

◎南 船ニ欠斤ノ責ヲ負ハシムルコトハ実行太甚覺束ナシ口ノ津ニ於テ外国船ニ積込ムヲ為スニ当リビルオペレーディングニ2%以上ノ欠斤ハ船ニ於テ之ヲ引受クル旨ヲ記載シ若シクハ其事カチャーターパーチー

【七回 3a】

中ニ明記シアルモ實際欠斤ヲ生シタル場合ニ之ヲ弁償セシメ得タル例ナキカ如シ昨年新嘉坡送りノモノニ欠斤アリタル際新嘉坡ニテハ結局船ノ責任ト決シタルモ香港ノ代理店ハ之ヲ支払ハサリシ之ヲ要スルニ欠斤ノコトハ積込店ノ責任問題ナリ若シ其數量ヲ正確ニ引渡サンカ仮令多少焚料ニ線合ハスコトアリトスルモ二分以上ノ欠斤ヲ生スベキ筈ナシ

◎福井 外国船モ目減リニ付責任ヲ負ハサルヤ

◎南 殆ント責任ヲ負フモノナシ

◎浅野 船長ハ二分以上ノ欠斤ニ付テハ責任アル旨ヲ認メア

ル船積証書ニ立派ニサインスル

◎南 サインハ為スモ實際欠斤アリタルトキハ言ヲ左右ニ托シテ弁償セズ

◎福原 船ニ積ミタル丈ヲ持来リタルモノナレハ此上責任ハ負担シ難シト云フ

【七回 3b】

カ如キ口実ニテ實際ハ責任ヲ負ハサルナリ

◎福井 積込噸数ニ対シ運賃ヲ支払フコト、ナリ居ル上ハ船ノ方ニ於テハ千噸積ミタルニ止ルモ之ヲ千百噸ト為サンコトヲ欲スベク之ニ反シテ荷受店ニ於テハ九百噸ト為サンコトヲ欲スヘク又積込店ニ於テハ千噸ハ千噸ト云ハンコトヲ欲スルナルベシ然ルニ船長ニ於テ千百噸ト書セサレハサインセスト云ヒ張ルトキハ積込店ニ於テモ面倒ヲ避クル為メ歩ミ合ヒ千五百噸ト書スルヤモ難計然ルトキハ五十噸分丈ハ全ク運賃ヲ損失スルコト、ナルヲ以テ之ヲ改良シタシト考ナレトモ然シ又一方ヨリ考フレハ噸数ニ付寛大ナレハ安運賃ノ船ヲ手ニ入ル、コトヲ得ルヲ以テ結局運賃割安ニ当ルヤモ知ルベカラス尤モ委託荷ノ場合ニ於テハ一割内外ノ欠斤ヲ生スル様ノ事アリテハ太甚弁明ニ困ラサルヲ得サル以テ何ントカ良方法ヲ案出シタシ

## 【七回 4 a】

◎長谷川 唐津ノ五分押ハ今日モ実行サレツ、アルヤ

◎藤田 実行サレツ、アリ

◎長谷川 ビルオブレーディングニ五分押ノコトヲ現ハスヤ

◎藤田 顕サス

◎福井 從テ唐津行ハ運賃高シ

◎福原 欠斤ノコトハ積込地ノ責任ニ属スト云フモ陸揚地ニ

於テモ亦其責任ヲ分タサルベカラス蓋シ門司ニ於テ積込ヲ為ス場合ニハ「ライター」ニ「マーク」アリ之ニ一杯積込

ムトキハ百屯トカ八十屯トカ夫々定メアリ故ニ少々ノ欠斤

ハ兎モ角モ太甚シキ欠斤アルヘキ謂ハレナシ故ニ陸揚地ニ

於テモ大ニ注意ヲ要スルコトナラン又唐津ニハ入目アルモ

門司ニハ入目ナキコトモ斤量上大ナル差異アリ

◎浅野 水入ノマーク八年ノ始メニ入レタルモノ八年末ニナ

レハ大ニ狂ヒヲ生スベシ

## 【七回 4 b】

◎福原 日ヲ経ルトキハ漸次石炭カ板ノ間ニ詰リ容積ヲ減ス

ルコト、ナルヘキヲ以テ石炭組合ニ於テ半季ニ一度位ツ、

検査ノ上マークヲ打替ヘル制度也口ノ津ニテ三池炭ヲ積込

ムニハリベラルニ行クヘキモ門司ニ於テハ委托主ヨリ常ニ

八カマシキ小言アリ余分ニ積込ム事等ハ為シ能ハス殊ニ汽

車ヨリ積卸シ石炭置場ニ置ク内ニ欠斤モ生スベケレハ尚更

ヲ以テ余分ノ積込ヲ為スコトハ困難ナリ

◎益田 談大分岐路ニ入りタルモ雇船ノ仕方ヲ変シ實際積込

ミタル数量ニ対シテ運賃ヲ支払ヒ且欠斤ハ本船ヲシテ責任

ヲ帶ハシムルコトニ付キ互ニ意見ヲ述フルコトニ致シタシ

◎藤田 欠斤ヲ本船ニテ負担セシムルノ約束ヲ為スモ到底実

行ヲ期シ難シ

◎福井 ランデッド、コンチチーニ対シテ運賃ヲ支払フコ

ト、シテハ如何

## 【七回 5 a】

◎益田 先般仲津原石炭ニ一割内外ノ欠斤アリタル場合ニ原

六郎氏ヨリ大ニ苦情アリ實際積込マサル炭ニ対シ運賃ヲ支

払フコトハ難出来トテ大小言アリ其節ハ事情ヲ弁解シ置キ

タルモ之ハ實際無理ナラヌ小言ナリ外国船ノ如キモ大抵デ

リバード、コンチチーニ依テ運賃ヲ支払フヲ常トス

◎南 ビルオブレーディングニハ満船積込記載シ置キ陸揚地ニ

於テ数量ヲ改メ其数量ニ応シテ船賃ヲ支払フコト、シ積込

高ノ何程ナリシヤハ船長ニ知ラシメサルコト、シテハ如何

◎益田 夫レニテ雇船ニ応スルモノアルヘキヤ

◎福原 右ノ如キ方法ニテ雇船スル場合ニハ横浜ニ於テ看費

ヲ為サ、ルヘカラサルコト、ナル

◎益田 此点カ原氏ヨリ大ニ小言ヲ云ハレタル点ニテ東洋汽船へ仲津原

【七回 5b】

炭ヲ渡スニ当リ三井ノ人ハ一人モ立会ヲ為サ、リシ旨申居ラレタリ横浜ニテ看貫セサルコトナレハ事実一人モ立会ハサリシヤモ知ルヘカラス如此取扱振ニテハ荷主ノ承知セサルモ不得已所ナリ

◎藤田 原氏ハ門司渡ニテ約定センコトヲ希望セラレタルモ東洋汽船ニテハ門司送り状面通りニテハ受取り難シトノコトニテ原氏ノ承諾ヲ得沖渡ノ約定ヲ為シタルモノニテ原氏ハ承知ノ筈ナリシナリ

◎長谷川 本船着シタルトキ其石炭ノ受渡方ハ如何ニスルヤ  
◎藤田 船ノ積量ト箱ノ容量ト符号シタル数量ニテ受取ルナリ即チ船渡約定ノ場合ニハ箱ニ六十杯ニテ六十屯トナリ又船ノ積量モ六十屯ニテ双方符号スルトキハ六十屯ノ送り状ヲ付ス又其石炭ヲ倉入スル場合ニハ看貫ヲ為サス本船ヨリ受取りタルマ、ニテ倉入ヲ為シ置キ倉出ノ際之ヲ看貫シテ引渡スナリ

◎長谷川 然ルトキハ常ニ受取手ノ利益トナラサルカ即チ船

【七回 6a】

二十屯入り居ルモ買手五十八屯シカナシト云ヒ剛情ヲ張レハ二屯丈損スルコト、ナルベシ

◎藤田 大抵船ニ依リ五十屯トカ六十屯トカ定メアリ居ル故スル苦情ヲ惹起スルコトナシ

◎長谷川 其時看貫スルコト、スル方可ナラム

◎福井 看貫ノ上ニテ受取ルコトハ是迄ノ碇泊日数ニテハ不能ナリ故ニ従来ハ本船ヨリ請取ルトキニハ別ニ看貫ヲ為サス之ヲ沖渡ニテ直ニ買手ニ渡ス場合ニハ船ノサイツニ依リ数量ヲ檢セリ

◎長谷川 横浜ニテ船ニ積取り之ヲ東京ニ回ストキハ更ニ掛改メヲ為スヤ

◎福井 掛改メヲ為ス

◎長谷川 六十屯ノモノハ六十屯アリヤ

【七回 6b】

◎藤田 減スルコトアリ

◎長谷川 減スルコト多キヤ

◎藤田 多シ

◎長谷川 三井ト三菱トハ積込方ニ寛敵アリトハ如何ナルコトカ

◎福井 三井ニ於テハ千屯積込ミタルモノヲ船長ニ於テ千五  
十屯トシテサインセヨト云フトキハ門司支店ハ之ヲ承諾ス

ルモ三菱ニ於テハ千屯ノモノハ千屯ニアラサレハ承諾セス  
此点寛敵ノ差アルヲ云フハリ

◎益田 従来ノ弊ヲ打破シ千屯積ミタルモノハ必ス千屯トス  
ルカ

◎藤田 強硬ノ手段ヲ取ルコトハ極メテ結構ノ事ナルモ実行  
方甚タ困難ナリ蓋シ当社ニ於テ今少シ船舶ヲ所有シ雇船ノ  
相談纏マラサレハドシ〳〵社船ヲ回ハスコト、セハ大ニ強  
味アレトモ是非雇船ノ必要アル今日ニ於テハ余リ強硬手段  
ヲ取ルトキハ雇船ニ応スル者ナク大ニ支障ヲ来スコト

【七回 7a】

アルベシ故ニ当分ハ従前ノ通り積出地ニ於テ幾分ノ呼吸ヲ  
為シ置キ追テ三菱其他トモ交渉ノ上改良策ヲ講スル方可ナ  
ラン

◎大野 陸揚地ニ於テ看貫スルコト、セハ碇泊日数ヲ長カラ  
シメサルベカラス從テ運賃高値トナルベシ

◎藤田 唯々運賃高値トナルニ止マラス雇船ニ応スルモノナ  
カルベシ

◎大野 仮令看貫ヲ為スモ欠斤ニ付責任ヲ負荷セシメサレハ  
雇船ニ応スルモノハ之アルベシ

◎益田 運賃ヲ高クスレハ応スルナランモ看貫ヲ為スノ利害  
ハ如何アルヘキカ或ハ是迄ノ如ク本船ヨリハ送り状面ノ保

ニテ受取り置キ東京ニ積取り買手ニ渡ス場合ニ看貫シ又横  
浜沖渡ノ場合ニモ買手へ渡ストキ看貫スルト為スヘキカ

◎藤田 是迄本船ヨリ受取ル場合ニ看貫ヲ為サ、リシハ滞船  
料

ノ支払ヲ避ケンカ為メナリ

【七回 7b】

◎益田 本船ヨリ受取ルトキハ看貫セストスルモ買手へ渡ス  
際看貫ヲ為サ、レハ欠斤ノ多キ場合ニ荷主ハ中々承知セサ  
ルベシ

◎長谷川 東洋汽船会社へ渡ス場合ニ単ニ船船ノサイズニ依  
リ別段看貫ヲ為サ、ルカ

◎藤田 此事ハ原氏モ承知ナリ即チ最初門司ノ送り状面通り  
ニテ受取方ヲ東洋汽船ニ交渉シタルモノ之ヲ承諾セス依テ原  
氏ニ其趣ヲ申出テタル処従来ノ例ニ依リ受渡ヲ為シ苦シカ  
ラズトノコトナリシ故是迄ノ例ニ依リ取扱ヲ為シタル次第  
ナリ

◎益田 原氏ノ例ハ別論トシ横浜へ積来リタル石炭ヲ横浜ニ  
於テ船渡スルニ看貫ヲ為サスシテ引渡スニヤ

◎藤田 焚料ニ渡ス場合ニハ本船ニ於テ看貫スルモ横浜ノ小  
商人共ニ

## 【七回 8 a】

十屯二十屯宛売渡ス場合ニハ看貫ヲ為サス本船ノ箱ノ容積ト解ノ積量トヲ照合シ其サイズニ依リテ屯数ヲ定ム

◎益田 此事ハ荷主ノ利害ニ関スルノ重大問題ナレハ荷主ノ代表者トシテ十分研究ヲ要ス

◎長谷川 余ハ横浜ノ実況ハ知ラサルモ何所カニテ一度ハ掛改メヲ為サ、ルベカラス若シ枘ヲ用ユルトスレハ其枘ノ風袋何程ナルカヲ見石炭ヲ入レタル上更ニ之ヲ掛ケテ風袋ヲ差引キ正味何屯ナルヤヲ定ムヘク単ニ大凡ノ目分量ニテハ不可ナリ又門司ノ積込高ハ仮令杜撰ニテ引当ニナラスト仮定スルモ一割内外モ欠斤ヲ生スベキ謂ハレナシ香港等ニテノ経験ニ依レハ時トシテ非常ニ欠斤ヲ生スルコトアルモ積出地ニ照会スレハ積入ノトキニ粗漏アリシコトヲ発見スルヲ常トシ大抵普通ナレハ多キモ四分平均ニ二分位ノ欠斤ニ止ルヘキモノナリ若シ前文ノ如ク枘ノ目方確カナレハ解ノ方ニテハ

## 【七回 8 b】

三十五屯ナリト云フモ枘ハ四十屯ナリトシテ言張ルコトヲ得ヘキモノ今日ノ實際ニ於テハ枘ノ方モ更ニ引当ニナラスト考フ何トナレハ若シ枘ノ容積ニテ量リタル数量カ正確ノモノナレハ東洋汽船ニ於テ解ヨリ陸上スル際自ら之ヲ看貫ス

ルノ要ナキ筈ナルニ之ヲ看貫スルヲ見レハ当社ニ於テ「文字消失カ」亦之ヲ渡ス際看貫スルノ必要アルニ非サルカ船渡ト陸渡トハ当社カ解ヲ持ツト否トノ差ナリ故ニ解ヲ当社ニテ引受ケ陸渡ノ際看貫スルコト、シ船渡ハ之ヲ全廃シテハ如何解ノサイズニテ引渡シ看貫ヲ為サ、ルコトハ荷主ニ対シ不親切ナリ

◎上田 欠斤ノコトニ付テハ数年間心配シテ種々工夫ヲ為シタルモ其効果ナク殆ント当惑セル所ナリ夫レハ本船ヨリ解船ニ移シ横浜へ陸上スル間又ハ横浜ヨリ東京ニ輸送スル間ニ石炭ヲ盗取セラル、ノ点ニシテ陸上シアル石炭ヲ燃料船ニ積渡ス場合ニ於テモ亦然リ此事ハ実ニ横浜

## 【七回 9 a】

ノ悪習慣ニシテ警察署ニ依頼シテ秘密探偵ヲ使用シマタ巡査ヲモ使用シタルモ其効ナカリシ去レハ之ヲ矯正スルコトハ容易ノ業ニアラサルモ常ニ此事ニ注意シ居リ其弊害ヲ除去スルノ工夫ヲ旋ラサ、ルベカラス今日門司ヨリ積出ス石炭ニハ従来ノ経験ニ徴スルニ少クトモ一分五厘カ二分ノ欠斤アリ依テ兩三年前ヨリ水谷氏ニモ申入レ特ニ改良ノ工夫ヲ為スヘキコトヲ注意シタルモ土地ノ慣習上致方ナキコトニテ当社ノミ斤量ヲ十分ニ積込ムコトヲ得ス從テ凡ソ二分ノ欠斤ハ常ニ見込置カサルベカラス然ルニ之ニ反シテ唐津

ヨリ出ス石炭二八一〔分〕が抜け落ちカ〕五厘乃至二分位ノ出目アリ之レ必竟荷主カ川船ニテ本船ニ積込ヲ為ス際運賃ヲ少ク支払ハントノ考ヨリ一万斤ノモノモ九千斤一〇万斤ノモノモ九万斤ト云フカ如ク目方ヲ定数ヨリ減シテ称フルノ慣習アルカ為メ二三分ノ出目ヲ生スル次第ナリテ唐津炭ヲ買約

## 【七回 9b】

スルニ当リ値段押合ノ結果荷主ニ於テ値段ハ申出ノ通りニ引下クヘキニ依リ二分ノ入目ハ為サ、ルヘシト云フコトアリスル慣習ナルニ依リ唐津炭ハ手一杯ノ勘定ニテ売約スルモ二分ノ出目アル為メ相当ノ口銭トナルノ姿ナレトモ門司炭ハ常ニ二分位ノ欠斤ヲ見込マサルヘカラズ

◎益田 東京へ来ル分ハ四五分乃至八分ノ欠斤ヲ生ス

◎上田 積込地ノ習慣ニモ関係スレトモ横浜ニ於テ特ニ盗人ノ防キヲ為サ、ルベカラス

◎寺島 名古屋ニ於テモ一昨年迄ハ盗人多ク大部分ヲ彼等ノ為メニ盗ミ取ラレ従テ何割儲クルモ結局損勘定トナリタリ而シテ右ハ何レモ和船ヲ以テ運搬スルモノナルヲ以テ多分船長力途中処々ニテ売却スルモノナラント考ヘタルモ其実然ラス船長力陸ニ上リタル後泥棒船来リ水夫二金ヲ与ヘ石炭ヲ盗ミ去ルモノナルコトヲ取調ヘ得

## 【七回 10a】

タリ且名古屋ノ習慣トシテ船ノ底ニ敷キアル簀ノ下ニ落チタル石炭ハ船ノ役徳トセリ是等ハ宜シク改良ヲ要スル点ナルコトヲ発見シ山田清三郎其他ノ同業者ト合同シテ石炭取扱事務所ヲ熱田ニ設ケ巡查一名書記一名ヲ雇入レ巡查ハ水上ヲ取調ヘ書記ハ統計ヲ調査スルコト、シ又警察署ニモ依頼シ石炭商以外ヨリ石炭ヲ買取ルコトヲ禁スル旨ノ通達ヲ出シ貫ヒタル結果一ヶ月ヲ経過セサル内二十人ノ盗人ハ捕縛セラレ自余ノモノモ仮令石炭ヲ盗ムモ之ヲ売ルノ途ナキヲ以テ盗取ヲ為サ、ルコト、ナリ昨年ノ如キハ熱田ノ石炭泥棒ハ絶無ニ歸シ之カ為メニ従来泥棒ノ競争ニ依リ商売ヲ妨ケラレ居リタル熱田ニテ一二千斤ノ石炭ヲ買ヒ取り来リク湯屋其他へ売捌キヲ為ス小商人モ四五分ノ口銭ヲ得テ商売ヲ為シ得ルコト、ナリタリ而シテ今日熱田へノ輸入品中

## 【七回 10b】

統計ノ最モ明カナルハ石炭ノミニシテ警察署ニ於テモ大ニ石炭泥棒ノ跡ヲ絶チタルヲ喜ヒ県知事モ石炭組合ノ効蹟ヲ賞賛シ居ラル、現況ナリ

◎松尾 門司ノ石炭ハ入目少シモ之ナキモ唐津炭二八五分ノ押アリ且川船ニ盗少ナシ又杵島ノ炭ハ一割ノ押アルモ川船

ニ盗多シ門司ヨリ東京ニ石炭ヲ送ル船ノ雇入方ニ就テハ大ニ考フヘキモノアリ即チ是迄ノ習慣トシテ日本汽船ヲ雇入ル、ノ場合ニハ其數量ハ送状面通リトシ欠斤ニ付責任ヲ帶ハシメサルニ依リ門司ヨリ口ノ津ヘ二千屯ノスチールヲ積來ル場合ニ船長ハ二千百屯ト船積証書ニ記入セラレンコトヲ請求スルコトアルベク現ニ口ノ津ヨリ三池炭ヲ積出スニ當リ之ト同様ノ申出ヲ為シタルコトアリ口ノ津支店ニ於テモ二千屯ノモノハ二千百屯ト書スルコト故更ニ不利益ナカルベシ杯申出テ此石炭ハ

## 【七回 11a】

矢張り上海ノ同社ヘ送ルモノナレハ屯数ヲ増加スルノ要ナシト述ヘタル処然ラハ別ニ百屯丈ノ運賃ヲ貰ヒタシト懇願シタル事モアリ斯ル次第ナレハ門司ニ於テ石炭ヲ積出ス場合ニモ必スヤ之ニ類似スルコトアルヘク從テ門司ノ積入高ハ必スシモ引当テトナラサルベシ然レトモ若シ雇船ノ仕方ヲ變シ二分以上ノ欠斤ハ船ニ於テ其責ニ任スヘシト云フカ如キ条項ヲ置クトキハ良シ實際ニ欠斤ノ責ヲ負ハシムルコト能ハサル迄モ大ニ正確ナル數量ヲ知ルコトヲ得テ便宜少ナカサルベシ

◎益田 雇船契約改良ノ事ハ大ニ望ム所ナルモ今日当社ノミ改良ヲ断行セントスルトキ雇船ニ応スルモノナカルヘク從

テ三菱其他共協議シテ改良ノ計画スルハ兎毛角モ独力ニテハ如何トモスル能ハサルベシ

◎松尾 横浜ト東京間ノ泥棒ヲ防クニハ舢船ヲ送り荷口ニ鍵ヲ下シ得ルコト、シ途中ニテ盜取シ能ハサル様ニセハ可ナラム

## 【七回 11b】

◎益田 泥棒論ハ中止シ何カ新工夫アレハ承リタシ

◎長谷川 泥棒防キハ別論トシテ横浜ニ於ケル売捌方法ヲ變スルトキハ數量ノ正確ヲ保スルコトヲ得ン蓋シ泥棒ノ防キハ到底不能ナレハ盜マル、方ハ東洋汽船ノ御勝手トシ当社ハ船側渡トスルトノ説モアリタレトモ当社ニテ舢二積渡ス際看貫ヲ為サ、レハ東洋汽船ニテ陸上ノ際看貫スルナクヘク其際六十屯ノ舢二積來リタルモノカ五十五屯シカナキトキハ必スヤ苦情ヲ申立來ルヘク今日迄苦情勿リシ処ヨリ見レハ六十屯ノモノカ六十一屯アリシ故ニハアラサルカ若シ余ノ推測ニシテ誤ラストセハ船渡ニテ売却スルコトヲ廢シ陸上ノ上看貫ヲ為シテ引渡シ愈欠斤ヲ生スルトキハ始メテ門司ノ積込方不足ナリシコトヲ知り得ベシ今日ハ箱ノ容積ト舢船ノ「ドラフト」トニテ數量ヲ見ルトノコトナルモ是レハ單ニ大見當ニ止リ正確ナルコトヲ知り得サルナリ

## 【七回 12 a】

◎藤田 種々研究ノ結果船渡ヲ止メル考ナリシモ如此セハ小口引渡ニ一々看貫ヲ為シ立会ノ上渡スノ繁アリ横浜ノ小石炭商人ニハ売り渡シ得サルノ結果トナルヲ以テ不得已船渡ヲ承諾スルカ又ハ本船ニ於テ看貫ノ上売渡シ又東京送りノ分ハ納先ニ於テ看貫ヲ為スニ依リ本船ニ於テハ看貫セサルコトニ為サント決心セリ

◎益田 大阪如何

◎飯田 大和船ヲ使用シ看貫ノ上受渡ヲ為ス今日ノ処別ニ差支ナシ汽船ヲ雇フトキハ欠斤多キヲ以テ可成大和船ヲ使用スルコト、為シ居レリ

◎益田 東京ノ遣り方ハ杜撰ナリ故ニ受渡上改良ヲ要ス

長崎ニ於ケル杵島炭ハ如何

◎松尾 一割挿目アル為メ欠斤ヲ生スルコト殆ント之ナシ

## 【七回 12 b】

◎益田 欠斤多キトキハ大ニ荷主ノ感情ヲ悪クスルヲ以テ從來ノ如ク売上勘定トセス打切勘定トシテハ如何即チ運賃諸掛手数料欠斤利息杯ヲ見積リテ之ヲ売却値段ヨリ控除シ其残りニ相当スル代価ヲ以テ当社ニ買切ルコト、シテハ如何尤モ荷主ニ於テ売上勘定ヲ望ム向ハ從來ノ通りニテ可ナリ

◎飯田、松尾、藤田 大ニ宜シカラム

◎藤田 乍併余り欠斤ヲ多ク見積ルトキハ商売成立タサル結果トナルベシ

果トナルベシ

◎松尾 荷主ノ見込ニ依リ物産会社ノ算盤ノ取り方当ヲ得スト考フレハ売上勘定ノ方ヲ請求シ得ルニ依リ差支ナカラム

◎益田 打切勘定トスルトキハ門司ニ於テ荷主ト立会ノ上数量ヲ改メ之ヲ引取ラサルベカラズ而シテ門司ニ荷主ノ代理人カ現在スル場合ハ可ナ

## 【七回 13 a】

ルモ代理人ナク門司支店カ即チ代理人ナル場合ニ坑主ヨリ積送リタル数量ヨリハ当社へ買切リタル数量大ニ減少シタリトテ荷主ヨリ門司支店ノ看貫方ヲ批難シ門司支店ニ於テ大ニ困却スルカ如キコト出来致サ、ルカ

◎松尾 何万屯テフ大高ヲ取扱フ以上ハ欠斤ノ生スルハ已ムヲ得サル所也

◎益田 東京ニテ欠斤ヲ生スルカ如キハ弁明シ易キモ門司ニテ仕切ルトキ欠斤ヲ生スルトキハ積高テ多クシタル故欠斤ヲ生シタルモノニテ自画自賛ト一般ナリト云フ苦情出テサルカ

◎松尾 買約定ヲ為ス際欠斤ノコトモ相談セハ可ナラム

◎福井 門司ヨリ東京へ石炭ヲ送ル場合ニハ門司ニテ一度東京ニテ一度都合二度目方ヲ改ムルコト、シテハ如何尤モ

内々ノ炭ニテ信用ヲ措キ得ヘキモノハ一度改ムルノミニニテ可ナリ

【七回 13 b】

◎福原 荷ノ種類多ク置場一々格別ナルトキハ欠斤ヲ知ルニ

稍容易ナルモ続々跡荷ヲ積上ケル場合ニハ到底欠斤ヲ知ルコト能ハス即チ一種類ノ炭ヲ悉皆積出シ切りタル后ニアラサレハ其欠斤如何ヲ知ルコト能ハズ

◎福井 物産会社ニテ山元ヨリ送荷ヲ受取ル際ニハ目分量ニ依ルカ又ハ看貫スルカ

◎福原 七屯一車ト云フカ如ク目分量ニテ引取ルモノナリ

◎松尾 汽車ニテ送リ来ル分ハ横浜五分香港一分出ノ上海一分ト云フカ如ク欠斤ヲ見込ミテ之ヲ仕切ルコト、シ而シテ之ヲ門司ニ積上ケ置クトキハ其間ニ欠斤ヲ生シス東京へ着ノ上砲兵工廠又ハ其他ノ得意先へ納メ込ム間ニハ又々欠斤ヲ生スヘキヲ以テ是等ヲ見込ミテ売約定ヲ為スコト、シテハ如何

【七回 14 a】

◎長谷川 従来ノ経検<sup>(手)</sup>ニ依レハ荷主ハ八十錢若クハ二十錢方安値ニテモ売上勘定ヨリハ打切勘定ヲ望ムヘキヲ以テ売約定ノ成立ツヘキ場合若クハ入札カ落札シタルカ如キ場合ニハ

関係店打合ノ上運賃諸掛欠斤等ヲ見積リ荷主ノ手取ヲ概算シ其代価ニテ買切約定ヲ為スコト、スルカ至極良方法ナルベシ

◎益田 是ヨリ三池粉炭塩浜売リノコトニ付浅野氏取調ノ結果ヲ述フベシ

◎浅野 三池粉炭ノ是迄ノ売方ハ御承知ノ如ク三池ノ石炭商社山尾市太郎島原石炭組合ノ三間屋カ物産会社ヨリ一ヶ年五万乃至六万屯ヲ引受ケ売却シタルモノナルカ一昨年末昨年度ノ約定ヲ取結フニ際シテハ石炭ノ景氣非常ニ宜シカリシ為メ一屯五円ニテ契約シタルニ其後炭価下落シ炭ノ売行悪シク為メニ屢々値

【七回 14 b】

下ヲ申込ミ契約セル数量モ引取ヲ為サス当社ハ大ニ迷惑ヲ蒙リタルカ遂ニ先方ノ申込ヲ容レ数量ヲ半額ニ又値段ヲ三円四十錢ニ減却セリ昨年度ニ於ケル三池粉炭売方ノ形勢ハ如此ナリシヲ以テ重役ニ於テモ大ニ心ヲ勞セラレ他ニ方法ヲ求メサルヘカラストノ考ヲ有セラレ余モ亦熟考ノ結果是迄ノ方法ニ依ルトキハ値段下落スレハ約定ノ数量ヲ引受ケサルノミナラス値段ノ引下ヲ請求シ之ニ反シテ炭価上騰スルモ値段ノ引上ヲ承諾スルコトハ之ナルヘク何レニスルモ当社ニ取リテハ面白味少シ故ニ是非共当社自ら値段ヲ

「レギユレート」スルノ必要ヲ感シ之ヲ為スニハ約定期限ヲ短クシ三ヶ月位ノ値段ヲ取極メ置キ三ヶ月毎ニ其値段ヲ改ムルコト、スル方可ナルベシト考ヘ其旨ヲ先方ヘ交渉シタルニ値段ヲ三ヶ月毎ニ改ムルコトハ差支ナキモ一ヶ年ノ供給高ハ予シメ約定シ置クコト、致度トノコトナリ依テ之ヲ承諾ス

【七回 15 a】

ルトスルモ借一步退テ考フレハ仮令三ヶ月ノ約定ニテモ其間ニ値段ノ高下アレハ矢張一ヶ年約定ノ場合ト同一ノ結果ヲ呈スルヲ以テ寧ろ塩田ヘノ直接売ヲ開始セサレハ重役ノ御趣意ヲ充タス能ハスト考ヘ上申ノ上昨年度ノ約定ハ昨年度限りニテ打切り本年度ハ当会社自ラ塩田其他ノ消費者ヲ相手トシテ売込ヲ為スコトニ決定シタル次第ナリ而シテ是迄ノ売方ハ前ニモ一言シタル如ク三問屋ヲシテ引受ヲ為サシメ又其下ニ半商半船頭トモ云フヘキモノアリ周防并芸備地方ヨリ塩ヲ買入レテ九州ヘ持ち来リ其戻荷ニ炭ヲ買積シテ塩田地方ヘ売捌クテフ仕組ニシテ物産会社―問屋―船頭―塩田ト云フカ如ク順次二三者ノ手ヲ經由シタルモノナリ故ニ旧来ノ習慣ヲ打破シテ直接塩田売ヲ始メントスレハ先ツ以テ問屋トノ關係ヲ絶チ又船頭ノ買積ヲ止メシメサルベカラズ之ヲ止メシムルニハ直接塩

【七回 15 b】

田地方ヘ出張シ其成行ヲ述ヘ直接約定ノ利益ナルコトヲ勸誘スルノ外ナキヲ悟リ過般來塩田地方ヲ巡回シタル処何レモ小作人カ個々ニ塩ノ製造ニ従事スルニ止マリ大資本ヲ有シ大仕掛ニ塩ノ製造ニ従事スルモノ少ク從テ現金ヲ以テ石炭ヲ買取ルノ力アルモノナク又信用シテ先約定ヲ結フニ足ルヘキモノナシ依テ第一着ニ彼等ヲ結合セシムルノ必要ヲ感シ小作人ヲ集メテ利害ヲ説得シ石炭買入レノ為メニ一ノ組合ヲ起サシムルコト、セリ幸ニ各地方共塩田ノ会所アリ地主ト小作人トノ連絡ヲ計リツ、アルヲ以テ之ヲ利用シ小作人ヲ結合セシメ其總代又ハ有力者ト約定ヲ取結ブコト、為シタリ夫此大ニ手数ト時間ヲ要スルモ彼等ハ此方法ニ依リ仲買口銭モ省ケ又石炭ヲ安値ニ買取リ得ベキコトヲ悟リタルヲ以テ向後引続キ直接約定ヲ取結ヒ得ルナラント信ス而シテ余ノ巡回シタル場所ノ内三池粉炭ノ売行クヘ

【七回 16 a】

キ望アルハ周防ノ塩田ヘ一万屯芸備ノ塩田ヘ一万屯四国ノ塩田一万屯九州ノ塩田ヘ一万二千屯ノ見込ナリ此内既ニ確定ノモノアリ

借茲ニ最モ心配ナルハ運炭方ナリ今日迄ハ買積船頭カ自己

ノ勘定ヲ以テ塩ノ返リ荷トシテ之ヲ積取リタルモ若シ此船ヲ利用シ得サルトキハ運炭上大ニ差支ヲ来スヲ以テ是非共是迄ノ買積船頭其他ノ船持ニ三池炭ヲ運ハシメサルベカラズ然ルニ彼等ハ商売ヲ取ラレタル結果運賃積ヲ嫌フノ傾アリ現ニ東京本店ニ対シ船持ヨリ三池粉炭約定ヲ申込ミタル者アル位ニテ彼等ノ内ニハ金ヲ有シ又船モ確カナルモノヲ持チ其勢力中々強ク之ヲ物産会社ノ手中ニ擒縦スルコト極メテ困難ノ事業ニ属ス就テハ差向キ鉱山会社ニ於テ塩田向ケノ為メ舢船五十艘斗リヲ備ヘラレンコトヲ望マサルヲ得ス勿論右等ノ船手ニ運賃積ヲ為サシムルコトモ十分努ムル積リナリ

## 【七回 16b】

右ノ外九州セメント其他ノ工場ヘモ直接約定ヲ為スノ方針トシ九州日本セメントヨリモ申込アリ既ニ六七千屯ヲ売約セリ尚細目ニ就テハ御問ニ從ヒ陳述スルコト、スベシ

◎益田 小作人等ハ身元小ナルモノナルカ之ト約定ヲ結ヒ置クモ集金方ニ心配ナキヤ

◎浅野 小作人ト直接ニ約定セス会所ヨリ公債又ハ銀行預券ヲ担保ニ取りテ約定シ荷物ト引替ニ現金ノ支払ヲ得而シテ其石炭ハ一度会所ノ所有ニ帰シ会所ヨリ更ニ之ヲ小作人ニ引渡シ其代価トシテ塩又ハ現金ヲ会所ニ取立ツル仕組ナリ

◎益田 舢船ヲ造ルト否トハ損益次第ナリ若シ舢船ヲ造ルトカ不利ナルカ為メ之ヲ造ラストスレハ運搬方ハ如何スベキヤ

◎浅野 舢船ハ從來運碓丸ヲ各地ニ差回ハシタル計算等ニ依リ

## 【七回 17a】

算当相立ツ丈ノ運賃ヲ取ムルコト、セハ差支ナカラム

◎益田 舢船ヲ造ラサレハ買積船頭ニ降參セサルベカラサルカ

◎浅野 買積船頭ニ於テ運送ヲ拒ムカ如キコトハナカルヘキ見込ナリ現ニ大分談ノ進ミ居ルモノモアリ大抵纏マルヘキ考ヘナリ

◎益田 運賃ハ何程位ナルヤ

◎浅野 三池三田尻間一万斤ニ付八円ニテ雇船ヲ為スコトヲ得

◎益田 三田尻売ハ何円位ナルヤ

◎浅野 万斤二十八円ノ建値ニシテ内運賃八円仲買口錢九十錢(一屯ニ付十五錢)海上保険料十八歩(百円ニ付一円、一屯三錢ノ割)三池手取一屯三元見当ナリ

◎益田 塩田売四万二千屯ハ運送ニ差支ナキ考ヘナリヤ

◎浅野 差支ナキ様心配スル考ヘナリ

◎益田 塩浜ハ皆小作ナリヤ

◎浅野 大抵小作ナリ自ラ塩田ヲ有シテ塩ノ製造ヲ為ス者ハ

極メテ稀ナリ

◎益田 何レノ地方ニモ会所アリヤ

◎浅野 高松ニハ会所ナシ大ニ困却ス但確カナル問屋アリシ故之ト引合ヲ為シタリ

◎益田 他ノ石炭ノ塩田ニ於ケル關係ト三池粉炭ニ対スル比較如何

◎浅野 三池炭ト他炭トノ關係ヲ取調ヘタルニ當時元山炭カ

三池ト共ニ行ハル蓋シ近年塩田ノ人々モ段々巧者ニナリ三池炭ハ高キ為メ可成其使用量ヲ減センコトヲ計リ居ルモノ、如シ三田尻地方ニ於テハ元山炭ニ近キ故三池ヲ元山ニ混シテ使用シ又段々上ノ方ニ行ケハ豊筑ノ粘リ物ヲ元山ニ混シテ使用シ進テ四国ニ入レハ平戸ノ

【七回 17 b】

【七回 18 a】

炭ノミヲ使用セルモノアリ之ハ近年遣り始メタルモノニシテ要スルニ三池粉炭ハ値段高キ為メ不得已之ヲ用ユルニ至リタルモノナリ而シテ我々ノ最モ上得意ナリト考ヘ又三池ノ問屋連モ爾カク考ヘ居リタル場所ハ案外ニモ大ナル会所

アリテ目ノ早キ者之ニ居リ三池ト元山トヲ焚クハ不經濟ナルコトヲ発見シ単独ニ平戸ノミヲ焚キツ、アルハ一驚ヲ喫シタル所ナリ兎ニ角今日三池粉炭ハ進歩セル塩田ニハ之ヲ使用セス退歩セル塩田ニ於テ之ヲ使用スルカ如キ傾向ニシテ塩田ニ於ケル三池粉炭ノ頸敵ハ平戸炭并豊筑ノ粘リ炭ナリト云ハサルベカラズ

◎益田 三池粉炭ヲ二十八円ト見平戸并豊筑ノ粘リハ何程ナルヤ

◎浅野 平戸十六七円豊筑ノ粘リ二十円乃至二十三円ナリ

◎益田 豊筑粘リノ炭名ハ何ナリヤ

【七回 18 b】

◎浅野 三笠西川ト称スルモノナリ

◎益田 塩田ノ使用ハ何程ナリヤ

◎浅野 五十万屯位ヲ使用スベシ

◎益田 別ニ衰フル模様ナキカ

◎浅野 ナシ

前二一言セル如ク三池粉炭ハ元山炭ト混合シテ使用セラ、ヲ以テ塩田ヘノ石炭商売カ好結果ヲ奏セハ元山炭ヲ当社ノ手中ニ握ルコト、致シタシ二十五万屯位ノ出炭ハ売捌上困難ヲ感セサルヘク且之ヲ取扱フコトハ三池粉炭売込上大ニ便宜ナレハナリ

◎益田 売捌ハ何レニ於テスルヲ便利トスルヤ各地ノ会所へ

出向カサルヘカラサルカ將タ三池ニテ可ナルカ

◎浅野 三池ニテ可ナリ石炭商社ヲブローカートシ九州一円

ヲ受持タ

【七回 19 a】

セ又山尾ニ中国并四国一円(阿波ノ撫養<sup>ムヤ</sup>ヲ除ク同所ハ神戸支店ヲシテ取扱ハシムルヲ便トス)ヲ受持タセ石炭商社ハ三池ニアリ山尾ハ尾ノ道系崎ノ内二人ヲ派シ取扱ヲ為サシムルコトニ打合せタリ島原石炭組合ハ無関係ナリ

◎長谷川 当社ニ於テ直接売ヲ初メタル結果是迄塩ヲ九州ニ

持チ来リ返リ荷ニ三池粉炭ヲ積取リタルモノハ三池粉炭ヲ

買積ミスルコト能ハサル為メ平戸ノ石炭又ハ豊筑ノ粉炭ヲ

買積ミシ中国并四国へ売込ムコト、ナラサルカ

◎浅野 其点ハ大ニ心配ナルモ平戸ニ行クニハ空船ノマ、長

崎ヲ回ラサルベカラズシテ危険ナルニ依リ当社カ相当ノ運

賃ヲオツフアール以上ハ三池粉炭ヲ運賃積スルナラム

◎長谷川 塩ハ何レニ来ルヤ

【七回 19 b】

◎浅野 重ニ島原ニ来リ同所ヲ中心トシテ肥后并薩摩地方へ

迄輸入セラル

◎長谷川 鉄道便ニテ来ラサルカ

◎浅野 門司ヨリモ鉄道便ニ依リボツツ輸入セラル

◎松尾 塩ハ中国并四国ヨリ九州地方へ来リ其売上金ヲ利用

シ三池又ハ平戸ノ石炭ヲ買取り積返ルモノナリ

◎益田 先般話アリタル住榮丸ノ船主ハ如何シタルヤ

◎浅野 未タ会合セス

◎益田 スル船持ニハ売ラサル方得策ナルヤ

◎浅野 然リ

◎益田 船持ニ売渡サ、ルトキハ他ノ炭ヲ買積シ行キ延売ニテ売却シ会社ノ商売ヲ妨害セサルヤ

【七回 20 a】

◎浅野 彼等ハ今日迄モ現ニ延売リヲ為シツ、アリタルモノ

ナルモ「レギュラー、サツプライ」ヲ為スコト能ハズ且値

段モ荷物少シト見レハ高売リシ又荷物余リ居ルトキハ運賃

ヲ安く見積リ安売リヲ為ス等ノコトアリ塩田ヲ有スル者ハ

寧ロ彼等ノ勝手氣假ニ振舞フヲ心良カラス思ヒ居リタル際

ナレハ此度当社トノ直接約定モ成立チタルナリ故ニ左程恐

ル、ニ足ラズ且延売ノ必要アルモノハ石炭商社又ハ山尾ニ

受持タシムルコト、スベシ

◎益田 九十銭ノブローカレージ丈ニテハ延売ニ対スル責任

ヲ受持タシムルコト能ハサルベシ

◎**浅野** 九十銭ハ着荷後直ニ会所ヨリ代金ノ支払ヲ受ケ得ヘキ分ニ対スルブローカレージナレハ延売ノ分ハ別ニ之ヲ定メサルベカラズ但延売ハ石炭商社又ハ山尾ニ受持タシムルト云フモ約定ハ当

社ト需用者トノ間ニ直接ニ取結フ考ナリ

此商売ヲ發達セシムル迄ハ三池ノ運砥丸ヲ塩田売ニ利用シ得ルコトニ致シ貫ヒタシ

◎**益田** 一時ノ事ナレハ兎毛角モ塩田売ノ為メ解船迄モ所有スルハ策ノ得タルモノニ非ス故ニ可成雇船ヲ以テ間ニ合スコトニ致シタシ

◎**団理事** 船頭ニハ全ク売ラサルヤ

◎**浅野** 船頭ニハ売ラズ運賃積ヲ説得スルコト、ス

◎**団** 運賃積ハ好マストテ他ノ炭ヲ買積ミスルコトニナリ大ニ運搬力ヲ殺カル、ノ恐ナキヤ

◎**浅野** 当分ノ内幾分敷不足ヲ感スヘキモ悉ク逃ケラル、カ如キ恐ナシト考フ

◎**団** 進歩シタル塩田ハ三池ヲ止メ古キ塩田ノミ三池元山ヲ焚クトノ

【七回 20 b】

話アリタルカ如何ナル故カ

◎**浅野** 重モナル原因ハ高値ナルニアルモ今日迄船頭ノ供給ヲ仰キ居リタル際ニハ規則立チタル供給ナカリシト現品ノ多少ニ依リ値段ノ高下ヲ行ハレタルトノ二点モ亦其大原因ナルベシ

◎**長谷川** 二十八円ノ三池粉炭ヲ使用スルト二十円乃至二十三元ノ豊筑炭ヲ使用スルト利害如何アルヘキヤ

◎**浅野** 未タ試験シタルモノナシ依テ試験方ヲ依頼シ置キタリ

◎**団** 塩浜ヘハ以前十万屯位三池出テタルモ爾來漸次減少セリ是レ蓋シ炭質ハ可ナルモ値段高ク且船頭ノ為メニ値段ヲ左右セラレタルニ依リ平戸等ノ安物ヲ使用スルコト、ナリタルナラム

◎**浅野** 松島粉炭カ新三池ノ名義ヲ以テ塩田ニ入り込ミ居レリ

◎**福原** 元山三池使用ノ割合如何

◎**浅野** 三池一割乃至二割位ナリ

◎**大野** 赤穂地方ハ何レヨリ引合ヲ為スヤ

◎**浅野** 神戸ヨリスルヲ便トス

◎**団** 塩田ノ需用高五十万屯ノ内何程三池ヲ売り込ミ得ヘキ

【七回 21 b】

【七回 21 a】

ヤ

◎浅野 二割位迄ハ売込ミ得ルナラム使ヒ手ハ何レモ小作人ニテ三池ヲ焚ケハ燃ヘ方宜シキ位ノ考シカ有シ居ラス又大地主モ実際三池炭ノ巧用ヲ試験シタルニアラズ只値段高シトテ他ノ炭ニ乗り替ヘタル位ナルベシ

◎寺島 東京ニ於テ石炭ノ一、二、三等等ニ付火力ヲ試験シ其成績表ヲ造リ貫ヒタシ

◎益田 吉田技師ニ依頼シテ取調ヘタルモノアリ參稽セラルベシ

尚詳クハ取調フルコトニナスベシ(第七回終)

第八回 一月二十五日 午前

【八回 1a】

◎上田 石炭ノ事ニ付昨日言漏ラシタル所ヲ述ブベシ

諸三池石炭約定ノコトハ専ラ海外支店ニ關係ヲ有シ内地支店中關係アルハ長崎神戸横浜等ニ止マルモ一応其成行丈ヲ心得居ルコトハ無益ノ事ニアラサルヘケレハ大要ヲ叙述スルコトトスヘシ

本年度ニ於ケル三池炭海外約定ハ余リ好都合ニ相連ハス粉炭ヲ安値ニ売却シ又塊炭モ最初予期セシ通りノ値段ニハ売レ行カス売高モ亦平年ニ比シ少ク残炭多シ即チ塊炭ニ就テ

見ルモ出炭高凡ソ三十七万吨ノ内売約済ノモノハ二十二万五千屯ニシテ差引十四万五千屯ノ残炭アリ此内凡ソ四万吨ハ目下相談中ニ属シ多分約定成立スヘキ見込ナレハ差引十万吨丈ハ向後売却致スヘキモノナリ故ニ今年中三池塊炭ノ臨時売ヲ

【八回 1b】

努ムヘキハ勿論機會アレハ桑港布哇ヘモ送り又爪哇コロンボ等ヘモ出來ル丈ケ沢山送り出シテ残炭ヲ減シ其販路ヲ拡ムルコト、致シタシ元來三池石炭ハ出炭多キニモ拘ラス中々能ク売捌ケ就中塊炭ニ付テハ更ニ売方ニ苦勞ヲ為サ、リシモ素ト々三池炭ノ得意ハ甚タ狭シ從來ノ最大得意ハ上海并ニ香港ニ於ル太古、怡和ノ二軒ニシテ此二軒ノ家ハ最初ヨリ三池石炭ノ他炭ニ比シテ德用向ナルコトヲ知り出炭ノ大部分ヲ買約シ呉レタリ此他ニ倫敦ニテ約定スル、グレ、ペン、シャイアノ三大汽船会社并ニ其他ノ燃料船ニ對シ毎年定マリテ数万屯ヲ売約セリ斯ル次第ニシテ是迄塊炭ノ売方ニハ更ニ困難ヲ感セサリシ処近年豊筑ノ石炭採掘高漸ク増加シ其内ニハ品質上

【八回 2a】

等ナルモノ少ナカラス且売方モ巧者トナリテ随分機敏ノ運

動ヲナスニ至リタリ即チ以前ハ他人カ香港又ハ上海ニ出テ、売炭ニ奔走セルハ当社ノ目ヨリ見テ恰モ兇戯ノ如ク孺子能ク何ヲカ為シ得ント考ヘ候テ輕蔑シタル位ナリシモ今日ハ中々侮ルヘカラサルモノアリ現ニ近頃新聞紙上ニ於テ散見スルカ如ク門司ニ谷口、加藤等ノ人々集リテ五万円ヲ出資シ石炭販売ニ関スル組合ヲ設ケ他ニ有力者ノ後援アリ香、上、両地ニ店舗ヲ設クルノミナラス仄ニ聞ク所ニ依レハ汽船一二艘ヲ買入レ世間ノ高運賃ヲ支払ハズ手船ヲ以テ石炭ヲ輸送スル手順ニ運ヒツ、アリ又北海道炭硯鉄道会社モ自ラ運送船ヲ有シ石炭ノ輸送用ニ供シ此他自ラ汽船ヲ所有セサルモノニテモ輒近日本ノ船舶増加シタル結果雇船容易トナリ

【八回 2 b】

旁以テ当社以外ニ石炭商売ニ着目スルモノ多キヲ致シタルノミナラス外人モ亦条約改正ノ結果トシテ門司ニ店ヲ出シ随分内地人ト結託シテ手広ク石炭ノ仕入并ニ販売ヲ為シ得ルコト、ナリタルヲ以テ石炭商売ハ従前ニ於ケルカ如ク我社ノ一人舞台ニアラス右是等有力ナル競争者アルノミナラス石炭モ亦侮ルヘカラサルノ良質ノモノ少ナカラサルヲ以テ向後ハ余程機敏ノ働ヲナシ三池炭ノ販路ヲ十分ニ拡充スルコトヲ計ラサルヘカラス此事ニ付テハ海外各店ヘモ詳

細申送リタルカ要スルニ三池炭売方ニ就テハ従前少シモ困難ヲ感セサリシ時代ノ眠ヲ醒マシ一ヶ年七八十万屯ヲ採掘スル大坑主ヨリ其出炭一切ノ販売方ヲ依託セラレ新タニ其販路ヲ広メサルヘカラサルモノト考ヘ且其石炭ハ極メテ徳用向ノモノニシテ之ヲ売払ムルトキハ需用者ノ好評ヲ

【八回 3 a】

博シ当社モ之カ為メ莫大ナル手数料ヲ収メ得ヘク此坑主ハ実ニ大切ノ得意先ナリトノ觀念ヲ十分脳裡ニ印シテ此新得意先ノ信用ヲ受クルニ足ル丈ケノ働ヲナスコトヲ心掛ケサルヘカラス斯クシテ此石炭ノ販路ヲ擴張シ或ル年ハ甲ノ得意トハ不幸約定成立サリシモ其代リニ乙ノ得意ト約定成立シ又甲地方ニハ売約定成立セサリシモ乙地方ヘハ売約定成立シタリト云フカ如ク毎年平均シテ出炭ノ全部ハ容易ニ売捌キ得ル様ニ為サルヘカラス換言スレハ従来ハ三池炭ノ約定先ハ極メテ狭ク偶々甲ノ得意甲ノ地方ト約定成立セサレハ直チニ残炭ヲ生スルト云フカ如キ有様ナリシモ向後ハ勉メテ其得意先ヲ広クシ一方ニテ売レサルモ他方ニ於テ容易ニ売捌キ得ル丈ケノ基礎ヲ堅メ置カサルヘカラス此事ハ三池炭売捌上ノ方針トシテ特ニ各支店長

【八回 3 b】

諸氏ノ銘記ヲ請フ所ナリ

次ニ残り居ルハ三池小塊ト称スル洗滌炭ニシテ今年ノ出炭  
高八万屯ノ内一万五千屯ヲ売約シ残炭六万五千屯ナリ尤モ  
此内二万四千屯程ハ目下相談中ニテ多分約定成立ツヘキ見  
込ナレハ結局残炭ハ四万屯ナリ而シテ此洗滌炭ハ従来三池  
切込ヲ造リタル材料ノ一部分ナリ即チ切込ハ粉炭五割小塊  
五割ヲ混合シテ造ルモノナルカ之ヲ切込ミトセス粉炭ハ粉  
炭トシ小塊ノミヲ區別シ且此小塊ニハ粉炭附着シ居ルノミ  
ナラス小石其他悪石ノ混合少ナカラサルヲ以テ器機ヲ以テ  
其粉分ヲ洗ヒ落シ(洗ヒ落サレタル粉分ハ水ト共ニ流レテ  
水槽中ニ入り沈殿シ之レヲ取出シテコークスノ原料ニ用  
ユ)又三分乃至三分五厘程モ混入セル悪石ヲ悉皆取除キタ  
ルモノナレハ炭質大ニ宜シ従テ買手カ其成立ヲ詳悉シ洗滌  
炭ノ徳用

【八回 4 a】

向ナルコトヲ悟ラハ大ニ売行ヲ増加スヘキモ今日ハ未タ初  
メテ之ヲ調整シタルノミナレハ世人未タ其成立ヲシラス為  
メニ四万屯余ノ残炭ヲ生シ居ル次第ナレハ内地各店ニ於テ  
モ十分売リ方ニ勉メラレタシ  
次ニ粉炭ハ採掘高二十五万五千屯ノ内海外ニ於テ安値ナカ  
ラモ十八万屯内外ヲ売約シ残炭六七万屯ニ過キス且此分ト

テモ昨日淺野氏ヨリ述ヘタル如ク大抵内地塩田向ニ引当ツ  
ヘキモノナレハ粉炭ノ売方ニ付テハ差シ当リ諸君ヲ煩ハス  
ヘキモノナシ乍去三池炭山ハ有數ノ大鉱山ナルニモ拘ラス  
出炭ノ増加ニ伴フテ粉炭ノ増加ヲ致シ塊炭ノ割合ハ四割四  
五分ニ過キス且炭鉱ノ命脈モ向後久シク継続スヘキモノナ  
レハ粉炭売方ノコトハ常ニ脳裡ニ入レ置キ其塩田向ナルコ  
トヲ述ヘテ十分販路ノ拡張ヲ計リ置カサルヘカラス旁以テ  
今日粉炭ノ供給ハ寧ロ不足ヲ感スル程ナルモ新販路ヲ開

【八回 4 b】

始スル為メニハ如何様ナル繰合ヲモ為スコト、スベシ  
次ニ売捌ニ尽カスヘキハ鑄塊ナリ鑄塊トハ柱引ヲナス場合  
ニ其柱ノ外面ヲ削リタルモノ及普通ノ塊炭ヲ久シク雨露ニ  
曝シタル為メ黄色ニ変シ見苦シクナリタルモノ等ノ混淆ヨ  
リ成ルモノナリ而シテ昨春秋以来香港ニ於テ三池塊炭ノ品  
質ニ付苦情アリ其要旨ハ三池塊炭中ニ粉炭ノ混入多キコト  
并ニ鑄炭ノ混入多キコトノ二点ニアリ且此当時鑄塊ヲ他ヘ  
売出シタル処見場悪キモ焚ク上ニ於テハ普通炭ト殆ソト相  
違ナキ所ヨリ通常塊モ鑄塊モ之レヲ同一ト見做サントシテ  
苦情ヲ惹起シタリ蓋シ右ハ表向ノ口実ニシテ其原因ハ一昨  
年高値ノトキニ約定シタル値段段ト今日ノ相場トハ非常ノ開  
キアルヲ以テ品質ノ不良ヲ名トシ値下ケヲナサシメントス

ルニ在リ此苦情ハ数々交渉ノ結果昨年

【八回 5 a】

末ニ於テ無事其局ヲ結ヒ今年度ノ約定モ成立セリ斯ル行キ掛リモアリタルヲ以テ鑄塊ノ品質如何ノ事ハ一応御承知置ヲ願ヒタシ今昨年末ニ於ケル社船試焚ノ成績ニ依ルニ通常塊ト鑄塊トノ差ハ凡ソ五分ナリト即チ通常塊ナレハ九屯半ニシテ可ナル処ヘ鑄塊ナレハ十屯ヲ要スル勘定ニシテ此断定ハ正鶴ヲ得タルモノト考フ尤モ鑄塊中ニテモ品質不良ナルモノハ一割乃至一割五分ノ差アリ又同シ鑄塊ノ内ニテモ坑内ヨリ掘出シタルバカリノモノハ殆ント塊炭ト其消費高ニ於テ等差ナシト云フテ可ナリ又鑄塊ノ値段ヲ立ツルニハ右ニ述ヘタル消費高五分ノ差ト使用者ノ徳分トヲ見込ミ塊炭ヨリ一割落ニシテ売捌方ヲ海外支店ニ指図シアリ即消費高五分ノ差ト使用者ノ徳分ヲ五分ト見積リタリ

【八回 5 b】

鑄塊ハ随分人ニ依リテハ通常塊ト効力ニ於テハ差異ナシト云フモノアレトモ長ク雨露ニ曝シタルモノ及鑄ノ殊ニ太甚シキ部分ヲ集メタルモノハ一見其見場ノ悪シキノミナラス消費高ニ於テモ大差アルベシ而シテ其上等鑄塊ト下等鑄塊ノ区別ヲ為スコトハ中々困難ナリ昨年末三池ニ赴キタル

トキ大ノ浦ノ柱引セル炭ヲ殊更ニ坑内ヨリ取寄セ試験セリ

即チ柱ノ外側ヲ剥キタルモノ尚ホ一坑内ノ剥キタルモノ今一ツ内ヲ剥キタルモノ并ニ純粹ノ柱ノ心トヲ区別シテ取寄セ一々之ヲ割リテ仔細ニ検分シタルモノ一番外側ニアル分ハ随分赤錆トナリ見場甚タ悪ケリ第二番目ノ分ハ最初ノ分程甚シカラサルモ尚多少石炭ノ表面ニ黄色ヲ帯ヒ之ヲ打碎キテ内部ヲ見ルニ矢張其錆ノ筋ガ内部迄通り居レリ又第三番目ハ第二番目ヨリハ一層錆少ク又柱ノ心ニ至リテハ殆ント普通ノ上等炭

【八回 6 a】

ト異ナラス從テ其上等ノ部分ハ地山ニ混淆シテ出スモ少シモ外見變リナキノミナラス其効力ニ於テ差異アルコトナシ乍併地山ト柱引ノ心トノ差ハ少シニテモ永ク外ニ置クトキハ其結果著シク表顯ス即地山ハ容易ニ錆ノ出ツルコトナキモ柱ノノ心ハ少シク永ク外ニ置ケハ黄色ヲ帯フルニ至ル是故ニ口ノ津ヨリ直ニ送り出シ且消費者ノ手ニ直ニ売却スルモノナレハ柱ノ心ヲ通常塊ニ混合スルモ苦情ヲ受クル憂ナシト雖モ若シ遠方ヘ送り出スカ又ハ消費者ニ直チニ引渡サス一ト先之ヲ貯蔵シ臨時売ニ引当ルカ如キ場合ニハ柱引ヲ積出スコトハ避ケサルヘカラス之ヲ要スルニ鑄塊ハ先ツ通常塊ヨリ一割引ニテ売却シテ相当ナリ尤モ鑄塊中ニ随分久

シク外ニ置キタルモノ若クハ通常塊中ニ混シ居リタル石ヲ  
 取除ケタルカ如キ劣等ノモノアリ此等ハ別ニ區別ヲナシ置  
 キ社船又ハ山ノ焚料トシ

販売口ニハ決シテ振り向ケサルナリ

【八回 6b】

鑄塊ハ八万屯ノ出炭アルモ其内社船并二月雇船ノ焚料二三  
 万屯ヲ消費シ残り五万屯ノ内既ニ売却シタルモノ及確カニ  
 売約ノ出来ヘキモノ二万屯内外ハ之アルヘキヲ以テ結局向  
 後売捌方ヲ努ムヘキ数量ハ三万屯ナリ而シテ此鑄塊ハ外見  
 悪シキモ其効能ニ至リテハ僅カニ五分ノ差アルノミナレハ  
 得意先ヘ其徳用向ナルコトヲ述ヘ買取り方ヲ勸説セラレン  
 コトヲ望ム尤モ海外ニ於ケル約定口ニハ可成通常塊炭ヲ売  
 約シ鑄塊ハ臨時売ニ引当テタシ長崎門司神戸横浜等ニ於テ  
 ハ不絶少シ宛ニテモ取寄セ置キ得意ヲ勸誘シテ売込方ヲ心  
 配セラレタシ一ケ年三万屯即一ケ月二千五百屯宛ハ売却セ  
 サル可カラサルナリ

粉炭ノコトハ別ニ述ヘタルカ尚此通常粉炭ノ外ニ鑄〔教文  
 字消失〕ル

粉炭アリ之ハ出炭三万屯ノ内既ニ一万二千屯ヲ売約シタ

【八回 7a】

レハ残炭ハ一万七千屯内外ニ過キス且之ハ炭山ノ焚料ニ引  
 当テアリ然レトモ値段次第ニテハ之ヲ売却シテ炭山ノタメ  
 利益ヲ増進スルコトハ素ヨリ努メサルヘカラス蓋シ粉炭ハ  
 随分売約ヲ取結ビタルモ何分沢山出ツル粉炭ノコトユヘ長  
 ク置キ品質悪シクナリタルモノモ生ヌスヘク又最初ヨリ鑄粉  
 ノ如ク見場ノ悪シキモノモアルヘシ而シテ當時三池粉ノ上  
 物ハ三池浜手取三円見当ニテ売却シツ、アレトモ若シ得意  
 先ニヨリ安物ヲ望ム場合ニハ或ハ劣等粉ヲ当嵌メテモ可也  
 即チ鑄粉ナレハ凡ソ一円八十錢見当ニシテ通常粉炭ニ比ス  
 レハ大ニ値開キアリ斯ノ如ク同シ粉炭中ニモ段階アリ永ク  
 置キタル粉炭又ハ鑄粉ノ如ク品質最モ悪シキモノハ一円七  
 八十錢ニテモ売却スヘク其以上上等粉炭ナレハ三円位ニ売  
 却シ又次品ハ二円五十錢位ニ売却ス

【八回 7b】

故ニ豊筑ノ安物等ニ比シ三池粉ノ三円ハ高過キルト云フモ  
 ノアレハ鑄粉ノ如キ安物ヲ売込ムコトニ尽力セラレタシ  
 三池石炭売り方ノコトハ大要上ニ述ヘタル如クナルカ尚進  
 ンテ少シク山野石炭ノ事ヲ述ベシ

昨年余ノ九州ニ赴キタル序ヲ以テ山野ヘモ立寄り採掘ノ有  
 様ヲ一見セリ其時ニ既ニ手順モ整ヒ從テ出炭モ増加シ五尺  
 炭ト八尺炭ト双方ニテ一日千箱ヲ出セリ凡ソ四百二十屯宛

ナリ而シテ五尺ノ方ハ大分深く堀り進ミタル故稍一定ノ石炭出ツルモ八尺ノ方ハ未タ口元ナル故石炭柔ク且水分多シ最初門司ノ石炭買場ニテ検分シタル処ニテハ外見悪ク粉分多キノミナラズ塊炭ニモ泥付着シ居リ余リ賞賛ノ出来サル炭質ニ見受ケタルモ社船ニテ焚試ミタル結果ハ大ニ宜シク殆ント金田豊國ト逕庭ヲ見ス然ルニ門司又ハ

【八回 8 a】

大阪等ニ於テ売試ムルモ未タ其名前并ニ品質ノ世人ニ知ラレサル故ニヤ今日未タ上値ヲ得ルコト能ハサルナリ然レトモ社船ニ於テ焚試ノ結果ハ右ニ述フルカ如ク良好ナレハ仮令豊前ノ一等炭程ニハ行カストスルモ大ノ浦三尺乃至之ト同等炭ヨリハ飛離レ豊前ノ一等炭ニ近キ値段ニ迄ハ必ス売却シ得ルナルヘシ又粉炭モ今日ハ若松受渡十三円位ニ売却シツ、アレトモ之トテモ品質ノ可ナルヲ知ル上ハ十五円ニモ十五円五十錢ニモ売行クナルヘシ今炭山ニ就キ親シク取調ヘタル所ニ依レハ山野炭ノ外見悪シキハ五尺ト八尺トヲ混スルニ依レリ即チ五尺ハ最早品質ノ一定シタル石炭産出スルヲ以テ之ノミヲ出荷スルトキハ外見悪シカラサルノミナラス粉炭ト雖モ十五六円位ニハ売行クヘキモ今日ハ八尺炭ヲ混淆ノ俣出荷スルヲ以テ外見悪シク値段モ低廉ナルヲ免カレサルナリ去リトテ之ヲ區別スルトキハ採炭費ヲ増加

スルコト尠

【八回 8 b】

少ナラサルヲ以テ之ヲ混淆スルコトハ山ノ都合上致方ナキ事共ナリ余ハ試ミニ五尺ト八尺トヲ区分スルノ説ヲ主唱シタル所島田事務長答ヘテ曰ク八尺炭ハ当時口元ヲ採掘スルニ止ルヲ以テ水分多キモ向來非常ニ有望ナリ其証拠ニハ奥ニ進ムニ從ヒ炭質堅キヲ致スヲ以テ今一ト辛抱ヲ為ストキハ必スヤ五尺ニ劣ラサル否五尺ヨリモ優リタル石炭ヲ得ヘキヤモ難計云々ト若シ八尺炭ノ品質カ五尺炭ニ勝リシニハ山ニ取り此上ナキ仕合ナリト謂フ可シ而シテ八尺炭ヲ山ニテ焚キタル模様ヲ聞キ又実地之ヲ試験シタルモ外見ノ悪ク泥ノ塗レタルモノニテモ焚ヘ方宜シキノミナラス灰分少ナク大ニ島田事務長ノ言ト思ヒ合ハサレタリ今日ハ未タ出炭少キヲ以テ五尺ト八尺トヲ混合スルモ差支ナシト雖モ出炭漸ク多キニ至ルトキハ之ヲ區別スヘク殊ニ尚ホ堀り進ムモ八尺炭ハ依然見場宜シカラストセハ尚更以テ區別

【八回 9 a】

ヲ為スコト肝要ナルヘシ又売り方ニ大ノ關係アルヲ以テ今後不絶山元ニ於テ八尺炭ト五尺炭トヲ區別シ試焚ヲ為ス事ニ致度差当り望ム所ハ塊ハ塊、粉ハ粉トシテ五尺ト八尺ト

ヲ區別シ焚キ試ミタル結果ヲ知り度又之ヲ混合シテ焚キ試ミタル比較ノ報告ヲモ得タシト申述ヘ置キタリ

山野石炭ハ最初ボーリングニテ見本ヲ取リタル際ニハ非常ニ良質ノ石炭ト鑑定セラレタルヲ以テ大ニ楽ミ居リタル処昨年採掘ノ初メニ出テタル石炭ハ見掛ケ非常ニ悪ク炭質可ナラス聊失望シタルモ其後社船ニ於テ焚キ試ミ又過般余ノ検分シタル所ニテハ品質大ニ良好ニシテ金田豊國ニモ劣ラサル位ナレハ海外ハ勿論内地ニ於テモ上等炭トシテ大ニ売捌方ニ努メラレタシ而シテ値段ハ筑豊上等炭同様に上値ニハ行カストスルモ可成之ニ近キ

## 【八回 9b】

値段ニテ売捌キタシ尤モ未タ炭質并其名前サヘモ知ラサル人多キヲ以テ売拵メノ為メニハ多少安値ニ販売スルモ差支ナク又得意ニ依リテ八十屯乃至二十屯位ハ特別安値ニ売却スルモ差支ナシ

◎小田柿 三池塊炭ハ桑港又ハホノル、等ノ新市場ニ対シテハ口ノ津手取何程ニテ売却シ可ナルヤ

◎上田 桑港并ホノル、向ケハ別段値段ニ制限ヲ設ケスニ三年前桑港ヘ三池炭ヲ送りテ売却セシコトアリ其時ハ十分ノ値段トハ行カサリシモ先以テ一杯々々ノ計算ナリシ其後ハ桑港地方ノ石炭并豪州英国等ノ石炭ニ庄倒セラレ日本炭ハ

引合ハサル結果トナリ殆ント断念シタリシモ近頃再ヒ生氣ヲ生シ今少シク桑港ノ相場高ケレハ引合フヘキ見込アリ故ニ今日ノ処ハ苟モ先方

## 【八回 10a】

ヨリ注文アラハ値段ニ拘ラス跡ノ商売ヲ作り得ルノ楽ミアレハ積送ルヘキ覚悟ナリ從テ先般桑港并倫敦ヨリ問合アリタル際ニハ口ノ津舟乘五円、又或ル場合ニハ四円ニテモ可ナリト申送りタリ今後桑港ニ於テハ折角同地并ホノル、へ売込方ヲ努メラレタシ〔數字消失カ〕

夫ニ付テ最モ困難ナルハ雇船ノ容易ニ手ニ入ラサル点ニ在リ故ニ第一着ニ雇船ニ注意シ割安ノ船アレハ透カサス之ヲ雇入ル、コトニ致シタシ今日ハトランスパール事件アリテ英炭高ク其結果コロンボヘモ日本炭輸入セラレ又孟買ヨリモ中下等炭ハ常ニ注文アリ為此是非レギュラーシツプメントトシテ送り度考ナルモ郵船会社ノ船ハ殆ント三菱ト内約済ニテ相談トナラス又P O会社船ヘ積込ノ事モ行ハレス又孟買倫敦兩店ヘ數回電信往復シタルモ雇船手ニ入ラス大ニ遺憾ニ感シ居リタルカ幸ヒコロンボ向ケハ過般來二艘丈

## 【八回 10b】

雇船ノ都合付キタリ之ヨリ先キ仏郵ヨリ今年中二万屯程コ

ロンボ壳渡ノ約定ヲ取結ヒ度旨当社并炭磁鉄道へ申込アリ  
 タリ然ルニ雇船ノコト心配ナリシヲ以テ仏郵ノ横浜ノエゼ  
 ントニ申送り雇船ノ都合付カサルヲ以テ一年ノ約定ヲ為  
 スコトハ不能ナルモ雇船ノ手ニ入りタル際隨時に相談ヲ為  
 スコト、シテハ如何ト申入レタルニ幸ニモ先方ノ同意ヲ得  
 爾来一月積一艘二月三月積一艘ヲ売約セリ此二艘ノ雇船ハ  
 倫敦ニ於テ心配ノ結果可也ノ値段ニテ売約スルコトヲ得タ  
 リ尚年末迄ニハ三四艘分ヲ送り出シ度考ナリ其他西貢ヘモ  
 時々送荷スヘク又馬尼刺ヨリモ近頃注文聊カ増加シ来リ唐  
 津炭ヲ送荷シツ、アリ要之海外送りハ勿論内地送りノモノ  
 毛船船ノ欠乏ニ苦シミツ、アル際ナレハ内外各店共十分注  
 意ヲ加ヘ汽船ト和船トヲ問ハス雇船ヲ望ム者アレハ逃カサ  
 ス之ヲ雇入レ然ル後石

## 【八回 11a】

炭ノ相談ニ着手スルモ差支ナキ位ナリ此点ハ十分に注意ヲ  
 望ム

## ◎浅野

炭山ニ二万屯ノ小塊アリ之ヲ粉炭ト混スルノ談アリ

## ◎上田

今一ツハ先ニ述ヘタル洗滌小塊ナリ之ハ今年初メテ

造り出シタルモノナルカ之ト同時ニ昨年作りタル切込ヲ廃  
 セリ然ルニ近頃他ノ炭山ヨリ採掘セラル、粉炭ヲ見ルニ従  
 来切込ト称シ来リタルモノ、如ク又或ル山ヨリ出ツル粉炭

ハ切込ヨリモ尚一層小塊ヲ含ムコト多シ一言以蔽之三池ノ  
 粉炭ハ純粹ノ細末ノミナルモ他炭坑ノ分ハ塊ノ混シ方多ク  
 従テ見場宜シ尤モ赤池ノ篩ヒ方ハ三池ト同一ナルヲ以テ赤  
 池粉炭ハ三池粉炭ト同一ナレトモ其他ハ概シテ三池粉炭ヨ  
 リモ塊ヲ含有スルコト多ク三池粉炭ハ塊ヲ含マサルヲ以テ  
 上値ヲ得ルコト能ハサルヤノ嫌アリ故ニ寧ロ小塊ヲ洗滌セ  
 スシテ之ヲ粉炭ニ混合シ粉炭ノ見場ヲ良クスル方可ナラサ  
 ルヤノ考アリ元來洗滌炭ト為スニハ粉末流

## 【八回 11b】

失シ又石ヲ取除ク等数量ノ減少僅少ナラサルノミナラス一  
 屯ニ付二十錢内外ノ費用ヲ要ス左レハ若シ粉炭ノ外見ヲ宜  
 クシ今日ヨリモ上値ニ売捌キ得ルナランニハ洗滌炭ヲ中止  
 シテ之ヲ粉炭ニ混合シテ可ナリ而シテ洗滌炭ハ海外ニ於テ  
 既ニ二万屯余ノ約定ヲ為シ得タルモ而モ尚残存セル四万有  
 余屯ハ今後容易ニ売り捌キ得ヘキヤ否ヤ判明ナラサルヲ以  
 テ今少シク形勢ヲ見タル上若シ売方思ハシカラサレハ粉炭  
 ノ品質ヲ良クスル為メ之ヲ混入スルカ若クハ又切込炭ヲ作  
 リ以テ洗滌炭ヲ引当テアルモノヲ片付ケサルヘカラス此点  
 モ亦諸君ノ御注意ヲ乞ハサルヲ得ス

## ◎松尾

塊、切込、中塊、小塊、粉炭ト云フカ如ク幾多ノ階

級二分タス単ニ之ヲ塊粉ノ二種二分ツコトニシテハ如何

◎上田 中々其通りニハ參ラサルヘシ只今折角に相談ヲ為シツ、アルハ洗滌炭

【八回 12 a】

ヲ止メテ粉炭ニ混入スルノ利害如何ノ点ナリ

◎松尾 小塊三円五十錢粉炭三円ノモノヲ合シ三円二十五錢トシテ売却スルコト、シテハ如何三池粉炭ハパウダートモ云フヘキモノニテ外見太甚宜シカラス

◎淺野 現在ノ二万屯ヲ粉炭ニ混入シテ売却スルトセハ試験ノ為メニモ相成ルヘシ

◎福原 此方法ハ試ミ度モノナリ

尚一ツ述フヘキハ桑港并ホノル、ノ話アリタルカ桑港ニハ其近辺ニ「ブラック、ダイヤモンド」并「ナナイモ」等ノ炭山アリ又奥太刺利亞ノ炭毛輸送セラル、ヲ以テ一時日本炭ノ引合フコトアリトスルモ継続ノ見込ナシト考フ反之ホノル、ハ大ニ見込アリ蓋シ同地ヘハ何レヨリ持ち行クモ運賃高ク又陸揚困難ニシテ多クノ日子ヲ要シ人足賃亦極メテ高シ故ニ

ホノル、ニ対スル石炭商売ハ極メテ面倒ナリ消費者ハ東洋汽船会社、O. O. 会社等ニシテ石炭荷役ノ為メ本船ヲ棧

【八回 12 b】

橋へ繫留スルモ郵船到着スルトキハ棧橋ヲ離レサルヘカラス去リトテストリームニテ上ケルトキハ多クノ日子ヲ要ス為此履船容易ニ出来難ク石炭ノ売約可試モ中々纏マリ難シ然ルニ近頃東洋汽船カ田川ヲ門司ニテ買積ミシホノル、ヘ持ち行キタル旨ヲ耳ニセリ故ニ当社ノ石炭買積方ニモ交渉セリ蓋シ右ハ東洋丸又ハ南洋丸等カ移民ヲ布哇へ送ルニ際シ「バート、カーゴ」トシテ積ミ行キタルモノニシテ如此セハ先方ノメールノ棧橋ニ横付ケスルコトヲ得ヘク荷役上大ニ便利ナリ斯クテ東洋汽船へ交渉ノ結果門司乘六円替ニテ豊国塊炭千屯ヲ売却シ近日汽船南洋丸ニテ積出ヲ為スヘキ筈ナリ其結果如何ニ依リ引続キ売込ムヘキ筈ニテ此方法ハ極メテ好都合

【八回 13 a】

ナリ乍去ホノル、ニ於ケル石炭ノ需用ハメールノミニ止マラサルヘク陸上ノ消費高モ少ナカラサルヘケレハ船ノ工夫サヘ付ケハ積出ヲ致シタシ夫レニハ材木船ノ返リ荷ヲ利用スルコト最モ可然歟

一月二十五日午後

◎益田 曩ニ共通計算規定ヲ改正スルカ為メ特別委員ヲ選定シ置キタル処此度委員ニ於テ下ノ如キ案ヲ協定シタリ就テハ此案ニ付キ評議スヘキ筈ナルモ本店ニ於テモ更ニ一ノ修

正案ヲ起草セリ即如左



第六条 首部ハ時々関係地ニ視察員ヲ派出シ又ハ必要ト認  
ムル場合ニハ各関係店長或ハ主任者ヲ召集シ會議ヲ

【八回 14 a】

(特別委員案)

特設部規程

第一条 本規程ヲ設クルノ趣旨ハ各店間ニ於ケル競争ヲ避  
ケ

【八回 13 b】

相互ノ氣脈ヲ通シ商務ノ敏活ヲ計ルニ在リ

第二条 本規程ニ依リ取扱フヘキ商品ノ種目ハ社長之ヲ定

ム

第三条 本規程ニ依ル取扱店ヲ分テ仕入店、仲次店及販売  
店ノ三トス

第四条 前条ノ各取扱店中概要ノ一店ヲ以テ首部ト為シ支  
店長又ハ次長ヲ以テ部長ヲ兼務セシム

但シ場合ニ依リ首部ヲ置カスシテ本規程ヲ準用スルコトア  
ルヘシ

第五条 首部ハ第一条ノ趣旨ヲ貫徹スル為メ營業上ニ関シ  
主腦タルノ任ニ當リ仕入并ニ販売上ニ付諸般ノ指揮ヲナス  
モノトス

開クコトアルヘシ

第七条 仕入、仲次、販売ノ各店ハ首部ノ指揮ニ從ヒ各自  
指定ノ業務ヲ取扱フヘシ

但仲次店ハ仕入又ハ販売店ノ直接依頼ニ依リ取扱ヲモナス  
ヘシ

第八条 首部ハ其取扱物品ノ商勢ニ依リ委託売買ノ外特ニ  
社長ノ許可ヲ得テ売越又ハ買持ヲ為スコトアルヘシ

第九条 首部ハ取扱物品ヨリ生スル一切ノ損益ヲ負擔ス

第十条 仕入、仲次、販売ノ各店ハ其取扱物品ニ付自ラ利  
益ヲ收受セサルコトヲ期スヘシ即チ仕入店ヨリ首部ニ報告  
スル物品ノ代価ハ原価諸掛り及ヒ其店經費ノ實際額ヲ加算  
シタル最低値段タルヘシ

【八回 14 b】

仲次店ノ收受スル所ハ依頼物品取扱ニ要スル諸掛りノ実費  
并其店經費ノ實際額タルヘシ

販売店ノ売価ハ首部ノ指揮スル売価及予メ首部ト協定シタ  
ル諸掛及其店ノ經費ノ見積高ヲ加算シタルモノタルヘシ

第十一條 首部ト仕入店并販賣店ノ間ハ専ラ親密ヲ旨トシ仕入原価ノ實際額、販賣ノ數量代価ハ勿論市場ノ景況競争者ノ動靜取扱ノ実況、賣買各別ノ損益其他ノ事細大トナク互ニ相通信往復シ事情ノ疎通ヲ計リ商務ノ活動ヲ期スヘシ

第十二條 部内各店ノ諸勘定ハ首部ニ於テ之ヲ一括シ共通計算ノ実ヲ挙ケ毎季末ノ損益及取扱ノ成績ヲ審査

【八回 15 a】

シ社長ニ報告スルト同時ニ各關係店ニ通知スヘシ

第十三條 部長ハ業務ノ都合ニ依リ關係各支店長ト協議ノ

上部員ノ進退更迭等ニ付社長ニ上申スルコトヲ得

第十四條 本規程ニ依リ売買スル商品ハ別ニ取扱細則ヲ設ケ社長ノ認可ヲ得テ之ヲ実施スヘシ

以上

(本店修正案)

共通計算規程

第一條 或ル商品ニ付二店以上ノ競争ヲ避ケ商売上ノ敏活ヲ計ル為メ必要ナリト認ムルトキハ其計算ヲ共通セシム

第二條 本規程ヲ適用スヘキ商品ノ種目ハ社長之ヲ定ム

第三條 商売ノ統一上必要アリト認ムルトキハ各取扱店中

【八回 15 b】

概要ナル一店ヲ以テ首部ト為スコトアルヘシ

第四條 本規程ヲ適用スヘキ商品ニ付テモ毎季ノ損益勘定書ハ直接之ヲ本店ニ發送スヘシ

但首部ヲシテ別ニ其勘定ヲ一括シ各店ノ損益并取扱ノ成績ヲ審査シテ本店并各取扱店ヘ報告セシムルコトアルヘシ

第五條 本規程ヲ適用セラルヘキ商品ノ引合并損益負擔方等ニ付テハ各取扱店ニ於テ協議ノ上取扱細則ヲ設ケ社長ノ認可ヲ得テ之ヲ実施スヘシ

以上



◎益田 現行ノ共通計算規程ハ詳密ニ過キ各種ノ商品ニ適

【八回 16 a】

合セス不便尠ナカラサルヲ以テ共通計算規程ニハ各種商品ニ通スヘキ原則ノミヲ掲ケ其細目ノ如キハ一々各種商品ニ對スル細則中ニ之ヲ規定スル方可然トノ事ヨリ委員ヲ設ケ修正案ヲ協定スルコト、為リタル次第ナリ然ルニ委員案ヲ見ルニ依然細目ニ亘リ為メ二本則ヲ適用シ得サルモノアリ依テ更ラニ修正案ヲ起草シタルモノニシテ其要旨ハ如左

第一、委員案ニ於テハ特設部規程ト名ケタルモ特設部トハ

漁業部ノ如キモノヲ指スヘキモノニシテ共通計算ノ場合ヲ特設部ト云フハ当ヲ得ス依テ修正案ニ於テハ依然共通計算ノ文字ヲ襲用セリ

第二、第一案并第二案ニ就テハ別ニ論スヘキナシ

第三、棉花并大豆豆粕ノ如キ商品ニ付テハ首部ノ設ケ

【八回 16 b】

アルモ、輸出米、ノ如キハ仕入販売各其首部ヲ異ニシ又生糸ノ如キハ全ク首部ノ設ケナシ故ニ商売ノ統一上必要ノ場合ニハ首部ヲ設クルコトモアルヘシト定メタリ

第四、委員案ニ於テハ勘定ハ一切首部ニ集ムヘキモノトシタルモ斯クテハ海外支店カ首部ナルカ如キ場合ニ内地ヨリ一度勘定書ヲ海外ヘ送り之ヲ一括シタル上ニテ本店ヘ提出スルコト、ナリ時期ヲ失スルノ恐アリ依テ修正案ニ於テハ共通計算ヲ適用スヘキ商品ノ損益勘定書ト雖モ直接之ヲ本店ニ提出スヘキモノト改メタリ

第五、以上規定以外ノコトハ總テ之ヲ細則ニ譲リ委員案ノ如ク細目ニ亘ラス以テ各商品ニ適用上不都合勿ラシメンコトヲ期シタリ

尚右ノ点ニ付委員ノ意見ヲ腹藏ナク述ヘラレタシ

【八回 17 a】

◎飯田 委員案第九条ニハ首部ハ取扱物品ヨリ生スル一切ノ

損益ヲ負担ストアリ然ルニ棉花ノ如キ従来販売店ニ口銭ヲ与ヘ来リ別ニ弊害ノ其間ニ萌スナク又別ニ苦情ノ生シタルコトナシ然ルニ今遽ニ之ヲ變更スルハ其所ヲ見ス寧ろ本店修正案ノ如ク損益負担方法ノ如キハ一々各商品ニ付其細則ヲ以テ規定スル所ニ任カスノ自由ナルニ若カス故ニ委員案ハ之ヲ撤回シテハ如何

◎遠藤 首部ニ損益ヲ負担セシムルコトノ如キ之ヲ細則中ニ定メテ可ナリ

◎寺島 損益ノ負担方ハ細則中ニ定ムヘシトセハ棉花ニ就テハ販売店ニ口銭ヲ与ヘ大豆豆粕ニ付テハ首部其損失ヲ負担スルト云フカ如ク規定区々ニ亘リ取扱店ノ不便尠ナカラス寧ろ

【八回 17 b】

之ヲ一一定シ棉花ノ如キモ口銭ト云ハス販売店ノ経費トシテ四十銭ナリ五十銭ナリヲ与ヘ大豆豆粕ニ付テモ亦斯ノ如クシ期末余裕ヲ生セハ之ヲ首部ニ附替ヘ不足アレハ是亦首部ヘ附廻ハスコト、スル方可ナラサルカ

◎益田 商品ニ依リ関係店間協議ノ上之ヲ定メテ可ナリ若シ協議調ハサレハ本店之ヲ決定スヘシ何モ之ヲ原則トシテ掲クルノ要ナク否ナ之ヲ掲クルトキハ却テ窮屈ヲ来タスヘシ

◎福井 共通計算規程ハ仕入店ニ於テ口銭〔二文字判読不能〕メ若クハ販売店ニ於テ利益ヲ貪リ為メニ商売ノ成立ヲ

〔二もしくは三文字判読不能〕ルカ如キコト勿ラシメンカ為メニ之ヲ設クルモノナレハ其趣旨ヲ明ラカナラシムルニ足ルヘキ条文ヲ掲クルヲ要ス

◎益田 共通計算ノ四字ハ其趣旨ヲ示スモノナリ

【八回 18 a】

◎南 寧口共通計算規程ト云フカ如キモノヲ設ケス共通計算ノ大原則ヲ營業規則中ニ明記シ其他ハ凡テ細則ニ譲ルト、シテハ如何

(因ニ曰ク一同此説ニ同意シ營業規則中ニ共通計算ニ関スル一条項ヲ設ケ委員案并本店修正案共全廃ニ決ス)

◎益田 商品ニ依リテ主店ヲ取極ムルコトハ如何

◎飯田 各店間相互ノ申合ニテ可ナルヘク本店ヨリ通達ヲ受クルトキハ却テ都合宜シカラサルヘシ

◎福井 共通計算ト為サ、ル以上ハ本店ノ認可ヲ要セス

◎飯田 現在ニ於テモ略ホ主店定アリ居ル姿ナリ

◎益田 共通計算ヲ適用スヘキモノハ何々ナリヤ試ミニ之ヲ列挙スレハ凡ソ左ノ如クナルヘキカ

【八回 18 b】

第一、棉花

(關係店) 大阪、名古屋、東京、門司、上海、孟買、

紐育、倫敦

(主部) 大阪

第二、棉糸

(關係店) 大阪、東京、名古屋、香港、上海、天津、

營口

(主部) 大阪

第三、石炭

(關係店) 門司、三池、長崎、唐津、若松、口ノ津、

名古屋、神戸、大阪、東京、横浜、上海、

香港、新嘉坡、倫敦

(主部) 門司

【八回 19 a】

第四、肥料、雜穀(大豆、小豆、大豆粕、魚ノ粕、菜種粕、

棉実、棉実粕、人造肥料)

(關係店) 兵庫、名古屋、東京、長崎、三池、口ノ津、

漁業部、營口、芝罘、上海、天津

(主部) 兵庫

第五、輸出入米

(關係店) 兵庫、門司、東京、名古屋、倫敦、紐育、

香港、新嘉坡  
(主部) 兵庫

第六、棉布  
(関係店) 東京、名古屋、大阪、台北、上海、天津、

【八回 19 b】

香港、營口

(主部) 東京

第七、鉄道用具

(関係店) 東京、大阪、神戸、倫敦、紐育

(主部) 東京

第八、麦粉小麦

(関係店) 東京、兵庫、名古屋、門司、長崎、桑港、

関東省

(主部) 東京

◎益田 以上ハ共通計算規程ヲ適用シ来リタルモノ又ハ新タ

ニ適用スルモノ可然モノナルカ尚此外ニ共通計算規程ハ適用  
セス〔ニ文字消失〕其主部ヲ定メ之ト引合ヲ為スヘキモノ  
アリ之ヲ掲クレハ凡ソ〔ニ文字消失〕ノ

【八回 20 a】

如クナルヘキカ

第一、油類 (主部) 兵庫

第二、器械 (主部) 大阪

第三、金属類

(甲) 錫 (主部) 大阪

(乙) 鉛 (主部) 東京

(丙) 鉄 (主部) 東京

第四、毛類 (主部) 東京

第五、砂糖 主部ヲ定メス



◎益田 松尾氏ヨリ関東省掛ヲ定メ貫ヒタシ手紙ヲ出スモ返

事ナキ様ノコトアリテハ海外ニ出張セル者等ハ大ニ困迫ノ  
次第二付

【八回 20 b】

誰カ責任ヲ帯ヒテ通信ノ事ヲ取扱フ掛ヲ定メ貫ヒタシトノ  
事ナリシカ是ハ尤千万ノ事ナレハ各店ニ通信掛ヲ置キ該掛  
ニ於テ来帖ニ対シテハ必ス返事ヲ出シ若シ支店長始メ各掛  
ニ於テ返事ヲ遅滞セシケルモノアレハドシ／＼催促スルコ  
ト、シテハ如何

◎松尾 大ニ結構ナリ是非其事ニ願ヒタシ

- ◎南 各店ニ於テ通信掛ヲ置クコトハ至極宜シカラム
- ◎上田 書記ニ取扱ハセルモ可ナリ
- ◎益田 営業部書記ノ如キハ通信掛ト改称スヘシ
- ◎飯田 通信掛ニ於テ各掛ノ手紙ヲ総テ返事スルトセハ大ニ不都合ヲ成スルコトアルヘシ例ヘハ器械又ハ綿花ニ関スル出状ノ如シ
- ◎益田 支店長役場ノ手紙ノミナリ
- ◎飯田 各掛ニ返事ヲ出ス責任者ヲ定メ置キ通信掛ハ手紙〔二あるいは二文字判読不能〕リタル後果シテ返事ヲ出シタルヤ否ヤヲ取調フルコト、スルカ
- ◎遠藤 通信掛ハ各掛ノ分ヲモ返事出シアルヤ否ヤヲ取調フルコト、スヘシ
- ◎益田 夫レニテ可ナリ
- ◎福井 此事ハ本店ヨリ命令ヲ下サレタシ
- ◎益田 一般ニ通達スルコト、スヘシ
- 以上ヲ以テ大体ノ諮問ヲ了リタリ此他尙器械ノコト為替ノコト等二三ノ事項アレトモ右ハ専ラ東京大阪神戸三店ノ關係ナレハ之ヲ三店ノ協議ニ任セ本会ハ是ニテ閉会ト為スヘシ時祇寒ノ候ニモ拘ハラズ諸君カ励精此会ニ出席シ熱心ニ諮問事項ニ付意見ヲ吐露セラレタルハ深ク其勞ヲ

【八回 21 a】

謝スル所ニシテ又此会カ向後商売ノ進捗發達上資スル所勲カラサルヘキハ余ノ信シテ疑ハサル所ナリ若シ夫レ諮問事項ニ対スル多数ノ意見ハ大体ニ於テ異存ナキヲ以テ可成其實行ヲ期スヘク其結果ハ向後漸次通達其他業務上ニ現ハル、所ヲ以テ了承セラレンコトヲ望ム

(會議録大尾)

【八回 21 b】

## 三井物産「内地支店長会議々事録」(明治三三年) 解題

## ■史料の概要

ここに翻刻した史料は、一九〇〇(明治三三)年一月に開催された三井物産の内地支店長会議の議事録である(以下「本議事録」とする)。本議事録は、公益財団法人東洋文庫が所蔵しており、同文庫目録での史料情報は次の通りである。

請求記号 六四二

資料名 「三井物産」内地支店長会議議事録

出版事項 出版地不明、出版者不明、一九三〇「ママ」

形態・メディア媒体・数量 六(二)冊、二七cm

備考 蒔莢版

巻次 第一、二回、三回の一、四回の一・二、第五―八回

装丁は用紙を中央で折った袋綴となっているが、一部の表については袋状にせず折込で綴られている。

東洋文庫によると、本議事録は「近代中国研究委員会」(当時)が収集したもので、恐らく一九五六年頃に古書店より入手している。入手時点では六冊であったものを東洋文庫で現在の二冊に合本製本したとのことである。<sup>1)</sup>

請求記号六四二が記されたラベルが、第一回冒頭、第二回

冒頭、第三回冒頭、第四回の一冒頭、第五回冒頭、第七回冒頭に貼られていることから、東洋文庫入手時点(合本製本以前)での冊子の構成は、第一回分、第二回分、第三回分、第四回分、第五回分と第六回分、第七回分と第八回分の六冊であったものと推測できる。

支店長会議は、一九〇〇(明治三三)年一月一八日から二五日までの八日に亘り連日開催され、各開催日を一回と数えて議事録が作成されている。

各回の丁数は次の通りである。

(合本第一冊)

第一回(前半) 三二丁

第一回(後半) 二七丁

第二回(前半) 二二丁

第二回(後半) 二二丁

第三回ノ一 四二丁

(合本第二冊)

第四回ノ一 二五丁

第四回ノ二 二三丁

第五回 二八丁

第六回 一七丁

第七回 二二丁

第八回

二二丁

合計

二七九丁

第四回と第五回については午前・午後の区分が明記されている。第一回と第二回については記載はないが前半が午前、後半が午後にあたるものであろう。第三回については「第三回ノ一」のみがあり「第三回ノ二」は無いが、一九丁目以降が午後の議事と推測されるので議事録が欠落しているわけではなからう。第六回・第七回は、丁数が少ないので午前もしくは午後のみの開催であった可能性がある。第八回については午前と明記されている。

本議事録は、現在までに所在が確認されている三井物産の支店長(支配人)会議の議事録としては最も古いものである。なお、同種会議の開催自体はさらに遡って確認できる。

### ■議事概略

本議事録には目次は付いていない。利用の便を図るため議事進行の概略を示しておく。【】内は本議事録に記された丁数である。ただし、原本では漢数字で印されている場合もある。

第一回 一月一八日

第一回〔前半〕

\*序言【1】

\*益田・挨拶【1】

\*長谷川・商売高報告【2】

\*商売別売渡高表・対全国比【3】

\*輸出比較表【4】

\*輸入貿易比較(表)【5】

\*福井・東京営業部報告【7】—【9】

\*飯田・大阪支店報告【9】—【13】

\*遠藤・兵庫支店報告【13】—【20】

\*麦粉に関する質疑【20】

\*水谷・馬関井門司報告【21】—【23】

\*石炭に関する質疑【23】

\*寺島・名古屋支店報告【23】—【27】

\*呉・神戸支店報告【27】—【31】

第一回〔後半〕

\*松尾・長崎支店報告【1】—【5】

\*南・口ノ津支店報告【5】—【7】

\*北村・横浜支店(生糸商売)報告【8】—【12】

\*平田・漁業部報告【12】—【15】

\*松尾・遼東半島調査報告【15】—【22】  
\*小田柿・桑港店報告【22】—【27】

第二回 一月一九日

第二回〔前半〕

\*議案「輸出商売ノ増進ヲ計ルノ議」〔我社に於テ從事スヘキ輸出商品ノ種類〕【1】  
\*羽二重【2】—【3】  
\*紙【3】—【11】  
\*材木・鉄道枕木【11】—【21】

第二回〔後半〕

\*燐寸【1】—【6】  
\*昨年度の營業成績大要【6】  
\*綿布【7】—【15】  
\*綿布首部議案【15】  
\*其他輸出品（麦稈・真田・花筵）【17】—【18】  
\*輸出拡張のための組織【19】—【22】  
第三回 一月二〇日  
\*議案「清国、朝鮮、南洋各地方ニ出張員ヲ常置スルノ必要

得失及其場所」【1】—【18】

\*營業資金並びに金融の現在【19】—【20】

\*議案「營業機関ノ設備」【20】—【42】

第四回 一月二一日

第四回ノ一

\*議案「運漕業拡張ノ可否」【1】—【12】  
\*議案「石炭部ヲ門司ニ新設スルノ可否」【13】—【18】  
\*議案「各支店ニ特別掛り員ヲ置クノ件」【18】—【25】

第四回ノ二

\*庶務関係議事の要梗撮録【1】—【2】  
\*營業取扱手続き【2】—【10】  
\*議案「輸出入商売拡張ノ目的ヲ以テ工業家ニ資金ヲ貸与シ其事業ヲ發達セシムルノ可否」【10】—【23】  
第五回 一月二二日  
\*議案「共通計算規程ニ関スル件」【1】—【14】  
\*「何ナリトモ当社ノ業務上ニ付キ御心付アレハ承リタシ」【14】—【28】

第六回 一月二三日

\*石炭のこと【1】—【17】

第七回 一月二四日

\*石炭のこと【1】—【21】

第八回 一月二五日

\*石炭のこと【1】—【13】

\*共通計算規程改正案の件【13】—【21】

\*益田・閉会の辞【21】

■会議の出席者

会議出席者を把握しやすくするために、当時の三井物産の店舗構成と職員数を表Aに、会議出席者を表Bに、当時の社内席次上位職員を表Cに示した(末尾に掲載)。

本議事録冒頭には「出席者ハ内地各支店長并参事、調査課長、漁業部長心得、桑港出張員等ニシテ若松出張所長ハ店務多繁ノ為出京セサリキ」とある。この記述通り、国内店の長は若松出張所長以外は全員出席しており、海外店は桑港出張員の小田柿以外は出席していない。小田柿が出席した事情は詳らかでない。

社内席次二〇位までで見ると、三井家の二名と海外店勤務

者を除くほぼ全員が出席しており、当時の三井物産幹部職員を網羅した会議となっている。

会議では益田孝が「会長」を務め、議題の趣旨説明・論点の提示・参加者への質問などで議事を主導している。それゆえ益田の発言回数が増えている。それ以外の出席者の発言は、自店に関わる商品あるいは担当業務についての質疑に関するものとなっているが、福井菊三郎(本店営業部長)と長谷川銚五郎(本店参事)には、担当と直接にはかわらないと思われる事柄への発言も散見される。なお、第三回の前半は益田に代わって上田安三郎が会議の「会長」を務めており、そのために上田の発言回数が増えている。

三井物産の職員以外では、団琢磨(三井鉱山専務理事)が出席し発言をしている。ただし発言が記録されている第七回以外の回への団の出欠は不明である。

(1) 東洋文庫図書部・篠崎陽子氏のご教示による。

(2) 三日目の午前中は益田孝が欠席し上田安三郎が会議の「会長」を務めているが、一九丁目より益田が「会長」に復帰している。

解題付記 本議事録の存在を翻刻者にご教示くださった鈴木邦夫氏が二月一六日に逝去されました。氏には第一回から

第四回の議事録について難読箇所の評読や固有名詞の確認で大変お世話になりました。今回翻刻分についてもご協力を申し出ていただいておりますが、かないませんでした。ここに記して、感謝と哀悼の意を捧げます。

表 A 三井物産合名会社の本支店出張員の構成と職員数（明治33年3月15日現在）

本店・支店	出張員	月給者	日給者	合計	構成比
東京本店 *		73	10	81	19.8
	横須賀	1		1	0.2
	唐津	2	1	3	0.7
	札幌	2		2	0.5
	関東省	2		2	0.5
横浜支店 *		15	5	20	4.9
大阪支店 *		42	6	48	11.7
	呉	1	2	3	0.7
	仁川	1		1	0.2
名古屋支店 *		14	3	17	4.2
神戸支店 *		20	5	25	6.1
兵庫支店 *		16	2	18	4.4
	營口	3		3	0.7
門司支店 *		14	4	18	4.4
馬関出張所 *	若松 注1	5	1	6	1.5
長崎支店 *		15	3	18	4.4
	佐世保	1		1	0.2
	杵島	1		1	0.2
三池支店 *		9	3	12	2.9
口ノ津支店 *		7	8	15	3.7
北海道漁業部（函館）*		5		5	1.2
	留萌 注1	2		2	0.5
	増毛 注1	2		2	0.5
	択捉 注1	5		5	1.2
	三石 注1	1	1	2	0.5
台北支店		5	1	6	1.5
天津支店		4	2	6	1.5
上海支店		20	8	28	6.8
	芝罘	1		1	0.2
	漢口	2		2	0.5
香港支店		17	2	19	4.6
	厦門	2		2	0.5
新嘉坡支店		6		6	1.5
孟買支店		7		7	1.7
倫敦支店		10		10	2.4
紐育支店		7		7	1.7
	桑港 *	2		2	0.5
合計		342	67	409	100.0

出典)「三井物産合名会社職員録」明治33年3月15日現在(物産50-007)。

注1:若松は出張所、留萌・増毛・択捉・三石は支部。

注2:＊は明治33年1月の支店長会議への出席店を示す。

回数					
第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	合計
50	61	25	40	12	294
4	6	1	2	5	52
			3	5	55
4	18	16		2	48
28	23		11	3	102
					2
10	12	6			51
8	15	2	17		63
3	1	14			33
		4	8	1	13
	19				33
10	10	10	2	1	51
	4				4
1	3	1	3		9
11		5	9	3	40
5	6			1	30
1	11				24
9	6	7	34	2	62
					3
					0
		7	16		23
4	8	2	5	2	30
4	3				11
		2			2
			5		5
1					1
153	206	102	155	37	1,041

員録」明治33年3月15日現在（物産50-7）、「明治三十三年上半期

登録スルノ要ナキ」事柄について「単ニ要梗ノミヲ撮録ス」と

15) は（本店本部）関東省出張員に任命されている。

表B 内地支店長会議(1900年)出席者と発言回数

整理 番号	氏名	席次	役職	発言		
				第1回	第2回	第3回
1	益田孝	1	専務理事	26	47	33
2	上田安三郎	2	理事	1	3	30
3	飯田義一	4	大阪・支店長	13	17	17
4	遠藤大三郎	10	兵庫・支店長	3	1	4
5	福井菊三郎	11	本店・営業部長	9	19	9
6	山口俊太郎	12	本店・参事, 輸出督励掛		1	1
7	呉大五郎	15	神戸・支店長	2	9	12
8	長谷川銚五郎	16	本店・参事	4	2	15
9	水谷耕平	17	門司・支店長, 馬関・出張所長	2	3	10
10	福原栄太郎	19	本店・石炭課主任			
11	北村七郎	20	横浜・支店長	9	1	4
12	寺島昇	22	名古屋・支店長	1	11	6
13	伊沢良立	24	本店・調査課長			
14	大野市太郎	26	本店・参事			1
15	松尾長太郎	27	長崎・支店長	3	4	5
16	小田柿捨次郎	32	桑港・出張員	3	15	
17	平田初熊	35	函館・漁業部長心得	8	3	1
18	浅野長七	37	三池・支店長			4
19	藤野亀之助	42	本店・綿布掛主任		3	
20	田中文蔵	47	本店・庶務課主任			
21	藤田誠一郎	52	本店・石炭掛主任			
22	南新吾	57	口ノ津・支店長	3		6
23	白井喜代松	59	本店・参事		2	2
24	藤村義朗	60	本店・船舶課主任			
25	団琢磨 名古屋(寺島カ)	—	三井鉱山・専務理事			
	合計			87	141	160

出典) 三井物産「内地支店長会議々事録」明治33年(東洋文庫蔵, 請求記号642), 「三井物産合名会社職  
事業報告」(物産614-7)。

注1: 原本で1字ないし2字分を上げて発言者として記載された発言の回数を数えたもの。

注2: 田中文蔵(整理番号20)は注1の形での発言はないが、「四回ノ二」の冒頭で「一々議事ノ筆記ヲ  
された部分で2回発言していることが確認できる。

注3: 「内地支店長会議々事録」で発言が確認できない参加者が他にいた可能性はある。

注4: 会議開催中の1900年1月20日付けで, 伊沢良立(整理番号13)は長崎支店長に, 松尾長太郎(同

表C 三井物産合名会社の社内席次上位職員（明治33年1月現在）

席次	姓名	在勤地名	役名
1	益田孝 *	本店	専務理事
2	上田安三郎 *	本店	理事
3	渡辺專治郎	倫敦	理事，支店長
4	三井守之助	本店	(営業部)
5	三井復太郎	本店	(調査課)
6	飯田義一 *	大阪	支店長
7	岩原謙三	紐育	支店長
8	山本條太郎	大阪	支店次長，棉花首部長
9	小室三吉	上海	支店長
10	遠藤大三郎 *	兵庫	支店長
11	福井菊三郎 *	本店	営業部長
12	山口俊太郎 *	本店	参事，輸出督励掛
13	間島與喜	孟買	支店長
14	松本為之助	倫敦	
15	呉大五郎 *	神戸	支店長
16	長谷川銚五郎 *	本店	参事
17	水谷耕平	門司	支店長，馬関出張所長
18	藤瀬政二郎	香港	支店長
19	福原栄太郎 *	本店	石炭課主任
20	北村七郎 *	横浜	支店長
21	竹田貞松	天津	支店長
22	寺島昇 *	名古屋	支店長
23	渡辺秀次郎	本店	機械掛主任
24	伊沢良立 *	本店	調査課長
25	安川雄之助	大阪	綿花掛主任

出典 「三井物産合名会社職員録」明治33年3月15日現在（物産50-7），「明治三十三年上半期事業報告」（物産614-7）。

注1：席次は上記「職員録」への掲載順による。

注2：\*は1900年1月の支店長会議出席者を示す。

凡例

本資料は『三井文庫論叢』第五三〇～  
五六号に掲載された史料紹介をまとめ  
たものです。

史料解題の執筆は吉川容・大島久幸。  
また、翻刻は公益財団法人東洋文庫に  
許可を得ておこなった。

三井文庫史料叢書  
三井物産

『内地支店長会議々事録』

第一回～第八回(明治三三年)

二〇二三年発行

編集発行

公益財団法人 三井文庫

郵便番号 一六四一〇〇〇二  
東京都中野区上高田五―一六―一  
電話 〇三―三三三八七―九四三一  
<http://www.mitsui-bunko.or.jp>  
©Mitsui Bunko 2023. Printed Japan